都城市所在

高 樋 遺 跡

県道飯野松山都城線(都城志布志道路)梅北工区道路整備工事に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書4

2 0 1 8

宮崎県埋蔵文化財センター

制作環境: Mac OS 10.13.3

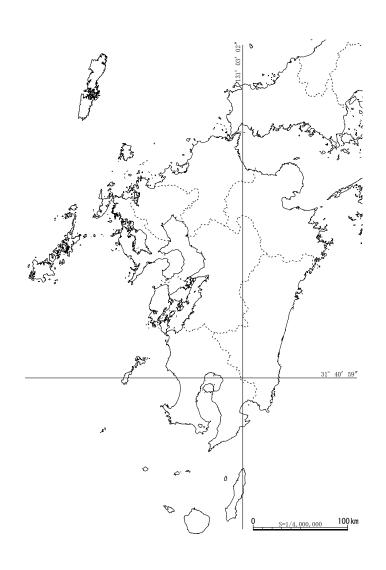
使用ソフト:Adobe InDesign CC2017/Adobe Illustrator CC2017/Adobe Photoshop CC2017

データ作成: PDF形式

都城市所在

たか ひ い せき 高 樋 遺 跡

県道飯野松山都城線(都城志布志道路)梅北工区道路整備工事に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書 4



2 0 1 8

宮崎県埋蔵文化財センター



高樋遺跡近景(遺跡南から高千穂峰を望む)



高樋遺跡第VI層上面遺構分布状況(写真左が北) ※モザイク合成写真



調査区中央部 古代~中世掘立柱建物跡完掘状況(南より)



6号竪穴建物跡出土遺物

宮崎県教育委員会では、地域高規格道路「都城志布志道路」の一部となる県道飯野松山 都城線梅北工区道路整備工事に伴い、平成27年度に都城市梅北町に所在する高樋遺跡の発 掘調査を実施しました。本書は、その発掘調査記録を掲載した報告書です。

今回報告する高樋遺跡は、縄文時代・古墳時代・古代~中近世の複合遺跡です。なかでも、縄文時代前期~中期の遺物は、県内でもまだそれほど出土例が多くなく、遺跡の南側に所在する笹ヶ崎遺跡出土例とともに、アカホヤ火山灰降灰後の当該時期の様相を解明するための貴重な資料となりました。また、古墳時代中期~後期の竪穴建物跡群や、中世~近世の掘立柱建物跡群等も、古くから人びとの営みが盛んであった都城盆地における南端部、梅北地区の歴史を解明する上で、南隣の笹ヶ崎遺跡に加えて重要な調査事例を提供することとなりました。

この成果が学術資料としてだけではなく、学校教育や生涯学習の場などでより多くの方々に御活用いただき、埋蔵文化財保護に対する理解を深めていただく一助となれば幸いです。 最後になりましたが、調査にあたって御協力を賜りました関係諸機関をはじめ地元のみなさま方に、心より厚くお礼申し上げます。

平成30年3月

宮崎県埋蔵文化財センター 所 長 菅付 和樹

- 1 本書は、県道飯野松山都城線(都城志布志道路)梅北工区道路整備工事に伴い、宮崎県教育委員会 が実施した宮崎県都城市梅北町に所在する高樋遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、宮崎県県土整備部都城土木事務所の依頼により、宮崎県教育委員会が主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが平成27 (2015) 年4月21日から平成28 (2016) 年2月3日まで行った。
- 3 発掘調査は徳田尚文、後藤清隆、二方和也が担当した。現地調査における図面作成及び写真撮影は、 調査担当者が分担して行った。
- 4 整理作業は、宮崎県埋蔵文化財センターで実施し、本書に係わる業務については、整理作業員の協力を得て徳田が行った。
- 5 空中写真撮影業務は有限会社フジタ、基準点測量等の測量業務は株式会社旭総合コンサルタント、 石器実測委託は九州文化財リサーチ、自然科学分析は株式会社加速器分析研究所にそれぞれ委託した。
- 6 本書で使用した測量基準は、国土座標平面直角座標系第Ⅱ系(世界測地系)及び東京湾海抜(T.P.)である。方位は座標北(G.N.)を指す。また、国土地理院発行地形図は真北を指す。個別の遺構実測図には、磁北(M.N.)を用いている場合もある。
- 7 本書で使用した土層・土器等の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖 (2008年度版)』による。
- 8 石器石材については当センター普及資料課長赤崎広志に、陶磁器については五ヶ瀬町立三ヶ所小学 校校長福田泰典氏、西都原考古博物館主査堀田孝博氏に御教示いただいた。
- 9 現地での記録・図面中で使用した遺構略号は、以下のとおりである。

SA…竪穴建物跡 SB…掘立柱建物跡 SC…土坑 SE…溝状遺構

SG…道路状遺構 SH…ピット SI…集石遺構 Tr…トレンチ

- 9 本書の執筆及び編集は徳田が行った。ただし、第Ⅳ章は各委託業者の報告に基づく。
- 10 出土遺物およびその他の諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターにおいて保管している。

本文目次

	. 1
17	77
17	· x

例言

第Ⅰ章 は	はじめに	
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	調査の組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第3節	発掘調査の経過	2
第4節	発掘調査の方法	3
第5節	整理作業の経過と概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
第6節	普及活動	3
第Ⅱ章 遺	遺跡の位置と環境	
第1節	地理的環境	6
第2節	歴史的環境	6
第Ⅲ章 訓	骨査の記録	
第1節	基本層序	9
第2節	縄文時代早期の遺構と遺物	11
第3節	縄文時代前~中期の遺構と遺物	11
第4節	縄文時代後〜晩期の遺構と遺物	22
第5節	古墳時代の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第6節	古代~中世の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	46
第7節	近世の遺構と遺物	65
第8節	時期不明の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	74
第Ⅳ章 自	自然科学分析の結果	
第1節	自然科学分析の概要	
第2節	樹種同定······	106
第3節	放射性炭素年代測定	107
第4節	火山灰分析	114
第V章 約	公括	
	縄文時代	
	古墳時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	古代~中世・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第4節	近世以降	121
*** - ***	AL DT	101

挿図目次

第1図	高樋遺跡調査区の位置と周辺地形図	4	第41図	1号掘立柱建物跡及び3号柵列実測図	52
第2図	グリッド配置図	5	第42図	2号掘立柱建物跡及び2号柵列実測図	53
第3図	周辺遺跡分布図	8	第43図	3号~5号掘立柱建物跡及び4号・5号柵列実測図…	54
第4図	土層断面図 (1)	9	第44図	6号~9号掘立柱建物跡実測図	55
第5図	土層断面図 (2)	10	第45図	10号・11号掘立柱建物跡及び11号柵列実測図	56
第6図	縄文時代早期遺構分布図及び1号・2号集石遺構実測図…	12	第46図	12号~14号掘立柱建物跡実測図	57
第7図	縄文時代早期土器実測図	13	第47図	1号竪穴状遺構及び1号溝状遺構実測図	58
第8図	縄文時代早期石器実測図	14	第48図	2号溝状遺構及び1号道路状遺構実測図	59
第9図	縄文時代前~中期遺構分布図	14	第49図	2号~5号道路状遺構実測図	60
第10図	1号~3号土坑及び3号集石遺構実測図	15	第50図	遺構出土遺物実測図 (1)	61
第11図	4号~6号集石遺構実測図	16	第51図	包含層等出土遺物実測図 (1)	62
第12図	縄文時代前~中期遺構出土土器実測図	17	第52図	包含層等出土遺物実測図 (2)	63
第13図	縄文時代前~中期土器実測図 (1)	18	第53図	包含層等出土遺物実測図(3)及び古銭拓影	64
第14図	縄文時代前~中期土器実測図 (2)	19	第54図	近世遺構分布図	66
第15図	縄文時代前~中期土器実測図 (3)	20	第55図	15~17号掘立柱建物跡実測図	67
第16図	縄文時代前~中期石器実測図	21	第56図	18号掘立柱建物跡及び12号柵列実測図	68
第17図	縄文時代晩期遺構分布図及び4号土坑実測図	23	第57図	19号掘立柱建物跡及び3号溝状遺構実測図	69
第18図	縄文時代後~晚期土器実測図	24	第58図	4号・5号溝状遺構実測図	70
第19図	縄文時代晩期土器実測図 (1)	25	第59図	遺構出土遺物実測図 (1)	7]
第20図	縄文時代晩期土器実測図(2)	26	第60図	遺構出土遺物実測図 (2)	72
第21図	縄文時代後~晩期石器実測図	27	第61図	遺構外出土遺物実測図	73
第22図	古墳時代遺構分布図	29	第62図	時期不明遺構分布図	75
第23図	1号竪穴建物跡実測図及び出土遺物実測図 (1)	30	第63図	20号~24号掘立柱建物跡実測図	76
第24図	1号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)	31	第64図	25号~27号掘立柱建物跡及び6号柵列実測図	77
第25図	1号竪穴建物跡出土遺物実測図 (3)	32	第65図	29号~32号掘立柱建物跡実測図	78
第26図	2号竪穴建物跡実測図	33	第66図	2号竪穴状遺構及び5号土坑実測図	79
第27図	2号竪穴建物跡出土遺物実測図	34	第67図	6号~10号土坑実測図	80
第28図	3号竪穴建物跡実測図及び出土遺物実測図	35	第68図	6号~8号溝状遺構実測図	83
第29図	4 号竪穴建物跡実測図及び出土遺物実測図	36	第69図	その他時期不明遺物及び鉄製品実測図	84
第30図	5号竪穴建物跡実測図	37	第70図	曆年較正結果(1)	111
第31図	5号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)	38	第71図	曆年較正結果(2)	112
第32図	5号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)	39	第72図	曆年較正結果 (3)	113
第33図	5号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)	40	第73図	重鉱物組成及び火山ガラス比	115
第34図	5号竪穴建物跡出土遺物実測図(4)	41	第74図	火山ガラスの屈折率測定結果	116
第35図	6号竪穴建物跡実測図及び出土遺物実測図	42	第75図	古代~中世以降の集落の変遷・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	120
第36図	7号竪穴建物跡実測図	43			
第37図	7号竪穴建物跡出土遺物実測図	44			
第38図	7 号竪穴建物跡出土遺物及び8 号竪穴建物跡実測図、				
	その他古墳時代土師器実測図	45			
第39図	小穴群遺構分布図	50			
第40回	古代~由卅浩構分布図	51			

表目次

第1表 遺構番号	号と調査時番号	の対応表	82	第17表	土器観察表16		100
第2表 土器観察	終表 1		85	第18表	土器観察表17		101
第3表 土器観察	終表 2		86	第19表	土器観察表18		102
第4表 土器観察	終表 3		87	第20表	土器観察表19		103
第5表 土器観察	終表 4		88	第21表	石器・石製品観察表…		104
第6表 土器観響	終表 5		89	第22表	古銭観察表		104
第7表 土器観響	察表 6		90	第23表	鉄製品観察表		104
第8表 土器観察	終表7		91	第24表	掘立柱建物跡一覧表…		105
第9表 土器観響	終表8		92	第25表	放射性炭素年代測定結	果 (σ ¹³ C補正値)·············	109
第10表 土器観響	終表 9		93	第26表	放射性炭素年代測定結	果 (1)	110
第11表 土器観察	₹表10		94	第27表	放射性炭素年代測定結	果 (2)	110
第12表 土器観察	終表11		95	第28表	放射性炭素年代測定結	果 (3)	111
第13表 土器観察	≽表12⋯⋯⋯		96	第29表	テフラ検出分析結果(1	1)	115
第14表 土器観察	₹表13		98	第30表	テフラ検出分析結果(2	2)	115
第15表 土器観察	₹表14		99				
第16表 土器観察	終表15		100				
			図版目	次			
巻頭図版 1				図版4			
高樋遺跡近景				6 号	 E石遺構検出状況	1 号土坑完掘状況	
高樋遺跡第VI層	員上面遺構分布	状況		2号=	上坑完掘状況	3号土坑完掘状況	
巻頭図版 2				4号=	上坑検出状況	5 号土坑完掘状況	
調査区中央部	古代~中世掘	立柱建物跡完掘状況		6号=	上坑検出状況	7号土坑土層断面	
6 号竪穴建物跡	的出土遺物			図版 5			
図版1				8号=	上坑完掘状況	9 号土坑完掘状況	
高樋遺跡近景		1号竪穴建物跡遺物出土状況		10号日	上坑土層断面	1号溝状遺構遺物出土状況	
1号竪穴建物路		2号竪穴建物跡遺物出土状況		2 号清		3号溝状遺構検出状況	
2号竪穴建物路				4 号清		5 号溝状遺構完掘状況	
図版2				図版 6			
3号竪穴建物路		4号竪穴建物跡遺物出土状況		6 号津		7号溝状遺構完掘状況	
4号竪穴建物路	 作完掘状況	5号竪穴建物跡遺物出土状況		8 号清		1号道路状遺構検出状況	
5 号竪穴建物路	 作完掘状況	6号竪穴建物跡遺物出土状況		2号道	道路状遺構検出状況	3号道路状遺構完掘状況	
6 号竪穴建物路		7号竪穴建物跡完掘状況		4号。	5号道路状遺構完掘状	況 発掘作業の様子	
図版3				図版7			
8号竪穴建物路		1号竪穴状遺構完掘状況		縄文士	上器(早期)土器 1	縄文土器(早期)土器 2	
2号竪穴状遺構		1号集石遺構検出状況		図版8			
2号集石遺構植	食出状況	3号集石遺構検出状況		縄文士	七器(前~中期)土器1	縄文土器(前~中期)土器	2
4号集石遺構材	食出状況	5号集石遺構検出状況		図版9			
				縄文士	上器(前~中期) 土器3	縄文土器(前~中期)土器	4

図版10 縄文土器(前~中期)土器5 縄文土器(後~晩期)土器1 図版11 縄文土器(後~晩期)土器2縄文土器(後~晩期)土器3 図版12 縄文土器(後~晩期)土器4 縄文土器(後~晩期)土器5 図版13 縄文土器(後~晩期)土器6 縄文土器(晩期)7 図版14 1号竪穴建物跡出土遺物1 1号竪穴建物跡出土遺物2 1号竪穴建物跡出土遺物3 2号竪穴建物跡出土遺物1 図版16 2号竪穴建物跡出土遺物2 3号竪穴建物跡出土遺物1 図版17 3号竪穴建物跡出土遺物 2 4号竪穴建物跡出土遺物 図版18 5号竪穴建物跡出土遺物1 5号竪穴建物跡出土遺物2 図版19 5号竪穴建物跡出土遺物3 5号竪穴建物跡出土遺物4 図版20 5号竪穴建物跡出土遺物 5 5号竪穴建物跡出土遺物 6 図版21 6号竪穴建物跡出土遺物1 6号竪穴建物跡出土遺物2 図版22 7 号竪穴建物跡出土遺物 遺構以外からの出土遺物1 図版23 遺構以外からの出土遺物 2 白磁(外面・底部) 図版24 青磁1 (外面・底部) 青磁2 (内面) 図版25 青磁3 (外面・底部) 青磁4 (外面・底部) 図版26 青磁5 青磁 6 図版27 青花1 青花2

土師器1 (外面)

土師器・瓦器

中世陶器1 (外面)

近世陶器1 (外面・底部)

図版28

図版29

図版30 古銭

図版31

陶器、瓦器等

土師器2 (内面)

中世陶器2(内面)

近世陶器2(内面) 近世陶器3(外面) 図版33 近世陶器4 近世磁器1 図版34 近世磁器2 近世磁器3 図版35 近世磁器4 近世磁器5 図版36 縄文時代石器 石器 図版37 時期不明石器 石臼 図版38 金床石 鉄製品

図版32

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

都城志布志道路は、宮崎県都城市から鹿児島県曽 於市を経由し、鹿児島県志布志市に至る全体延長約 42kmの地域高規格道路である。九州縦貫自動車道宮 崎線と中核国際港湾志布志港及び東九州自動車道と を連結することで、都城・大隅生活圏をはじめ、広 域の地域振興を支える、きわめて重要な道路として、 平成6年12月、計画路線に指定された。この道路 が整備されることで、防災対策としての機能、経済 対策としての機能、医療対策としての機能での効果 が期待されている。

都城志布志道路は、宮崎県側と鹿児島県側がそれぞれ約21kmで計画されており、宮崎県側の約21kmのうち、九州縦貫自動車道宮崎線の都城インターチェンジ(以下I.C.)~五十町I.C.までの約13km区間を国土交通省が、五十町I.C.から県境までの約8km区間を宮崎県が施工することとされ、平成9年から都城I.C.~梅北I.C.間の埋蔵文化財の分布状況について、宮崎県教育委員会に照会が行われた。その後の協議の結果、路線内ではこれまでに平田遺跡(平成15~16年度、平成27年~28年度)、筆無遺跡(平成15~17年度)、諸麦遺跡(平成17年度)、梅北針谷遺跡(平成20年度)、働女木遺跡(平成20~21年度)平峰遺跡(平成19~21年度)などの発掘調査が行われている。

今回発掘調査を実施した高樋遺跡は、都城志布志 道路梅北I.C.から金御岳I.C.を結ぶ約2.5km区間の梅 北工区に含まれ、梅北I.C.の約300m南側に位置し ている。梅北工区では、その大部分に周知の埋蔵文 化財包蔵地6か所が含まれることが分かっており、 これまでに大年遺跡(平成24~25年度)、中床丸遺 跡(平成25~26年度)、笹ヶ崎遺跡(平成26~27年 度)の発掘調査が実施されている。高樋遺跡では平 成25・26年度に確認調査が行われ、遺構・遺物が 確認された4,400㎡について発掘調査を行って、記 録保存の措置がとられることとなった。

発掘調査は、宮崎県都城土木事務所の依頼により、

宮崎県教育委員会が主体となって、平成27年4月 21日~平成28年2月3日まで実施した。

第2節 調査の組織

高樋遺跡の試掘調査及び確認調査、発掘調査、整理作業、報告書作成は、下記の組織で実施した。

【調査主体】宮崎県教育委員会

【調査機関】宮崎県埋蔵文化財センター

平成27年度 発掘調査・整理作業

所長	岩切	隆志
副所長兼調査課長	菅付	和樹
総務課長	上谷	政隆
総務課副主幹兼総務担当リーダー	安藤	忠洋
調査課主幹兼調査第一担当リーダー	松林	豊樹
調査課調査第一担当主査	德田	尚文
調査課調査第一担当主査	二方	和也
調査課調査第二担当主任主事	後藤	清隆

平成28年度 整理作業・報告書作成

所長	谷口	武範
副所長兼調査課長	菅付	和樹
総務課長	荒木智	『惠美
総務課副主幹兼総務担当リーダー	寺原真	真由美
調査課主幹兼調査第一担当リーダー	松林	豊樹
調查課調查第一扫当主查	德田	冶文

平成29年度 報告書作成・刊行

所長	菅付	和樹
副所長兼総務課長	甲斐	久志
調査課長	吉本	正典
総務課副主幹兼総務担当リーダー	寺原真	其由美
調査課主幹兼調査第一担当リーダー	松林	豊樹
調杏課調杏第一抇当主杏	徳田	冶文

【事業調整 (宮崎県教育庁文化財課)】

平成25年度埋蔵文化財担当主查 堀田 孝博 平成26年度埋蔵文化財担当主查 二宮 満夫 平成27~29年度埋蔵文化財担当主査 松本 茂

第3節 発掘調査の経過

高樋遺跡の本調査は、平成27年4月21日から平成28年2月3日にかけて行った。当初は、一度に全面の調査を行う予定であったが、笹ヶ崎遺跡東側

の養鶏農場へ通じる側道を先行して工事する必要が 生じたため、調査対象範囲(4,400㎡)を2分割し、 調査区東側を先行して調査を実施した。なお、高樋 遺跡に隣接する調査区北側の傾斜地と調査区南側の テラス状地形についても、確認のためトレンチ調査 を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった(第1 図参照)。また、調査区内の南西部(約500㎡)は、 住宅を作る際に掘削されていたため、本調査から除 外し、残りの約3900㎡に対象として面的調査を実 施することとした。

1 前半調査区(約2600㎡)

前半の調査は、同年4月21日から9月25日にかけて行った。試掘調査により、調査区の大部分でⅡ層~Ⅳ層までが存在しないことが判明したため、4月21日から4月27日まで表土及び耕作土である I層を重機により除去し、5月8日から発掘作業員を雇用しての人力による包含層掘削及び精査を開始した。まず、残存するⅢ層~Ⅲ層の包含層を掘削し、中世・近世の陶磁器類が出土した。6月は天候不順に悩まされたが、7月にかけてⅢ層~Ⅳ層掘削を行い、古墳時代の土師器や縄文時代後~晩期の土器等が出土した。8月からⅥ層上面の精査を行い、古墳時代の竪穴建物跡9軒や多数の小穴が検出され、土師器などの多量の遺物が出土した。9月15日にⅥ層上面の検出遺構について、第1回の空中写真撮影を実施した。

なお、VII層以下については、遺構・遺物の有無が 把握されていなかったため、先行トレンチにより確 認を試みたが、後半調査区との境付近より少量の縄 文時代前~中期の遺物が出土したのみで、その他の 遺構・遺物は確認されなかった。

2 後半調査区(約1300㎡)

後半の調査は、同年9月28日から平成28年2月3日にかけて現地作業を行った。

9月28日から9月30日までは、排土移動や表土除去を行い、排土については、施工業者と協議の結果、前半調査区内の側道を工事している部分へ置くこととなった。後半調査区は、北西部の I 層の堆積が薄く、浅いところで30cmほどしかない反面、東側や南側は I 層が80cmほどの深さの場所もあり、

層厚の差が大きかった。10月5日から発掘作業員の人力による掘削を開始し、VI層面で精査を行った。後半調査区は、前半調査区に比べて面積は少ないものの、竪穴建物跡1棟、道路状遺構1条、小穴が多数検出され、前半調査区同様遺構密度があった。検出された小穴と竪穴建物跡の遺構掘削作業は、11月5日まで行い、11月6日にVI層上面において第2回空中写真撮影を行った。

VI層上面の調査終了時点では、側道工事の進行上、 排土置き場が確保できない状況となったため、VI層 以下の調査では、後半調査区を東西に2分割して進 めることとした。

○ 後半調査区東側の調査 (850㎡)

11月19日~11月20日に、重機により VI 層の除去を行った後、VII層~WI層の包含層掘削を実施し、縄文時代前~中期の土器片や石器等が出土するとともに、土坑6基、集石遺構3基検出された。また、調査区内のXII層まで10%トレンチ調査を行い、XII層から縄文時代早期の遺物が数点出土した。そして、12月14日にXI層上面において、第3回空中写真撮影を行った。

○ 後半調査区西側の調査 (450㎡)

12月15日~12月16日にかけて、重機により VI 層の除去を行った後、VII層~VII層の包含層掘削を実施し、縄文時代前~中期の土器片や石器等が出土するとともに、集石遺構が1基検出された。また、IX 層(鬼界アカホヤ火山灰層)の下位層について10%のトレンチ調査を行ったところ、調査区南側の XI 層から礫の出土が多数認められたため、面的調査に変更した。その結果、XI 層から縄文時代早期の土器や石器が出土するとともに散礫と土坑1基が検出された。そして、1月26日には、XI 層上面で第4回の空中写真撮影を行い、1月27日~2月1日に調査区壁面の土層断面図を作成した後、2月2日~2月3日に重機での埋め戻しを行い、現地調査をすべて終了した。

第4節 発掘調査の方法

〇 グリッドの設定

調査対象地全域に対して、国土座標(世界地系)

に基づいた10m×10mのグリッドを設定し、南北 方向のグリッド線に数字、東西方向のグリッド線に アルファベットを付与して、グリッドの北西隅の交 点を各々のグリッド名とした。

〇 遺構の掘削

遺構の掘削については、検出状況から個別に任意の主軸を設定し、半截もしくは4分法により埋土の状況を確認しながら掘削することを基本とした。竪穴建物跡や土坑、溝状遺構は先行トレンチを掘削し、床面の認定や埋土の堆積状況を確認したうえで、掘削を進めた。

なお、貼床を有する遺構については、床面上の調 査後、貼床を除去し、地山面までを完掘した。

〇 作図記録

遺構の作図記録に関しては、縮尺1/10もしくは 1/20での個別図作成を基本としたが、溝状遺構や 道路状遺構においては1/40で個別図を作成したものもある。また、小穴の記録は、当初トータルステーションにより座標値を記録したが、調査の進捗状況を早めるために調査途中から、(株) CUBIC製の「遺構くん」で実測、作図・記録し、集石遺構は、1/10で個別図を作成した。

〇 写真記録

全調査区ともに、35mm白黒ネガ・カラーリバーサルを用いた撮影を基本として、一部中判カメラによる白黒ネガ・カラーリバーサルフィルム撮影を行った。また、メモ記録写真として、デジタルカメラを併用した。なお、VI層、IX層、XI層のそれぞれ上面において、業者委託による空中写真撮影を行った。

第5節 整理作業の経過と概要

現地での調査終了後、出土品及び図面・写真などの記録物を宮崎県埋蔵文化財センター本館に持ち帰り、平成28年1月から平成29年3月まで、整理作業を行った。出土品の水洗作業、整理作業の内容としては、注記作業、接合、実測、フローテーション作業、拓本、トレースなどである。また、遺構分布図や遺構実測図などの挿図を作成するとともに、併行して本文執筆を進めていった。石器の実測については、㈱九州文化財リサーチに、炭化材とサンプリ

ングを行った埋土の放射性炭素14年代測定(AMS 法)及び樹種同定、テフラ分析については㈱加速器 分析研究所に業務委託した。平成29年度は報告書 の原稿作成と編集作業を行い、平成30年3月に本 報告書を刊行した。



【接合の様子】

第6節 普及活動

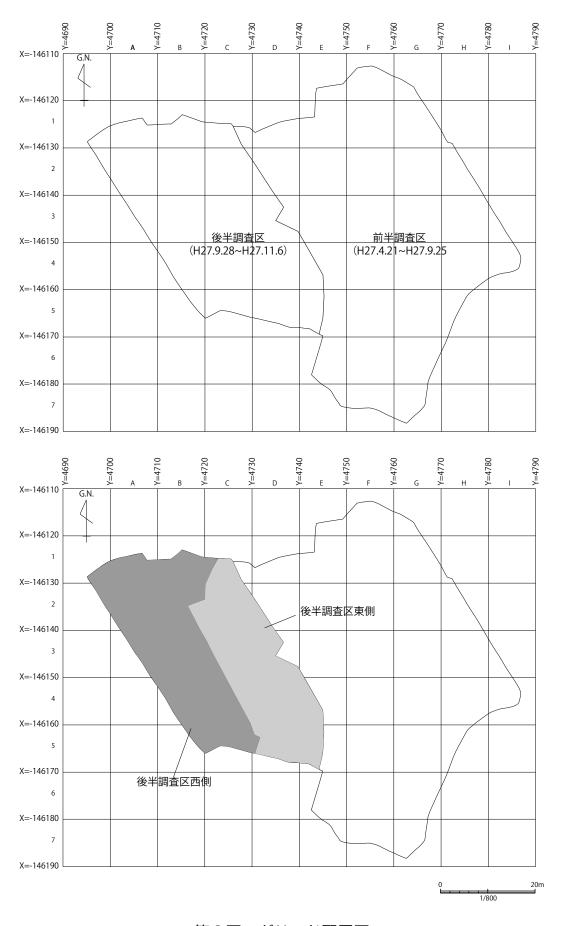
県民の埋蔵文化財センター業務や地域の埋蔵文化 財への理解を深めていただくため、平成27年11月 8日(日)に現地説明会を行った。都城市や宮崎市 などから50名の参加があった。



【現地説明会の様子】



第1図 高樋遺跡調査区の位置と周辺地形図



第2図 グリッド配置図

第 || 章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

高樋遺跡が所在する都城市は、宮崎県の南西部に位置し、宮崎市・日南市・串間市・三股町・高原町、そして鹿児島県曽於市の4市2町に隣接している。都城盆地のほぼ中央部を占め、面積は約650k㎡に及ぶ。人口約17万人の宮崎県内第2の都市であるとともに、南九州第3の中核的な拠点都市でもある。

都城市の地勢概要として、東方向に鰐塚山系、西方向は霧島山系に囲まれた盆地地形を特徴としており、南北へ流れる大淀川を挟んで東に扇状地地形、西にシラス台地が広がっている。高樋遺跡の所在する都城市梅北町は、水田や畑を中心とした農地が多く広がっており、梅北町の南東部に金御岳(標高472m)がそびえている。

調査地点付近の地形の概略としては、遺跡の東部に梅北川が北流し、盆地中央部の大淀川へと流れ込んでいる。梅北川によって形成された低地部には、現在水田が広がっており、調査地点付近は比高差高さ10mほどの台地上に立地している。調査地点の東側や南側には水田があり、台地の縁辺部にあたる場所である。

第2節 歴史的環境

本遺跡では、旧石器時代と弥生時代を除く縄文時 代早期から近世までの遺構・遺物が確認されている。 ここでは、それらの時期について周辺の遺跡や史跡 等をもとに概述する。

縄文時代

早期の遺跡としては、宮野・立野遺跡から、全縄 文施文の「五十市式土器」が出土している。その他、 円筒形土器、条痕文土器、突帯文土器、貝殻文円筒 形土器が出土している。また、梅北北原遺跡、梅北 佐土原遺跡、川原谷出水遺跡、中床丸遺跡からは、 土器・石器に加え、土坑、集石遺構などの遺構が、 桜島末吉テフラを含む遺物包含層で検出されたほか、 時期不明ながら陥し穴状遺構も確認されている。

前期~中期の遺跡は鬼界アカホヤ火山灰の降灰の

影響により遺跡数は少ないが、その中でも緩毛原第 2遺跡、笹ヶ崎遺跡で当該期の土器が出土している。 特に、本遺跡と谷をはさんで隣接する笹ヶ崎遺跡で は、轟B式土器、曽畑式系土器や深浦式土器、船元 式系統の土器が比較的多数出土している。

後期~晩期の遺跡としては、野添遺跡において、 後期の竪穴建物跡、大岩田村ノ前遺跡では、柱穴ら しきピットが楕円形状に巡る竪穴状遺構が検出され ている。

古墳時代

古墳時代の遺跡としては、野添遺跡で前期~中期の竪穴建物跡や土坑墓、豊満大谷遺跡で、中期の竪穴建物跡がそれぞれ検出されている。平峰遺跡では、中期~後期の大規模な集落がみつかるとともに、鍛冶関連の遺物も出土している。大年遺跡からは間仕切り付建物跡を含む竪穴建物跡が多数検出されている。

古代・中世

古代・中世の遺跡としては、梅北針谷遺跡の遺構・ 遺物から、古代に活発な鍛冶関連を行っていた様子 がうかがえる。王子原、上安久遺跡、王子原第2遺 跡では、中世期の遺構・遺物がまとって検出されて いる。大岩田上村遺跡では、中世の溝状遺構や道路 状遺構が検出されている。筆無遺跡では、掘立柱建 物跡、周溝墓、土坑墓などが確認されている。また、 遺物としては墨書土器、黒色土器、須恵器、緑釉陶 器、貿易陶磁器、石帯、小型滑石製石鍋などが出土 している。また、笹ヶ崎遺跡では、掘立柱建物跡や 犬走状遺構とともに、堀切や土塁といった防御用施 設もあり、笹ヶ崎遺跡周辺が地域有力層の居館跡で あるとともに、何らかの公的機関を形成していた可 能性もある。大年遺跡では、道路状遺構や溝状遺構、 畝状遺構が多く検出されており、詳細な性格は不明 であるが、長期間にわたって利用されていた状況が 判明している。また、鴇尾遺跡・嫁坂遺跡では水田 跡、坂ノ下遺跡では中世の畠跡が検出されている。

なお、梅北地区周辺には中世の平季基関連の史跡 などが分布している。梅北町益貫は居館跡であると の伝承がある。季基は万寿3 (1026) 年頃に当地 に下向し、三俣院の主として益貫に居住したとされ ている。梅北川東岸の丘陵上に立地し、四つの曲輪 からなる群郭式城館跡として知られる梅北城も平季 基の築城と伝えられている。現在は、城の中央部を 残すのみであるが、その北側と東側には土塁が現存 し、空堀もほぼ原形をとどめている。

参考文献

大前弘之 地域高規格道路「都城志布志道路」の整備について 一般社団法人九州地方計画協会 HP より

http://kkeikaku.or.jp/xc/modules/pc_ktech/index.php?content_id=2121

都城市史編さん委員会 2006『都城市史 資料編 考 古』都城市

都城市教育委員会 2004『王子原第2遺跡』都城 市文化財調查報告書第66集

都城市教育委員会 2007『梅北佐土原遺跡』都城 市文化財調査報告書第76集

都城市教育委員会 2007『梅北北原遺跡』都城市 文化財調査報告書第83集

都城市教育委員会 2011『王子原遺跡 上安久遺跡』都城市文化財調査報告書第103集

宮崎県埋蔵文化財センター 2002『母智丘谷遺跡・畑田遺跡・嫁坂遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第63集

宮崎県埋蔵文化財センター 2002『鴇尾遺跡・坂 ノ下遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報 告書第65集

宮崎県埋蔵文化財センター 2003『大岩田上村遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第77集

宮崎県埋蔵文化財センター 2004 『豊満大谷遺跡・ 野添遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報 告書第83集

宮崎県埋蔵文化財センター2008 『筆無遺跡』宮崎 県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第166集

宮崎県埋蔵文化財センター 2011『梅北針谷遺跡』 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第204集

宮崎県埋蔵文化財センター 2012『平峰遺跡(3 次調査)』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報 告書第219集

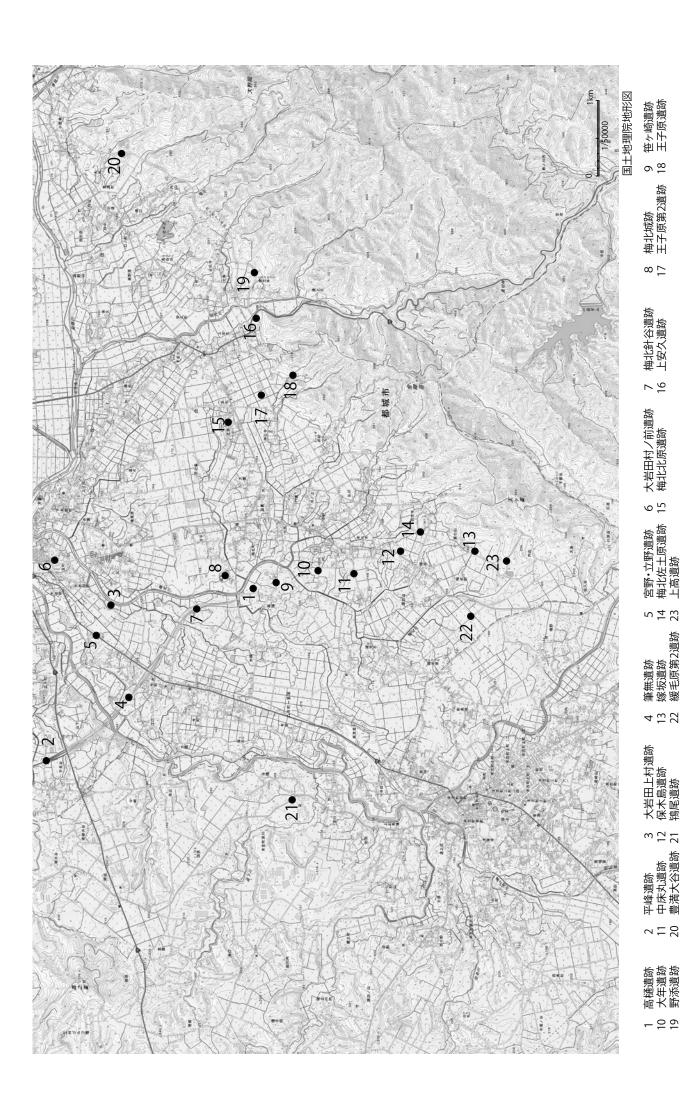
宮崎県埋蔵文化財センター 2016『大年遺跡』宮 ・ 崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第237集

宮崎県埋蔵文化財センター 2016『中床丸遺跡(第 一次・二次)宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査 報告書第239集

宮崎県埋蔵文化財センター 2016『笹ヶ崎遺跡(第 一次〜第三次調査)宮崎県埋蔵文化財センター発 掘調査報告書第240集

注

桜島末吉テフラは、付近一帯の縄文時代早期の層準で確認される黄橙色の火山灰で、大年遺跡、中床丸遺跡の報告では「桜島11テフラ(Sz-11)、笹ヶ崎遺跡の報告では「桜島末吉テフラ(Sz-Sy)とした火山灰と同一のものである。本書では、以下、桜島末吉テフラと記載した。



第3図 周辺遺跡分布図

第Ⅲ章 調査の記録

第1節 基本層序

調査区内の基本土層は次の通りである。

I層 表土もしくは造成土

II 層 黒色土 (Hue10YR2/1) に桜島文明軽石(Sz-3: AD1471年) を30%程度含む。

Ⅲ a 層 黒色土に 3 mm程度の橙色パミスを 5 %程度 含む。

Ⅲ b層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 遺物包含層

IV層 黒褐色土 (Hue10YR3/2) に橙色パミス を10%程度含む。

V層 黒褐色土 (Hue10YR3/2) に橙色パミス を30%程度含む。

VI層 霧島御池降下軽石(Kr-M:約4600年前) の堆積層

 $\mbox{ Im}$ にぶい褐色土($\mbox{Hue10YR4/6}$) 上位に ϕ $\mbox{ 1 } \sim 2 \, \mbox{ nm}$ の橙色パミスを $5 \, \%$ 程度含む。 遺物包含層

Ⅷ層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 遺物包含層

区層 鬼界アカホヤ火山灰層 (K-Ah:約7300年前)

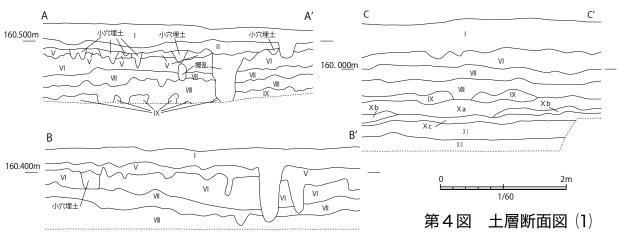
X a 層 黒褐色土 (Hue7.5YR2/2) に桜島末吉テフラ (Sz-Sy:約8000年前) を 1 ~ 3 %程度含む。

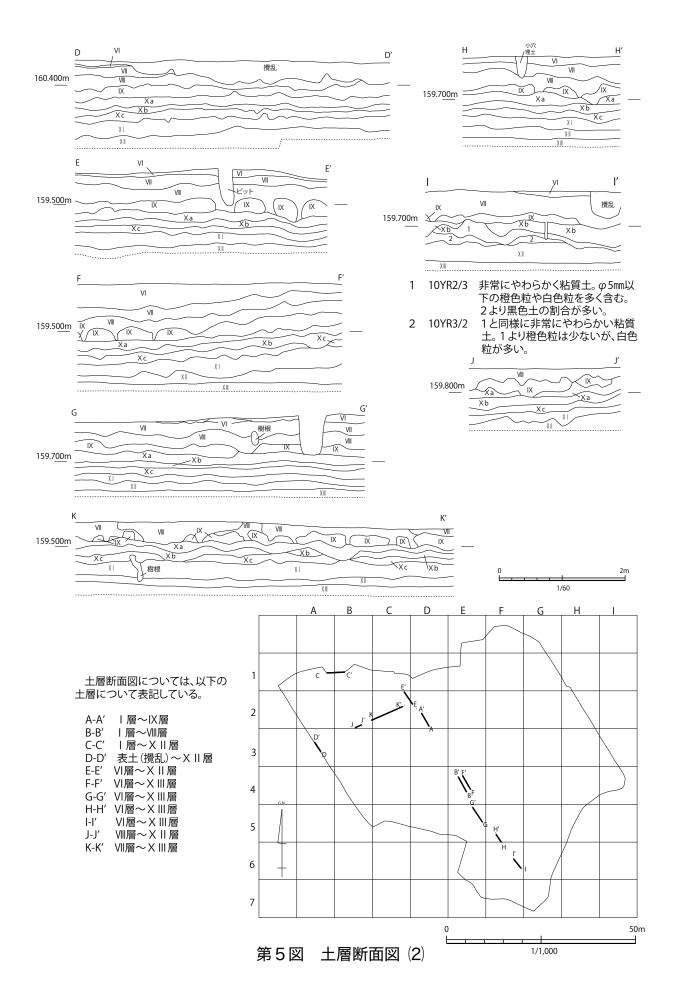
X b 層 黒褐色土 (Hue7.5YR2/2) に桜島末吉テフラを10%程度含む。

X c 層 黒褐色土 (Hue7.5YR2/2) に桜島末吉テ フラを30%程度含む。 XI層 黒褐色土 (Hue7.5YR3/2) 粘性・しまり がややある。

XII層 暗褐色土 (Hue7.5YR3/3) しまりが非常にあり、粘性もある。

I層は表土で、層厚30~80cm程度で、調査区西 側は30cm程度となる。Ⅱ~Ⅳ層は、調査区中央北部 にのみ残存し、Ⅲb層に関しては、さらに一部の範 囲にしか残存していなかった。Ⅲ a層の中には、橙 色のパミスが厚さ20cm程度で部分的に堆積しており、 火山噴出物の可能性が考えられたため、自然科学分 析を行った。Ⅲb層は中世の遺物包含層で、Ⅳ~Ⅴ 層は橙色パミスが含まれる層である。VI層の霧島御 池降下軽石層は調査区の全面で確認され、VI層以下 は削平の影響は受けておらず、平均30cm程度の層 厚である。Ⅶ~Ⅷ層は縄文前~中期の遺物包含層で、 それぞれ平均15cm程度の層厚である。調査区の西 側にはあまり堆積しておらず、調査区中央部付近の 厚く堆積しているところで、20cm以上の層厚を有 する箇所もあった。IX層は鬼界アカホヤ火山灰層で あり、平均層厚は10cm程度である。全面的に堆積 しておらず、一部ブロック状で残存している箇所も ある。X層は桜島末吉テフラを含む黒褐色土で、桜 島末吉テフラの含有量の差によって、極少量を含む Xa層、少量を含むXb層、多量を含むXc層に細 分した。XI層は黒褐色土で、Xc層~XI層にかけて 縄文時代早期の遺物が出土した。以下、Ⅲ層が暗褐 色土、畑層が褐灰色土層で桜島薩摩テフラの粒子が 1%程度混じる。





第2節 縄文時代早期の遺構と遺物

1 遺構

XI層より集石遺構2基が検出された。いずれも遺物は含まれていない。2基の集石遺構ともに、調査区のやや西寄りに分布している。

1号集石遺構(第6図)

1号集石遺構は、C4グリッドに位置し、XI層上面で検出された。10×12m程の範囲に礫がまばらに集まっている。下部に直径約0.9~1mの円形プランの皿状の掘り込みを有する。深さは15cm程度である。遺構の埋土は、黒褐色土で粘性があり、非常に硬くしまり、細かな炭化物を含む。遺構の構成礫はすべて砂岩で、総重量4067.6gであった。構成礫の特徴として、黒変や赤化した礫が一部に見られ、ほとんどの礫が割れた角礫である。埋土中より出土した炭化物について放射性炭素年代測定(AMS法)を行ったところ、8890±30年¹⁴C BPの年代が得られた。較正年代については、第IV章第3節を参照されたい。

2号集石遺構 (第6図)

2号集石遺構は、D3グリッドに位置し、XI層上面で検出された。直径0.9m程の範囲に礫がまばらに集まっている。下部にボウル状の掘り込みがある。直径約0.9~1mの円形プランで、深さは30cm程度である。遺構の埋土は、1. 粘性、しまりがともにある黒色土、2. 粘性があり、非常に硬く、炭化物も部分的に混じる黒褐色土、3. 粘性、しまりともにある黒褐色土の3層が確認できる。遺構の構成礫は主に砂岩で、赤化した礫が多い。総重量は1258gであった。遺構の掘り込み内より出土した炭化物について、放射性炭素年代測定を行ったところ、8830±30年¹⁴C BPの年代が得られた。較正年代については、第IV章第3節を参照されたい。

2 遺物

縄文時代早期の遺物は、 $X c \sim XI$ 層で出土している。

(1) 土器 (第7図1~16)

土器の大半は、貝殻文円筒形土器であり、器種は すべて深鉢である。

1は口縁部が直立している。口唇部は平らで、刻目 を施し、口縁部外面に横方向、それ以下に縦方向の2 枚貝による貝殻腹縁刺突文を施す。2~4は胴部で、 斜方向の貝殻条痕文のち、縦位の貝殻腹縁刺突文を施 す。そのうち、2の外面には縦位の三角形状の楔形突 帯文が貼り付けられ、その左右に櫛状工具による刺突 文がみられる。5は胴部下位に貝殻腹縁刺突文を施し、 底部側面に縦位の刻線をめぐらしている。6は外面に 右下りの貝殻条痕文が施された小型の円筒形土器の底 部で、底面に直径5mm程度の種子状の圧痕が2個みら れる。7はやや内傾気味に直立する口縁部で、外面は 横位の押型文を施す。角閃石を多量に含む特徴がある。 8の外面は風化が著しいが、斜方向の貝殻腹縁刺突文 と思われる。9は器壁が厚く、外面は風化が著しいが、 無文の深鉢の底部付近と思われ、内面に黒変が見られる。 10~14は、外面に横位・斜位の貝殻連点文を器面全体 に施し、いずれも胎土に金雲母を含んでいる。その中 で10は、口縁波頂部に瘤状の肥厚部がみられる。15は ナデ後、間隔をおいて縦位の網目撚糸文のち、横方向 の沈線文が施されている。16は胴部で、内面は剥離に より不明だが、外面に横位の楕円押型文が施され、胎 土に2mm以下の金雲母を多く含んでいる。

(2) 石器 (第8図17~18)

17~18は打製石鏃で、いずれも二等辺三角形状である。17はガラス質安山岩製で、基部形態は浅い凹基である。18はチャート製で、基部形態は17に比べてかなり深い鍬形鏃である。

第3節 縄文時代前~中期の遺構と遺物

1 遺構 (第9図)

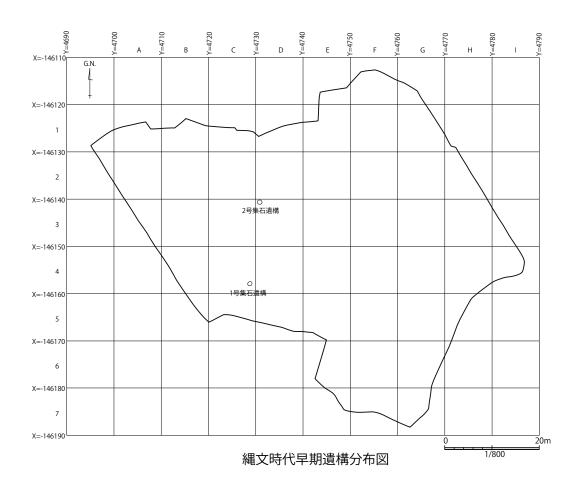
縄文時代前~中期の遺構は、土坑3基、集石遺構4 基がいずれもW層上部で検出された。遺構の分布の特 徴としては、主に調査区の西側に確認されている。

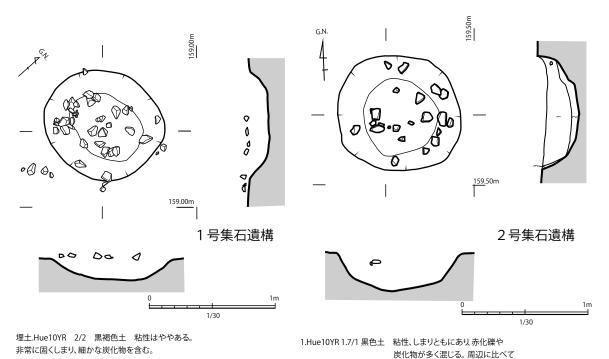
1号土坑 (第10図)

1号土坑はA2グリッドに位置している。平面プランは楕円形で、長軸1.6m、短軸0.8m、検出面からの深さは60cmである。遺構の埋土はⅥ層の霧島御池軽石のみである。遺物は出土しなかった。

2号土坑 (第10図)

2号土坑はB2グリッドに位置している。平面プランは楕円形で、長軸16m、短軸11m、検出面からの深さは28cmである。遺構の埋土は1号土坑と同様、VI層の霧島御池軽石のみである。遺物は出土しなかった。





第6図 縄文時代早期遺構分布図及び1号・2号集石遺構実測図

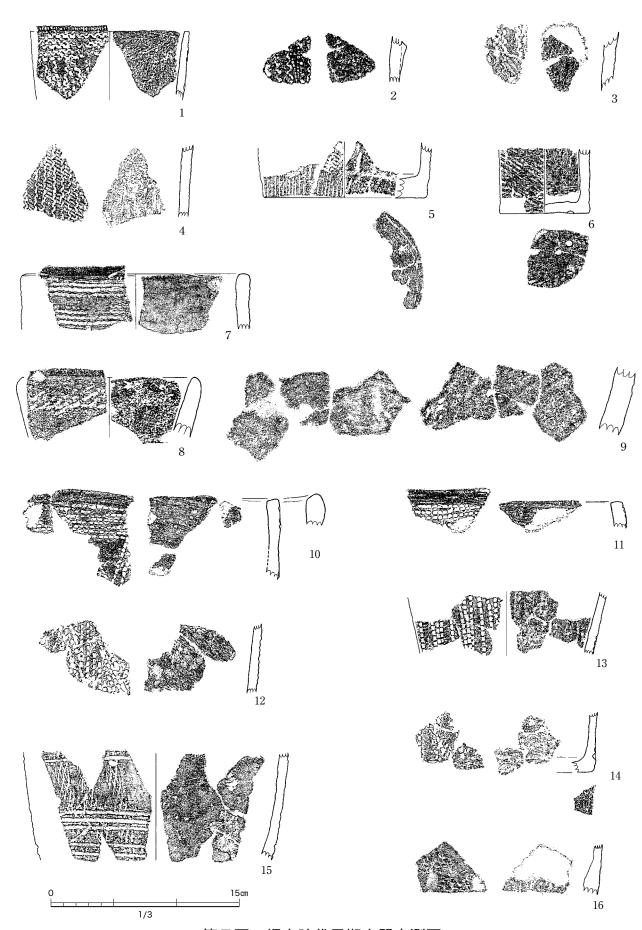
3.Hue10YR 2/3

非常に濃い黒色土である。

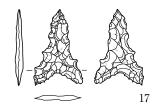
色に非常に硬い褐色ブロックが入り、 炭化物も部分的に多く混じる。

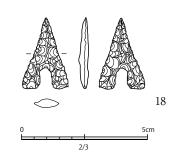
黒褐色土 粘性、しまりともにあり、1 と基本土層のVII層が混ざったようで

2.Hue10YR 2/3 黒褐色土 粘性があり、硬くしまっている。黒褐

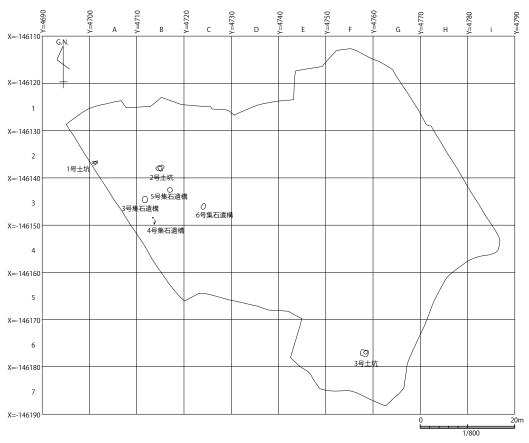


第7図 縄文時代早期土器実測図





第8図 縄文時代早期石器実測図



第9図 縄文時代前~中期遺構分布図

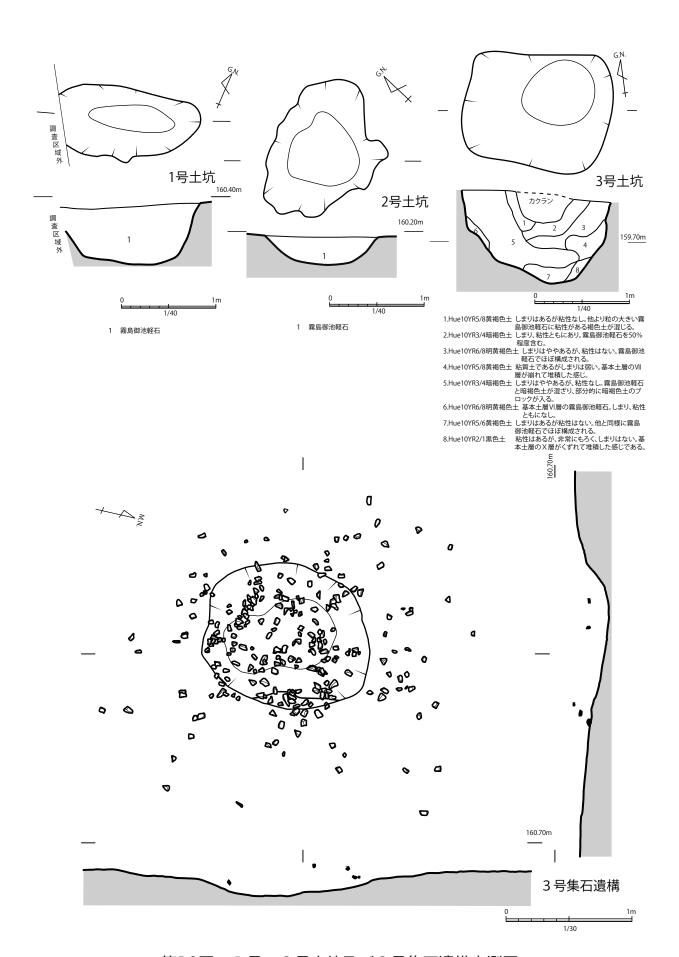
3号土坑 (第10図、第12図19~20)

3号土坑はF6グリッドに位置している。平面プランは隅丸長方形で、長軸1.6m、短軸1.2m、検出面からの深さは96cmである。遺構からは、第12図に示した $19\cdot20$ が出土した。

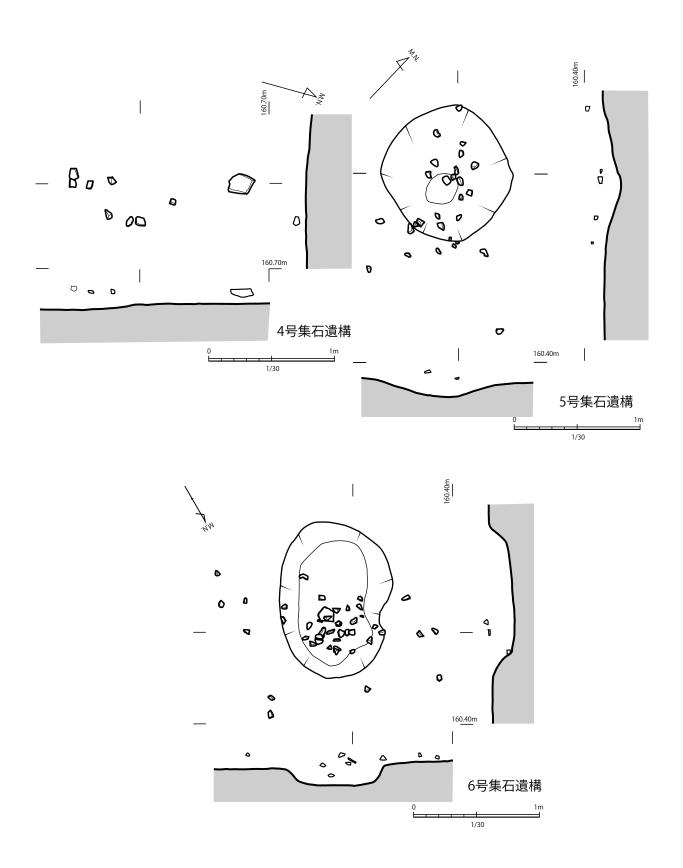
19は深鉢で、口縁部にコブ状突起を貼付し、胴部外面には条痕文を施す。胎土に1mm以下の黒色粒を多く含み、また角閃石をわずかに含んでいる。20は深鉢の底部付近で、外面には多方向の貝殻条痕文の後、一部ナデを施している。胎土に1mm以下の角閃石をわずかに含んでいる。

3号集石遺構(第10図)

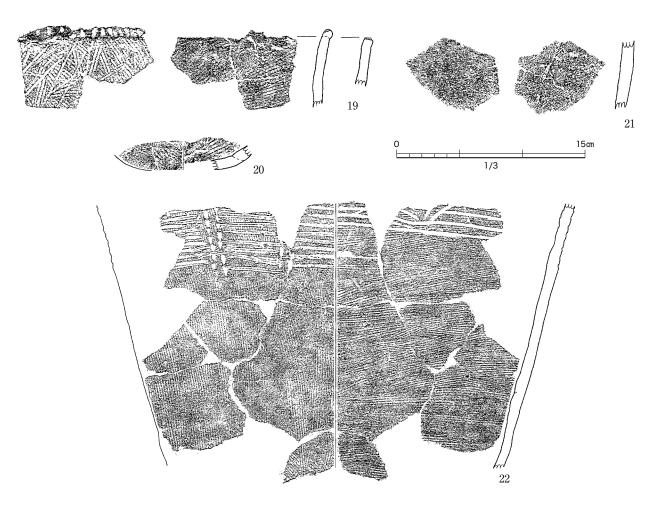
3号集石遺構はB 3 グリッドに位置している。 3.0×2.6 mの範囲に小礫が散布している。下部には 1.1×1.35 mの楕円形プランで、深さ20cmの皿状の掘り込みを有する。遺構の構成礫は主に砂岩で、被砕された小片が多く、総重量は8020gである。また、一部黒変した礫もみられる。遺構に伴う遺物は出土しなかった。なお、遺構内より出土した炭化物について放射性炭素年代測定を行ったところ、 4530 ± 30 年 14 C BPの年代が得られた。較正年代については、第 \mathbb{N} 章第3節を参照されたい。



第10図 1号~3号土坑及び3号集石遺構実測図



第11図 4号~6号集石遺構実測図



第12図 縄文時代前~中期遺構出土土器実測図

4号集石遺構(第11図)

4号集石遺構はB3グリッドに位置している。1.5×0.7mの範囲に礫が広がり、掘り込みはみられなかった。構成礫は小片が多いが、1個体のみ重量が1kg以上の礫がある。すべて砂岩で、総重量は3350gである。遺構に伴う遺物は出土しなかった。

5号集石遺構(第11図)

5号集石遺構はB3グリッドに位置している。1.0×1.8mの範囲に礫が散布している。浅い皿状の掘り込みを有する。直径1m程度の円形プランで、深さは15cm程度である。遺構の構成礫は砂岩で、総重量は1475gである。ほとんどの礫がおそらくは被熱によって割れた角礫で、赤化した礫が一部確認できる。

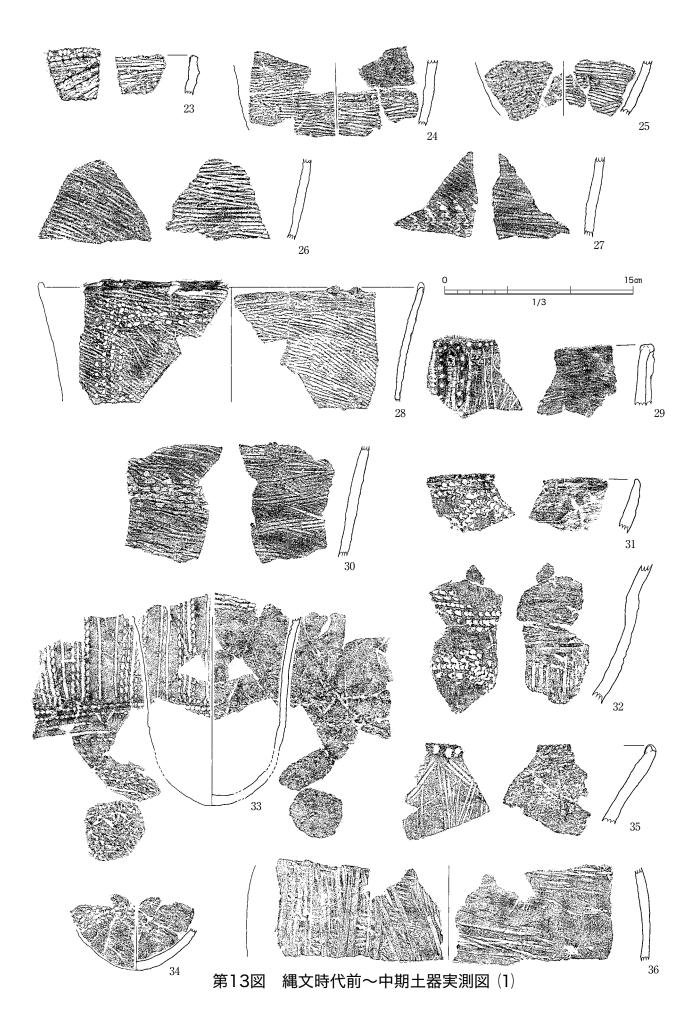
6号集石遺構 (第11図、第12図21~22)

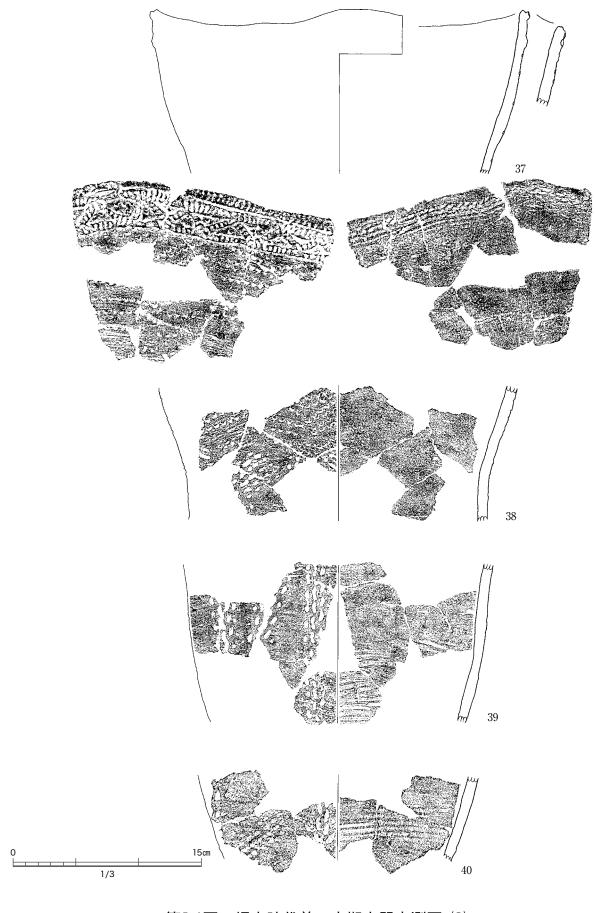
6号集石遺構はC3グリッドに位置している。1.2×1.8mの範囲に礫が散布している。下部には、平

面形が0.75×1.2mの楕円形プランの掘り込みがみられ、深さは15cm程度である。遺構の構成礫は砂岩で、総重量は965gである。半数以上が破砕されており、ほとんどの礫が赤化している。遺構からは、21の深鉢胴部片が出土した。内面、外面とも風化気味でナデ調整と思われる。22は外面の上部には、先端が二又状になった工具による横方向の沈線文が8条以上あり、横方向の沈線文を区画するように同一工具による縦方向の2条の連続刺突文が施されている。内面の上部には、横方向に4条以上の沈線文、斜位の沈線文が2条施されている。また、外面の全体に縦方向、内面には横位、斜位の貝殻条痕文が施されている。

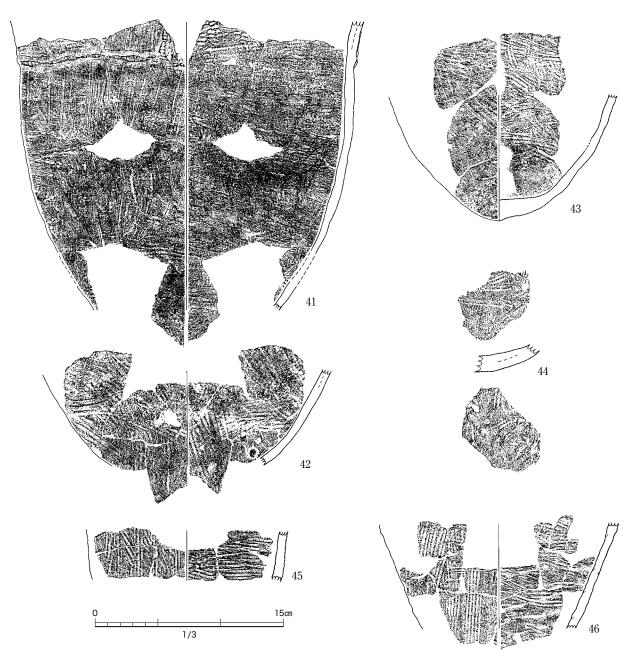
3 遺物

縄文時代前~中期の包含層から多数の遺物が出土 した。また、後の時代の遺構埋土から当該期に属す る土器が出土しており、それらもあわせて土器25点、





第14図 縄文時代前~中期土器実測図(2)

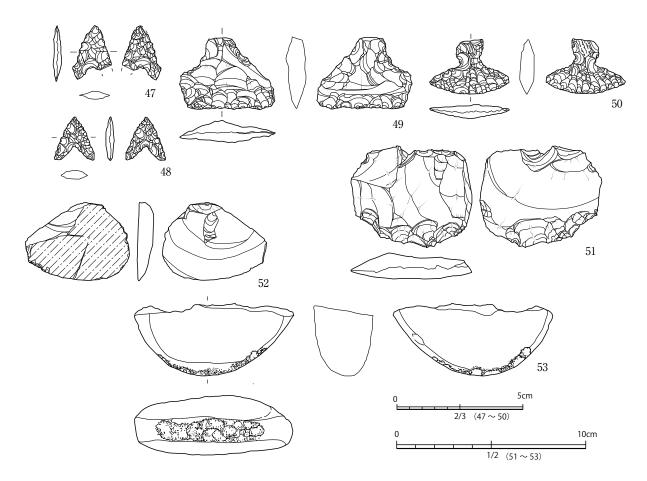


第15図 縄文時代前~中期土器実測図 (3)

石器7点を図化した。

(1) 土器 (第13図~第15図23~46)

23は口縁部から胴部で、口縁端部は横位の断面三 角形を呈する低い隆起線文で、その下には斜位の断 面三角形状の低い隆起線文を3条施す。内面には、 横位の条痕文を施し、さらに、口唇部内面側には、 工具による刺突文を施文している。24~27は内面、 外面とも全体的に条痕文が施されている。24と25 は同一個体の可能性がある。26は器壁の厚さが0.5 ~0.6cmと比較的薄く、外面上部に煤が付着している。 27は外面の全体面に条痕文を施し、一部、貝殻腹縁 による斜方向の連続する刺突文を施文する。28は口 縁部にコブ状突起を貼付し、外面には、斜方向の条痕文後、横位から縦位の刺突連点文が全体的にみられる。29の外面には、直立する口縁部付近から垂下する縦位の突帯文をもつ。突帯文と口唇部には棒状工具による刺突文を施し、内面は横方向のナデ調整がみられる。胎土に1㎜程度の角閃石をわずかに含む。30は胴部片で、外面に条痕文のち一部に横位の連続刺突文、内面は斜方向の条痕文が施されている。31は胴部外面に波状モチーフの連続した貝殻腹縁文による押引状の連続刺突文が施され、胎土には、多くの雲母が含まれている。32は胴部片で、わずかに屈曲する貝殻腹縁による刺突文と貝殻腹縁による



第16図 縄文時代前~中期石器実測図

連点文を施す。33は砲弾形を呈する丸底の深鉢で ある。胴部中位は縦方向の連続刺突文、沈線文がみ られ、底部に近くなるにつれ、横方向の刺突文や沈 線文が施されている。全体的に直線的なモチーフを 描いている。34は上部に横位の貝殻連点文が施され、 底部付近は斜位の条痕文後ナデで、一部条痕が残っ ている。35は口唇部に刺突文、外面は斜位の条痕 文後ナデの調整が施されている。36は外面に横方 向の条痕文の後、工具による横・斜方向の条痕文が 施されている。37は口縁部付近の外面に、縄によ る押圧刻みを施した2条の突帯とその間に鋸歯状の 突帯を貼付している。その下位には、横位、斜位の 貝殻腹縁刺突文を施している。38の外面の文様は、 上部に丁寧なナデ後、横方向、斜方向の貝殻腹縁刺 突文、下部は斜方向に押引状の刺突連点文の直線的 モチーフが施されている。39・40も38と同様に丁 寧なナデ後、縦方向、斜方向の刺突連点文を施す。 41・42は同一個体と思われ、41は口縁から胴部で、 外面頸部付近に縦方向の貼付突帯があり、それ以外 は条痕文が施されている。部分的にススが付着して

いる。内面は、条痕文後、粗いナデがみられ、炭化物が全体的に付着している。42は外面、内面とも条痕文後ナデが施されている。43は尖り気味の丸底の深鉢である。外面の文様が多方向の条痕後一部工具による条痕が施されている。44~46は、外面、内面ともに条痕が施されている。

(2) 石器 (第16図47~53)

47~48は打製石鏃である。47は石英製で、右脚の先端部は欠損している。左脚端部は突脚である。48はガラス質安山岩製で、全体的に三角形状を呈している。抉りは深い。49・50は横型の石匙である。49は桑ノ木津留産黒曜石製で、左側縁部に浅い抉りを入れている。50はチャート製の石匙で、上部両側縁に抉りを入れ、基部を設けている。51は珪質頁岩製のスクレイパーで、縁辺に連続する剥離を施し、刃部を形成している。52は珪質頁岩製の使用痕剥片で、扇状を呈している。被熱のためか、赤化している部分が多い。53は安山岩製の磨石で、側縁部に敲打痕がみられる。

第4節 縄文時代後~晩期の遺構と遺物

1 概要

縄文時代晩期に属する土坑が、Ⅵ層上面で1基検出されている。また、Ⅲ層を中心に一部Ⅳ・Ⅴ層からこの時期の遺物が出土しているが、多くは後世の遺構や攪乱層からの出土である。

2 遺構

4号土坑 (第17図・第20図、90)

4号土坑はC4グリッドのVI層上面で検出された。 平面プランは不整形で、長軸は2.6m、短軸は2.2m、 深さは60cmである。遺構埋土の上位から90が出土 した。鉢の胴部から底部付近で、外面には全体的に 組織痕がみられる。内面は、多方向の工具ナデが施 され、一部黒変も見られる。このほかに、81・91 も出土している。

3 遺物

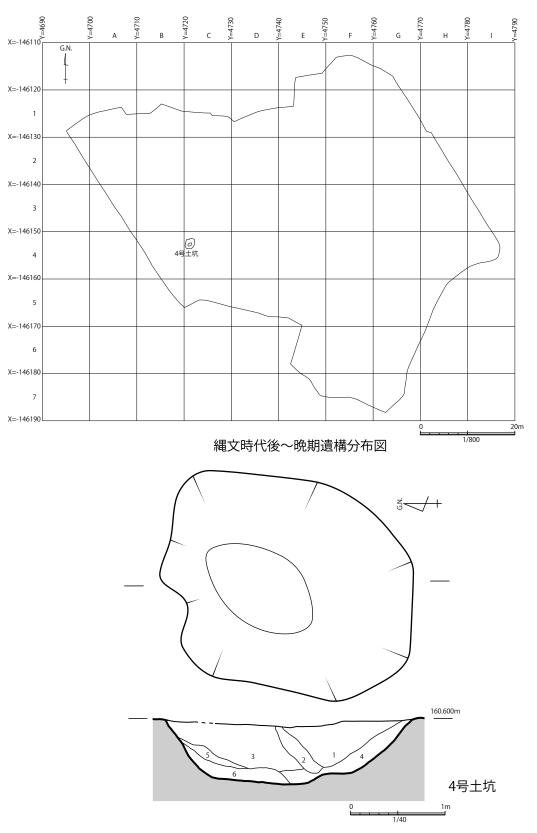
(1) 土器(第18~20図54~91)

54は、土器片加工円盤の一部と考えられる。文 様は、沈線文と刺突文が施される。口縁部付近であ ろう。最大幅2.9cm、最大長6.1cm、最大厚1.2cm、重 量は14.6gであり、穿孔があったと考えられる。55 は胴部で、外面には沈線文と連点文、さらに全体的 に横方向のミガキが施されている。56は口縁部で、 外面は横方向のナデ、内面は横方向の条痕後ナデが 施され、外面には全体的に黒色物が付着している。 57は逆「く」字形に鋭く屈曲して稜を形成する胴部 片である。外面・内面ともに横方向のミガキが施さ れ、外面の一部に黒斑がみられる。58は口縁部で、 外面はヨコナデを施し、内面は剥離している。59 は底部で、外面・内面ともにローリングにより調整 が不明となっている。推定底径は6.4cm。60は深鉢 の口縁から胴部片で、波状口縁である。外面は横方 向の粗いナデで、部分的に横・斜方向のナデが施さ れている。外面の一部に煤が付着し、頸部に段が形 成される。内面に黒変がみられる。61は口縁付近で、 外面、内面ともに横方向のナデが施され、外面には 黒斑と煤が付着している。62は外面、内面とも横 方向のミガキが施され、内面には黒斑が認められる。

63~67は口縁部で、粘土帯を貼り付けて口縁部を肥厚させ、断面三角形を呈する突帯を巡らせる。

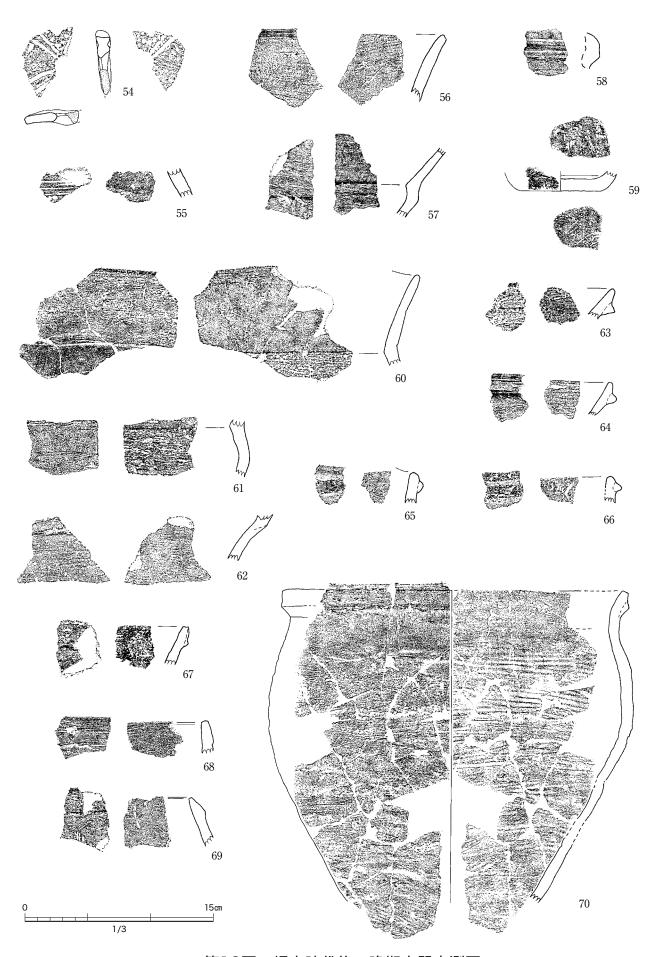
68と69は口縁部で、わずかに肥厚させるものである。 68は外面、内面とも条痕後、粗い工具ナデやナデ が施され、胎土に微細な雲母が含まれている。69 は外面、内面ともにナデが施され、内面に顔料が塗 布されている可能性がある。70は口縁から胴部で、 残存率が約2/3の比較的まとまった破片である。 推定口径は約26.3cm、胴部の最大径は29.0cmで条痕 による調整が施されている。71は胴部で、上部に 焼成後の穿孔がある。外面は、主に横方向のナデを 施している。外面上部に煤が付着し、下部は火熱を 受けた痕跡が認められる。72は底部で、外面・内 面ともナデを施し、一部黒変がみられる。推定底径 は約9.75cmである。胎土に微細な棒状の黒色粒をわ ずかに含む。73~81は鉢である。73は、外反せず 直立する口縁部である。外面、内面とも横方向のナ デが施されている。74は口縁部で、外面は粗いナデ、 内面は丁寧な横方向のミガキを施している。75は 口縁から胴部で、胴部上部に2か所の穿孔があり、 外面は粗いナデが施され、ススが全体的に付着して いる。76は口縁から胴部で、外面は横方向の粗い ナデ、内面は横方向のミガキがそれぞれ施されてい る。外面には煤、内面には黒斑がある。胎土に3mm 以下の灰白色粒を含んでいる。77は口縁から胴部で、 上部に穿孔がある。外面は横方向の粗いナデが施さ れ、煤が全体的に付着している。内面は横方向のミ ガキが施され、黒斑がみられる。器壁は比較的薄く、 胎土に微細な透明光沢粒が多く含まれている。78 は口縁から胴部で、頸部は「く」の字に屈曲している。 外面はナデ、内面は横方向の条痕文後ナデが施され る。79は口縁から胴部で、口縁部付近は貝殻条痕 後横方向のミガキ、胴部上部は縦方向、下部は横方 向のミガキが施されており、胴部上部には煤が付着 している。80は口縁部から胴部で、口唇部に沈線、 外面はナデ、内面は粗い工具ナデが施されている。 胴部上部に、直径3mm程度の焼成前の穿孔があり、 いわゆる孔列文と考えられる。81は口縁部が「く」 の字に屈曲し、直径3mmほどの小孔が並んでおり、 孔列文と考えられる。

82~91は浅鉢である。82は逆「く」字形に内折し、口縁端部に浅い横方向の沈線文が1条巡る。外面、

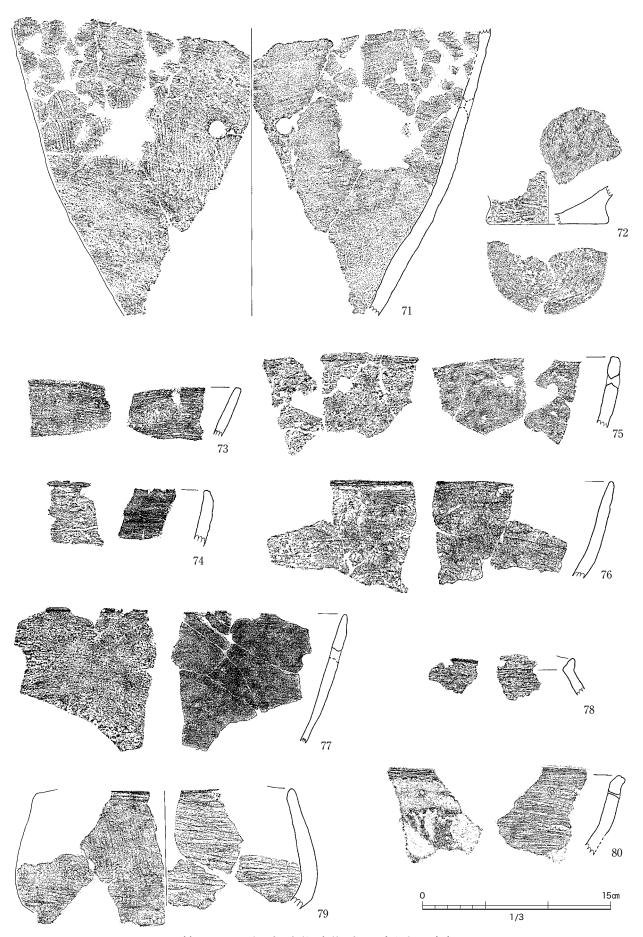


1.Hue10YR 2/1 黒色土 ϕ 1~7mmの橙色粒子(霧島御池軽石)を30%含む。粘性はないがしまりがある。 2.Hue10YR 2/2 黒褐色土 3.Hue10YR 3/3 暗褐色土 4.Hue10YR 5/6 明褐色土 5.Hue10YR 3/4 暗褐色土 6.Hue10YR 3/4 暗褐色土 6.Hue10YR 3/4 に報色土 6.Hue10YR 3/4 におしたいるところもある。非常に硬くしまっており粘性もある。 ϕ 10mm以下の軽石が40%混じる。比較的硬くしまっており、粘性もある。 しまりはあるが粘性はない。軽石がくずれてきて流れ込んできたようにみられる。 軽石の混じりも少なくなる。粘性はあるがしまりはややある程度である。 軽石も少なく、黒色土が混じるところもある。部分的にしまっている箇所もあるが、ほとんどはしまりがない。

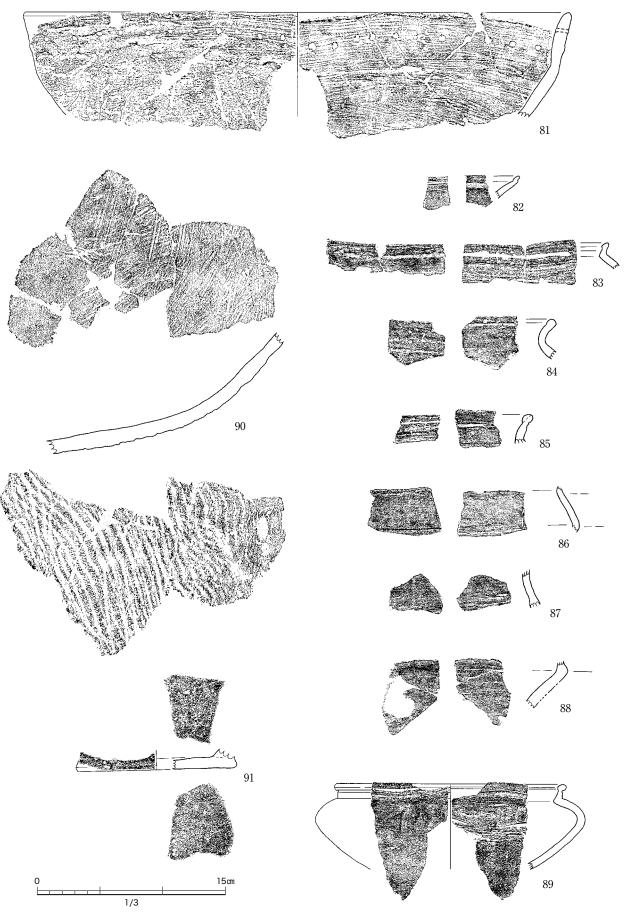
第17図 縄文時代晩期遺構分布図及び4号土坑実測図



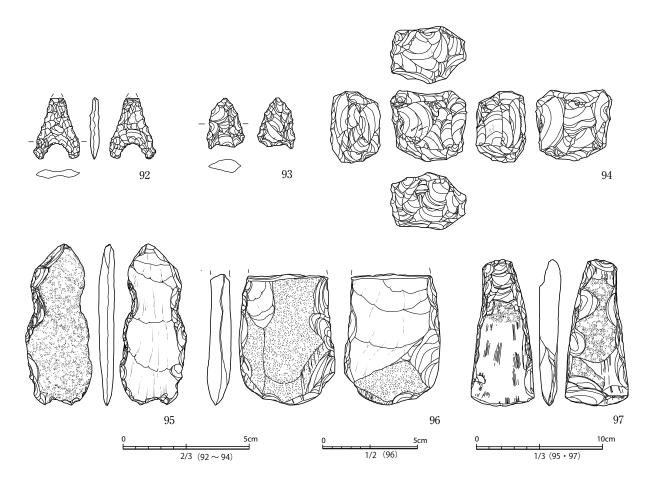
第18図 縄文時代後~晩期土器実測図



第19図 縄文時代晚期土器実測図(1)



第20図 縄文時代晚期土器実測図(2)



第21図 縄文時代後~晩期石器実測図

内面とも横方向のミガキが施されている。83は口縁部で、口縁部にヒレ状の突起を有する。84は口縁部で、風化が著しいが、外面は横方向のミガキ、内面もミガキが施されている。外面に圧痕が複数みられる。85は口縁部で、全体的に灰黄色で、外面には沈線文が施される。86~87は胴部で、全体的に黒褐色を呈している。88は外面は横方向のミガキが施されて、全体的に煤が付着しており、胎土に2m大の比較的大きな褐色粒をわずかに含む。89は口縁から胴部である。口縁部は外反し、胴部は逆「く」字形に屈曲して稜を形成している。器壁は薄く、口縁部下部に沈線文があり、口縁部は玉縁状に肥厚する。91は底部で、推定底径は約12.8cmである。外面、内面ともローリングにより調整不明である。色調は橙色である。

(2) 石器 (第21図92~97)

ここでは遺構埋土出土で、混入の可能性が高いな ど、縄文時代の遺物であるが時期の特定が難しい石 器を掲載する。

92~93は、いずれもチャート製の打製石鏃で、 基部形態は92が深い凹基、93が平基である。94は 桑ノ木津留産の黒曜石の石核で、打面転移を行い、 複数の方向から剥片を作出している。95~97は、 いずれもホルンフェルス製で、側縁部に剥離調整を 施している。95・96は打製石斧、97は磨製石斧で、 残存するものの形態は、95は有肩形、97は短冊形 を呈する。95のみⅢ層出土で、他は時期の異なる 遺構埋土や攪乱層出土である。

第5節 古墳時代の遺構と遺物

1 概要 (第22図)

古墳時代の遺構としては、主にVI層(霧島御池降下軽石)上面で竪穴建物跡が8軒検出された。遺物は、竪穴建物跡の埋土や床面近くより土師器の甕や壺、高坏、小型土器等が出土している。なお、色調や胎土、調整等の詳細については、遺物観察表を参考にされたい。

2 遺構

(1) 竪穴建物跡

1号竪穴建物跡(第23図~第25図)

調査区南側のF6グリッドにあり、付近にVI層が 残存していないため、Ⅷ層上面で検出された。遺 構の規模は、5.6m×4.6m。隅丸方形プランで、主 軸は西に約40°振れている。床面積は約20.8㎡あり、 本遺跡の中では規模の大きな竪穴建物跡である。貼 床の厚さは約10cmである。主柱穴とみられる小穴 は6基あり、その深さは30~42cmで、柱間距離は 北西から南東方向に2m、北東から南西方向に1.4 mとなる。北西部の壁際には1対の柱穴が検出され、 この竪穴建物跡の出入り口の支えを果たす柱と推測 される。貼床中央部には、焼土が広がっており、そ の中に炭化物も含まれていた。また、焼土の広がり 以外の床面上から炭化材が複数確認された。これら 炭化材(3試料)について年代測定を行ったところ、 1710~1610±20年¹⁴C BPの年代が得られた。較正 年代については第IV章を参照されたい。

本遺構から出土した遺物は、床面付近から出土したものが多く、遺構のやや北側や東側から多く出土している。28点を図化した。

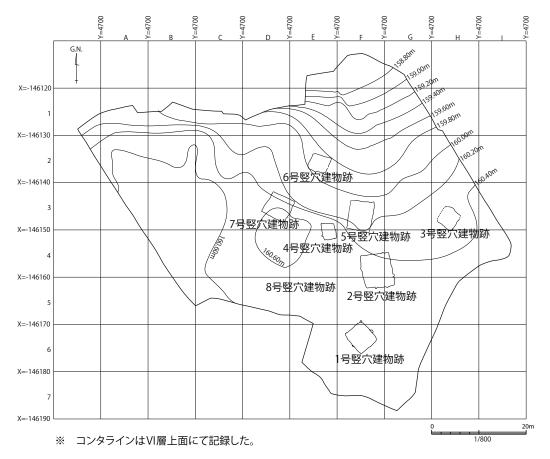
98~104は甕である。形態的には、口縁部が胴部からやや内湾気味に立ち上がり、外面に1条の貼付突帯を巡らすもの(98・99・100・101)と胴部中位に最大径を有する長胴で、頸部がくの字状に明確に屈するものの(103)の2種類がみられる。前者は粘土紐の接合痕跡が残っており、全体的な作りも粗雑である。胎土や調整、形状等から101と102は同一個体と思われる。102と104は底部であるが、いずれも平底を呈し、短く直立する底部から外方

に屈曲し、やや内湾しながら胴部が立ち上がってい る。105~106は壺の肩部~胴部で、なで肩状の器形 を呈し、106の外面には黒色付着物が見られる。107 ~115は高坏であるが、全形をうかがうことができ るものは109のみである。坏部の形態的には、やや 大型で、坏部中程で不明瞭に屈曲し、口縁部に直線 的に立ち上がるもの(107・108)と、小型で屈曲部 が明瞭であり、屈曲部から斜め上方に直線的に立ち 上がるもの(110)の2種類がみられる。次に脚部 の形態的には、脚裾部は上方にやや屈曲して開くも の(109)と直線的に開くもの(113)、坏部を反転 したような形状の裾部を有するもの(115)がみられ、 その中で、109の脚柱が著しく短いことが特徴である。 坏底部の充填部脚側の形態的には、108・110・113 は、充填後に指などで凹ませず半球状を呈し、108・ 110・111は充填後に脚側から押して凹ませている。 116・117は鉢の口縁部から胴部であり、116の口縁 部は緩やかに内湾しているのに対して、117の口縁 部は大きく開いている。117の外面に黒色物が付着 し、口縁部内面付近に、種子状の圧痕が2ヵ所みら れる。118~122は小型土器 (壺) である。118・119 は口縁部がやや内湾気味であるのに対し、120の口 縁部は直線的に立ち上がっている。121は口縁部か ら頸部で、頸部と口縁部の境に段が付き、明瞭になっ ている。122は小型丸底壺で、頸部から口縁部へ直 線的に広がっており、内面に3ヵ所ほど種子状の圧 痕がみられる。123は砂岩製の敲石で、先端部に敲 打痕がある。124は全長11.2cmの刀子である。

2号竪穴建物跡(第26図~第27図)

調査区やや南側のF~G・4~5グリッドに位置し、VI層上面で検出された。遺構の規模は、7.0m×6.0m。方形プランで、長軸は西に約10°振れ、床面積は約37㎡あり、本遺跡の最大規模の遺構である。貼床があり、厚さは10~20cmほどある。床面には壁帯溝と推定される溝も検出された。また、南側の壁付近より、たも石と思われる11個の砂岩の礫が出土した。中央部やや南側で焼土が一部確認された。

本遺構から出土した遺物のうち23点を図化した。 遺構の北東部で多く出土しており、床面付近から多 く遺物が出土した。

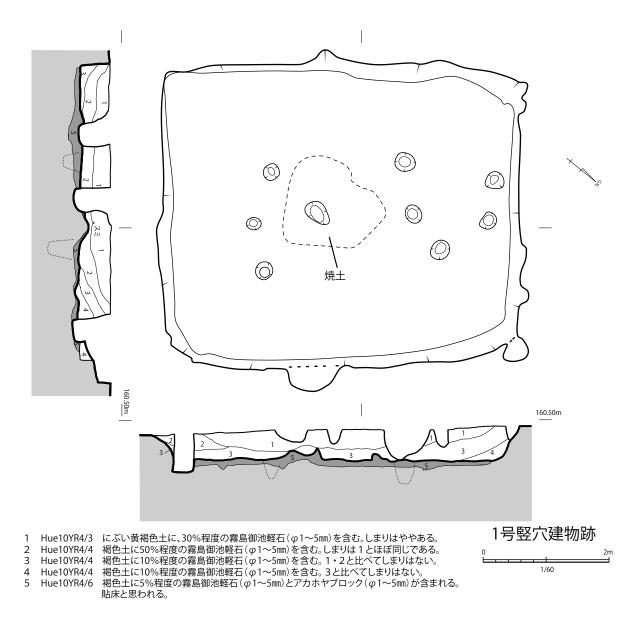


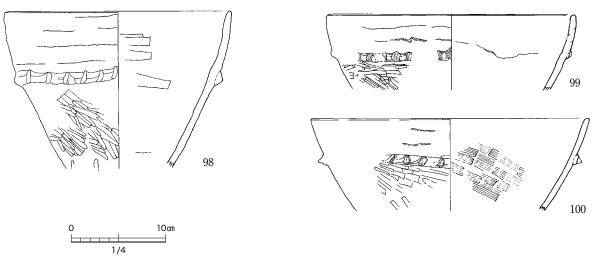
第22図 古墳時代遺構分布図

125~128は甕である。125・126の口縁部は、や や直線的に立ち上がっており、外面に1条の刻目貼 付突帯を巡らせている。推定口径が約30cmを超え る広口甕で、外面に煤が付着している。127・128は、 甕の底部付近から底部で、平底の底部に黒色付着物 がみられる。129・130は壺で、いずれもくびれ部 に刻目突帯を巡らせ、刻目部分に布目痕が残ってい る。129の外面全体に丹塗りが施され、130の口唇 部には沈線状の文様が施されている。131~138は 高坏である。全形をうかがい知ることができる個体 は138のみである。坏部の形態としては、屈曲部が あまり見られずに口縁部が直線的に立ち上がって いるもの(132・134)と緩やかに屈曲して直線的 に立ち上がっているもの (138)、明瞭な屈曲部か らやや外反しているもの(131)の3類型がみられ る。次に脚部の形態としては、脚柱部はやや外側に 直線的に広がり、脚裾部との境に明瞭な屈曲が見ら れ、「ハ」の字状に開く(136・137・138)。また、 坏底充填部が確認されたもののうち、134・138は 凹まず半球状を呈し、137は凹んでいる。139は鉢 で、底部は平底気味で体部は大きく開き、全体的に 椀形である。140~147は小型土器である。その中で、 140・141の口縁部はやや内湾気味である。142は扁 球形の体部に尖底で、体部の器壁は非常に薄く、外 面に黒色付着物がみられる。143・146の底部内面 は胴部と比べ、器壁が厚くなっている。145・146 はいずれも平底の底部で、側面が外反しながら立ち 上がっている。147の内面は接合面で、器種や部位 は不明である。148は全長3cm、幅1.5cm、厚さは0.8 cm~1.2cmで、ほぼ長方形をした楔形の鉄製品である。

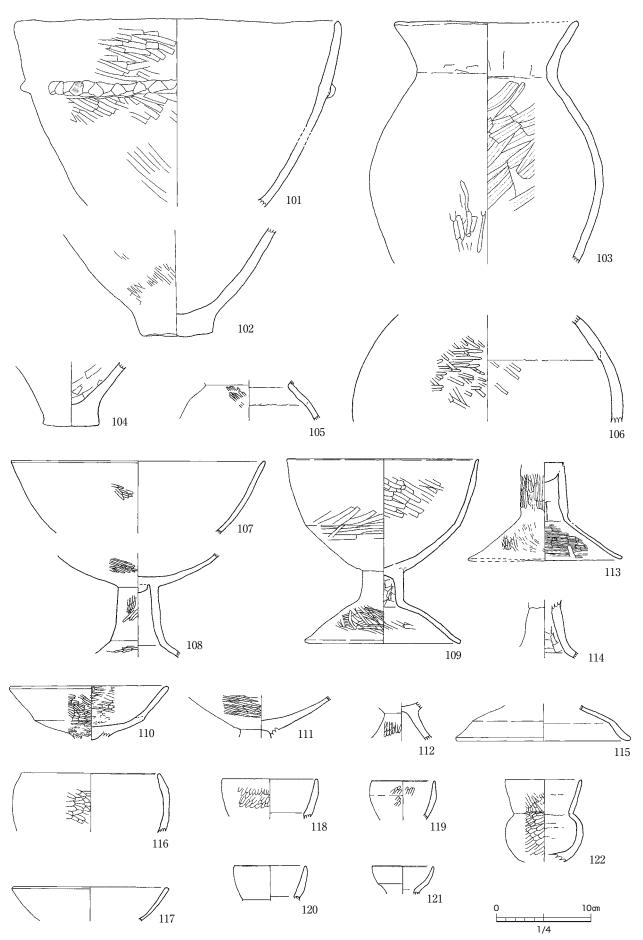
3号竪穴建物跡(第28図)

調査区東側のH3グリッドのやや南側のW層上面で検出された。遺構の規模は、3.6m×4.0mで、床面積は約13.7㎡である。隅丸方形プランを呈する。この遺構の長軸は西に約50°振れている。貼床は約5~8cm程度で非常に薄い。主柱穴は遺構中央部と1m南東側にそれぞれ1基ずつあり、床面からの深さは0.25m、0.38mである。3号竪穴建物跡の北西部にある10号土坑が、3号竪穴建物跡を後世に削平している。また、3号竪穴建物跡の東側にある2号

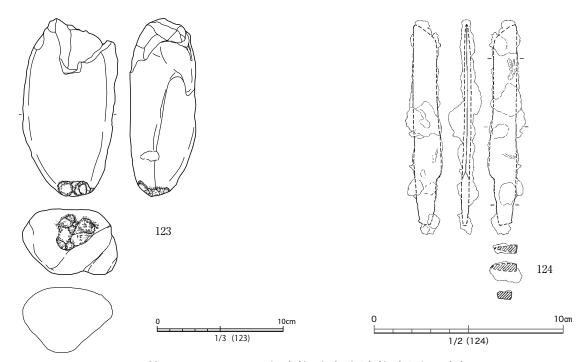




第23図 1号竪穴建物跡実測図及び出土遺物実測図(1)



第24図 1号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)



第25図 1 号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

竪穴状遺構が後世に3号竪穴建物跡を削平した形跡がみられる。床面の中央部には焼けた粘土があった。本遺構の遺物は、多くが検出面付近の埋土より出土した。そのうち、5点を図化した。

149・150は甕の底部で、いずれもレンズ状の平底である。151・152は高坏の坏部で、151は坏部の屈曲部から口縁部へ直線的に伸びている。153は小型土器で、口縁部はやや内湾している。

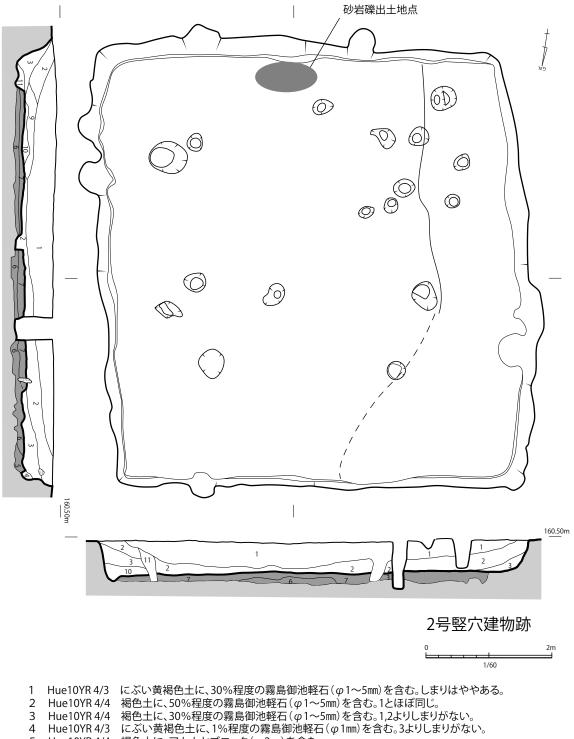
4号竪穴建物跡(第29図)

調査区中央部のE3~E4グリッドに位置し、遺構の規模は、3.6m×2.6m、床面積は約9.4㎡である。 長方形プランであり、この遺構の長軸は西に10°振れている。柱穴は北側に2基確認され、柱穴2基の深さは約30cm、柱穴間は80cm程度である。中央部のやや南側や2基の柱穴間に焼土が検出された。

本遺構から出土した遺物は、出土した地点として は中央部からやや南側が多く、ほとんどが床面付近 から出土した。そのうち19点を図化した。

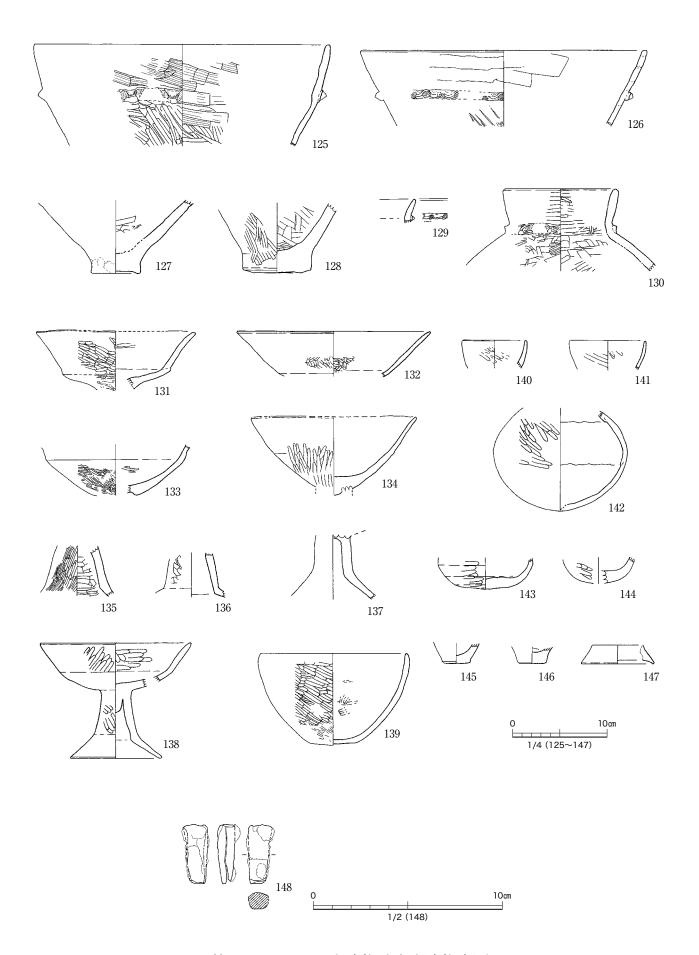
154・155は甕であり、そのうち154は全形をうかがい知ることができる資料である。154の頸部は緩やかに屈曲し、長胴気味の胴部で、丸底を呈する。胎土は5mm以下の褐灰色粒や赤褐色粒など大きめの砂が混入している。155の側面は外反しながら立ち上がり、底面との境が明瞭な平底となる。156・

157は丸底の壺である。156は胴部が球形を呈する。 器壁が薄めだが、157の底部の器壁は厚く、内面の 中心付近に工具の圧痕が見られる。158~167は高 坏である。坏部の形態としては、坏部の中ほどでわ ずかに屈曲し、口縁部がわずかに外反しているもの (158) と、屈曲しない椀形のもの (159) がみられる。 脚部の形態によると、脚柱部と裾部の境が明瞭な境 の段が見られるもの(158)と脚柱部から裾部まで 緩やかに外反し、スカート状に湾曲して開くもの(161 ~164・167) に分けられる。また、裾部の中で坏 部を反転したような形状の裾部を有するもの(166) もみられる。なお、167・172は羽口に転用したも のである。167の裾部上部に、二次的被熱による変 色が見られ、一部鉄滓が付着しており、172は脚柱 部外面のほとんどが被熱し、灰色に変色していると ともに、一部は溶融の痕跡も見られる。坏底充填部 が確認されたもののうち、158・162は凹まず半球 状を呈し、160・163は凹んでいる。168・169は鉢 で、168の胴部は内湾気味に開き、低い脚台を有する。 169は小形の平底の底部である。170は小型土器の 口縁部から胴部で、外面胴部に縦方向のヘラミガキ が施されている。171は鞴の専用羽口で、外面の全 体的に熱を受け発泡しているとともに、内面には鉄 が酸化し、赤色に変色している部分もある。173は

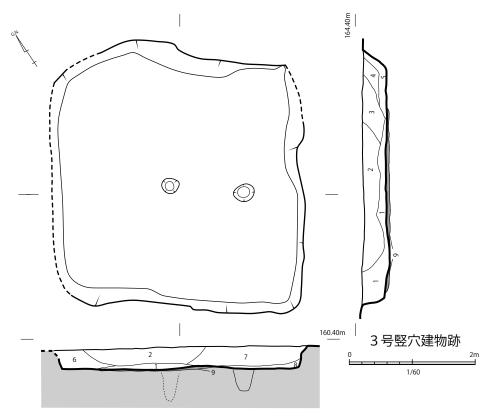


- Hue10YR 4/4 褐色土に、アカホヤブロック(φ2mm)を含む。
- Hue10YR 4/6 褐色土に、霧島御池軽石 (φ 1~2mm) とアカホヤが一部含まれる。しまりがあり、貼床か。 Hue10YR 4/4 褐色土に、50%程度の霧島御池軽石 (φ 1~2mm)を含む。非常に硬い。貼床の一部か。
- にぶい黄褐色土に、50%程度の霧島御池軽石 $(\phi 1 \sim 5mm)$ を含む。1よりしまりがある。 にぶい黄褐色土に、10%程度の霧島御池軽石 $(\phi 1 \sim 5mm)$ を含む。 Hue10YR 4/3
- Hue10YR 4/3
- 10 Hue10YR 4/6 褐色土に、15%程度の霧島御池軽石 (φ3~5mm)を含む。しまりがある。
- 11 Hue10YR 4/4 褐色土に、10%程度の霧島御池軽石(φ1~5mm)が含まれる。

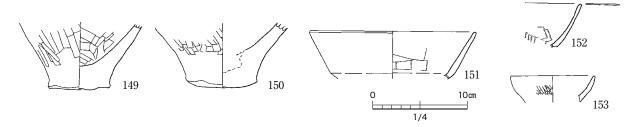
2号竪穴建物跡実測図 第26図



第27図 2号竪穴建物跡出土遺物実測図



- ところどころしまりが強いところもあるが、全体的に弱い、φ1~10mmの霧島御池軽石を7%程度含む。 Hue10YR 3/4 暗褐色土
- にぶい黄褐色土 しまりはあるが粘性はない。1より多くの霧島御池軽石を含むがφ1~3mm程度と細かい。 暗褐色土 粘性・しまりともになし、霧島御池軽石が全体的に均一に混じる。 褐色土 粘性・しまりともにあり、部分的に褐色と暗褐色が混じる。 Hue10YR 4/3
- 2 3 4 Hue10YR 3/3 Hue10YR 4/4
- Hue10YR 3/4
- 暗褐色土 粘性はあるがしまりは弱い、φ1mm程度の霧島御池軽石が細かく混じる。 暗褐色土 しまりが弱く、全体的にボソボソした様子で、霧島御池軽石の混ざりも粒の大きさもまばらである。 Hue10YR 3/4
- 福色土 私性はないがやや硬くしまる。霧島御池軽石も7%程度含むが、粒子の大きさはバラバラである。 褐色土 粘性は、霧島御池軽石の混じりも少なく、しまりも弱い。 Hue10YR 4/4
- 8 Hue10YR 4/3
- 黒褐色土 貼床か。硬化しているところ、そうでないところがある。1~2cm程度の褐色ブロック、φ1mm程度の黒色土、霧島軽石など多く混じる。 Hue10YR 2/3



3号竪穴建物跡実測図及び出土遺物実測図 第28図

棒状の鉄片で、最大長約1.6cm、最大厚0.5cmであり、 174は三角形状の鉄片で、最大長2.8cm、最大厚0.6 cmである。

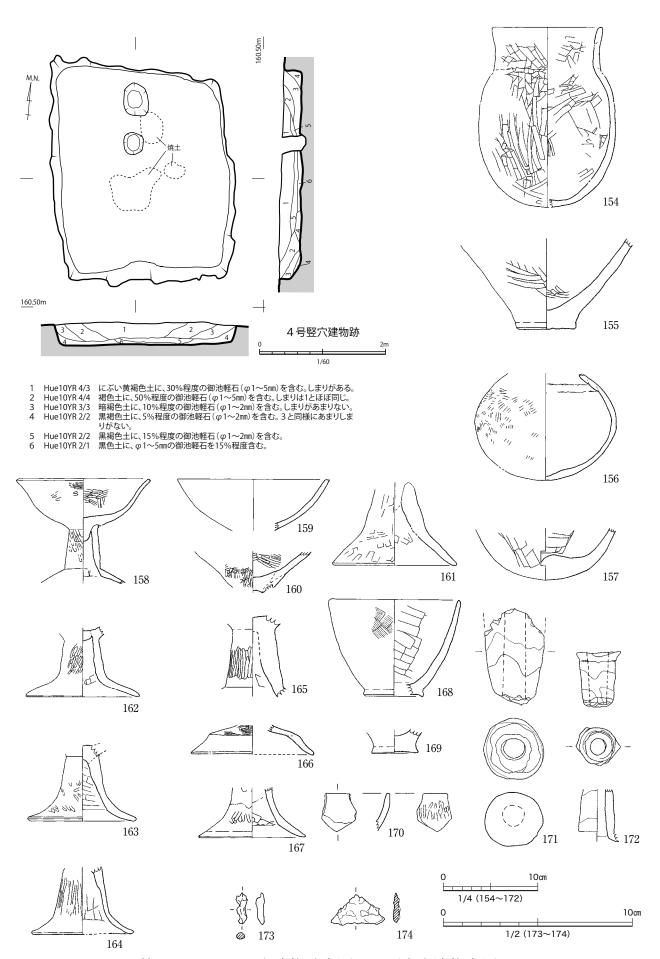
5号竪穴建物跡(第30図~第34図)

調査区中央部のやや東側、F3グリッドに位置し、 V層掘削中に検出された。この遺構の南東部にある 5号土坑によって後世に削平されている。遺構の規 模は、6.0m×5.0m、床面積は約27.8㎡である。方 形プランで、この遺構の長軸は東に10°振れている。 貼床の厚さは約10~20cmほどである。床面の中央部 と南西部に焼土が検出され、中央部には、焼けた粘 土の塊も出土した。また、床面中央部の一部に赤く

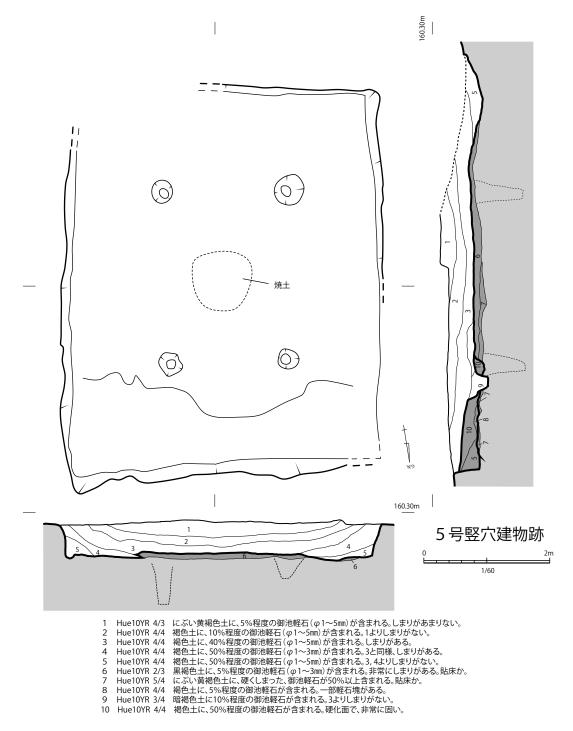
酸化した部もあった。主柱穴は4基確認されており、 深さ約50~60cmのしっかりとしたピットである。遺 構の北側のほぼ全面に検出面から10~40cmの深さに 硬化面がみられた。中央部に向かうにつれて緩やか に下っており、ベッド状遺構の可能性も指摘できる。

本遺跡の竪穴建物跡の中で、最も多い遺物が出土 し、その大半は床面から出土している。そのうち66 点を図化した。

175~185は甕で、そのほとんどの外面に煤が付 着していたことから、煮炊きの道具として使用して いたと考えられる。甕のうち、全形をうかがい知る ことができるものは180のみである。甕は、頸部に



第29図 4号竪穴建物跡実測図及び出土遺物実測図



第30図 5号竪穴建物跡実測図

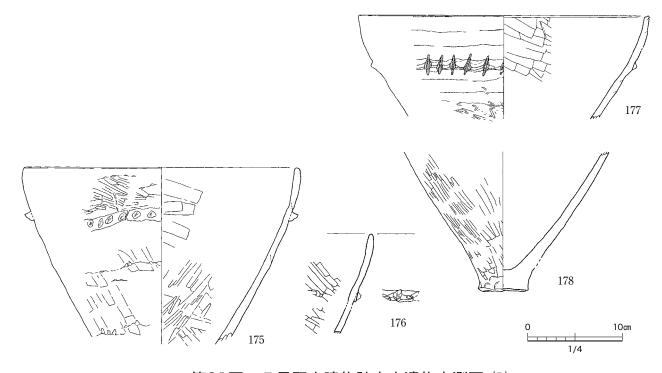
刻目貼付突帯があるもの(175・176・177・180・183)とないもの(181・182・184)に大別できる。 刻目貼付突帯があるもの中でも、口縁部が緩やかに 内湾するもの(175・176・177)と頸部がすぼまり 口縁部が直立するもの(180)、頸部から口縁部が 外反するものの3類型がみられる。一方、貼付突帯がない一群では、頸部で「く」の字状に屈曲し口 縁部は直線的に立ち上がっているもの(181・182)

と頸部から緩く外反するもの(184)に分けられる。 甕の底部として確認できるものは178・179・180・ 181・185であり、平底(178・179)と丸底(180・ 181・185)に分けられ、185の内外面に圧痕もみられる。186~196は壺である。形態的には、頸部に 刻目貼付突帯が巡らせるもの(186・187)とない もの(188・189・191)がみられる。底部の形態と しては、尖り気味の丸底(192・185)と丸底(193・ 194) やや平底 (195) がみられ、底部付近の器壁 はいずれも非常に厚い。189の口縁部中程が屈曲 し、上部は直立して二重口縁壺の様相を呈している。 196は頸部から胴部で、扁球形を呈し、外面には被 熱の痕跡もみられる。形状等から186と187、191と 192はそれぞれ同一個体であると推測される。197 ~222は高坏で、そのうち坏部の形状等が確認でき るものは197~210、脚柱部が確認できるものは209 ~222である。坏部の形態から分類すると、底部と 口縁部の境があまりはっきりせず口縁が直線的にの びるもの (197・198・201・203・204・206・207)、 底部と口縁部の境が比較的はっきりしており、口縁 部が弱く外反するもの (199・200・205) がみられる。 脚裾部の形態によると、219~222のいずれも脚柱 部から裾部にかけて緩やかに外反して「ハ」の字状 に広がっている。223~231は小型土器(いわゆる 小型丸底壺) に類するものであり、そのうち223・ 224・225は全形をうかがい知ることができる。体 部最大径が口径を上回り、体部が球形である。231 の内面は多方向のミガキが施されて、指頭痕も観察 できる。232~238は鉢である。232は口縁部がやや 内傾するのに対し、233・234の口縁部はやや内傾し、

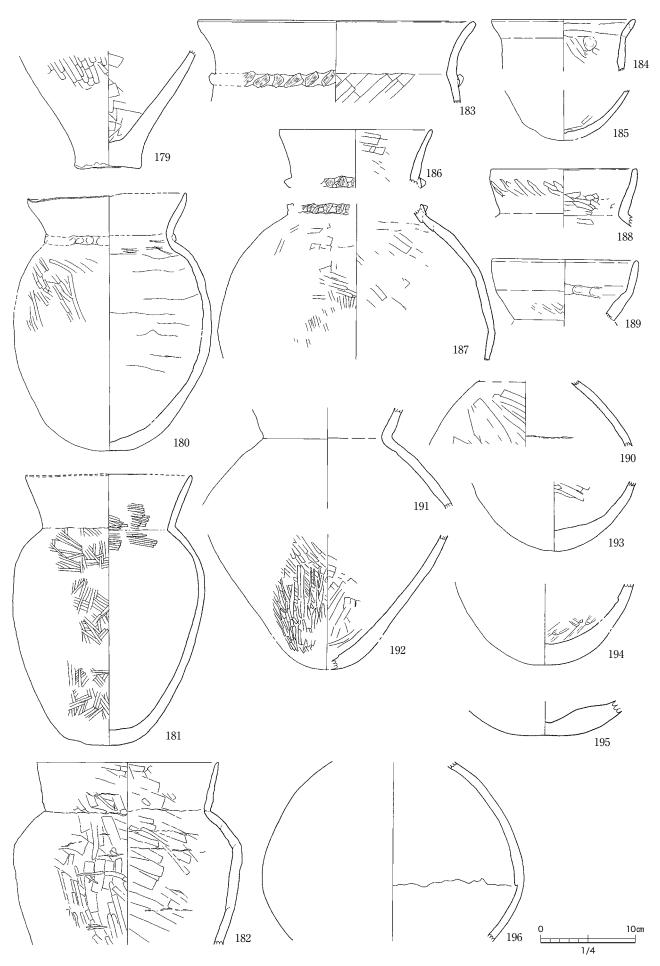
直立している。235の外面には縦方向のミガキが施されている。236~238は平底で、236は細いコップ状を呈する。239は不明土製品で、工具で削られた痕跡が多数みられ、微細なガラス質の光沢粒を多量に含まれている。240は鞴の専用羽口で、先端部は被熱により発泡している部分がある。先端部の内部に鉄が酸化して、赤色に変色している部分もみられる。241は砂岩製の敲石である。断面は楕円形状を呈し、上面中央部付近に敲き痕が見られる。広範囲ににぶい赤褐色が模様のようにみられ、鉄分が付着したものと思われる。242は粘板岩製の棒状の砥石で、三角錐の形状を呈し3面に研磨痕が見られる。

6号竪穴建物跡(第35図)

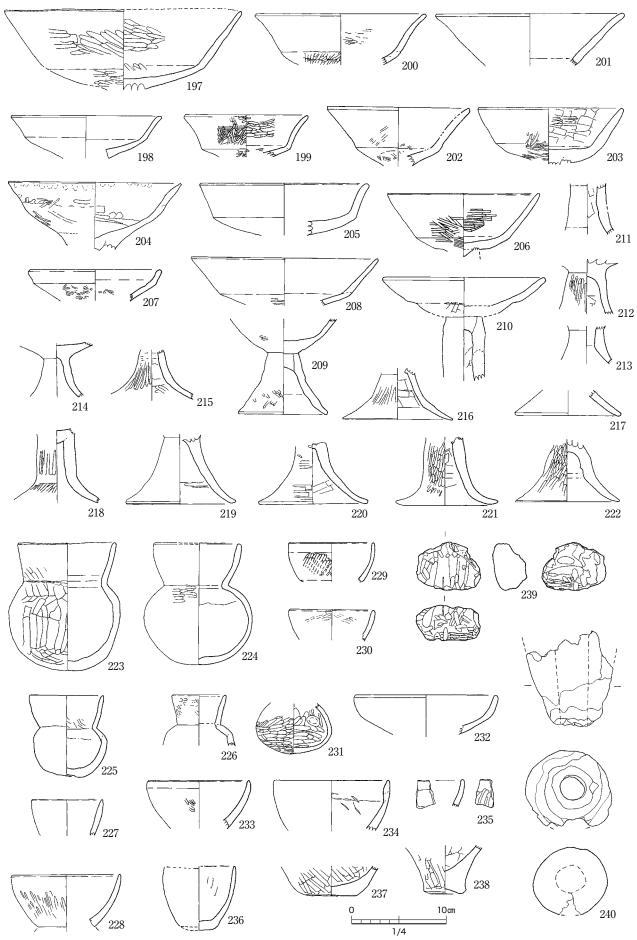
調査区北側のE 2 グリッド中央部に位置し、V層上面で検出した。遺構の規模は4.0m×3.4mの隅丸方形プランで、床面積は約13.6㎡である。検出面から床面部分までは約20~25cm、この遺構の長軸は、西に約70°振れている。貼床はなく、中央部から東側にかけて、一部硬化している部分がある。また、図化はしていないが、焼土跡が認められた。上位の層から掘り込みのあるピットが多数あったが、この遺構の主柱穴と思われるピットは確認できなかった。



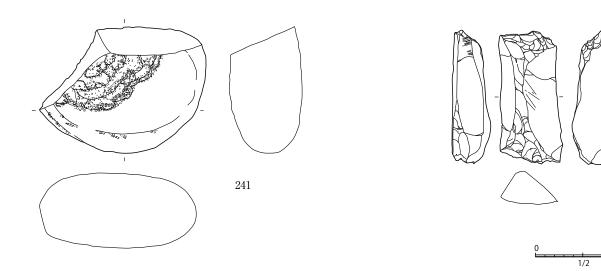
第31図 5号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第32図 5号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)



第33図 5号竪穴建物跡出土遺物実測図 (3)



第34図 5号竪穴建物跡出土遺物実測図 (4)

遺物は、本遺構のやや南側の床面付近から多く出土した。そのうち17点を図化した。

243~248は甕で、そのうち243~246は、口縁部 は短く屈曲し、球胴状となる。すぼまった頸部に 刻目貼付突帯を巡らすもの(243)と刻目貼付突帯 がないもの(244・245・248)に分けられる。ま た、底部の形状に着目すると、いずれも丸底を呈す る (243・246・247・248)。243~244の外面には煤 や黒色物が付着していることから、煮炊きの道具と して使用されたと推測できる。249~255は壺であ る。そのうち特徴的なものとして頸部に貼付突帯を 巡らす一群(249・250・254)と貼付突帯がないも の(251)が認められる。頸部から口縁部まで確認 できる249・254はいずれも口縁部は直立し、頸部 に1条の突帯が施されている。249・254の内面に は、指頭痕が確認できる。251~253は形状等の特 徴から同一個体であると推測される。底部が確認で きる253・255は、いずれも丸底で、底部付近の器 壁が厚くなる。本遺構で唯一出土した高坏が256で ある。坏部の口縁部は直線的に大きく開き、脚部は 撥状に屈曲して開いている。257は脚台をもち坏部 が外反する器形の鉢である。258は小型土器の口縁 部、259は坏で、屈曲し口縁部は明瞭に外反している。

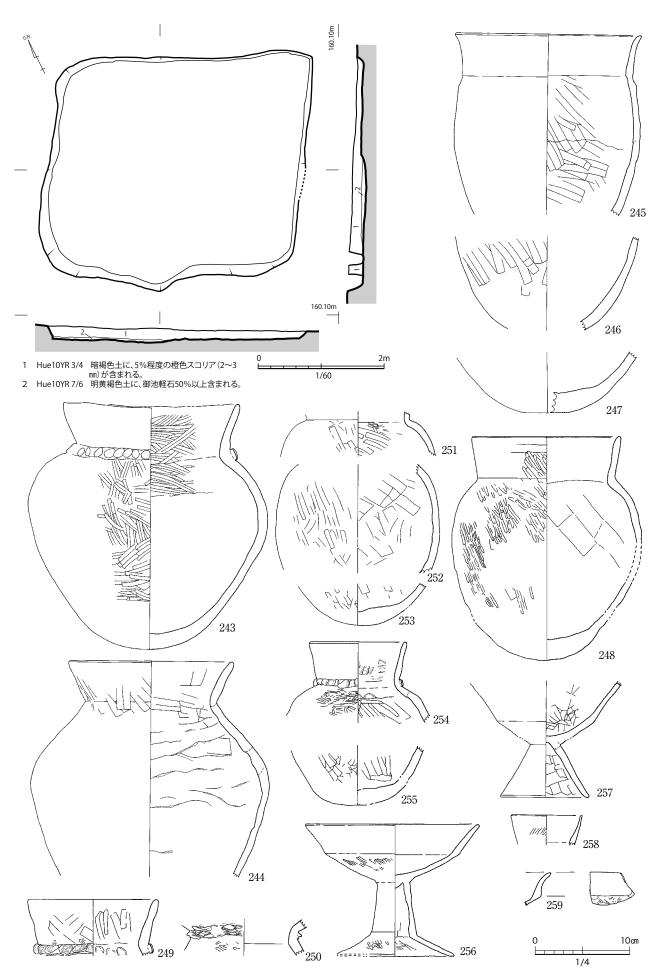
7号竪穴建物跡(第36図~第38図)

調査区中央部、やや西側のD3・E3グリッド に位置し、Ⅲ層の前後半の調査区境で検出された。 遺構の規模は5.4m×5.0mで、床面積は約24㎡である。方形プランで、検出面から床面までの深さは60~70cm、この遺構の長軸は、西に約65°振れている。貼床があり、その厚さは約10~22cm程度である。床面直上の中央部に焼土の広がりと焼けた粘土の跡が確認された。主柱穴のピットが4基検出され、その深さは25~35cmほどである。

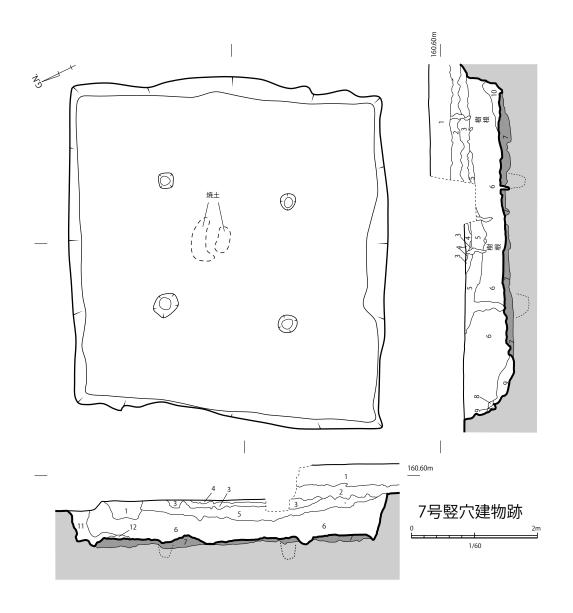
242

本遺構から出土した遺物は、床面から出土したものは少なく、その多くが埋土中からの出土である。 そのうち19点を図化した。

260~262は甕で、貼付突帯があるもの(261)と ないもの(260)に分けられる。260は球形の胴部 を呈する。口唇部にはナデが施され、262の外面に 指頭痕がみられる。260・261の外面の全体的に煤 が付着していることから、煮炊き用の道具として使 用されていたことが明瞭である。263・264は壺で、 263は二重口縁壺の頸部付近である。264は胴部か ら底部で、わずかにレンズ状に膨らみ、器壁が非 常に厚い。265~276は高坏である。坏部と脚部に 分けて形態を述べる。坏部の形態としては、265・ 266・267・268はいずれも坏部中程から直線的に伸 びているが、屈曲部が明瞭なもの(265)と不明瞭 なもの (266・267) がみられ、坏部は椀状になっ ている。269~276は脚部である。脚柱部のみの269 を除く脚部の形態としては、脚柱部から裾部にかけ て撥状に屈曲するもの(270・271・272)と屈曲が



第35図 6号竪穴建物跡実測図及び出土遺物実測図



基本土層 | 層 2 基本土層川層 暗オリーブ褐色土に、わずかに霧島御池軽石を含む。全体に酸化還元したブロック土を含む オリーブ黒色土に、わずかに霧島御池軽石を含む。 3 Hue2.5Y 3/3 4 Hue5Y 市場色土で、土質はやわらく、酸化還元ブロックを含まない。 暗褐色土で、土質はやわらく、酸化還元ブロックを含まない。 暗褐色土に、黄褐色軽石粒が混じる。全体的に霧島御池軽石を多量(25~30%)含む。 暗褐色土や黒褐色土、暗褐色土がブロック状に混和して、全体に霧島御池軽石粒を含む。貼床。 Hue10YR 3/4 5 6 7 Hue10YR 3/3 Hue10YR 2/1~3/4 8 黒褐色土に、黄褐色軽石粒が混じる。 Hue2.5Y 3/2 9 Hue2.5Y 3/3 暗オリーブ褐色土に、黄褐色軽石粒が混じる。 唱がアーク特色工に、寅特色軽石粒が 黒褐色土に、黄褐色軽石粒混が混じる。 黒褐色土に、黄褐色軽石粒が混じる。 暗褐色土に、黄褐色軽石粒が混じる。 10 Hue7.5YR 2/2 11 Hue10YR 3/2 12 Hue10YR 3/4

第36図 7号竪穴建物跡実測図

ゆるやかで「ハ」の字状に広がるもの(274・275・276)に分けられる。277・278は小型土器で、277の底部は側面が外反しながら立ち上がり、底面との境が明瞭な平底である。

8号竪穴建物跡(第38図)

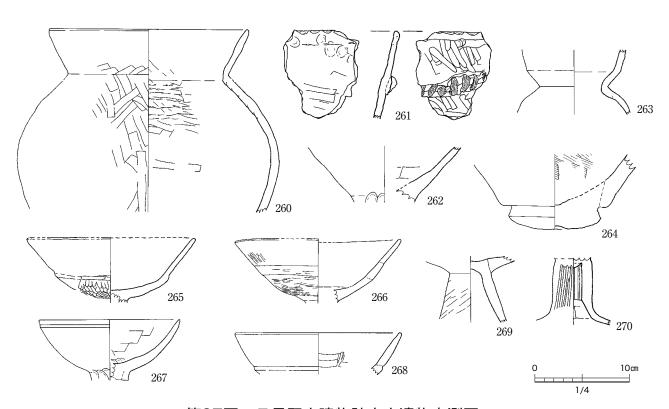
調査区中央部のやや南側のE4~E5グリッドに位置し、VI層上面で検出された。遺構の規模は約3.6 m×3.2mで、床面積は約11.5㎡である。隅丸方形プランで検出面から床面までの深さは約30~50cmほどである。この遺構の長軸は、西に約25°振れ、貼床を施し、その厚さは10cm程度である。また、周囲にめぐる深さ約10cmの壁帯溝が確認された。床面直上の中央部には小規模の焼土の広がりと焼けた粘土の塊が検出された。

本遺構から出土した遺物は、非常に少量で、かつ 小破片のものであった。

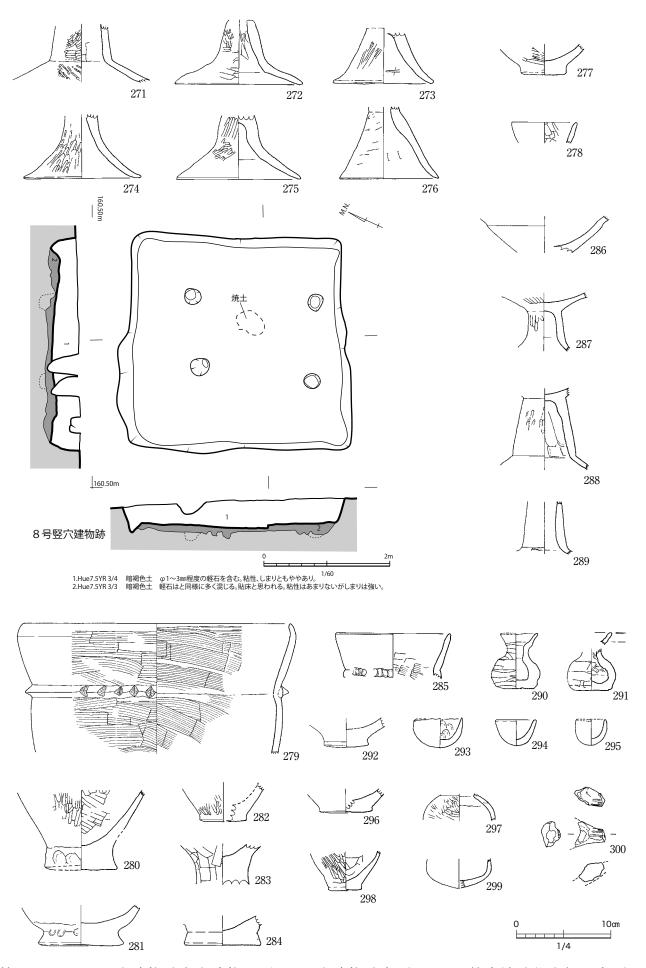
3 竪穴建物跡以外から出土した遺物 (第38図)

279~284は甕で、279は口縁部から胴部、280~284は胴部から底部である。279の口縁端部は内湾し、外面に施された突帯の刻目部分に布目の圧痕が認め

られる。280~282・284は平底で、281の外面の胴 部から底部への屈曲部にナデが施され、内面には炭 化物の付着もみられる。285は壺の口縁部から頸部 で、口縁部は直線的に外反し、頸部付近に貼付突 帯が施され、指頭痕がみられる。286~289は高坏 で、287~289のいずれも裾部との境に明瞭な屈曲 部分がみられる。また、289の内面に鉄分が付着し ている。290~299は小型土器である。全形をうか がうことができるものは、290のみである。くびれ のある頸部の上部に段が見られ、口縁部はわずかに 外反しており、器高は5.85cmと小さい。291の胴部 屈曲部は明瞭な稜線を有する。292は平底の底部で、 内面は剥離が多い。293~295は口縁部から底部で、 球体を呈し、ほぼ丸底である。296は推定底径5.7cm の底部で、外面・内面とも主にナデが施されている。 297は頸部から胴部で、外面は斜め方向のミガキが 施されている。298は胴部から底部で、外面は斜方 向のミガキが施されている。平底で、胎土に微細な 雲母がわずかに含まれている。299は体部から底部 で、形状から口縁部は内湾するものと推測される。 300は杓子状土器の柄部で、一部黒変が観察できる。



第37図 7号竪穴建物跡出土遺物実測図



第38図 7号竪穴建物跡出土遺物及び8号竪穴建物跡実測図、その他古墳時代土師器実測図

第6節 古代~中世の遺構と遺物

1 概要 (第39図、第40図)

Ⅲ層及びⅥ層上面で多数の小穴が検出された(第39図)。このうち、古代以降に相当する明確な遺構としては、竪穴状遺構2基、掘立柱建物跡30棟、溝状遺構14条、道路状遺構5条、柵列7条、土坑5基があげられる。その中で、遺構から出土した遺物によって、古代から中世の遺構と認定できるものは竪穴状遺構1基、掘立柱建物跡14棟、溝状遺構8条、道路状遺構5条である(第40図)。遺物は、土師器をはじめ、貿易陶磁器、国産陶器、銅銭など多数出土した。

2 遺構

掘立柱建物跡(第41図~第46図、第50図301~325、第51図326~345、第54図467~469、第70図551~552)

柱穴から出土した遺物や埋土の状況等から、古代 ~ 中世の掘立柱建物跡と認定したものは、14棟(1号~14号掘立柱建物跡)であった。これから項目 ごとにみていく。なお、位置や種別、梁行、桁行等、詳細については観察表を参考にされたい。

柱穴の埋土については、1号~3号の掘立柱建物跡の柱穴の埋土は、黒褐色土の橙色パミスを少量含み、4号~14号の掘立柱建物跡の柱穴の埋土は、桜島文明軽石を20%以上含む。

建物の種別については、古代~中世の掘立柱建物 跡のうち、総柱建物が3棟(10号11号・14号)で、 側柱建物が11棟(1号・2号・3号・4号・5号・ 6号、7号、8号、9号、12号、13号)であった。 なお、3号掘立柱建物跡は床東柱を持つ。

建物の規模については、間数でみると、掘立柱建物跡の全容が不明な5号・12号掘立柱建物跡以外では、2間×2間が半数の6棟、2間×3間が3棟、1間×5間、1間×4間、1間×2間がそれぞれ1棟ずつであった。身舎面積でみると、最大が42㎡(1号)で、34㎡(10号)、33号(11号)、25㎡(3号)、19㎡(2号)、16㎡(13号)、15㎡(5号・7号)、13㎡(6号・8号・9号)、12㎡(4号)の順となる。20㎡未満が8棟あり、小さめの掘立柱建物跡が多い。庇の有無については、1号~3号掘立柱建物跡の

3棟は庇を有する。1号掘立柱建物跡には、身舎の 東側に一面、2号・3号掘立柱建物跡には身舎の東 西に二面の庇がそれぞれ付いている。掘立柱建物跡 を構成している柱穴の全容が不明な12号掘立柱建 物跡以外では、4号~11号、13号掘立柱建物跡に は庇が付かない。

掘立柱建物跡の柱穴から出土した遺物は、以下の とおりである。

1号掘立柱建物跡のSH8から301、SH10から302が出土した。301は糸切り底を有し、底部から口縁部にかけて直線的に立ち上がっている坏である。302は、染付碗の口縁部で、外面に波濤文が施される。

2号掘立柱建物跡のSH 7 から303の磁器皿が出 土した。

3号掘立柱建物跡のSH7から304、SH16から305、SH20から306、SH19から307が出土している。304は土師器坏の底部で、底部の切り離しは糸切りである。305は青磁碗で、内外面ともに無文で口縁外側を削って玉縁状となり、端反の器形である。306・307は瓦器の一部で、外面に菱形文様が見られる。

4号掘立柱建物跡のSH 4から308が出土した。 これは土師器坏の口縁部から体部で、回転ナデが施 されている。

5号掘立柱建物跡のSH3からは309が出土した。 同安窯系青磁皿で、内面見込みにジグザグ状の櫛点 描文を有する。

6号掘立柱建物跡のSH 4から310・311が出土した。いずれも瓦器の体部から底部で、310の体部外形は直立させ、底部下端に凸線を1条巡らせている。底部縁辺に逆台形の足を貼り付けており、鋭い刃物の工具による接合痕が見られる。

 の内面見込みには、印花文が施されている。

8号掘立柱建物跡のSH 4 から313の景徳鎮窯系 白磁皿、9号掘立柱建物跡のSH 6 から314の青磁 椀、10号掘立柱建物跡のSH12から315の陶器底部 がそれぞれ出土し、いずれも高台内面は露胎である。

11号掘立柱建物跡のSH 2から316・320、SH10から317・322、SH 4から318・321、SH 7から467、SH 8から319が出土した。316は青磁碗で、外面には雷文帯が施されている。317~319は青花碗で、318の見込みはやや窪む、いわゆる「蓮子(レンツー)碗」の器形で、外面には芭蕉葉文、内面見込みには文字が施されている。319は見込みに蛇の目釉剥ぎがみられる。320・321は青花皿で、外面に全容は不明であるが、文様が施されている。321は端反皿の器形である。322は華南系の青花盤で、内面に文様が施されている。469は古銭で、銭種は洪武通宝である。

12号掘立柱建物跡のSH 3 から青花碗の323が出土した。内面見込みに2条と外面には釉だれがみられる。

13号掘立柱建物跡のSH7から324・325が出土した。324は青磁碗で露胎である。325は青磁香炉で、筒状の器形を呈している。底部は腰折となり、外面に1条の沈線がみられる。

14号掘立柱建物跡のSH 7 から古銭(468)が出土した。銭種は洪武通宝である。また、SH 6 には柱材が遺存しており、分析の結果、樹種は広葉樹のイスノキであることが判明している。

柵列 (第41図~第43図・第45図・第46図)

柵列は、1号掘立柱建物跡の西側から南側に付帯するL字形の柵列の3号柵列、2号掘立柱建物跡の東側から南側に付帯するL字形の柵列の2号柵列、3号掘立柱建物跡の北側に付随し、1列に並ぶ4号柵列、南側に付随する5号柵列、10号掘立柱建物跡の西側に付帯する11号柵列があるが、柵列の柱穴から遺物が確認されておらず、細かな所属時代・時期の確証はない。

小穴群 (第39図・第51図326~336)

小穴から出土した遺物は326~336である。326・327は白磁で、326の口縁部は大きく外反している。

328~330は青磁である。329は口縁輪花状を呈し、腰で折れて外反し、口縁に三条の波状圏線を施す。330は腰部で屈曲し、見込みを蛇の目釉剥ぎする。331・332は青花である。331は皿で、口縁の内外面に界線、外面に草花文と思われる文様を施す。332は碁笥底で、見込みに菊花文と思われる文様を施す。333は陶器で、内面は自然釉が見られる。334は瓦器で、バケツ状の形状をし、底部に短い脚をもつ。335は土師器坏、336は土師器の小皿で、底部はいずれも糸切り底である。

1号竪穴状遺構(第47図・第51図337)

調査区中央部やや南側のE4~E5グリッドに位置し、VI層上面から検出された。3.6m×2.6mの方形プランで、遺構の長軸は東に15°ふれ、床面積は約9.4㎡である。貼床は中央部にあり、その厚さは0.1~0.2mほどである。埋土は黒褐色土が中心で、深く床面に近づくにつれ、灰黄褐色土となる。その中に、灰白色の粘土が広範囲に広がっている。粘土を除去した後、床面のやや北側・東側から柱穴が2基検出された。柱穴間の距離は0.6mで、柱穴の深さは床面から15cmと25cmである。そのうち、東側の柱穴から炭化材が確認され、年代測定を行ったところ340±20年¹⁴CBPの年代が得られた。本遺構から中世の青花の小片(337)が出土した。口縁部は大きく外反し、外面に文様が施されている。

1号溝状遺構(第47図・第51図338~342)

調査区中央部やや南側にある。VI層上面で検出され、F4からE5グリッドへ向けて低くなる。遺構の規模は、長さが約6.0m、最大幅が1.0m、深さは全体的に0.1mほどで、最深部でも検出面から約25cmと浅い。遺構の埋土は桜島文明軽石を全体的に含む。遺構の底に水が溜まったような跡が複数認められ、凹凸がある。

遺構から出土した遺物は、338~342で、そのうち338・339は白磁である。338は器高が低く、外反する口縁部を持つ。全体的に灰色の不純物が見られる。景徳鎮窯系白磁C類皿 I-aに分類される。339は底部から直接ラッパ状に開く外反皿で、全体的に薄手である。340~342は陶器である。340は口縁部で、口唇部先端は丸くおさまる。341は壺で、外面

は自然釉、内面は無釉である。342は甕の体部から 底部付近で、全体的に器壁が厚い。また、図化はし ていないが銅銭も出土している。図版30を参考さ れたい。

2号溝状遺構 (第48図・第51図342・343)

調査区北東部、H2グリッド付近の調査区外から 北西部のG2グリッドとH5グリッドの南南西部へ 向かう。途中が削平されており、H3区北東で2つ に分流している。遺構の規模は、北西部へ向かう遺 構の長さが約8.8m、最大幅が約1m、最深部は検 出面から約10cm程度、南西部へ向かっている遺構 の長さは約21.4m、最大幅は約1.8m、最深部は約 20cmである。遺構の埋土には、桜島文明軽石が全 体的に含まれる。

遺構に伴う遺物は342・343である。342がその大部分が1号溝状遺構から出土しているが、その一部が2号溝状遺構からも出土している。343は口縁部がやや内湾する碗であり、上田分類E類に相当する。342は1号溝状遺構の遺物と接合した点や埋土がどちらも桜島文明軽石であることなどから1号・2号溝状遺構は同時期の遺構である可能性が高い。

1号道路状遺構(第48図)

調査区の北側F1~F2グリッドに位置し、Ⅲ b 層上面で硬化面が検出された。検出した範囲で長さは約6.1m、最大幅は0.4mである。遺構の高低差は32.1cmであり、北側から南西方向へ上っていき、2 号道路状遺構を避けるように延びている。遺構に伴う遺物は出土していない。

2号道路状遺構 (第49図)

調査区のF1グリッドから南西方向へ硬化面が延び、一度途切れ、再びその南西方向の延長線上に遺構が延びる。1号道路状遺構の南側に位置する。検出した遺構の長さは、北側は約14.8m、途切れているのが約2.6m、南側は約9.2mで、II b層上面から検出された。遺構の高低差は38.2cmである。遺構に伴う遺物は出土しなかった。1号道路状遺構と同じ層から検出され、1号道路状遺構と同様に、桜島文明軽石降下以前の中世の前半段階の道路状遺構であると推測される。

3号道路状遺構 (第49図・第51図344)

調査区のE2~C3グリッドに南西方向へ上る 形状の道路状遺構で、波板状凹凸面が確認された。 検出した範囲で長さは20.6mである。E2グリッド の本遺構から8.2mの部分まで前半調査区のIV層で、 2号道路状遺構の南側の部分の直下から検出した。 その以外の遺構は、後半調査区のIV層上面でそれぞれ検出した。波板状凹凸面の凹部は、平均10~20 cm間隔で連続しており、深さは3~5 cm程度である。 本遺構の端同士の高低差は43.6cmである。なお、2 号道路状遺構と走向が同じであるため、同一の遺構 の可能性もある。遺構から出土した遺物の中で図化 できるものは、344のみである。

4号道路状遺構(第49図)

調査区北部D1~D2グリッドへ上る形状の硬化 面を検出しており、5号道路状遺構と並行してD1 グリッドから南方向へ延びている。遺構の最下端か ら約6mの箇所で南西方向へ曲がっているが、5号 道路状遺構に切られている。遺構の埋土は、IIb層 の黒褐色土が中心である。本遺構の端の高低差は 82.3cmで、本遺構から出土した遺物はない。

5号道路状遺構(第49図・第51図345)

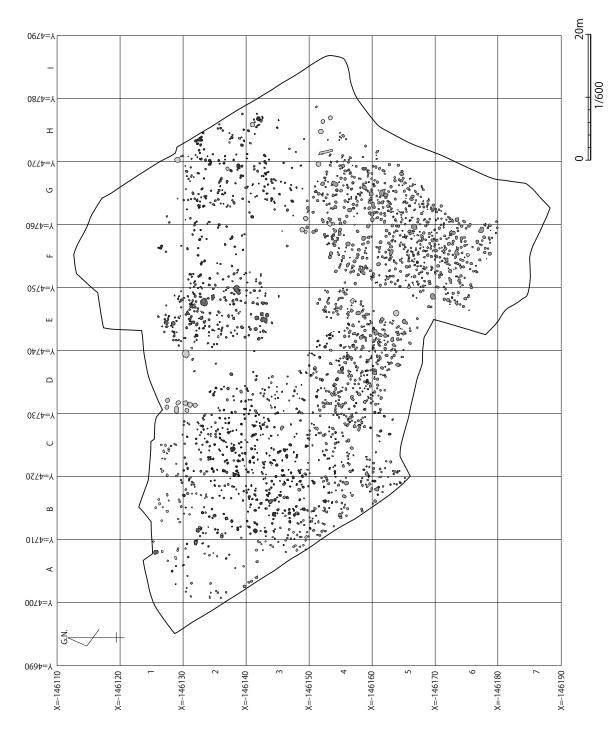
調査区北部、D1~D2グリッドで硬化面がほぼ一直線に南方向へ延びる形状の遺構である。本遺構の最下点の北端部から約5.4m付近で4号道路状遺構を切っている。本遺構の中で最も低い位置にある北端部は、4号道路状遺構の北端部より約23.6cm低い。本遺構の高低差は約99.2cmで4号道路状遺構よりも高低差が大きい。遺構の埋土は、4号溝状遺構と同様に、III b層の黒褐色土が中心である。この遺構の硬化面上から土師器の坏(345)が出土した。この土師器は、回転糸切りの底部をもち、形状から12世紀末~13世紀前半に時期比定されるため、本遺構の使用時期は中世の前半期である可能性が高い。また、4号道路状遺構との位置関係を考えると、4号溝状遺構→5号溝状遺構の順で構築されたが、時期差はあまり大きくないと考えられる。

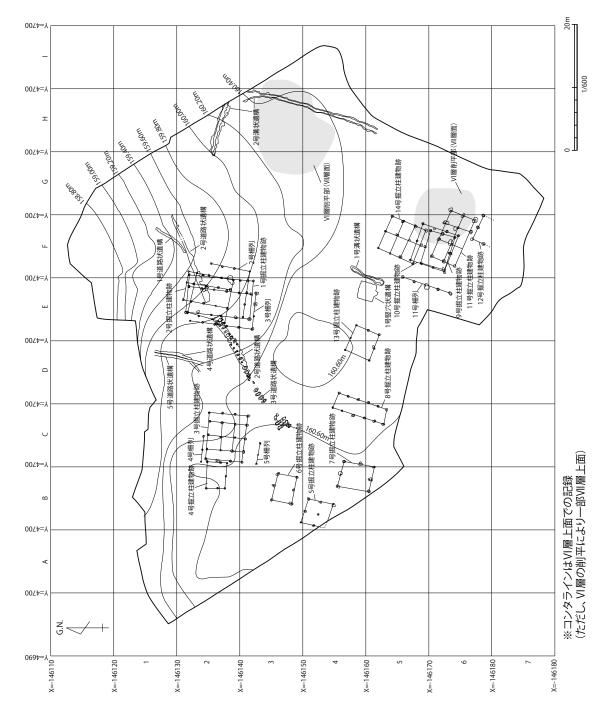
3 包含層等出土遺物(第52図~第54図346~472) 遺構以外から出土した古代~中世の遺物である。 そのほとんどが、Ⅱ~Ⅲ層が残存していたE1~G 1、E2~G2、F3~G3グリッドから出土した。 346~362は白磁である。346は厚めの玉縁口縁と なる碗で、釉内に気泡が目立つ。大宰府分類の碗IV - 1 b に相当する。347は全体が灰色で腰部が大きく 張り、口縁端部が外反する碗である。新垣・瀬戸分 類で福建・広東系白磁B類碗Ⅲ類に相当する。348 は口縁部がやや内湾する碗である。349・350は口 縁部が大きく外反する碗、351は器高の低い皿で、 腰部が張っており、森田分類E群に相当する。352 ~355は器高が低く、口縁部がやや内湾する皿で、 森田分類D類に相当する。356は低い高台があり、 底部から直接ラッパ状に直線的に開く皿で、高台は 内側が斜めに削り出され畳付内端のみ接地する。内 底は釉剥ぎされ、新垣・瀬戸分類で福建・広東系白 磁のF類皿に相当する。357は皿の底部で、見込み に蛇の目釉剥ぎがある。358は底部下部から高台に かけて無釉で、底部中心部が盛り上がり、口縁部は やや内湾している。359は全体が灰白色の多角坏で、 森田分類D群に相当する。360~361は皿の底部で、 360は低い高台をもつ。361は逆台形の低い高台を 持ち、畳付の外縁を削っている。新垣・瀬戸分類で 福建・広東系白磁圧類に相当する。

363~404は青磁である。363~370は内外面ともに無文で、体部が丸みを持ち、口縁部は外反している。上田分類D類に相当する。371~376は蓮弁文をもつ碗で、371は線刻蓮弁文が施され、上田分類BⅡ類、372は線描きによって剣頭のやや細い蓮弁文の一部かと思われる施文が見られ上田分類BⅢ、373~376は線刻によって細い蓮弁文を施し、上田分類BⅣ類に相当する。

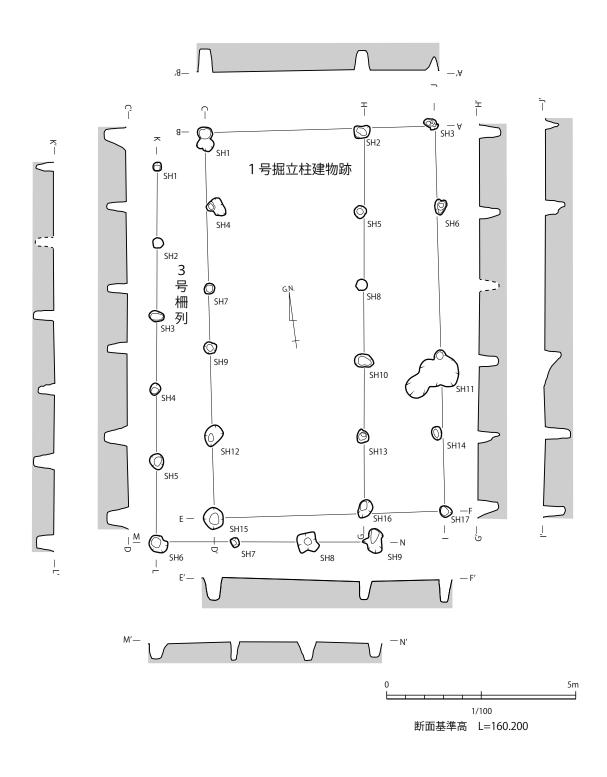
377~382は内外面とも無文で、口縁部は内湾し、 上田分類 E 類に相当する。381の内外面とも釉がは じけた後が見られる。383・384は口縁部外面に簡 略化した雷文帯を施す。雷文帯の形跡はほとんどな く、線刻で波のように描き、上田分類 D 類に相当す る。385の高台畳付から内面にかけ無釉で、器壁は 厚手の造りである。386~390は口縁部がわずかに 外反している皿である。その中で、389は腰部が屈曲しており、その形状から端反皿かと推測される。391は直線的に立ち上がる皿で、392は口縁部の形状から稜花皿の可能性が考えられる。393~397は口縁輪花状を呈し、数条の波状圏線が施されている輪花皿である。398は高台内を蛇の目釉剥ぎする。399は見込みに印花文を施され、蛇の目釉剥ぎする。400~402は皿の底部で、402は高台内が露胎である。403は内面と底部は無釉で、体部は直立に近い。404も口縁から体部が直立になり、その形状から火入の可能性も考えられる。

405~421は青花である。405・406は、外面に文 様を施し、内外面の口縁部に界線が見られる。407 は外面に唐草文、408は見込みに牡丹の花をあしら う文様を施す。409は外面の口縁部に波濤文、体部 に草花文を施し、直立に立ち上がっている。小野分 類D群に相当する。410は内外面とも明オリーブ灰 色で、口縁部に1条の界線を施す。411は口縁部に 雷文を施文する端反碗で、小野分類の碗B群IXに相 当する。412は見込みに草花文、高台内に「大明年 造」の文字を施文する。413~420は皿である。413 は口縁が外反し、外面に唐草文を描く端反皿であ る。415・416とも口縁部が外反する端反皿である。 415の内面には十字花文、416の見込みには、玉取 獅子が描かれている。413~416は小野分類皿B群 に相当する。417は内面に十字花文、418の底部外 面に宝相唐草文を描く。419・420は底部が碁笥底 を呈し、小野分類 C 群に相当する。421は外面に草 花文を描く瓶で、内面の一部に釉垂れが見られる。 422~424は天目茶碗の口縁部から体部で、釉は概 して粘性が高く、厚くかかる。422の口縁部に明瞭 な屈曲がついて内湾し、423・424は体部に明瞭な 屈曲が見られ、直線的に立ち上がる。425・426は 須恵器で、同一個体である。推定底部が4.2cmの小 壺で、頸部がすぼまり、内外面に回転ナデを施す。 427~443は国産陶器の備前焼である。427は甕の口 縁部で、断面長楕円形の玉縁状を呈する。重根分 類(2005)によると、427は甕NA期に相当する。 428~431は甕あるいは壺で、428~430は体部付近、 431は体部から底部である。432~436は、口縁部の

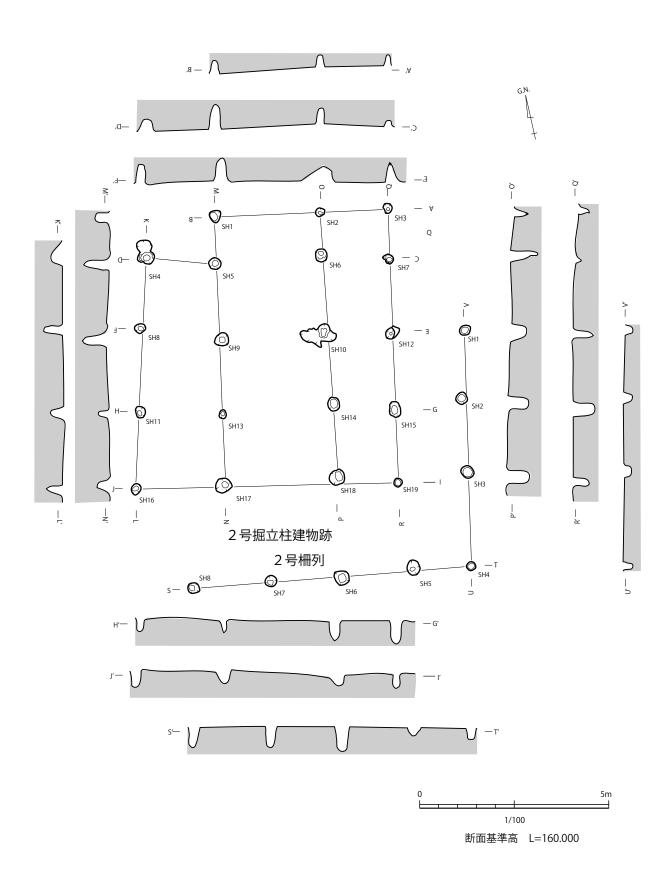




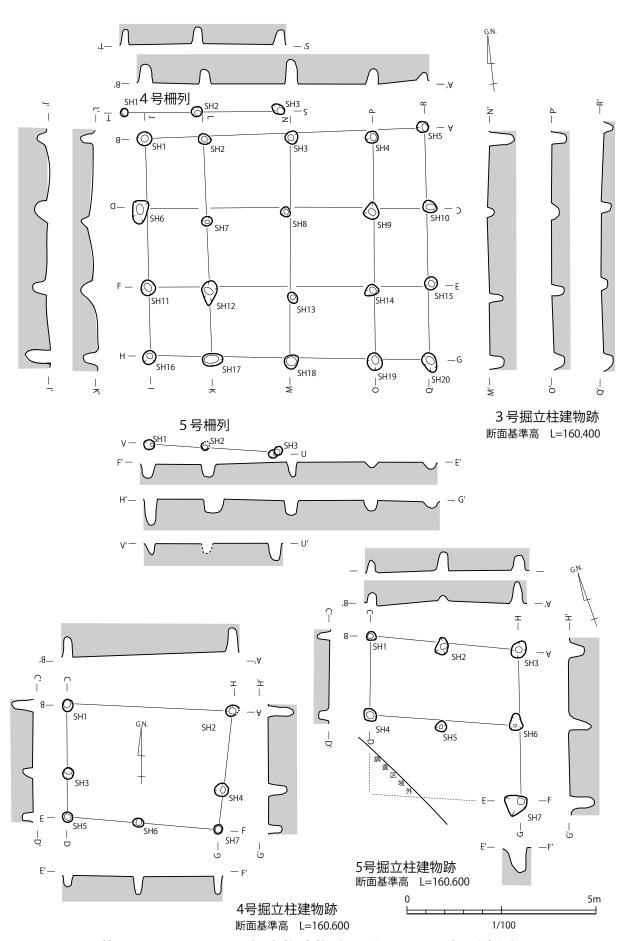
第40図 古代~中世遺構分布図



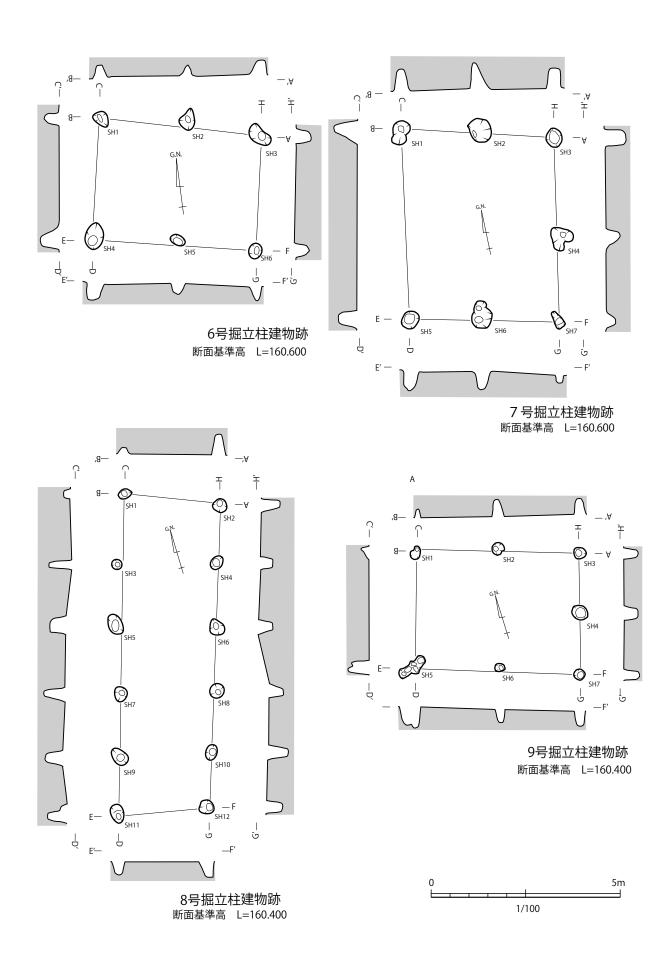
第41図 1号掘立柱建物跡及び3号柵列実測図



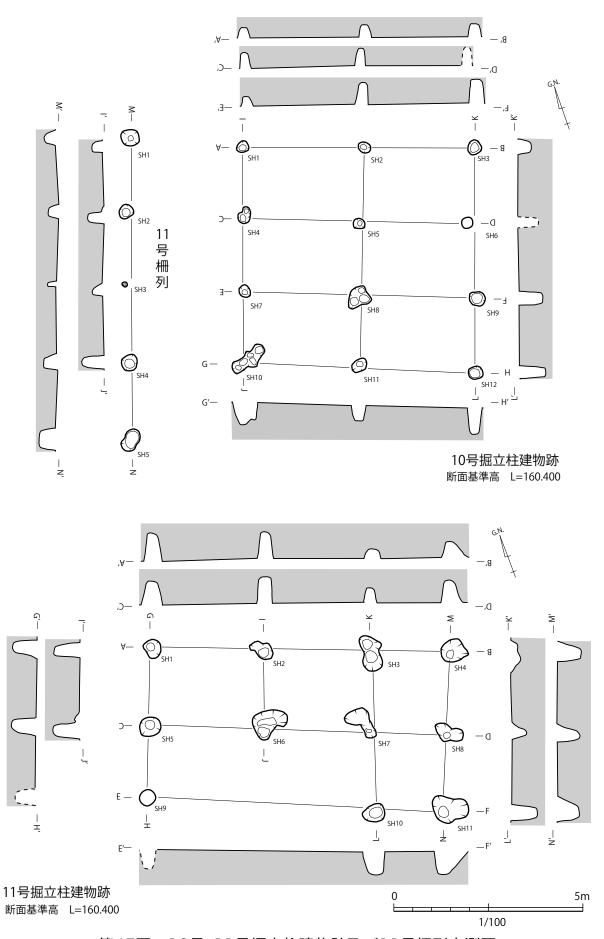
第42図 2号掘立柱建物跡及び2号柵列実測図



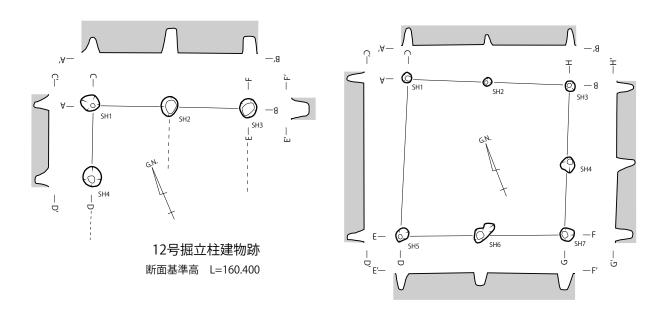
第43図 3号~5号掘立柱建物跡及び4号・5号柵列実測図



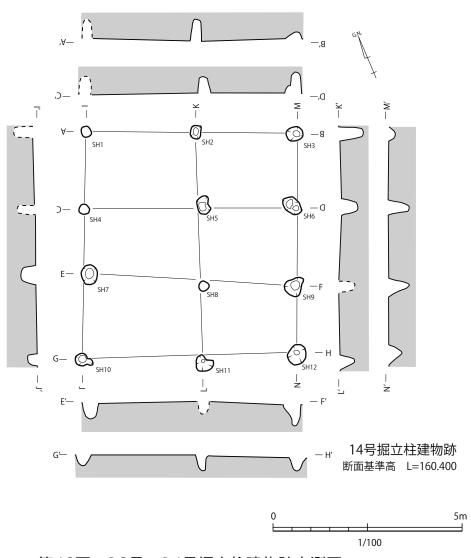
第44図 6号~9号掘立柱建物跡実測図



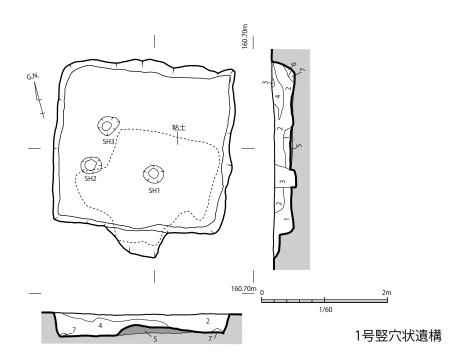
第45図 10号・11号堀立柱建物跡及び11号柵列実測図



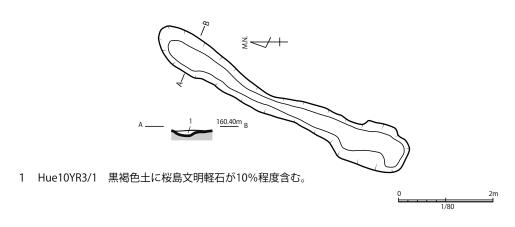
13号掘立柱建物跡 断面基準高 L=160.400



第46図 12号~14号堀立柱建物跡実測図

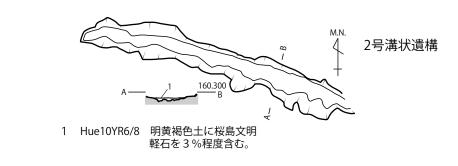


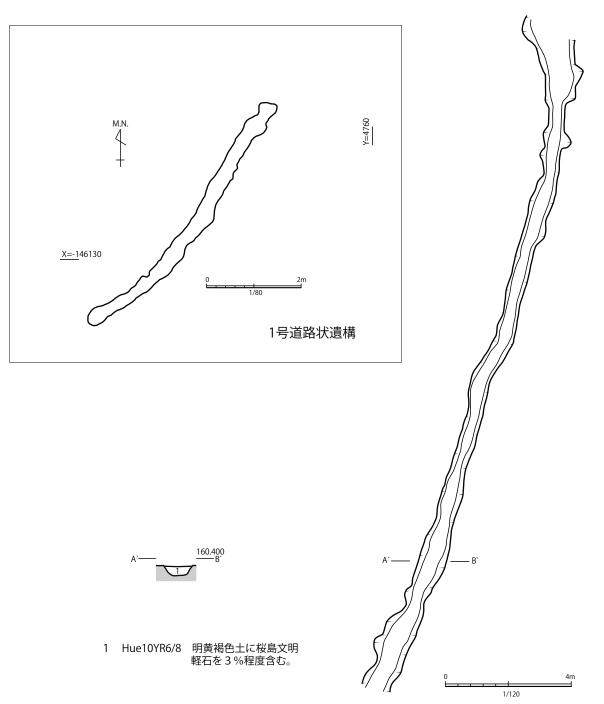
- Hue7.5YR 4/2 灰黄褐色土に、 φ 5 mm程度の霧島御池軽石、 φ 1 \sim 2 mmの橙色スコリアを 5 %程度含む。 Hue7.5YR 8/1 灰白色土の粘土が 2 \sim 10cm程の塊で含まれる。 Hue7.5YR 3/2 黒褐色土に、 φ 1 \sim 3 mm橙色スコリアを20%程度含む。
- 耕作土
- Hue7.5YR 4/2 灰黄褐色土と黒褐色土が混じる。 霧島御池軽石と鬼界アカホヤ火山灰がまじる。(貼床)
- 霧島御池軽石
- 2とHue7.5YR 8/1 灰白色土が50%ほど混じる。
- Hue10YR 3/2 黒褐色土で、しまりがあまりない。



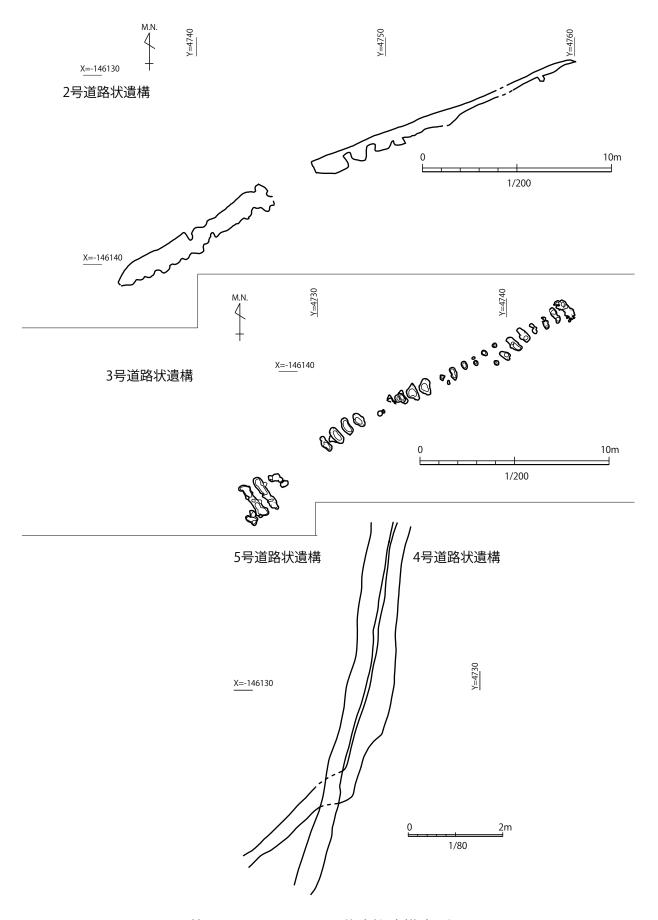
1号溝状遺構

第47図 1号竪穴状遺構及び1号溝状遺構実測図

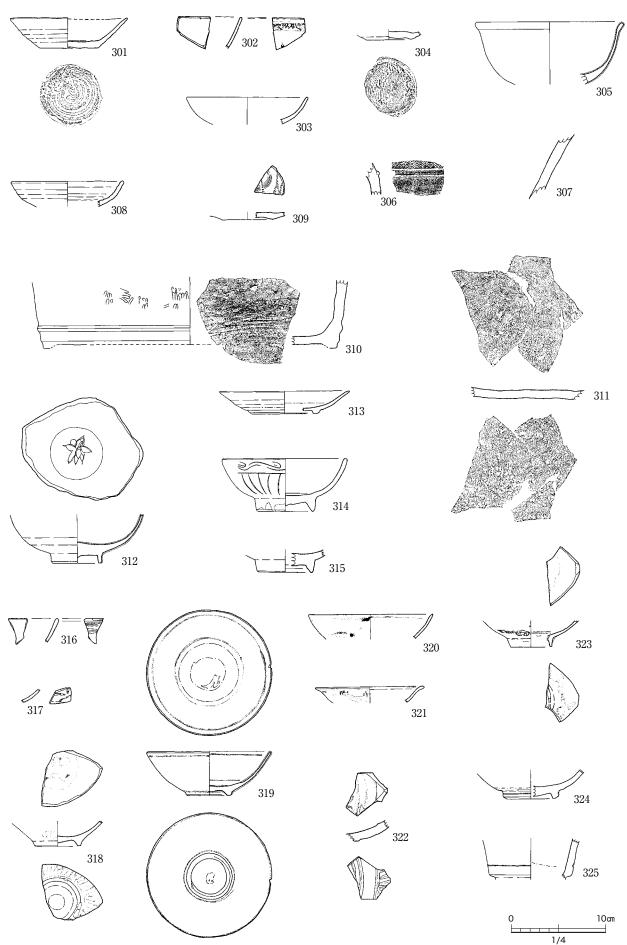




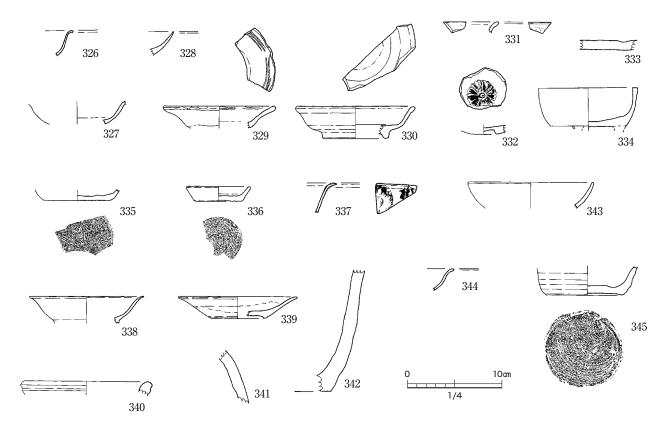
第48図 2号溝状遺構及び1号道路状遺構実測図



第49図 2号~5号道路状遺構実測図



第50図 遺構出土遺物実測図(1)

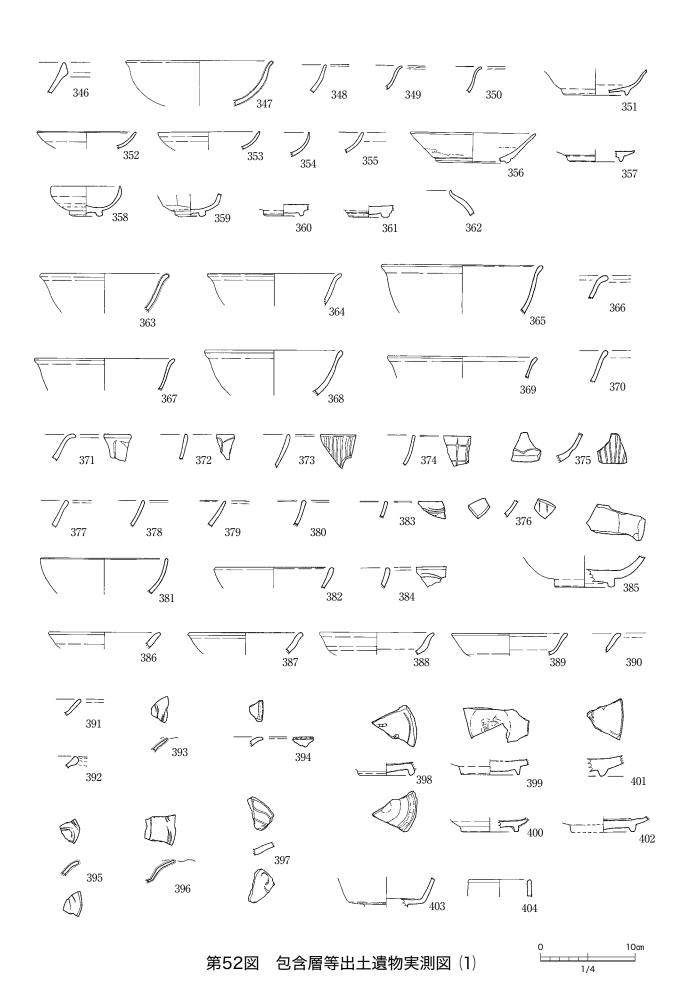


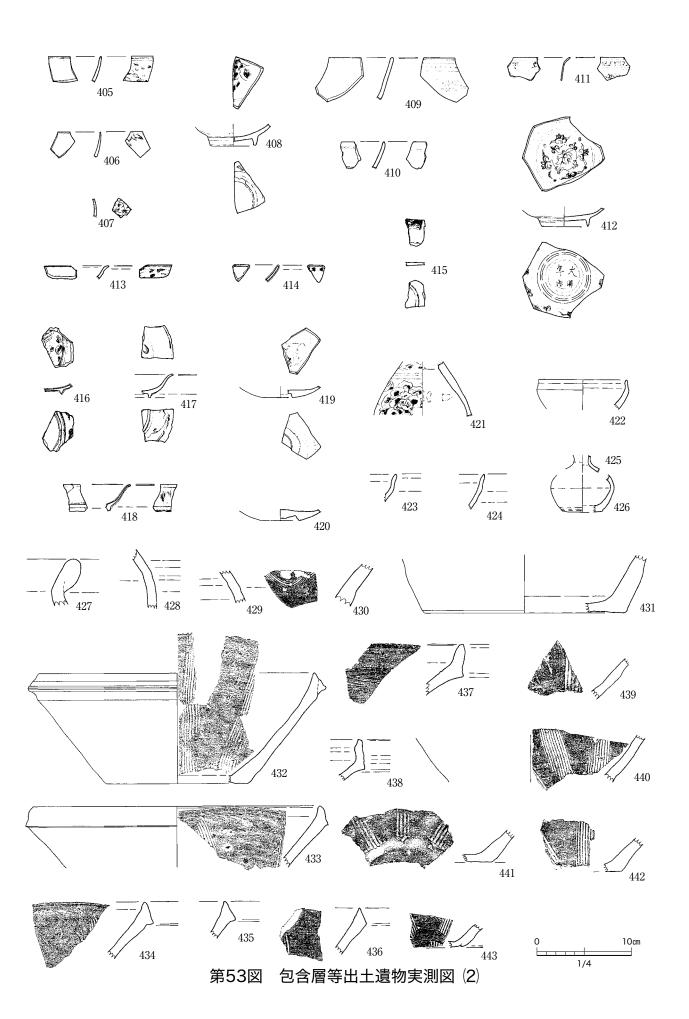
第51図 遺構出土遺物実測図(2)

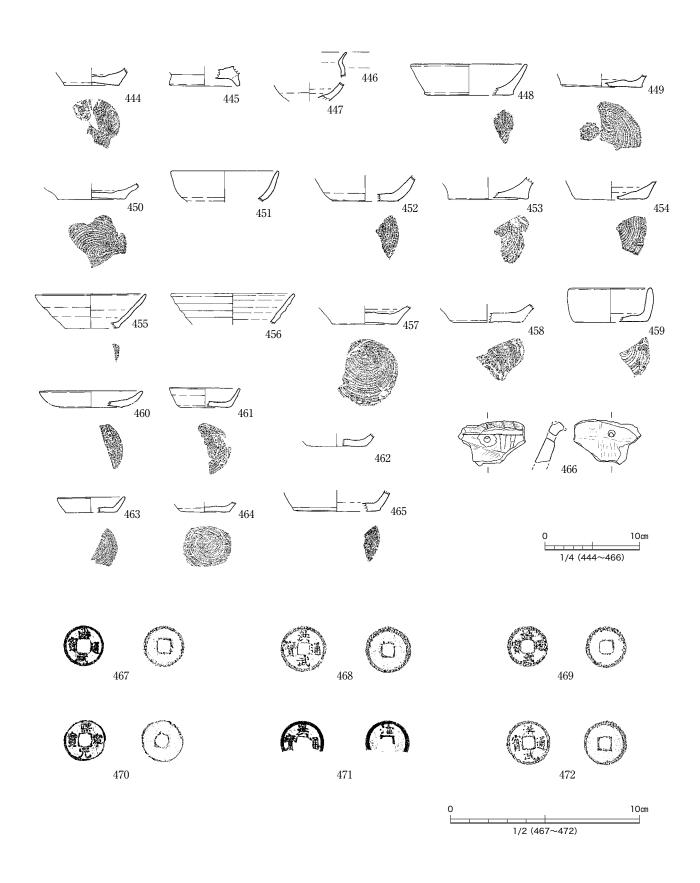
内側がわずかに上に突出し、外側がつぶれて突出気 味になっている。擂鉢IVA-1に相当する。437は 口縁部内側に屈曲部を持ち、その端部を上方へ大き く拡張したもので、これは擂鉢IVB-2に相当す る。438は口縁部がほぼ均一な厚さで上に伸びてお り、擂鉢NB-3に相当する。439・440は胴部で、 5条以上の摺り目が見られる。441~443は体部か ら底部である。色調は441の内面は橙色、442・443 は褐色あるいは明赤褐色である。いずれも内面に 4条以上の摺り目が見られる。444~465は土師器 で、そのほとんどが糸切り底である。444~447の 色調が橙色をし、他の土師器と一線を画している。 444・445は坏で、回転ナデが施されており、445 には短い脚を持つ。446・447は同一個体であるが、 残存が悪く器種は不明である。448は底部から口縁 部まで直線的に立ち上がる。450の内外面に黒色物 が付着し、451は体部で緩やかな屈曲が見られる。 452~454は坏の体部から底部で、453・454の底部

の器壁は薄い。453~455の胎土には、2mm以下の 赤褐色粒がわずかに含まれている。

455・456は回転ナデによるロクロ目を顕著に残し ている。457・458は坏の底部で、回転ナデが施さ れている。本遺跡で出土した土師器の坏のうち、唯 一458だけがヘラ切り底である。459~465は小皿で、 459は底部から口縁部へほぼ直立に立ち上がってい る。460~465は体部下部から底部である。462の内 面には炭化物、外面には煤が付着している。466は 滑石製の石鍋で、口縁部直下に直径6mmの穿孔が見 られる。体部よりも口縁部の幅が太く、幾重にも削 り出された形跡が見られ、加工痕が不揃いで粗雑さ を感じ取られる。467~472は古銭である。470は北 宋銭の熙寧元宝(1068年初鋳)、467・469・471・ 472は明銭の洪武通宝(1368年初鋳)の銘が確認で きる。469・470・472の裏には文字はないが、471 の背面には「治」の文字が確認できることから、大 隅国加治木で製造された私鋳銭であると推測される。







第54図 包含層等出土遺物実測図(3)及び古銭拓影

第7節 近世の遺構と遺物

1 概要 (第55図)

出土遺物により近世の遺構と認定できるものとして、掘立柱建物跡 5 棟、柵列 1 条、溝状遺構 3 条がある。

2 遺構

掘立柱建物跡 (第56図~第58図、第60図473~479)

柱穴から出土した遺物や埋土の状況等から、近世の掘立柱建物跡と認定したものは、5棟(15号~19号掘立柱建物跡)であった。なお、位置や種別、梁行、桁行等、詳細については第17~18表を参考にされたい。

柱穴の埋土は、いずれも桜島文明軽石を20%以上含む褐灰色土であった。建物の種別は、総柱建物が1棟(19号)、側柱建物が4棟(15号~18号)であった。建物の規模については、間数でみると、2間×2間が2棟、2間×5間、1間×2間、1間×3間がそれぞれ1棟ずつであった。身舎面積でみると、最大で49㎡(16号)で、36㎡(17号)、23㎡(15号)、12㎡(19号)、11㎡(18号)の順となり、やや小さめの掘立柱建物跡が多い。庇の有無に関しては、15号掘立柱建物跡のみ庇を有しており、身舎の北・東・西側に三面の庇が付いている。主軸については、建物主軸の方向から、2つに大別できる。①群(N-21°~24°-E:17号・18号・19号)、②群(N-25°~27°-E:15号・16号)である。

建て替えは、15号~19号掘立柱建物跡の中では 見られなかった。しかし、17号掘立柱建物跡につ いては、後述する時期不明の29号掘立柱建物跡と 主軸が同一であるが、柱穴の位置関係から建て替え の関係にある。

掘立柱建物跡の柱穴からは、15号掘立柱建物跡のSH 5 から磁器の猪口(473)・やりがんな(553)、SH 2 から磁器の小坏(474)が出土した。

473は磁器の猪口で、口縁部が外反し内外面ともに無文で、474は磁器の小坏で口縁部が外反している。16号掘立柱建物跡のSH 2から475が出土した。 灰白色の口縁部で、外面には文様を描く。18号掘立柱建物跡のSH 5から薩摩焼の鉢である476が出土した。外反のち内方に強く折り返し、縁帯を形 成する口唇部で、上面に貝目痕を有する。19号掘立柱建物跡のSH 2から青白磁の皿(477)、磁器の碗の口縁部から体部(478)、底部(479)が出土した。477は灰白色で、低い器高であると推測される。478と479は、胎土や色調から同一個体であると思われる。

柵列 (第57図、第60図480)

柱穴から出土した遺物や埋土の状況等から、近世の柵列と認定したものは、1条(1号柵列)である。この中で、SH4から低い器高の高台を持つ端反皿(480)が出土した。

小穴 (第39図・第60図481~482)

小穴のSH412、SH401から薩摩焼(481・482)が出土した。いずれも自然釉を施す。482の口縁部は大きく外反し、断面「く」の字状を呈する。口縁部上面に貝目を有し、口縁部直下に突帯が1条巡る。八幡遺跡(2005)の苗代川系陶器分類基準の擂鉢2に相当する。

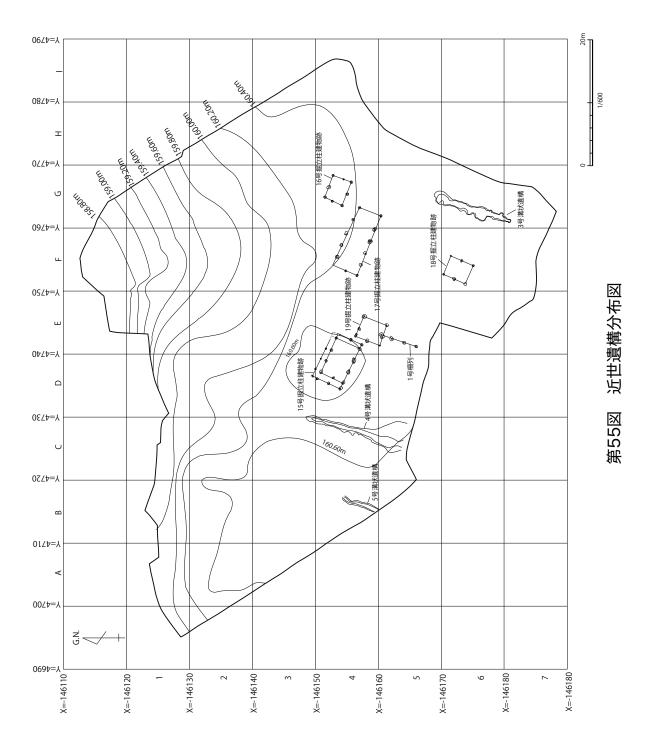
3号溝状遺構(第58図、第61図509)

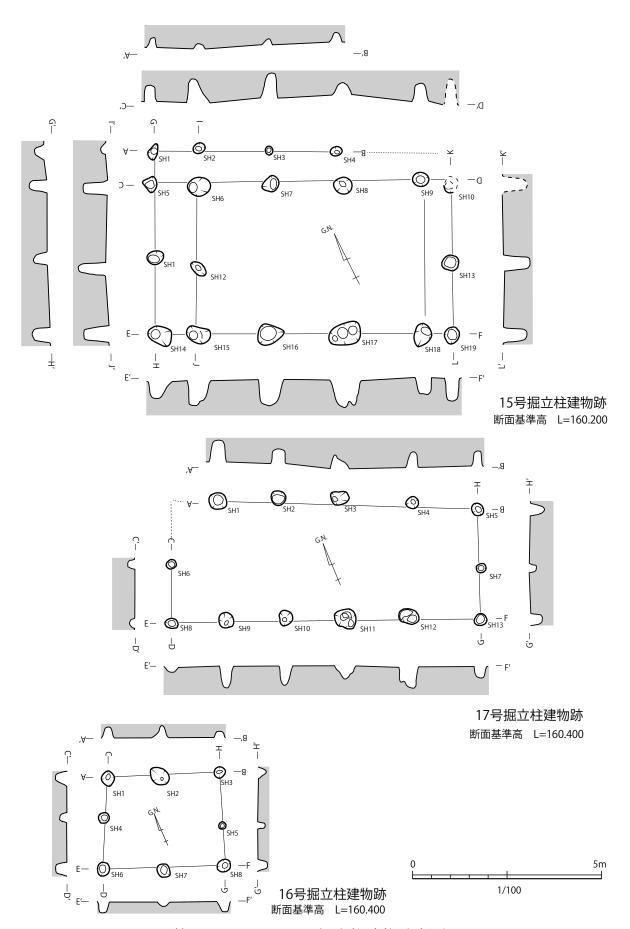
調査区南部のG7~G5グリッドへ下っている遺構で、VI層上面で検出された。遺構の規模は、長さが約13.0mで、最大幅は約2.2m、最深部は検出面から約15cm程度と非常に浅い。遺構の埋土は、褐灰色土に文明軽石がまんべんなく混じる単一層である。遺構から出土した遺物は薩摩焼の擂鉢(509)で、5号溝状遺構から出土したものと接合できた。このことから、3号溝状遺構と5号溝状遺構は同時期の遺構と推測される。

4号溝状遺構(第59図、第61図483~488)

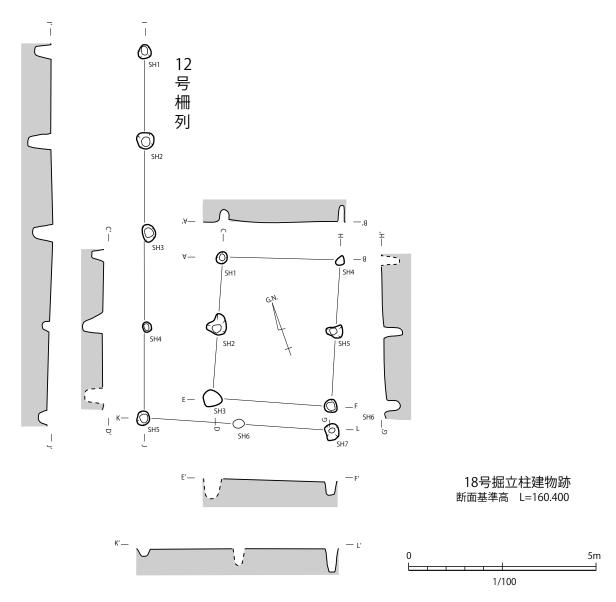
調査区西側のC3~C5グリッドで南へ下る遺構であり、VI層上面で検出された。遺構規模は、長さが約16mで、最大幅は約5mである。南にいくにつれ、その幅は広がっている。最深部は、検出面から約22cmと浅い溝状遺構である。遺構の埋土は、3号溝状遺構と同様にまんべんなく桜島文明軽石が混じる。

遺構から出土した遺物は、483~488である。483 は磁器碗で、低い高台を持つ。484・485は陶器の 口縁部で484はわずかに内湾、485はわずかに外反 している。486は陶器の甕の胴部で、外面に自然釉





第56図 15~17号掘立柱建物跡実測図



第57図 18号掘立柱建物跡及び12号柵列実測図

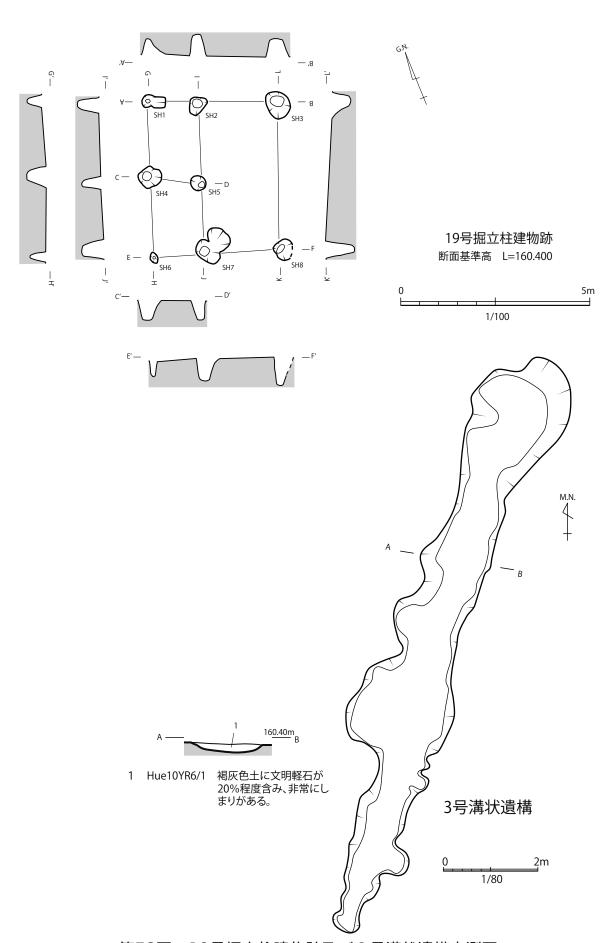
がかかる。487は陶器の頸部から胴部で、頸部付近 で明瞭な屈曲が見られる。488は長方形の粘板岩製 の砥石である。断面は細長い二等辺三角形状を呈 し、片面に研磨痕が見られる。

5号溝状遺構(第59図、第61図489~512)

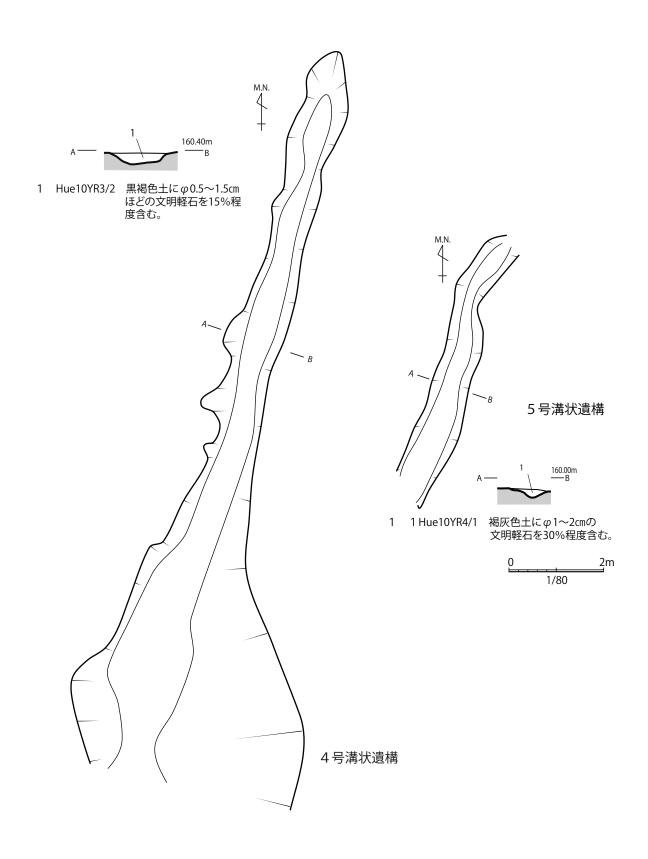
調査区南西部のB4グリッドのVI層上面で検出された。遺構規模は長さが約6m、最大幅は約1m、最深部は検出面から10cmと非常に浅い。

遺構から出土した遺物は、489~512である。489は磁器皿で、490はやや内湾した磁器の碗である。491は染付碗で外面に文様を施す。492~494は染付小坏で、492は高台がある。493と494は同一個体と思われ、高台内に「福」の文字を描く。495は陶器の碗で、内面見込みは蛇の目釉剥ぎである。高台内

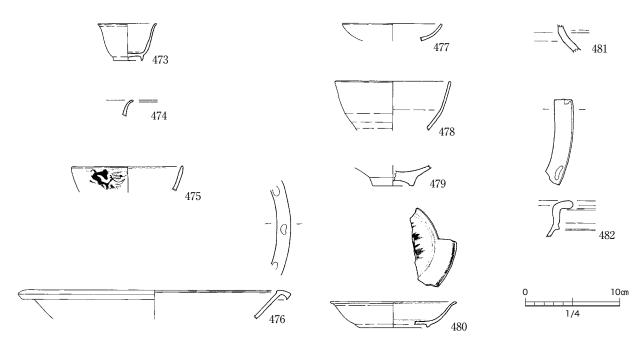
まで施釉され、龍門司系の薩摩焼である。496は高台付近以外に施釉され、外面は緑灰色の碗である。497~499はにぶい黄褐色をしている陶器で、498の見込みには蛇の目釉剥ぎを施す。500は全体的に灰白色で、褐色の斑点が見られる。501は陶器の底部で、内面に自然釉が施される。底部外面の畳付から外側に風車状に切り込みが見られる。502、503は陶器の皿で、口縁部は「く」の字に屈曲して外反する。見込みにケズリを利用した文様がみられる。504は陶器で、体部はふくらみ口縁直下で屈曲して外反している。505は陶器の甕か鉢で、下部は自然釉、上部と内面は無釉である。これは、4号溝状遺構から出土した487と同一個体と思われる。このことから4号溝状遺構と5号溝状遺構は同時期の遺構



第58図 19号掘立柱建物跡及び3号溝状遺構実測図



第59図 4号・5号溝状遺構実測図



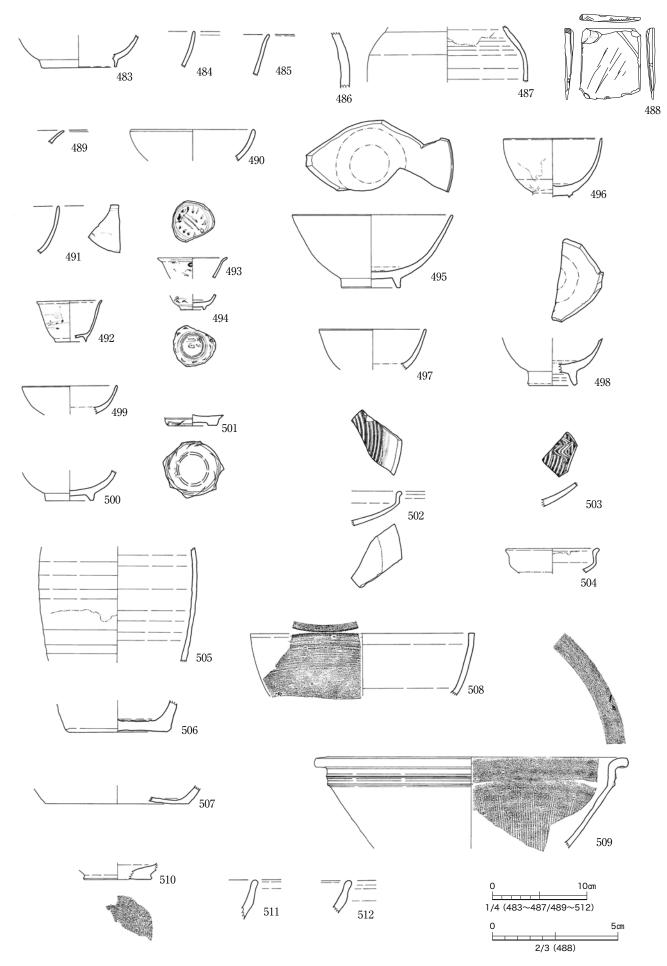
第60図 遺構出土遺物実測図(1)

と推測される。506・507は陶器の底部で、506の内面に回転ナデが施されており、底部外面には煤が付着している。508は陶器の口縁部から体部で、内外面に自然釉がみられる。全体的に暗赤褐色である。509は苗代川系擂鉢で、大きく外反し、断面「く」の字状を呈する。口縁部上面に貝目もみられる。八幡遺跡での分類によると、薩摩焼の苗代川系陶器擂鉢2に相当する。510~512は土師器で、510は坏の底部、511・512はやや内湾した鉢の口縁部である。

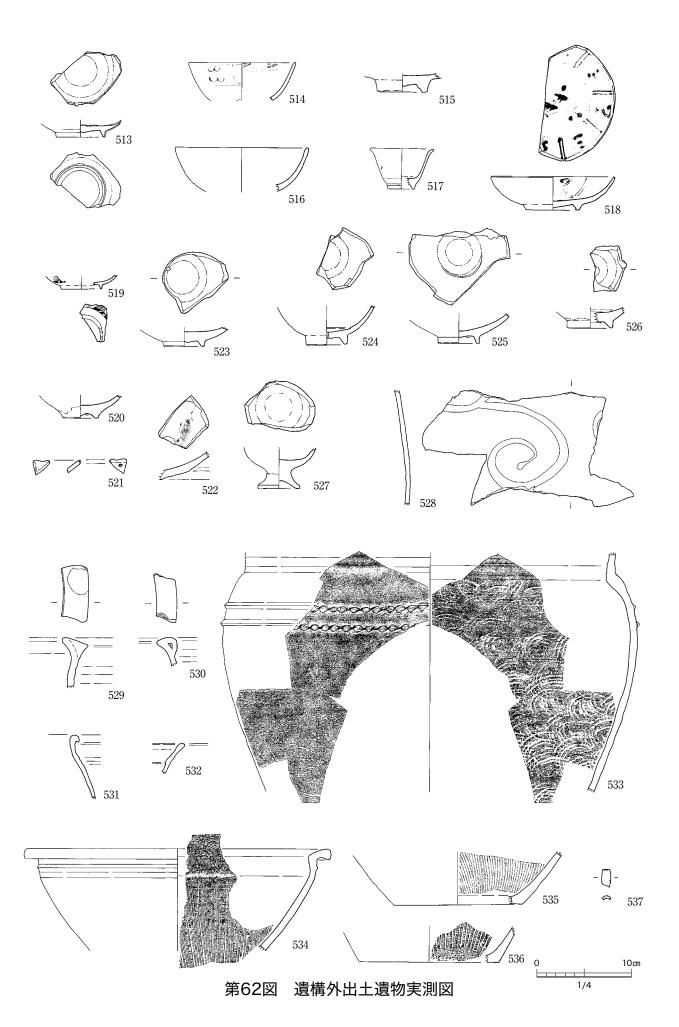
3 遺物 (第62図513~537)

遺構に伴わない遺物として、513~537の15点を図化した。513は青花の高台がある皿で、見込みに蛇の目釉剥ぎがある。内外面とも1条の界線がみられる。514は景徳鎮窯系白磁で外面に「w」の文様を描く。515は白磁碗の底部で、高台内は露胎である。516は磁器の碗で、全体的に薄い施釉である。517は小坏で、高台外面に3条の界線がみられ、肥前系磁器である。518は肥前系の磁器皿で、内面口縁部から胴部、見込みに文様を描く。これは九州陶磁の編年(2000)によると、肥前系磁器皿のⅡ-2期に相当する。519は磁器皿の胴部から底部で、低い高台をもつ。外面に赤絵具を使用した文様がみられ、九州陶磁編年の色絵・色絵素地の磁器皿Ⅱ-2に相当する。520は陶器碗で、外面の胴部下

部から高台は露胎、一部釉だれがみられる。521・ 522は陶器の皿で、ともに鉄絵を描く。521は波状 の口縁である。523~526は陶器の碗で、いずれも 蛇の目釉剥ぎを施す。527も見込みに蛇の目釉剥ぎ がある仏飯器で、523~527は薩摩焼の龍門司系で ある。528は陶器の体部で、渦巻状の鉄絵を描く。 529は陶器甕の口縁部で、内湾のち外方に強く折り 返ことで、断面は逆L字を呈する。口縁部上面に貝 目を有する。この口縁部の形状から、薩摩焼苗代川 系陶器の甕2に相当する。530は陶器の口縁部で、 その断面中央部に空洞がみられる。口縁部上面に貝 目を有し、薩摩焼の苗代川系と思われる。531の口 縁部は、内湾のち折り返し、体部上方に2条の凹線 を施す。532は陶器擂鉢の口縁部で、口縁内側が肥 厚している形状から、九州陶磁の肥前系擂鉢Ⅲ期に 相当する。533は縄状突帯がある陶器の甕で、内面 の当て具痕が同心円文である。534は口縁部が大き く外反し、断面「く」の字状を呈する陶器の擂鉢で ある。外面には口縁直下に突帯が巡り、内面に1単 位4条の摺り目がある。この形状から、薩摩焼苗代 川系の擂鉢2に相当する。535・536は擂鉢の体部 から底部で、内面に摺り目がみられる。537は馬の 鞦である。全長1.9mmで、形状は円筒形を呈し、色 調は明緑灰色である。



第61図 遺構出土遺物実測図(2)



- 86 -

第8節 時期不明の遺構と遺物

1 概要 (第63図)

遺構から時期を特定できる遺物が出土しなかったため、時期不明の遺構としたのが、掘立柱建物跡13棟、柵列6条、土坑6基、溝状遺構3条、竪穴状遺構1基である。

2 遺構

掘立柱建物跡 (第64図~第66図)

掘立柱建物跡については、小穴から出土した遺物から古代~中世、近世の掘立柱建物跡と認定したが、小穴から遺物が出土しなかった20号~32号掘立柱建物跡の13棟については、時期不明とした。なお、位置や種別、梁行、桁行等、詳細については観察表を参考にされたい。

柱穴の埋土については、いずれも桜島文明軽石を20%以上含む埋土であった。建物の種別については、総柱建物が2棟(25号、32号)、側柱建物が11棟(20号~24号、26~31号)であった。建物の規模については、間数でみると、1間×2間が4棟、1間×3間が2棟、1間×4間が2棟、2間×2間が4棟、2間×3間が1棟であった。次に身舎面積でみると、最大で60㎡(30号)で、次いで30㎡(29号)、22㎡(32号)、20㎡(31号)の順となり、20㎡未満は9棟と小さめの掘立柱建物跡が多い。庇の有無については、32号掘立柱建物跡のみ、庇を有しており、身舎の北・西側に庇が2面付いている。主軸については、建物主軸の方向から、大きく2つに大別できる。①群(N-21°~23°-E:17号・18号・19号)、②群(N-26°~27°-E:15号・16号)である。

柵列 (第65図、第53図417・第70図539)

近世の遺物が出土した 1 号柵列以外の 2 号~12 号柵列については、時期不明とした。ただし、 2 号~5 号・11 号柵列については、前述した古代~中世の掘立柱建物跡に付帯する柵列である可能性があるが、それ以外の 6 号~10 号・12 号柵列については、どれに付帯するかは不明である。

実長でみると、12号柵列の14.96mで最も長く、 次いで10号の13.72mである。形状で見ると、2号、 3号、12号柵列がL字状で、その他が直線状である。 出土遺物は、1号柵列から青花皿(417)、7号柵 列から金床石(539)が出土した。

2号竪穴状遺構 (第67図)

調査区東側、H3グリッドで、3号竪穴建物跡の 東側を切っている遺構で、M層上面で検出された。 また、2号溝状遺構がこの遺構の東側を切っている。 遺構の規模は、3.4m×2.0mの方形プランで、遺構 の長軸は、東に55°ふれている。検出面から床面ま で約0.4mで、床面積は約3.6㎡と本遺跡の竪穴建物 跡の中で、最も小さい。埋土は、床面近くの埋土ま で全体的に文明降下軽石が含まれている。貼床もあ り、その厚さは10cm程度である。遺構に伴う遺物 は出土しなかった。

5号土坑 (第67図)

調査区東側、H3~I3グリッドに位置し、W層上面から検出された。長軸約3.5m×短軸約3mのほぼ円形を呈しており、遺構の埋土は、黄褐色土や褐色土、霧島御池軽石など、さまざまな土層が堆積していたが、遺構に伴う遺物は出土しなかった。

6号土坑 (第68図)

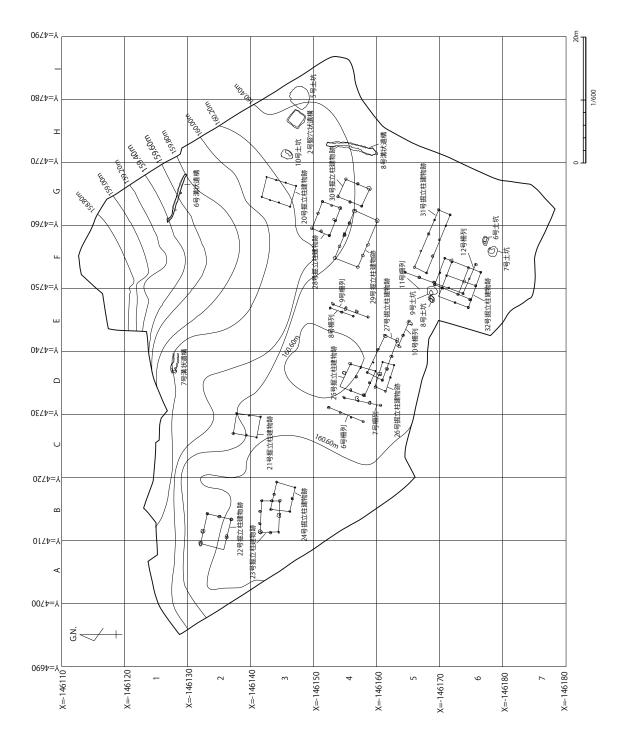
調査区南側、F6グリッドの1号竪穴建物跡の南西部に位置し、VI層上面から検出された。長軸約1.2 m×短軸約約0.84mで、不整楕円形を呈しており、桜島文明軽石を多く含む埋土のピットが3基掘り込まれている。遺構の埋土は、検出面付近の上層は粘りのあるシルト質の黒色土に桜島文明軽石と霧島御池軽石が混じり、その下層に黒色土、にぶい褐色土の順に堆積している。遺構に伴う遺物は出土しなかった。

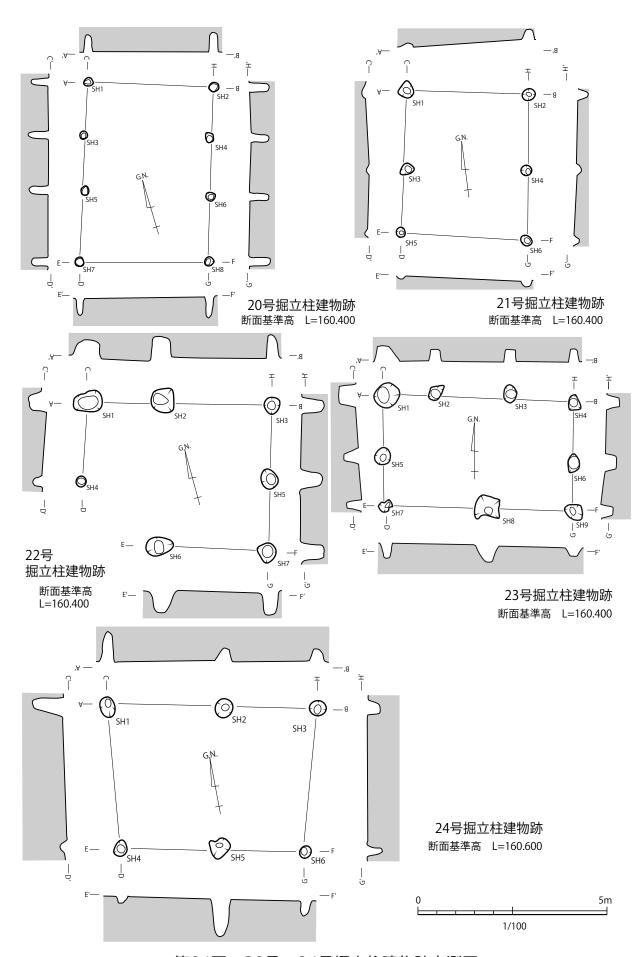
7号土坑 (第68図)

調査区南側、F6グリッドの1号竪穴建物跡の南部、6号土坑の南西に位置し、VI層上面から検出された。長軸約1.6m×短軸約1.46m、不整円形を呈しており、桜島文明軽石を多く含む埋土のピットが4基掘り込まれている。遺構の埋土は、黒褐色土に霧島御池軽石と桜島文明軽石が少量混じる単一層である。遺構に伴う遺物は出土しなかった。

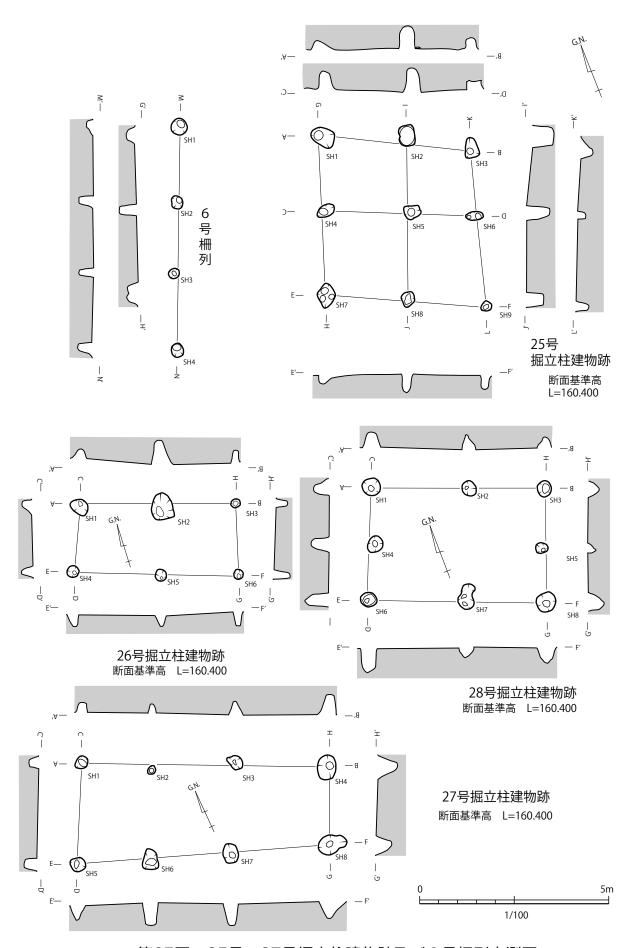
8号土坑 (第68図)

調査区やや南側、E5グリッドで、1号竪穴建物 跡の北西部に位置し、VI層上面から検出された。長 軸約1.16m×短軸約0.82m、楕円形を呈している。

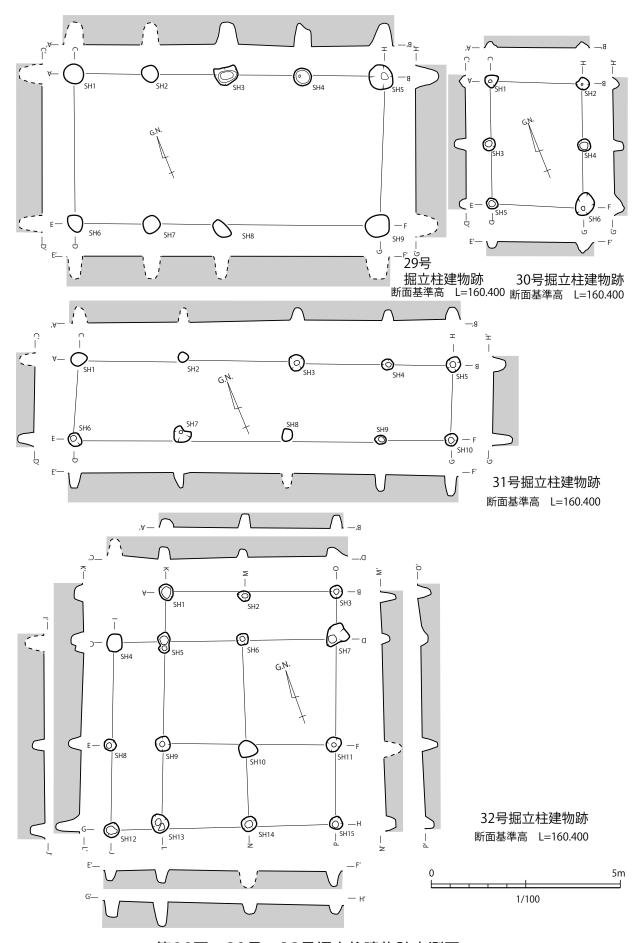




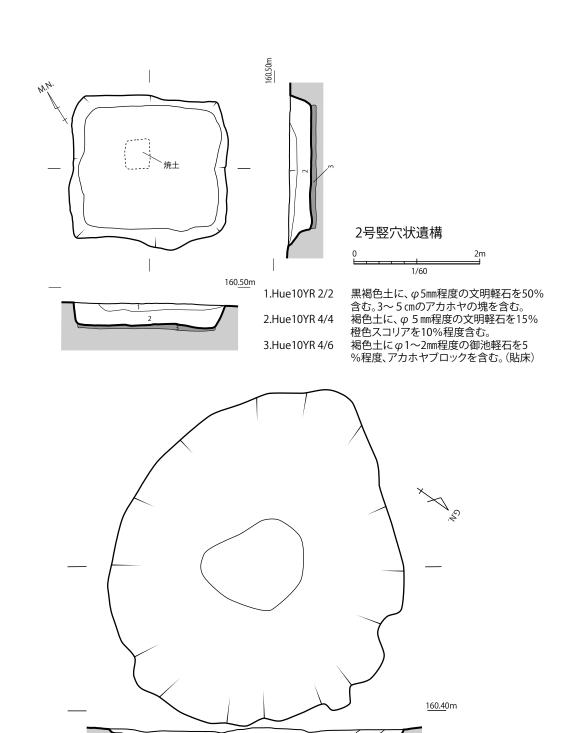
第64図 20号~24号堀立柱建物跡実測図



第65図 25号~27号堀立柱建物跡及び6号柵列実測図



第66図 29号~32号堀立柱建物跡実測図



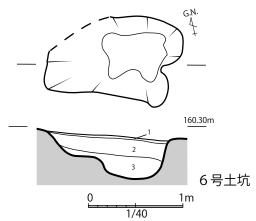
1.Hue10YR4/3黄褐色土 全体にわずかに黄橙色と灰色パミスを含む。2.Hue10YR4/4褐色土 1と含有物は同じφ1~2cmの黄褐色土ブロックを多量に含む。3.Hue10YR4/4黄褐色軽石粒混褐色土 2と似ているが全体的に霧島御池軽石を多量に含む。4.Hue2.5YR5/6黄褐色軽石粒 霧島御池軽石主体の堆積。5.Hue10YR3/3暗褐色土 1と似ているが、霧島御池軽石をより多く含む。6.Hue2.5Y3/1黄褐色軽石粒混黒褐色土 全体に多量の霧島御池軽石粒を含む。7.Hue2.5Y3/1黄褐色軽石粒混黒褐色土 6と似ているが、黒褐色土がφ1~2cmのブロック状になっている。

第67図 2号竪穴状遺構及び5号土坑実測図

5号土坑

1/40

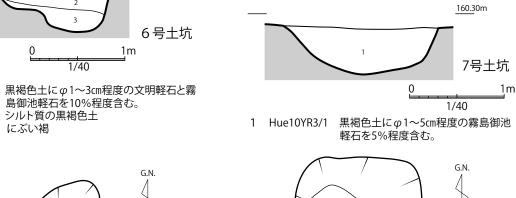
1_m

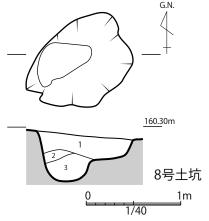




2 Hue10YR3/1

3 Hue7.5YR5/3 にぶい褐

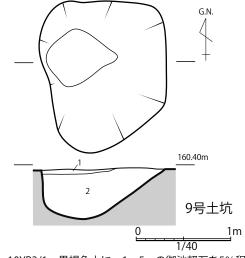




1 Hue10YR3/1 黒褐色土にφ1~5cm程度の霧島御池軽石を 30%程度含む。

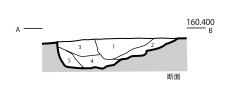
30 / M性反 日 0。 2 Hue10YR3/1 黒褐色土にφ1~5cm程度の霧島御池軽石を5 %含む。

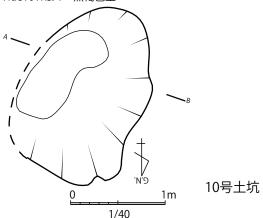
3 Hue10YR3/1 黒褐色土



1 Hue10YR3/1 黒褐色土にφ1~5mmの御池軽石を5%程度 含む。

2 Hue10YR3/1 黒褐色土





1.Hue7.5YR 4/4 褐色土に7%程度の φ $1\sim5$ mmの御池軽石を含む。しまりがある。 2.Hue7.5YR 3/4 暗褐色土に10%程度の φ $1\sim6$ mmの御池軽石を含む。1とほぼ同じ。 3.Hue7.5YR 4/3 褐色土に15%程度の φ $1\sim6$ mmの御池軽石を含む。1とほぼ同じ。 4.Hue7.5YR 4/3 褐色土に3%程度の φ $1\sim2$ mmの御池軽石を含む。1とほぼ同じ。 5.Hue7.5YR 3/4 暗褐色土に10%程度の φ $1\sim7$ mmの御池軽石を含む。1とほぼ同じ。

第68図 6号~10号土坑実測図

遺構の埋土は、上層に黒褐色土に霧島御池降下軽石を含み、下層に黒褐色土が堆積している。遺構に伴う遺物は出土しなかった。

9号土坑 (第68図)

調査区やや南側、E5~F5グリッドにあり、8 号土坑の東部に位置し、VI層上面から検出された。 長軸は約1.64m×短軸約1.3m、不整形を呈している。 遺構の埋土は、上層に黒褐色土中に霧島御池軽石が わずかに含み、それ以外は黒褐色土が堆積している。 遺構に伴う遺物は出土しなかった。

10号土坑 (第68図)

調査区の東側、H3グリッドにあり、3号竪穴建物跡の北西部に位置する。長軸は約1.9m×短軸約1.2m、楕円形を呈する。遺構の埋土は、褐色土を主としている。遺構に伴う遺物は出土しなかった。

6号溝状遺構 (第69図)

調査区の北東部、G 1 グリッドに位置し、Ⅲ層上面で検出した。遺構の規模は、長さが約8.4m、最大幅は約0.4m、最深部は検出面から約40cmである。遺構の埋土は、黒色土に橙色パミスを含むⅢ b 層である。遺構に伴う遺物は出土しなかった。

7号溝状遺構 (第69図)

調査区北部、D1グリッドに位置し、VI層上面で 検出されたが、この遺構の東側については不明であ る。遺構の規模は、検出された範囲では、長さが約 3.2m、最大幅は約1.6m、最深部は検出面から約15 cmと非常に浅い。遺構の底は凹凸が激しく、水が溜 まったような跡も見られる。遺構の埋土は、4号溝 状遺構と同様に文明降下軽石がまんべんなく含まれ ている。遺構に伴う遺物は出土しなかった。埋土の 状況から、桜島文明軽石降下後の溝状遺構であるが、 明確な時期の特定ができなかった。

8号溝状遺構 (第69図)

調査区の東側のH4グリッドに位置し、VI層上面で検出された。遺構の規模は、長さが約8.2m、最大幅が約1.2m、最深部は検出面から8cmほどである。遺構の埋土は、6号溝状遺構と同様に褐灰色土に文明軽石がまんべんなく混じる。遺構に伴う遺物は出土しなかった。埋土の状況から、桜島文明軽石降下後の溝状遺構であるが、明確な時期の特定ができな

かった。

3 遺物 (第70図538~554)

時期不明の遺物として、以下のものがある。538 は土製品で、一部焼成痕がみられる。剥離面に藁の 圧痕があり、器表面に工具ナデのような調整を施 す。539~550は石器である。539は砂岩製の金床石 である。7号柵列のSH4から出土した。540は粘 板岩製の磨製石鏃の欠損品である。台形状を呈し、 中央部には2ヶ所の穿孔がみられる。541は胎土に 金雲母を多量に含む花崗岩製の磨石である。542~ 548は砥石である。542は粘板岩製で、表はほぼ全 面と裏の半面に砥面がみられる。543は木目模様の リソイダイト製で、いわゆる天草砥石である。台形 状に近く、両面に砥面がみられる。544は三角形状 に破損し、表に砥面がみられる砂岩製の砥石であ る。545~547は粘板岩製である。545は表面と側面 に砥面がみられ、546は棒状を呈し、表面のみ砥面 がみられる。547は長方形状を呈し、砥面に溝状の 研磨痕がみられる。548は砂岩製礫状の砥石である。 1面のみ砥面がみられ、少量であるが鉄片が付着し ている。549は溶結凝灰岩製石臼の上臼である。周 縁部から中心軸までを含む全体の約1/3が残存し ており、上面には皿面が平坦で、下面には摺面がみ られる。側面には把手穴も確認できる。550は砂岩 製の茶臼の一部である。551~554は鉄製品である。 553はやりがんなで、重量は27.8gと出土している 鉄関連製品の中で最も重い。554は釘と思われ、断 面は楕円形を呈する。

引用・参考文献

相美伊久雄 2000「深浦式系土器の再検討」『人類 史研究』第12号

新垣力・瀬戸哲也 2005「沖縄における14~16世 紀の中国産白磁の再整理」『沖縄埋文研究』 3

上田秀夫 1982「14~16世紀の青磁の分類について」 『貿易陶磁器研究』No.2、日本貿易陶磁研究会

小野正敏 1982「15、16世紀の染付碗、皿の分類 とその年代」『貿易陶磁器研究』No.2日本貿易陶 磁研究会

鹿児島県立埋蔵文化財センター 2005『大坪遺跡』鹿 児島県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第79集

鹿児島県立埋蔵文化財センター 2013『稲荷山遺跡・宇都上遺跡・早山遺跡・鎮守山遺跡』 鹿児島 県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書第177集

鹿児島県立埋蔵文化財センター 2014『船迫遺跡・ 高吉B遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘 調査報告書第180集

乗畑光博 2002「考古資料から見た鬼界アカホヤ 噴火の時期と影響」『第四紀研究』

乗畑光博 2004「都城盆地における中世土師器の編年に関する基礎的研究 (1)」『宮崎考古』第19号 重根弘和 2005「中世の備前焼」『備前市歴史民俗 資料館紀要7』

瀬戸哲也 2013「沖縄における14・15世紀中国陶 磁編年の再検討」『中近世土器の基礎研究』25

瀬戸哲也・仁王浩司・玉城靖・宮城弘樹・安座間充・ 松原哲也 2007「沖縄における貿易陶磁器研究 -14~16世紀を中心に-」『沖縄埋文研究5』

堂込秀人 1997「南九州縄文晩期土器の再検討 - 入佐式と黒川式の細分 - 」『鹿児島考古』第31号 外山隆之・原田亜希子 2004「都城市における中 世掘立柱建物跡の類型化」『宮崎考古』第19号

乗岡実 2000「備前焼擂鉢の編年について」『第3 回中近世備前焼研究会資料』

東中川忠美 2000「陶器の編年 4. 壺・甕」『九 州陶磁の編年』九州近世陶磁学会

備前窯詳細分布調査報告書 2013 備前市埋蔵文 化財調査報告11

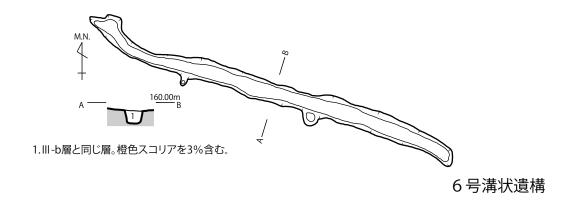
広島県草戸千軒町遺跡調査研究所 1995『草戸千軒町

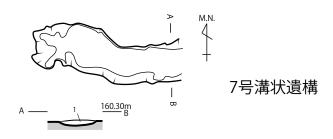
遺跡発掘調査報告Ⅲ - 南部地域北半部の調査 - 』 宮崎県埋蔵文化財センター 2000『竹ノ内遺跡』 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第27集 宮崎県埋蔵文化財センター 2003『八幡遺跡』宮 崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第70集 宮崎県埋蔵文化財センター 2008『筆無遺跡』宮 崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第166集 宮崎県埋蔵文化財センター 2012『塩見城跡』宮 崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第210集 宮崎県埋蔵文化財センター 2013『平峰遺跡(3次 調査) 宮崎県埋蔵文化財センター報告書第219集 宮崎県埋蔵文化財センター 2013『宮ヶ迫遺跡』宮 崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第228集 宮崎県埋蔵文化財センター 2016『大年遺跡』宮 崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第237集 宮崎県埋蔵文化財センター 2016『笹ヶ崎遺跡』宮 崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第240集 宮崎県埋蔵文化財センター 2016『中床丸遺跡』宮 崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第239集 吉本正典 2012 「黒川式土器の歴史的位置」『九州 考古学会』第87号

報告書掲載番号	調査時番号
1号集石遺構	SI 5
2号集石遺構	SI 7
3号集石遺構	SI 1
4号集石遺構	SI 2
5 号集石遺構	SI 3
6号集石遺構	SI 4
1 号竪穴建物跡	SA 2
2 号竪穴建物跡	SA 3
3 号竪穴建物跡	SA 4
4 号竪穴建物跡	SA 7
5 号竪穴建物跡	SA 8
6 号竪穴建物跡	SA 9
7 号竪穴建物跡	SA10
8 号竪穴建物跡	SA11
1 号竪穴状遺構	SA 6
2 号竪穴状遺構	SA 5
1 号溝状遺構	SE 1
2 号溝状遺構	SE 2
3 号溝状遺構	SE 3
4 号溝状遺構	SE 4

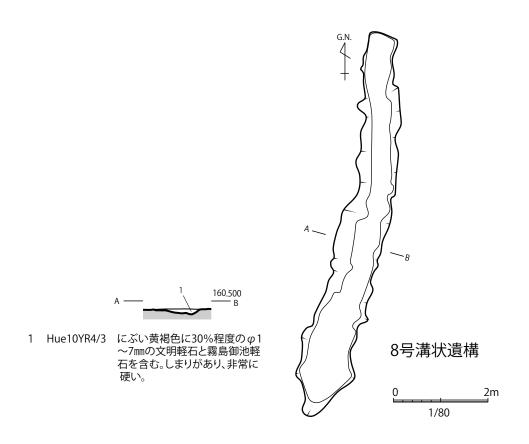
報告書掲載番号	調査時番号
5 号溝状遺構	SE 6
6 号溝状遺構	SE 7
7 号溝状遺構	SE 8
8号溝状遺構	SE10
9 号溝状遺構	SE11
1 号道路状遺構	SG 1
2 号道路状遺構	SG 2
3 号道路状遺構	SG 3
4 号道路状遺構	SG 4
5 号道路状遺構	SG 5
1 号土坑	SC20
2 号土坑	SC22
3 号土坑	SC26
4 号土坑	SC18
5 号土坑	SC 3
6 号土坑	SC10
7 号土坑	SC11
8 号土坑	SC13
9 号土坑	SC14

第1表 遺構番号と調査時番号の対応表

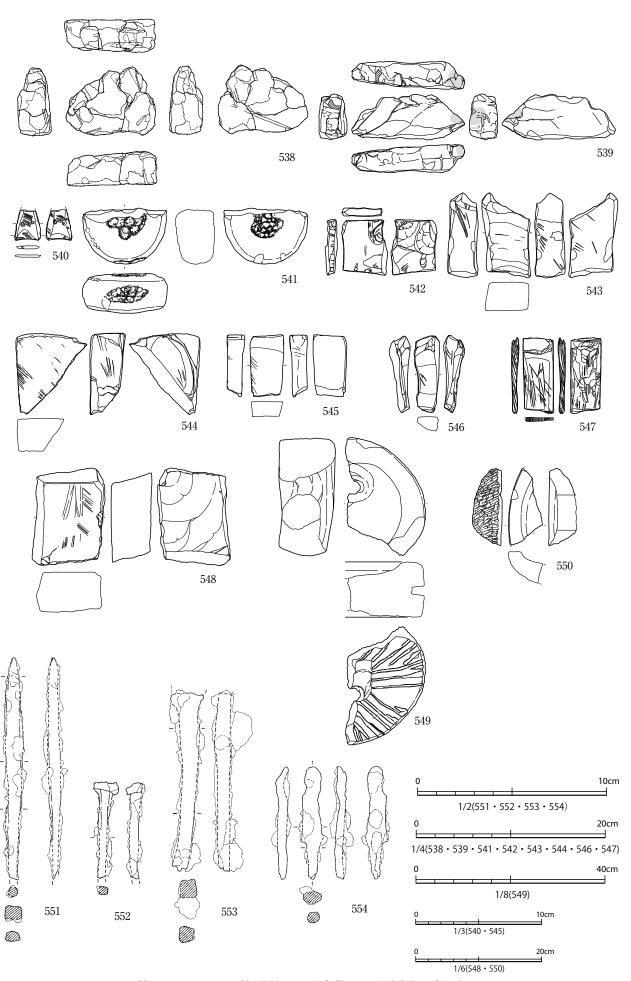




1 Hue10YR3/1 黒褐色土にφ5~10mm程度の文明軽石を10%程度含む。



第69図 6号~8号溝状遺構実測図



第70図 その他時期不明遺物及び鉄製品実測図

掲載	器種	部位	出土位置	器面調整	文様	- 1	色調	胎土の特徴	型式・その他
番号	命性	iip1st.	区・G r・層	外面	内面	外面	内面	昭工の特徴	至式・その他
1	深鉢	П	双層	横方向の貝殻腹縁刺突文 縦方向の貝殻腹縁刺突文	斜め方向のケズリ後ナデ	灰黄褐 (10YR 4 / 2)	にぶい褐 (7.5YR 5 / 4)	1 mm以下の棒状の黒色光沢粒、灰白色粒、褐色粒を少量、1 mm以下の透明光沢粒、微細な雲母をわずかに含む。	推定口径:12.6cm 貝殼文円筒形土器
2	深鉢	胴	XI層	斜め方向の貝殻条痕文後、縦位の貝殻刺突 文 一部に縦位の楔形突帯文 その左右に細い棒状工具による刺突文	横方向からのナデ 下方向からのナデ	明赤褐 (5 YR 5/6)	明赤褐 (5 YR 5/6)	1 mm以下の透明光沢粒、黒色粒を多量に含む。	
3	深鉢	胴	XI層	斜位の貝殻条痕文のち縦位の貝殻刺突文	荒いナデ又はケズリ	にぶい赤褐 (5 YR 5 / 4)	にぶい赤褐 (5 YR 5 / 4)	2m以下の黒色光沢粒、微細なガラス質の光沢粒を少量含み、2m以下の黒色粒・灰色粒・褐色粒を わずかに含む。	
4	深鉢	胴	XI層	斜位の貝殻条痕文のち縦位の貝殻刺突文	荒いナデ又はケズリ	にぶい赤褐 (5 YR 5 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 6 / 3)	2 m以下の黒色光沢粒、黒色粒・灰色粒・褐色粒、 微細~2 mの透明光沢粒をわずかに含む。	
5	深鉢	胴~底	XI層	斜位の貝殻条痕文のち縦位の貝殻刺突文 ナデ 底部側面に縦位の刻線文	ケズリ又は粗いナデ	にぶい赤褐 (5 YR 5 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 2)	3 mu以下の透明光沢粒、2 mm以下の黒色光沢粒を 少量含み、3 mm以下の黒色粒をわずかに含む。	推定底径:約13.0cm 残存率: 1 / 5
6	深鉢	底	X 層 XI層	右下り斜め方向の貝殻条痕文	縦・斜め方向のナデ 横方向のナデ ナデ	にぶい橙 (5 YR 6/4)	にぶい黄橙 (10YR 6 / 3) 黒 (7.5 Y R 2 / 1)	1 mm以下の透明光沢粒、明赤褐・灰白色粒をわず かに含む。	底径:7.2cm 底部に直径5mmの圧痕2個
7	深鉢	П	XI層	横位の押型文	横方向のミガキ	灰黄褐 (10YR 5 / 2)	にぶい黄褐 (10YR 5 / 4)	機綱な透明光沢粒、3 m以下の棒状黒色光沢粒を 多量に、1 m以下の白色粒を含み、4 m以下の淡 黄色粒を少量、2 m以下の透明光沢粒をわずかに 合む。	推定口径:18.0cm
8	深鉢	П	XI層	斜め方向の貝殻腹縁刺突文 ナデ	ナデ	にぶい褐 (7.5YR 5 / 4)	褐 (7.5YR 4 / 4)	2 mm以下の透明光沢粒、灰白色粒、明褐色粒を含み、2 mm以下の黒色光沢粒をわずかに含む。	推定口径:13.7cm 貝殼文円筒形土器
9	深鉢	胴·底	XI層	風化気味	工具によるナデ	橙 (5 YR 6 / 6)	にぶい黄褐 (10YR 5 / 3)	1 m以下の黒色光沢粒を少量、微細な透明光沢粒をわずかに含む	
10	深鉢	П	XI層	横位の貝殻連点文 貝殻連点文(綾杉文)	ミガキ	にぶい赤褐 (5 YR 5 / 4)	明赤褐 (5 YR 5 / 6)	1 mm以下の透明光沢粒、金雲母、灰白色粒を含み、 棒状の黒色粒をわずかに含む。	残存率:約1/9(口縁)
11	深鉢	П	XI層	横位の貝殻連点文	ミガキ	にぶい黄褐 (10YR 5 / 3) 褐 (7.5YR 4 / 6)	赤褐色 (5 YR 4 / 6)	1 mm以下の雲母を含み、2~1 mmの透明光沢粒を わずかに含む。	残存率: 1/9(口縁) 10と同一個体
12	深鉢	胴	XI層	貝殼連点文	ナデ	にぶい赤褐 (5 YR 4 / 4)	にぶい赤褐 (5 YR 5 / 4)	1 mm以下の金雲母・灰白色粒を少量含み、1 mm以 下の黒色光沢粒をわずかに含む。	下涮涤式
13	深鉢	胴	XI層	ナデ 縦位の貝殻連点文	ケズリ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 6 / 3)	1 m以下の黒色粒、灰白色粒、透明光沢粒、雲母を わずかに含む。	下涮業式
14	深鉢	胴~底	XI層	貝殻連点文 ナデ	ナデ	明赤褐 (5 YR 5 / 6)	にぶい赤褐 (5 YR 5 / 4)	1 mm以下の灰白色粒・雲母・褐色粒を少量含み、2 mm大の雲母をわずかに含む。	残存率: 1 /14(底部) 下剥峯式
15	深鉢	胴	E 4	棒状工具による沈線 ナデ後関隔をおいて縦位の網目状撚糸文後、 横方向の沈線文	丁寧なナデ	橙 (5YR 6/6)	にぶい橙 (7.5YR 6 / 4)	1 mm以下の黒色粒、灰白色粒、透明光沢粒をわずかに含む。	塞ノ神式
16	深鉢	胴	XI層	格円押型文	粗いナデか	にぶい褐 (7.5YR 5 / 4)	にぶい黄褐 (10YR 6 / 3)	2 mm以下の雲母・淡黄色粒を多量に、3 mm以下の 灰白粒をわずかに含む。	
19	深鉢	П	₩層 3号土坑	多方向の貝殻条痕文	ナデ後斜め方向の貝殻条痕文	にぶい黄橙 (10YR 6 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 6 / 4)	1 m以下の黒色粒を多量に、2 m以下のにぶい黄 橙色粒・にぶい黄褐色粒・灰白色、棒状黒色光沢粒 をわずかに含む。	コブ状突起
20	深鉢	底	3号土坑	多方向の貝殻条痕文後一部ナデ	貝殻条痕文後一部ナデ	明黄褐 (10YR 6 / 6)	浅黄 (2.5YR 7 / 4)	微細な黒色光沢粒、明黄褐色粒を含み、1 m以下 の灰白色粒、棒状黒色粒をわずかに含む。	残存率: 1 / 4
21	深鉢	胴	6号集石	ナデ風化気味	ナデ風化気味	にぶい黄橙 (10YR 6 / 4)	橙 (7.5YR 6 / 6)	2 m程度の灰白色光沢粒を多量に含み、1 m程度 の透明光沢粒を含み、1 m程度の黒色粒をわずか に含む。	
22	深鉢	胴	6号集石 E 4 WI III WI IIII	横方向の短沈線文 縦方向の連続刺突文 縦位の貝殻条仮文	斜・横方向の沈線文 横位・斜位の貝殻条痕文	にぶい褐 (7.5YR 5 / 3・ 5 / 4)	にぶい黄 (25Y 6 / 4) にぶい褐 (7.5YR 5 / 4)	4 mi以下の浅黄橙色粒、微細なガラス質の光沢粒を含み、微細な雲母をわずかに含む。	残存率: 1 / 4 (胴部) 胴部径: 15.4cm(短径) 17.7cm(長径)
23	深鉢	□∼胴	2号竪穴	機位に断面三角形で低い隆帶文 機位の具殻条痕文後、斜位の断面三角形状 で低い隆起文が3条	横位の貝殻条痕文後一部ナデ	黄褐 (2.5Y 5 / 3)	黒褐 (2.5Y 3 / 1)	1 mm以下の透明光沢粒、黒色粒、微細な雲母をわずかに含む。	残存率: 1 /16
24	深鉢	胴	1号竪穴	具殻条痕文後ナデ 横方向の具殻条痕文	貝殻条痕文の後、ナデ消しか 横位の貝殻条痕文	にぶい掲 (7.5YR 5 / 4)	明褐 (7.5YR 5 / 6)	微細な灰白色粒・黒色透明光沢粒を多量に含み、 1 mm以下の浅黄橙・透明光沢粒を少量含む。	残存率:胴部1/8 外面にスス付着痕 内面に黒色物付着 25と同一個体
25	深鉢	胴~底	VII Mi	横位の貝殻条痕文	横斜位の貝殻条痕文	橙(5 YR 7/ 6)	黒(5YR 2/1)	1 m以下の黒色粒、黄灰色粒、灰白色粒を多量に含み、2 m以下の棒状黒色光沢粒を少量含み、2 m以下の棒が黒色光沢粒を少量含み、2 m以下の無色透明光沢粒をわずかに含む。	残存率: 胴部 1 / 6 内面に黒斑 24と同一個体 スス付着
26	深鉢	胴	VII RS	斜方向の貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕文	にぶい赤橙 (2.5YR 5 / 3)	にぶい褐 (7.5YR 5 / 4)	微細な透明光沢粒を少量含み、1 mm以下の白色粒、 0.5mm程度の黒色粒をわずかに含む。	外面にスス付着 深浦式土器
27	深鉢	胴	VIIÆ	貝殻条痕文 貝殻条痕文後ナデ 貝殻腹縁による斜方向の連続する刺突文	横方向の貝殻条痕文	無褐 (10YR 2 / 2)	にぶい黄褐 (10YR 5 / 3)	1 mm以下の灰白色粒、微細な透明光沢粒をわずか に含む。	
28	深鉢	口~胴	VII Mi	ナデ 横方向の貝殻条痕文一部ナデ 斜方向の貝殻条痕文後、横位から縦位の刺 突連点文	ナデ 横方向の貝殻条痕文後斜め方向の貝殻 条痕文 斜方向の貝殻条痕文	にぶい黄 (25Y 6 / 4)	明黄橙 (10YR 7 / 6)	1 ms以下の褐色粒、灰白色粒、褐灰色粒、雲母、棒 状黒色粒をわずかに含む。	推定口径:30.2cm 内面・外面とも部分的に黒 変・スス付着 こぶ状突起 深浦式土器
29	深鉢		1号竪穴	貝殻腹縁刺突文	横方向のナデ	橙(5 YR 6/ 6)	橙(5YR6/6)	1 m以下の掲灰色粒、灰白色粒、褐色粒、黒色粒を含み、1 m以下の棒状黒色光沢粒をわずかに含む。	部分的にスス付着 深浦式土器
30	深鉢	胴	VII MS	条痕後軽くナデ 浅い貝殻連点文	ナデ後斜め方向に条痕文	にぶい橙 (7.5YR 6 / 4)	黒褐 (7.5YR 3 / 1)	微細な透明光沢粒を含み、1 mm程度の白色粒をわずかに含む。	深浦式土器

第2表 土器観察表1

掲載 番号	器種	部位	出土位置	器面調整			- 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	胎土の特徴	型式・その他
留亏			区·Gr·層	外面	内面	外面	内面		
31	深鉢	П	WI層	ナデ後貝殻腹縁による押引状の連続刺突 文 波状モチーフのナデ後連続した貝殻腹縁 による押引状の連続刺突文	ナデ	にぶい橙 (7.5YR 6 / 4)	無褐 (10YR 3 / 2)	機細な雲母を多量に含み、5 m以下の浅黄色粒を 少量含み、1 m大の橙色粒、1 m以下の灰白色粒 をわずかに含む。	残存率: 1/8
32	深鉢	胴部	WE	縦方向のナデ 貝殻腹縁による刺突文 貝殻腹縁による連点文	横方向のナデ 縦位の貝殻条痕文	灰黄褐 (10YR 4 / 2)	にぶい掲 (7.5YR 5 / 4)	機細な棒状黒色光沢粒を含み、1 mm以下の浅黄色 粒をわずかに含む。	
33	深鉢	胴~底	祖居	級方向の押引状の連続刺突文 級方向の沈線文 級方向の沈線文 機方向に押引状の連続刺突文 横方向に連射研究文 位線文 円形状に刺突文	横力向の押引状の連続刺突文 ナア	灰黄 (2.5YR 6 / 2)	黄灰 (2.5Y 5/1) 暗灰黄(2.5Y 5 /2)	微細な黒色粒を多量に含み、1 m以下の透明光沢 粒、1 m以下の波黄色粒を少量含み、2 m以下の 黒色光沢粒をわずかに含む。	残存率: 1/2 深浦式系
34	深鉢	底	VI層	機位の貝殻連点文 斜位の貝殻条痕文の後ナデ(一部条痕文)	斜位・横位の貝殻条痕文 貝殻条痕文 の後ナデ	橙 (5 YR 6/6)	にぶい黄橙 (10YR 6 / 4)	1 m以下の透明光沢粒、微細な黒色粒を少量含み、 0.5mm程度の棒状黒色粒、灰白粒、浅黄橙色粒をわずかに含む。	残存率: 1/3 内面に部分的に黒変
35	深鉢	口~胴	SH	貝殻腹縁刺突文 斜位の貝殻条痕文後ナデ	斜位の貝殻条痕文 ナデ	にぶい橙 (7.5YR 6 / 6)	にぶい黄 (2.5Y 6 / 3)	微細な黒色粒を多量に含み、1 mm程度の黄色粒、 1 mm以下の透明光沢粒をわずかに含む。	残存率: 1 /12
36	深鉢	胴	VI層	機位の条痕文後工具による機・斜方向の条 痕文	横位の具殻条痕文後工具によるヨコ方 向のナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	橙 (7.5YR 6 / 6)	5 m以下の黄橙色粒を少量含み、1 m以下の透明 光沢粒・棒状の黒色光沢粒、0.5 mの黒色粒、微細な 黒色光沢粒をわずかに含む。	残存率: 1/8 (胴部) 外面にスス付着 内面に炭化物付着 深浦式土器
37	深鉢	□∼胴	VIE	貝殻腹縁刺突文 丁寧なナデ後横方向の貝殻腹縁刺突文 縄による押圧刺みを施した2条の突帯と その間に鋸歯状の突帯を貼り付け	ナデ後縄文を施す 丁寧なナデ	にぶい赤褐 (5 YR 5 / 4)	赤褐 (5 YR 4/6)	1 mm以下の黒色光沢粒、灰白色粒、赤褐色粒、褐色粒を多量に含む。	推定口径:29.0cm 残存率: 1 / 2 深浦式系
38	深鉢	胴	WE	丁寧なナデ後横方向斜方向の貝殻腹縁刺 突文 斜方向に押引状の刺突速点文	丁寧なナデ	赤褐 (5 YR 4/6)	にぶい褐 (7.5YR 5 / 4)	微細な黒色光沢粒、灰白色粒、透明光沢粒を多量 に含み、微細な赤褐色粒を含み、微細な橙色粒を わずかに含む。	残存率: 1 / 6 深浦式系
39	深鉢	胴	VI M	丁寧なナデ後縦方向・斜方向の刺突連点文	丁寧なナデ 横方向の貝殻条痕文	にぶい赤褐 (2.5YR 4 / 4)	にぶい褐 (7.5YR 5 / 4)	微細な黒色光沢粒、灰白色粒、赤褐色粒をわずか に含む。	残存率: 1 / 4 深浦式系
40	深鉢	胴	VI M	丁寧なナデ後縦・斜め方向の刺突連点文	横方向の貝殻条痕文後一部ナデ	明赤褐 (5 YR 5/6)	明赤褐 (5 YR 5/6)	微細な黒色光沢粒、灰白色粒を含み、微細な赤褐 色粒をわずかに含む。	残存率: 1 / 4 深浦式系
41	深鉢	口~胴	WE WE	縦方向の貼付突帶文(一部横位) 横方向のナデ ナテ後載方向の貝殻条痕文 多方向の貝殻条痕文後ナデ	機位の貝殻連点文 機・斜方向の貝殻条痕文後粗いナデ	にぶい黄橙 (10YR 6 / 4)	灰黄 (10YR 6 / 2)	2m以下の淡黄色粒を少量、2m以下の白色粒・ 馬色粒、褐色粒、微細な透明光沢粒をわずかに含 む。	残存率: 1/2 推定胴部最大径:約26.4cm 外面一部にスス 外面に貼付突帯文 42と同一個体 深浦式系
42	深鉢	胴~底	WI 居 WI 居	横・斜位の貝殻条痕文後ナデ	粗いナデ 横・斜位の貝殻条痕文 貝殻条痕文後 ナデ	にぶい黄橙 (10YR 6 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 6 / 3)	2 m以下の浅黄色粒、透明光沢粒を含み、2 m以 下の白色粒、黒色粒、褐色粒、微細な橙色粒をわず かに含む。	外面一部スス付着・黒斑 内面の全体に炭化物付着 41と同一個体 深浦式系
43	深鉢	胴~底	W 層 攪乱	多方向の貝殻条痕後一部工具による貝殻 条痕文	多方向の貝殻条痕文 貝殻条痕後ナデか	橙 (5 YR 6/6)	明赤褐 (5 YR 5 / 6)	1 mm以下の灰白色粒、透明光沢粒、黒色粒を多量 に含み、2 mm 以下の灰白色粒、褐灰色粒をわず かに含む。	外面一部にスス付着 残存率: 1/6 (胴部) 3/4 (底部) 深浦式
44	深鉢	底	WE	貝殻条痕文	縦方向の工具ナデ	灰黄褐 (10YR 5 / 2)	橙 (7.5YR 6 / 6)	1 mm以下の黒色粒、黒色光沢粒、微細な透明光沢 粒を含み、2 mm以下の灰白粒、1 mm以下の淡黄色 粒、褐色粒をわずかに含む。	外面に白色付着物
45	深鉢	胴	F 6 阳層	斜位の貝殻条痕文後縦位の貝殻条痕文	横位の貝殻条痕文	橙(7.5YR 6/ 6)	にぶい掲 (7.5YR 5 / 4)	1m以下の黒色紋、黄灰色粒、灰白色紋、微細な灰白色紋、透明光沢紋、黒色紋を多量に含み、1m以下の褐灰色紋、灰白色紋を含み、棒状黒色光沢粒を少量含み、無色透明光沢紋、3m以下の棒状黒色紋をわずかに含む。	残存率: 1 / 6 (胴部) 内面に黒斑
46	深鉢	胴	VII層	斜位・横位の貝殻条痕文後縦方向の貝殻条 痕文	横位の貝殻条痕文 一部斜位の貝殻条痕文後ナデ	橙 (5 YR 6 / 6)	にぶい橙 (5 YR 6 / 4)	1 mm以下の透明光沢粒、黒色粒をわずかに含む。	残存率:胴部1/7 外面にスス付着痕 内面・外面に粘土の継目
54	土器片 加工円 盤	П	5 号堅穴	沈線文 刺突文		にぶい赤褐 (5 YR 5/3)	橙 (2.5YR 6 / 6)	1 m以下の淡黄色粒、微細な透明光沢粒、微細~ 1 mm程度の黒色光沢粒を多量に含み、棒状黒色粒 をわずかに含む。	
55	鉢	胴	9号溝状	横方向のミガキ 沈線	ナデ	黒褐 (10YR 3 / 1)	にぶい掲 (7.5YR 5 / 4)	2 mm以下のにぶい灰白色粒、透明光沢粒を多量に 含み、1 mm以下の黒褐色粒を含む。	外面にスス付着
56	深鉢	п	H 2 Ⅲ層	横方向のナデ	横方向の貝殻条痕文後ナデ	黒褐 (10YR 3 / 1)	にぶい褐 (7.5YR 5 / 4)	2 mu以下の黒色光沢粒、微細な透明光沢粒を少量 含み、1 mu以下の軟質赤色粒、灰白色粒をわずか に含む。	内面外面に黒色物付着
57	深鉢	胴	G 3	横方向のミガキ	横方向のミガキ	赤褐 (5 YR 4 / 6)	にぶい黄褐 (10YR	1 mm以下のにぶい灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む。	外面にスス付着、黒斑
58	深鉢	П	3号竪穴	ヨコナデ	刹帷	灰黄褐 (10YR 4 / 2)	にぶい黄褐 (10YR 4/3)	2 mm以下の軟質赤色粒、黒色光沢粒、透明光沢粒を含む。	
59	深鉢	底	E~F3Ⅲ 層	ナデか	ナデか	にぶい黄橙 (10YR 6 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 6 / 4)	2 mm~微細な透明光沢粒、1 mm以下の褐灰色粒を 多量に含む。	残存率:底部1/8 推定底径:約6.4cm
60	深鉢	口~胴	E 3	横方向のナデ 横方向の粗いナデ(部分的に横・斜め方向 のナデ) 丁寧なナデ	横・斜め方向の丁寧なナデ 横方向のケズリ	灰黄褐 (10YR 6 / 2)	浅黄 (2.5Y 7 / 3)	微細な灰白色粒、褐灰色粒、1 mm以下のガラス質 粒、黒色光沢粒をわずかに含む	波状口縁 頸部に段 外面一部にスス付着 内面一部に黒変
61	深鉢		7号竪穴	横方向のナデ	ていねいなナデ 横方向の粗いナデ	浅黄 (2.5Y 7 / 3)	灰黄 (2.5Y 7 / 2)	2 m以下の灰白色粒、微細な黒色光沢粒を多量に 含み、1 m以下の淡黄色粒、1 m程度の棒状黒色 粒をわずかに含む。	外面に黒斑、スス付着
62	深鉢	胴	E 3	横方向のミガキ	横方向のミガキ	にぶい掲 (7.5YR 5 / 4)	褐灰 (10YR 4 / 1)	2 mm以下の浅黄色粒、透明光沢粒、黒褐色粒、黒色 光沢粒、灰白色粒をわずかに含む。	内面に黒斑
63	深鉢	П	D 2 IV層	横方向のナデ	横方向のナデ	橙 (7.5Y 7 / 6)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 3)	2 mm大〜微細な半透明粒子を含み、4 mm以下の灰 色粒をわずかに含む。	貼付突帶文
64	深鉢		7号竪穴	ナデ 横方向のミガキ	横方向ミガキ	褐灰 (5 YR 4/1)	褐灰 (5 YR 4 / 1)	1 mm以下の透明光沢粒を多量に含み、1 mm程度の 淡黄色粒、微細な黒色光沢粒を含み、微細な橙色 粒を少量含む	貼付突帶文
65	深鉢		E 2 Ⅲ	ヨコナデ ナデ	ナデ	にぶい赤褐 (5 YR 5 / 4)	にぶい赤褐 (5 YR 4/3)	2 m以下の黒色光沢粒、透明光沢粒を含み、3 m 以下の灰黄色粒、灰白色粒、略褐色粒をわずかに 含む。	波状口縁 内・外面にスス付着 貼付突帯文
			1	I.	i	1	1	ı	t .

第3表 土器観察表2

掲載			出土位置	器面調整	·· 文様	色	.润		
番号	器種	部位	区·Gr·層	外面	内面	外面	内面	胎土の特徴	型式・その他
66	深鉢	П	E 2 II	ナデ	ナデ	にぶい赤褐 (5 YR 5 / 4)	にぶい赤褐 (5 YR 5/3)	1 m以下の黒色光沢粒、透明光沢粒、にぶい黄橙、 灰白色粒を少量含む。	かじり跡 貼付突帯文
67	深鉢	П	E 3	横方向のナデ	横方向のナデ	浅黄橙 (10YR 8/3)	浅黄橙 (10YR 8/3)	1 m以下の灰白色粒、黒褐色粒を多量に含み、1 m以下の半透明光沢粒、明黄褐色粒をわずかに含 む。	貼付突帶文
68	深鉢	П	4号竪穴	貝殻条痕文後粗い工具ナデ	貝殻条痕文後ナデ	にぶい黄橙 (10YR 6 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 6 / 4)	3 mm以下の黒色粒・灰白色粒・にぶい黄褐色粒、2 mm以下の灰白色粒、微細な素母を含む。	
69	深鉢		F 2 II層	ナデ	ナデ 内面に顔料塗布か	にぶい黄橙 (10YR 6 / 4)	にぶい橙 (7.5YR 6 / 4)	1 mm以下の灰色、透明光沢粒を多量に含み、2 mm 以下の黒褐色粒、赤褐色粒を含む。	
70	深鉢	□~胴	H 2 H 1	横方向のナデ 横方向の粗いナデ 斜方向の見殻条痕文後ナデ 貼付突帶文	横方向のナデ 横位の貝殻条痕文の後部分的にナデ	にぶい赤褐 (5 YR 5 / 4)	掲 (7.5YR 4/3)	4 m以下の浅黄色粒、微細な透明光沢粒、白色半透明粒を多量に含み、2 m以下の黒色光沢粒を少量含み、3 m以下の黒色粒、褐色粒をわずかに含む。	推定口径:約26.3cm 胴部最大径:29.0cm 内・外面の一部にスス付着 内面下位の一部に炭化物
71	深鉢	胴	H 2	横方向のナデ 縦・斜方向の条痕文	ナデ(一部貝殻条痕文後ナデ)	褐灰 (10YR 4 / 1) 明黄褐 (10YR 7 / 6)	浅黄 (2.5Y 7/3) 黄褐 (2.5Y 5/4)	4 m以下の灰色粒、3 m以下の黒褐色粒を多量に 合み、2 m以下の透明光沢粒、微細なガラス質の 光沢粒を少量合み、微細な黒色光沢粒をわずかに 合む。	残在率:胴部1/4 外面上部にスス付着 内面の一部に黒斑・黒色物付 着 胴部上部に穿孔
72	深鉢	底	V層	横方向のナデ ナデ	ナデ	淡黄 (2.5Y 8 / 4)	灰黄 (2.5Y 7 / 2)	1 m以下の褐灰色粒、褐色粒、黒色粒を含み、微細な棒状の黒色粒をわずかに含む。	推定底径:9.75cm 残存率:底部1/2 内・外面に一部黒変か
73	鉢	П	E 1	横方向のナデ	横方向のナデ	浅黄橙 (10YR 8 / 4)	浅黄橙 (10YR 8 / 4)	4 mm以下の明褐色粒、1 mm以下の半透明粒、黒色 粒をわずかに含む。	
74	鉢		H 2	横方向のナデ 粗いナデ	丁寧な横方向のミガキ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 3)	黄灰 (10YR 7 / 3)	1 mm以下の灰白色粒を含む。	
75	鉢	□∼胴	C 2	ナデ 横方向の粗いナデ	ナデ後ミガキ	灰黄褐色 (10YR 6 / 2)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 3)	1 mi以下の褐灰色粒、黒色光沢粒、透明光沢粒を含み、1~2 mi大の褐色粒をわずかに含む。	穿孔 残存率: 1/11(口縁) 外面全体にスス付着
76	鉢	口~胴	H 2	横方向の粗いナデ	横方向のミガキ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 3)	にぶい黄褐 (10YR 5 / 3)	3 mm以下の灰白色粒、透明光沢粒を含む。	外面にスス付着 内面に黒斑
77	鉢	□∼胴	E 3	横方向の粗いナデ	横方向のミガキ	略灰黄 (25Y 5 / 2)	灰黄 (25Y 6 / 2)	微細な透明光沢粒を多量に含み、2 mm以下の黒色 光沢粒・灰白色粒・にぶい黄橙色粒を少量含み、1 mm以下の暗赤褐色粒をわずかに含む。	残存率 1 / 11 穿孔あり 内面に黒斑あり 外面全体にスス付着
78	鉢	口~胴	SH	ナデ	横位の貝殻条痕文の後ナデ	にぶい褐 (7.5YR 5 / 4)	暗灰黄 (25Y 5 / 2)	1 mm以下の黒色粒を少量含み、2 mm以下の灰白色 粒をわずかに含む。	残存率: 1 / 7
79	鉢	□∼胴	攪乱	貝殻条痕文の後横方向のミガキ 縦方向のミガキ 横方向のミガキ	貝殻条痕文後横方向のミガキ 横方向の貝殻条痕文後横方向のミガキ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい掲 (10R 5 / 3)	2m以下のにぶい灰白色粒、黒色光沢粒、軟質赤色粒、微細な透明光沢粒を多量に含み、3m以下の棒状黒色粒をわずかに含む。	外面にスス付着 残存率: 1 / 8 (胴部) 推定口径: 20.2cm
80	鉢	口~胴	攪乱	ナデ	貝殻条痕文か 粗い工具ナデ	にぶい橙 (7.5YR 6 / 4)	橙 (7.5YR 7 / 6)	2 m以下の灰白色粒、透明光沢粒、黒褐色粒、褐灰色粒、黒色粒、軟質赤色粒を含む。	胴部上部に穿孔
81	鉢	□∼胴	4 号土坑	横方向の条痕文一部工具ナデ 粗い工具ナデ	貝殻条痕文	にぶい黄褐 (10YR 6 / 4)	にぶい黄褐 (10YR 7 / 4)	2 m以下の灰白色粒、にぶい灰白色粒、1 m以下 の黒色光沢粒、黒色粒、透明光沢粒、微細なガラス 質の光沢粒を含む。	残存率: 1 / 6 (口縁) 推定口径: 43.0cm 推定器高: 8.2cm 胴部外面の全体にスス付着
82	浅鉢		1号竪穴	横方向のミガキ 沈線	横方向のミガキ	灰黄 (25Y 6 / 2)	灰黄色 (25Y 6 / 2)	微細な透明光沢粒を少量含み、1 mm以下の灰白色 粒、微細な黒色光沢粒をわずかに含む。	
83	浅鉢	П	F1 F2	横方向のミガキ	横方向のナデ 沈線	浅黄 (2.5Y 7 / 4) 橙 (7.5YR 7 / 6)	浅黄 (25Y 7 / 4)	微細な透明光沢粒を含み、1 mm以下の褐灰色粒・ 灰白色粒、微細な黒色光沢粒をわずかに含む。	外面にスス付着 内面に黒色物付着 残存率: 1/11 黒川式 口縁部分にヒレ状の突起
84	浅鉢	П	2号竪穴	ョコナデ 横方向のミガキ	ミガキ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 3)	黄灰 (2.5Y 4 / 1)	微細な透明光沢粒を含み、2 m以下の明黄褐色粒を少量含み、微細な黒色光沢粒をわずかに含む。	外面に圧痕か
85	浅鉢	П	SH	ミガキ 沈線文	ミガキ	灰黄 (2.5Y 6 / 2)	灰黄 (2.5Y 7 / 2)	微細な光沢粒、淡黄色粒を含み、1 m以下の灰白 色粒をわずかに含む。	
86	浅鉢	胴	提乱	横方向のミガキ	横方向のミガキ	黒褐 (25Y 3 / 2)	無 (2.5Y 2 / 1)	微細な灰白色粒、ガラス質の粒子を含み、1 mm以 下の灰白色粒を少量含む。	残存率: 1 /13
87	浅鉢	胴	5号竪穴	横方向のミガキ	横方向のミガキ	黒褐 (10YR 3 / 1)	にぶい黄褐 (10YR 5 / 3)	微細な透明光沢粒を多量含み、1 mm以下の黒色粒、 軟質赤色粒をわずかに含む。	外面の一部にスス付着
88	浅鉢	胴	F 2 Ⅲ層	横方向のミガキ	横方向のミガキ後ナデ	橙 (7.5YR 7 / 6)	にぶい黄 (2.5Y 6 / 4)	1 m以下の灰白色粒、黒色光沢粒、ガラス質の粒 子を少量含み、2 m大の褐色粒をわずかに含む。	外面の全体的にスス付着
89	浅鉢	口~胴	C 2 I · IV層	横方向のミガキ 沈線文	横方向のミガキ ミガキ 沈線文	にぶい橙(10YR 6/3) 褐灰 (10YR 4/1)	黄灰 (25Y 4 / 1)	微細な黒色光沢粒、透明光沢粒を多量に含み、1 mm以下の淡黄色粒を含む。	推定口径:17.8cm 残存率: 1 / 8
90	浅鉢	胴~底	4 号土坑 I 層	組織痕部分的にナデ	多方向の工具ナデ 工具ナデ後丁寧なナデ	淡黄 (2.5Y 8 / 4)	灰黄 (2.5Y 7 / 2)	1 mm以下の楊灰色粒、褐色粒、黒色粒を含み、微細なガラス質の粒子、棒状の黒色粒をわずかに含む。	内面一部に黒変あり
91	浅鉢	底	4号土坑	ナデか	ナデか	橙(5 YR 6/ 6)	橙 (5 YR 6 / 6) にぶい黄橙 (10YR 6 / 4)	1 mm以下の灰白色粒、浅黄橙色粒、黒色粒を含み、 4 mm大の褐色粒、2 mm大の灰白色粒、灰褐色粒を わずかに含む。	残存率: 1 / 6 推定底径:12.8cm
98	売	□∼胴	1号竪穴	ョコナデ ナデ 多方向にミガキ	ヨコナデ ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい黄 (2.5Y 6 / 4)	5 m 大~ 1 m の 赤褐色粒、灰白色粒、灰褐色粒、黒色粒、白色光沢粒を含み、微細な透明光沢粒を少量含み、微細な黒色光沢粒をわずかに含む。	推定口径:24.0cm 外・内面に炭化物付着 貼付突帯文(工具による刻 み) 床面から出土
99	売	П	1号竪穴	斜・横方向の工具ナデのちナデ 多方向の工具ナデ 刻目貼付突帯文	横方向の工具ナデのちナデ	橙(7.5YR 7 / 6)	橙(7.5YR 7/ 6) 橙(5 YR 7/ 6)	4 m以下の灰褐色粒、灰白色粒、3 m以下の軟質 赤色粒、2 m以下のにぶい透明光沢粒、2 m以下 の黒褐色粒、棒状の黒色粒をわずかに含む。	残存率: 1/5(口縁)
100	売	□~胴	1 号竪穴	横ナデ、斜方向の工具ナデ 刻目貼付突帯文	斜め方向のハケ目 横ナデ	暗灰黄 (2.5Y 5 / 2)	浅黄 (2.5Y 7 / 4)	微細な透明光沢粒を多量に含み、4 m以下の灰白 色粒、黄灰色粒、にぶい赤褐色粒、2 m以下の黒褐 色粒、灰黄色粒、黒色光沢粒をわずかに含む。	残存率: 1 / 7 (胴部) 推定口径:約29.3cm
101	売	□∼胴	1号竪穴	様方向の工具ナデ 斜め方向の工具ナデ	機力向のナデ ナデ	にぶい橙 (7.5YR 7 / 4)	橙 (7.5YR 7 / 6)	数細なガラス質の光沢粒を多量に含み、5m以下 の灰褐色粒、赤褐色粒を少量含み、1m以下の黒 色粒、透明光沢粒をわずかに含む。	推定口径:342cm 残存率:12/13(口縁) 3/4(胴部) 外面一部にスス付着 内面中部に無変 刺目貼付要管(剣み部分に 布状の圧痕) 102と同一個体

第4表 土器観察表3

			出土位置	器面調			iii		
掲載 番号	器種	部位	区·G·F·層	外面	内面	外面	内面	胎土の特徴	型式・その他
102	売	底	1号竪穴	斜め方向の工具ナデ ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR 7 / 4)	にぶい橙 (7.5YR 7 / 4)	機綱なガラス質の光沢粒を多量に含み、5 m以下 の灰褐色粒、赤褐色粒を少量含み、1 m以下の黒 色粒、透明光沢粒をわずかに含む。	推定底径:7.8cm 疾存率:1/2 内面に黒斑 外面にスス付着 101と同一個体
103	売	口~胴	1号竪穴	斜め・縦方向のナデ 一部に棒状工具による粗い縦方向のナデ	横方向の工具ナデ後横方向のナデ 斜方向のハケメか	橙 (5 YR 6 / 6)	にぶい橙 (5 YR 6 / 4)	3 m以下の橙色粒、淡橙色粒、褐灰色粒、灰白色 粒、黑褐色粒を含む。	残存率: 2/3 口径: 約19.3cm 器高: 約25.6cm 開部最大径: 約24.8cm 外面全体にスス付着 床面から出土
104	燛	底	1 号竪穴	工具による斜め方向のナデ	工具による斜め方向のナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	浅黄橙 (7.5YR 8 / 6)	1 m以下の馬色粒、微細な透明光沢粒を多量に含み、5 m以下の褐灰色粒、赤褐色粒を含み、1 m程度の灰白色粒、透明光沢粒をわずかに含む。	底部外面一部に黒色物付着 内面に黒斑 底径:約6cm
105	壺	頭~肩	1 号竪穴	横方向のナデ後ミガキ	横方向のナデ	橙 (5YR6/6)	明黄褐 (10YR 7 / 6)	1 mm以下の灰白色粒、赤褐色粒、黒色粒、微細な雲母をわずかに含む。	推定頭径約9.2cm 残存率 1/7
106	壺	頭~肩	1号竪穴	斜め方向の工具ナデ後横・斜め方向のミ ガキ	斜め方向の工具ナデ	明黄褐 (10YR 7 / 6)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	5 m以下の暗灰色粒、灰白粒、褐色粒、赤褐色粒、 微細な透明光沢粒を含む。	外面に黒斑、黒色付着物
107	高坏	口~坏	1 号竪穴	坏:ナデ後斜め方向のミガキ 脚:ナデ後鞭:斜方向のミガキ 裾:ナデ後横方向のミガキ	坏部: 調整不明 脚部: ナデ	橙 (7.5YR 6 / 6)	浅黄橙 (10YR 8 / 4) 橙 (7.5YR 7 / 6)	3~5 mmの褐色粒、黒色粒、褐灰色粒、1 mm以下の 灰白色粒、透明光沢粒をわずかに含む。	推定口径:約26.8cm 坏部内面に黒斑 108と同一個体
108	高坏	坏~裾	1 号竪穴	ヨコナデ ナデ後一部斜め方向のミガキ	ナデか	橙 (7.5YR 6 / 6)	浅黄橙 (10YR 8 / 4)	3~5mmの褐色粒、黒色粒、褐灰色粒、1mm以下の 灰白色粒、透明光沢粒をわずかに含む。	残存率: 2/3 坏部内面に黒斑 107と同一個体
109	高坏	坏~裾	1号堅穴	工具ナデのちナデ 工具ナデ	横方向のナデ ミガキ	浅黄橙 (10YR 8 / 4) にぶい橙 (7.5YR 7 / 4)	明黄褐 (10YR 7/6) にぶい黄橙 (10YR 7/4) 橙 (75YR 7/6)	3 m以下の楊灰色粒を含み、3 m以下の黒褐色粒、 赤褐色粒を少量含み、2 m以下のにぶい適明元沢 板、1 m以下の棒状黒色粒をわずかに含む。	内·外面一部に黒斑 顔料を塗布 脚部内·外面に圧痕 推定口径:約20.4cm 底径:推定到16.6cm 器高:約19.5cm 床面から出土
110	高坏	坏	1号竪穴	ナデ後横方向にミガキ ナデ後ミガキ	ナデ後横方向のミガキ ナデ後ミガキ	橙 (5 YR 6 / 8)	橙 (5 YR 6 / 8)	1 mm以下の灰白色粒、白色粒、黒色粒、褐色粒を多量に含み、0.5mm以下の黒色光沢粒、透明光沢粒をわずかに含む。	残存率: 1 / 3 口径:16.5cm
111	高坏	坏	1 号竪穴	横方向のナデ後ミガキ 斜め方向のミガキ 横方向のナデ	横方向のナデ後ミガキか	橙 (7.5YR 6 / 8)	橙 (7.5YR 6 / 6)	1 mm以下の暗灰色粒、透明光沢粒をわずかに含む。	残存率: 1/3 (坏部) 内面に黒斑
112	高坏	脚	1 号竪穴	横方向のナデ、横方向のナデ後ミガキ	ナデ後ミガキ 縦方向のナデ	橙 (7.5YR 7 / 6) 黄橙 (7.5YR 7 / 8)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	微細な雲母を少量含み、1 mm以下の灰色粒をわず かに含む。	残存率: 1/3 坏部内面に黒斑 床面から出土
113	高坏	脚~裾	1 号竪穴	脚部:横方向のナデ 縦・斜方向のミガキ 裾部:ミガキ、横方向のナデ	脚部:横方向のケズリ後ナデ 脚部:横方向のナデ	橙 (7.5YR 7 / 6) 浅黄 (2.5Y 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	3 m以下のにぶい褐色粒、2 m以下の黒色粒、灰 白色粒、1 m以下の半透明のにぶい光沢粒、微細 な透明光沢粒をわずかに含む。	残存率:ほぼ完形 底径:約16.4cm 裾部内・外面一部に黒斑 内面裾部一部に顔料を塗布 か
114	高坏	脚~裾	1 号竪穴	ナデ	脚部:横方向のケズリ 裾部:横方向のナデ	明黄褐 (10YR 7 / 6)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	3 mm以下のにぶい橙色粒、2 mm以下の棒状黒色粒、 透明光沢粒、明褐灰色粒、黒色粒をわずかに含む。	残存率 脚部完形 外面に顔料を塗布か
115	高坏	裾	1号竪穴	斜方向のナデ ヨコナデ	横方向のナデ	橙 (7.5YR 7 / 6)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	1 mm以下の黒色光沢粒、透明光沢粒、灰色粒を少量含み、3 mm以下の赤褐色粒をわずかに含む。	残存率 1/3 推定口径18.5cm
116	鉢	□~胴	1 号竪穴	斜方向のミガキ	横方向のナデ	明黄褐 (10YR 7 / 6) 黒 (10YR 2 / 1)	明黄褐 (10YR 2 / 1)	5 mm程度の明赤褐色粒、3 mm程度のにぶい赤褐色粒、1 mm以下の透明光沢粒、黒色粒をわずかに含む。	口径:約14.5cm 外面にスス付着
117	鉢	□~胴	1 号竪穴	調整不明	横方向のナデか	浅黄橙 (10YR 8 / 4)	黄橙 (10YR 8 / 6)	2 m以下の透明光沢粒、雲母、棒状黒色粒、1 m以 下の褐灰色粒をわずかに含む。	推定口径:約16.2cm 残存率:1/5(口縁) 外面に黒斑、黒色物が付着 内面に黒斑、口縁部に圧痕
118	小型丸 底壺	□∼胴	1号竪穴	斜方向のミガキ 横方向のナデ	横方向のナデ	明黄褐 (10YR 7 / 6)	橙 (7.5 Y R 7 / 6)	1 mm以下の灰白色粒、透明光沢粒、黒色粒を少量 含み、1 mm以下の棒状黒色粒をわずかに含む。	残存率: 1 / 4 (□縁)
119	小型土 器(壺)	口~胴	1号竪穴	横方向のナデ後斜方向のミガキ	横方向のナデ後斜方向のミガキ	橙 (7.5YR 7 / 6)	橙 (7.5YR 7 / 6)	1mm以下の黒色粒を含み、1mm以下の灰白色粒、 にぶい赤褐色粒、透明光沢粒をわずかに含む。	口径:推定約6.8cm 残存率: 1 / 6
120	小型土 器(壹)	□∼胴	1号竪穴	刻目貼付突帯文 ナデ後斜方向の工具による細いナデ	斜方向の工具ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	明黄褐 (10YR 7 / 6)	5 m以下のにぶい褐色粒、4 m以下の褐灰色粒を含み、3 m以下の灰白色粒、微細な透明光沢粒をわずかに合む。	口径:推定約30.3cm 外面にスス、外面・内面に黒 選 残存率:1/8(口縁) 床面から出土
121	小型土 器(壺)	口~頸	1 号竪穴	横方向のナデ	横方向のナデ	橙 (5 YR 6 / 6) 赤褐 (5 YR 4 / 6)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4) 橙 (5 YR 6 / 6)	1 mm以下の白色粒、赤褐色粒、黒色粒、灰白色粒を わずかに含む。	残存率: 1 / 5 口径: 推定約6.4cm 頭径: 推定約3.4cm
122	小型丸 底壺	□∼底	1号竪穴	斜方向のミガキ、ミガキ	横方向のナデ、一部指おさえあり、ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4) にぶい橙 (10YR 7 / 4)	灰黄褐 (10YR 6 / 2) にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	2m以下の棒状黒色粒、透明光沢粒を少量合み、 5m以下の褐灰色粒、2m以下のにぶい白色光沢 粒、白色粒をわずかに合む。	口径:推定約7.9cm 胴部最大径:約8.3cm 胴部の外面・口縁部から底部 の内面に黒斑 胴部内面に圧痕 床面から出土
125	売	口~胴	2号竪穴	多方向の工具ナデ 貼付刻目突帯文 ハケ目	ハケ目 多方向の工具ナデ	浅黄 (25Y 7 / 4)	浅黄 (2.5Y 7 / 4)	5 m以下のにぶい赤褐色粒を少量含み、3 m以下 のにぶい黄褐色粒、2 m以下の灰褐色粒、1 m以 下の実母をわずかに含む。	残存率: 1/8 (口縁) 口径:推定約31.0cm 外面全体にスス付着 内面一部に黒斑 床面から出土
126	売	□~胴	2 号竪穴	刻目貼付突帯文 ナデ後斜方向の工具による細いナデ	斜方向の工具ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	明黄褐 (10YR 7 / 6)	5 mm以下のにぶい褐色粒、4 mm以下の褐灰色粒を含み、3 mm以下の灰白色粒、微細な透明光沢粒をわずかに含む。	口径:推定約30.3cm 外面にスス、内・外面に黒斑 残存率:口縁部1/8
127	売	胴~底	2号竪穴	ナデ 横方向のナデ 指押さえ	粗い工具ナデ	浅黄 (25Y 7 / 4) にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4) にぶい橙 (5 YR 7/4)	機網な透明光沢粒を含み、5 m以下の黒褐色粒、 褐色粒、4 m以下の褐灰色粒を少量含み、1 m程 度の灰白色粒、1 m以下の黒色光沢粒をわずかに 含む。	底径:推定約5.3cm 残存率:3/4(底部) 胴部外面にスス付着 底部全体に黒斑 底部内面に黒色物付着
128	売	胴~底	2 号竪穴	ナデ後斜方向の工具ナデ 横方向のナデ	斜方向の工具ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい橙 (7.5YR 6 / 4)	5 mm以下の掲灰色粒、赤褐色粒を少量含み、微細な黒色粒、雲母をわずかに含む。	残存率: 1/5 底面に黒色付着物

第5表 土器観察表4

掲載			出土位置	器面調整	· 文様	色	iii		
番号	器種	部位	区·Gr·層	外面	内面	外面	内面	胎土の特徴	型式・その他
129	查	П	2号竪穴	ヨコナデ 貼付刻目突帶文	ヨコナデ ナデ	橙 (5 YR 6 / 6)	にぶい黄橙 (10YR 6 / 4)	1 mm以下の灰白色粒、黒色光沢粒、微細な透明光 沢粒をわずかに含む。	残存率: 1 / 8 (口縁) 外面全体に丹塗り
130	壺	□∼胴	2号竪穴	横方向の工具ナデ 貼付刻目突帯文 ナデのち散後なミガキ	主に横方向の工具ナデ 多方向の太い工具ナデ 斜方向の細い工具ナデ	にぶい黄橙 (10YR 6 / 3) にぶい橙 (7.5YR 6 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 6 / 3)	3 m以下の褐灰色粒を含み、5 m以下の赤褐色粒、 2 m以下の黄橙色粒、灰白色粒、黒色光沢粒をわずかに含む。	残存率: 1/5(口縁) 口径:推定約11.8cm 内・外面に一部黒斑
131	高坏	坏	2号堅穴	ヨロナデミガキ	ヨコナデ 横方向のミガキ、	橙 (7.5YR 6 / 6)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	1.5mm以下の黒色粒、透明光沢粒、灰白色粒、赤褐色粒、にぶい黄橙色粒を多量に含み、1 mm以下の棒状黒色光沢粒をわずかに含む。	残存率:完形(坏部) 推定口径:16.7cm 外面一部に黒斑
132	高坏	坏	2号竪穴	横方向のナデ ミガキ 横方向のナデ	横方向のナデ ミガキ	橙 (5 YR 6/6)	橙 (5 YR 6 / 6) にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	1 m以下の灰白色粒を含み、微細な透明光沢粒を 少量含む。	残存率: 1 / 8 (口縁) 推定口径: 20.4cm
133	高坏	坏	2号竪穴	横方向のナデ ナデ後斜方向・横方向のミガキ	横方向のナデ 横方向のミガキ	明赤褐 (5 YR 5/6)	橙 (7.5YR 6 / 6)	15mm以下の黒色粒、透明光沢粒、灰白色粒を多量 に含み、15mm以下の赤褐色粒、にぶい黄褐色をわ ずかに含む。	残存率: 1 / 2 内面一部、黒斑
134	高坏	坏	2号竪穴	縦方向のミガキ ヨコナデ	横方向のナデ	橙 (7.5YR 7/6) 浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8 / 4)	1 mm以下の赤褐色粒、灰色粒、白色光沢粒、黒色光 沢粒、微細な透明光沢粒を含む。	残存率: 4/5 (坏部) 口径:推定約17.4cm 口縁外面付近に黒斑
135	高坏	脚	2号竪穴	丁寧な縦方向のミガキ	横方向の工具ナデ 横方向の丁寧な工具ナデ	明赤褐 (5 YR 5/6)	橙 (5 YR 6 / 6)	機組な透明光沢粒を含み、3 m以下の明赤褐色、 2 m以下の灰白色粒、1 m以下の明黄褐色粒をわずかに含む。	残存率: 1 / 3 (脚柱部)
136	高坏	脚	2号竪穴	工具ナデ	風化のため調整不明	橙 (5 YR 7 / 8) 橙 (7.5 YR 7 / 6)	橙 (5 YR 7/8)	微細なガラス質の透明光沢粒を多量に含み、1 mm 以下の褐灰色粒を少量含み、7 mm以下の軟質赤色 粒、1 mm以下の灰白色粒、黒色光沢粒をわずかに 含む。	残存率: 7 / 8 (脚柱部)
137	高坏	脚~裾	2号竪穴	ヨコナデ 工具ナデ後ナデ	ナデ 横方向のナデ ヨコナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	橙 (7.5YR 7 / 6)	1 mm以下の黒色粒、灰色粒、白色粒を少量含み、5 mm大の赤褐色粒をわずかに含む。	残存率: 2/3
138	高坏	坏~裾	2号竪穴	「「「「「「「」」」 「「「」」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」	坏部:横方向のナデ後横・斜ミガキ 脚部:ナデ 裾部:横方向のナデ	にぶい橙 (7.5YR 7 / 4) にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい橙 (7.5YR 7 / 4) にぶい黄橙 (10Y R 7 / 4)	微細な透明光沢粒を含み、1 m以下の黒色粒、灰 色粒、赤褐色粒、白色粒、雲母を少量含む。	残存率: 4 / 5 (坏底部) 1 / 5 (脚) 推定口径: 15.8cm 推定器高: 12.2cm 推定底径: 9.6cm
139	鉢	□∼底	2号竪穴	ナデ後斜め方向のミガキ	横方向のナデ ミガキ	橙 (7.5YR 7 / 6)	橙 (7.5YR 7 / 6)	1 mm以下の無色光沢粒、透明光沢粒、灰白色粒を 含み、1 mm以下の白色光沢粒、棒状黒色粒をわず かに含む。	残存率: 1 / 4 (口縁) 口径:推定約15.3cm 底径:約4.9cm 器高:約9.75cm 底部外面付近に一部黒珠 床面から出土
140	小型土 器	П	2 号竪穴	ヨコナデ ミガキ 横方向のナデ	ヨコナデ ミガキ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	2 mm以下のにぶい黄橙色粒、1 mm以下の灰赤色粒、 黒色光沢粒をわずかに含む。	残存率: 1/10(口縁) 1/5 (頭部) 推定口径:6.7cm
141	小型土 器		2号竪穴	ヨコナデ 斜方向のミガキ	ヨコナデ ミガキ(一部調整不明)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	1 mm以下の透明光沢粒をわずかに含む。	残存率 口縁部1/6 推定口径8.0mm
142	小型土 器	胴~底	2号竪穴	斜方向のミガキ 横方向のミガキ後一部ナデ	ナデ	橙 (5 YR 6 / 6) にぶい黄橙 (7.5 YR 7 / 4)	橙 (5 YR 6 / 6)	1 mm以下の赤褐色粒、黒色粒、黒色光沢粒を少量 含み、微細な雲母をわずかに含む。	残存率: 1 / 2 (胴部) 胴部最大径:14.2cm 広範囲に黒斑と黒色付着物
143	小型土 器	胴~底	2号竪穴	横方向のナデ後ミガキ	横方向のナデ ナデ	にぶい黄橙 (10YR 6 / 4)	にぶい黄橙 (7/4)	微細な透明光沢粒を含み、1 m以下の黒色粒、灰色粒、赤褐色粒、灰白色粒を少量含み、微細な雲母をわずかに含む。	残存率: 2/3 (底部) 推定底径:1.2cm 外面に黒斑 床面から出土
144	小型土 器	胴~底	2号竪穴	横方向のミガキ	横方向のナデ	橙 (7.5YR 7 / 6)	にぶい橙 (7.5YR 7 / 4)	微細な透明光沢粒を含み、1 mm以下の黒色粒、褐色粒を少量含む。	残存率: 1 / 4 (底部)
145	小型土 器	底	2号竪穴	丁寧なナデ	丁寧なナデ	橙 (5 YR 6 / 6)	橙 (5 YR 6/6)	1 mm以下の灰白色粒、白色光沢粒、黒色光沢粒、透明光沢粒、微細なガラス質の光沢粒を含む。	残存率: 1 / 3 (底部) 推定底径: 3.0cm
146	小型土器	底	2号竪穴	丁寧なナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 (10YR 6 / 3)	にぶい橙 (7.5YR 7 / 4)	1 m以下の適明光沢粒を含み、3 m以下の灰褐色 粒、2 m以下の白色光沢粒、灰色粒、微細な黒色光 沢粒をわずかに含む。	残存率: 1/3 (底部) 推定底径:3.0cm 外面に黒色物が付着
147	小型土器	不明	2号竪穴	ヨコナデ	ナデ	浅黄 (25Y 7 / 4)	浅黄 (25Y 7 / 4) 黄灰 (25Y 6 / 1)	2 mm以下の黄灰色粒、1 mm以下の黑色光沢粒、透明光沢粒をわずかに含む。	推定口径:7.8cm 残存高:2.0cm 残存率:1/5 床面から出土
149	薨	底	3号竪穴	縦方向の工具ナデ ナデ 粗いナデ	斜方向の工具ナア	にぶい赤褐 (5 YR 5 / 4)	橙 (5 YR 6 / 6)	3 m以下の赤褐色粒、秋赤色粒、にぶい赤褐色粒、 にぶい黄褐色粒、灰白色粒、黒色粒、微細なガラス 質の透明光沢粒を含み、微細な雲母をわずかに含 む。	残存率:完形(底部) 底径:6.6cm 底部付近に強い工具ナデ
150	売	底	3号竪穴	縦方向の工具ナデ ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR 6 / 4)	灰黄褐 (10YR 6 / 2)	8 m以下の黒色粒、灰白色粒、赤褐色粒、にぶい赤 褐色粒、にぶい黄褐色粒を含み、1 mm程度の透明 光沢粒を少量含む。	残存率:完形(底部) 底径:7.6cm
151	高坏	坏	3号竪穴	ヨコナデ 横方向のナデ	ヨコナデ 横方向の工具ナデ 斜方向のナデ	にぶい橙 (7.5YR 7 / 4)	橙 (7.5YR 7 / 6)	機綱な透明光沢粒を少量含み、2 m以下の灰白色 粒、1 m以下の灰色粒、軟質赤色粒、雲母をわずか に含む。	残存率: 1 / 6 (口縁) 推定口径:17.5cm 外面全体、口縁内面の一部 に黒斑、黒色物
152	高坏	坏	3号竪穴	横方向のナデ	ヨコナデ 横方向の工具ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 3)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	1 mm以下の黒色光沢粒、透明光沢粒、灰白色粒を わずかに含む。	
153	小型土 器	口~頸	3号竪穴	ヨコナデ 斜方向のミガキ	ヨコナデ ナデ	橙 (7.5YR 7 / 6)	橙 (5 YR 6 / 6)	1 ms以下の適明光沢粒を少量合み、2 ms以下の灰 白色粒をわずかに合む。	残存率: 1/7 (顕部) 推定口径: 89cm 外面に黒色物が付着 丹途り 内面に細く強い横方向の工 具痕
154	売	胴~底	4号竪穴	横・斜め方向の工具ナデ 横方向のナデ(粘土の弛み)	横方向のナデ(工具ナデの箇所あり)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	浅黄橙 (10YR 8 / 4)	5 m以下の掲灰色粒、赤褐色粒を少量含み、2 m 大の白色光沢粒、透明光沢粒をわずかに含む。	残存率: 1/5 推定底径: 最小6.0cm 最大6.8cm 底部外面付近に黒斑 底部外面と胴部内面に黒色 付着物
155	売	胴~底	4 号竪穴	縦方向(一部横方向)の工具ナデ ナデ	横方向の工具ナデ ナデ(中心付近に工具圧痕あり)	にぶい黄橙 (10YR 6 / 4)	明赤褐 (5 YR 5 / 6)	3 m以下の灰色粒、浅黄橙色粒、赤褐色粒、1 m以 下の灰白色粒を少量含み、微糊な雲母をわずかに 含む。	残存率: 1 / 5 推定底径:1.2cm 底部内面中心部に1.2cm×0.5 cmの窪み 内・外面に黒斑

第6表 土器観察表5

掲載			出土位置	器面調整	··文様	色	.調		
番号	器種	部位	区·Gr·層	外面	内面	外面	内面	胎土の特徴	型式・その他
156	壺	頭~底	4号竪穴	ナデ後ミガキか ナデ後斜方向のミガキ	ナデ	橙 (7.5YR 6 / 6)	橙 (5YR 6/6)	2m以下の軟資赤色粒、1m以下の灰白色粒、褐 灰色粒、黒褐色粒を含む。	残存率:ほぼ完形 (類部以下) 胴部最大径:15.0cm 外面全体にスス付着 頸部内面に粘土のつなぎ目 床面から出土
157	萤	胴~底	4 号竪穴	縦方向(一部横)の工具ナデ ナデ	横方向のナデナデ	にぶい黄橙 (10YR 6 / 4)	明赤褐 (5YR 5/6)	3m以下の灰色粒、浅黄橙色粒、赤褐色粒、1m以 下の灰白色粒を少量含み、微細な紫母をわずかに 含む。	推定底径:1.2cm 残存率:1/5 底部内面中心付近に工具圧 衰 内・外面に黒斑
158	高坏	口~裾	4 号竪穴 F 4 Ⅲ	「「おおっぱ」 「おおっぱ」 「おおまっぱ」 「おおまま」 「おおまま」 「おおまま」 「おおまま」 「おおままま」 「おおままま」 「おおままま」 「おおままま」 「おおまままま」 「おおままままま」 「おおまままままままままま	坏部:ヨコナデ、ミガキ、脚部:縦方向の ナデ 裾部:横方向のケズリ、横方向のナデ	浅黄橙 (10YR 8/3)	浅黄橙 (10YR 8 / 4)	1 m以下の透明光沢粒を少量含み、2 m以下の灰 白色粒をわずかに含む。	残存率:ほぼ完形(脚部) 1/10(口縁) 推定口径:13.9cm 外面の一部に丹塗り
159	高坏	坏	4 号竪穴	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ 横方向のナデ	橙 (5 YR 6/6)	明赤褐 (5 YR 5 / 8)	2 mm以下の灰白色粒、1 mm以下の灰色粒、黒色光 沢粒、微細な透明光沢粒をわずかに含む。	残存率: 2/5 (口縁) 推定口径:16.1cm 口縁部内・外面の一部に黒斑
160	高坏	坏	4 号竪穴	多方向のミガキ	ミガキ	浅黄橙 (10YR 8 / 4)	橙 (7.5YR 7 / 6) にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	1 mm以下の適明光沢粒を少量含み、5 mm以下の灰白色粒、2 mm以下の黒色光沢粒、灰色粒、1 mm以下の軟質赤色粒をわずかに含む。	内・外面の一部に黒斑 床面から出土
161	高坏	脚~裾	4 号竪穴	縦・横方向の工具ナデ後ナデ	横方向のナデ 斜方向の工具ナデ ヨコナデ	橙 (7.5YR 7 / 6) 浅黄 (2.5Y 7 / 4)	浅黄 (25Y 7 / 4) 橙 (7.5YR 7 / 6)	1 mm以下の掲灰色紋、褐色紋、黒色粒、ガラス質の 光沢粒を少量含む。	残存率: 1 / 3 (裾部) 推定底径:13.2cm 脚部外面・裾部内面に黒斑
162	高坏	脚~裾	4 号竪穴	斜め方向のミガキ ヨコナデ	ケズリナデ	明黄褐 (10YR 7 / 6)	明黄褐 (10YR 7 / 6)	1 mm以下の灰白色粒、褐色粒、黒色粒を含み、微細な透明光沢粒を少量含む。	底径:12.1cm 残存率: 2 / 3 (脚部) 外面に一部黒斑
163	高坏	脚~裾	4 号竪穴	斜め方向のミガキ後多方向のナデ	横方向のナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	橙 (7.5YR 7 / 6)	1 mm以下の黒色光沢粒、透明光沢粒、ガラス質の 光沢粒を含み、微細な褐灰色粒、褐色粒を少量含 む。	残存率: 1 / 8 ~ 1 / 9 (裾部) 推定底径:11.5cm
164	高坏	脚~裾	4 号竪穴	脚部:縦方向のミガキ後顔料を塗布か 裾部:横方向のナデ	脚部: 横方向の工具ナデ 裾部: 横方向のナデ	橙 (7.5YR 7 / 6)	橙 (7.5YR 6 / 6)	1 mm以下の灰白色粒、褐灰色粒、黒褐色粒、透明光 沢粒、軟質赤色粒を含み、微細なガラス質の透明 光沢粒を少量含む。	残存率: 2/3 (脚部〜裾部) 推定底径:10.8cm 床面から出土
165	高坏	脚	4 号竪穴	ヨコナデ 縦方向のミガキ	坏部: 多方向のミガキ 脚部: 斜め方向の工具ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	5 m程度の軟質赤色粒を少量含み、2 m以下の灰白色粒、褐灰色粒、黒色粒を含み、1 m程度の透明 光沢粒をわずかに含む。	残存率: 1 / 2 (脚部) 脚部外面、坏部内面に黒斑 床面から出土
166	高坏	裾	4 号竪穴	ミガキ 横方向のナデ ナデ	ナデ 横方向のナデ	橙 (7.5YR 6 / 6) 明赤褐 (2.5YR 5 / 6)	橙 (7.5YR 6 / 6) 橙 (5 YR 6 / 6)	微欄な適明光沢粒を多量に含み、2mm以下の灰白 色粒、1mm以下の黒色光沢粒、微細な雲母をわず かに含む。	残存率: 2/3 (裾部) 底径:13.15cm 内面の一部に黒斑 床面から出土。
167	高坏 (転用羽 口)	裾	4号竪穴	横方向のナデ後ミガキ ヨコナデ	ナデ 横方向の工具ナデ 横方向の工具ナデ後ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	橙 (7.5YR 7 / 6)	機綱なガラス質の光沢粒を含み、1 m以下の液黄 色核、黒褐色核、赤褐色核、板細な雲母をわずかに 含む。	推定底径:11.4cm 疾存率: 3/5(裾部) 概部内面下部に黒斑 外面に高坏の転用による羽 口の溶解 一部鉄滓付着
168	鉢	口~底	4 号竪穴	ナデ 横方向のナデ後斜め方向のハケ目 横方向のナデ	横・斜方向の工具ナデ	にぶい黄橙 (10YR 6/3)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	5m以下の黒色粒、黒褐色粒、赤褐色粒、灰色粒を 少量含み、微細を雲母をわずかに含む。	推定口径:13.6cm 推定底径:6.4cm 推定底径:6.4cm 推定器高:10.2cm 残存率:3/5 内外面に黑斑 外面には黑色付着物 床面から出土
169	鉢	底	4号竪穴	横方向のナデ 横-斜方向のナデ 丁寧なナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	1 m以下の透明光沢粒、微細なガラス質の光沢粒を含み、2 m以下の浅黄橙色粒、灰色粒、赤褐色粒、黒色粒を少量含み、微細な雲母をわずかに含む。	推定底径:4.9cm 残存率:7/8 底部付近外面に黒斑 床面から出土
170	小型土 器	口~胴	4号竪穴	縦方向のヘラミガキ後ヨコナデ 縦方向のヘラミガキ 縦方向のヘラミガキ後折方向のトデ	ヨコナデ 懐·斜方向のナデ	橙 (7.5YR 7 / 6)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	1 mm以下の掲灰色粒をわずかに含む。	
171	輔専用 羽口		4 号竪穴			灰白 (25Y 7/1) 浅黄 (10YR 7/2)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 2)	1 m以下の褐灰色粒、微細な雲母、ガラス質の光 沢粒をわずかに含む。	最大長:10.2cm 最大幅:6.35cm 最大厚:6.4cm
172	高坏 (転用羽 口)	脚	4号竪穴	横方向のナデ	ナデミガキ	灰 (5 Y 6 / 1) 橙 (2.5 YR 6 / 6)	橙 (2.5YR 6 / 6)	微細な灰白色粒、黒色粒、褐灰色粒を少量含み、微 細なガラス質の光沢粒をわずかに含む。	最大長:5.9cm 最大幅:4.7cm 最大厚:4.0cm
175	売	□∼胴	5 号竪穴	横・斜め方向の粗い工具ナデ 貼付突帯文	粗い工具ナデ後細い棒状工具による多 方向のナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 3)	浅黄 (2.5Y 7 / 4)	3 mm~1 mmの灰白色粒、褐灰色粒、にぶい褐色粒、 1 mm以下の灰褐色粒、褐色粒、透明光沢粒、明褐色粒、微細なガラス質の透明光沢粒を含む。	残存率: 1 / 7 推定口径: 28.7cm 外面全体にスス付着 内面に一部黒斑
176	売	□∼胴	5 号竪穴	ヨコナデ ナデ 横方向の工具ナデ 刻目貼付突帯文(刻み目部分に布目褒あり)	ヨコナデ 斜方向の工具ナデ	浅黄橙 (10YR 8 / 3)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 3)	5 m以下の掲灰色粒、にぶい赤褐色粒、3 m以下の灰白色粒、微細な透明光沢粒、雲母をわずかに合む。	残存率: 1/15 外面全体にスス付着 口縁内面に黒斑
177	売	□~胴	5 号竪穴	ナデ、ナデ後一部ミガキか	ナデ 斜め方向の工具ナデ ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 3)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	7 mm以下の灰褐色粒、4 mm以下の褐色粒を少量含み、4 mm以下の灰白色粒、微細な透明光沢粒をわずかに含む。	推定口径:30.6cm 残存率: 1 / 8 (口縁) 外面の全体にスス付着
178	売	胴~底	5 号竪穴	胴部:斜め方向の工具ナデ 底部付近:指 おさえ後ナデ 底部:ナデ	工具ナデ後多方向のナデ	にぶい黄橙 (10YR 6 / 3)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 3)	8 mm~4 mm程度の黒褐色粒、褐灰色粒、3 mm以下 の黒褐色粒、灰褐色粒、灰白色粒、赤褐色粒、透明 光沢粒、微細なガラス質の光沢粒を含み、微細な 雲母をわずかに含む。	残存率:完形(底部) 底径:5.35cm 外面一部にスス付着 内面一部に黒色物付着
179	売	胴~底	5 号竪穴	斜め方向の工具ナデ 工具ナデ後横方向にナデ	多方向に工具ナデ後ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 3)	3 mm~1 mmの褐色粒、黒色粒、褐灰色粒を少量含み、1 mm以下の透明光沢粒、黄橙色粒、雲母をわずかに含む。	底径:7.15cm 残存率:完形(底部) 内面に黒斑 床面から出土

第7表 土器観察表6

			出土位置	器面調整	- 文様		色調		
掲載 番号	器種	部位	区·Gr·層	外面	内面	外面	内面	胎土の特徴	型式・その他
180	売	口~底	5号竪穴	ヨコナデ横方向のナデ 終方向のエ共ナデ	ヨコナデ ナデ 工具ナデ	にぶい橙 (7.5YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	機関なガラス質の光沢粒を多量に含み、8 m以下 の褐色軟を含み、4 m以下の白色軟、2 m以下の 黒色光沢軟、透明光沢軟をわずかに含む。	口径:16.6cm 器高:27.2cm 疾存率:13は完彩 貼付突帯文(指おさえ) 外面一部にスス付着 内面一部に黒変
181	瓷	口~底	5 号竪穴	ヨコナデ 横方向のナデー部斜方向 多方向の工具ナデ ナデ	ヨコナデ 横方向の工具ナデ 横が打向の工具ナデ 横が打向のナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	機細なガラス質の光沢粒を含み、5 m以下の黒褐 色粒、赤褐色粒、灰色粒を少量含む。	推定口径:17.5cm 推定配径:21cm 推定服容:28.5cm 推定期部径:20.3cm 〜21.2cm 〜21.2cm 原形が面にスス付着 口縁・閉窓の外面 口縁部内 面に無理 別部下部〜底部の内面に炭 化物付着
182	売	口~胴	5号竪穴	多方向の工具ナデ(ミガキ風)	斜方向の工具ナデ	にぶい橙 (7.5YR 7 / 4) 明黄褐 (10YR 7 / 6)	明黄褐 (10YR 7 / 6)	3 m以下の褐色粒、褐灰色粒、黒色粒、灰白色粒、 機能なガラス質の洗液粒を含み、10m~4 mの褐 色粒、褐灰色粒を少量含む。	残存率: 1/4(口縁) 1/4(胴部) 非常に粗製な土器 工具は2つ以上を使用か 外面にスス付着 内面に黒色物
183	拠	口~胴	5号竪穴	ヨコナデ 横、斜方向のナデ 横・斜方向のナデ	ヨコナデ 横・斜方向のナデ 斜方向の工具ナデ	橙 (7.5YR 6/ 6)	橙 (5 YR 6/6)	1 m以下の浅黄橙色核、灰白色核、透明光沢核、酸 欄をガラス質の光沢核を少量合み、7 m以下の樹 灰色粒をわずかに合む。	推定口径:29.0cm 残存率:1/6(口縁~胴部) 口縁付近に指頭圧痕 刻目貼付突帯文 (刻み部分に布状の圧痕) 床面から出土
184	売		5 号竪穴	ヨコナデ 横方向のナデ 縦・横方向のナデ	ヨコナデ 横方向のナデ 指頭板 工具による斜方向のナデか	浅黄橙 (10YR 8 / 4)	浅黄 (25Y 7 / 3) 浅黄橙 (10YR 8 / 4)	微細なガラス質の光沢粒を含み、5 m~ 4 m大の 褐色粒、褐灰色粒、1 m程度の適明光沢粒をわず かに含む。	推定口径:15.1cm 残存率: 1/8 (口縁) 外面の一部にスス付着
185	売	胴~底	5号竪穴	斜方向のナデ	斜方向の工具ナア	灰黄 (2.5Y 6 / 2)	灰黄 (25Y 6/3)	1 mm以下の黒色光沢粒、褐色粒、灰白色粒、黒色粒、微細なガラス質の光沢粒を少量含み、2 mm程度の褐色粒、灰褐色粒、褐灰色粒をわずかに含む。	残存率:完形(底部) 外面一部にスス付着 内面一部に黒斑
186	衞	П	5 号竪穴	ヨコナデ 斜方向のナデ	横方向の工具ナデ 斜方向の工具ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	5m~3m程度の灰褐色粒、赤褐色粒、2m以下の黒褐色粒、灰白色粒、透明光沢粒、微細なガラス質の光沢粒を含む。	刻目貼付突帯文 (刻み部分に布状の圧痕) 推定口径:16.1cm 187と同一個体
187	壺	頭~胴	5 号竪穴	多方向の工具ナデ 横・縦方向のミガキ	斜方向の工具ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	10mm~5 mm程度の灰白色粒、灰褐色粒、褐灰色粒、 2 mm以下の灰白色粒、黒褐色粒、透明光沢粒、微細 なガラス質の光沢粒を含む。	残存率: 1/4 (顕部) 外面に刻目貼付突帶文 (刻み目部に布状の圧痕) 床面から出土 186と同一個体
188	壺	□∼顕	5 号竪穴	ヨコナデ 横方向のナデ後斜方向の工具ナデ	ヨコナデ 多方向の工具ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	橙 (5 YR 7/6)	微細なガラス質の光沢粒を多量に含み、3 m以下の赤褐色粒、黒褐色粒、灰白色粒、褐灰色粒、灰褐色粒、灰白色粒、褐灰色粒、灰褐色粒、黄明光沢粒を含む。	残存率: 1 / 3 (口縁) 一部焼成不良 推定口径: 16.0cm
189	壺	П	5 号竪穴	ョコナデ 工具ナデ	ョコナデ 指押さえのナデ ナデ	橙 (5 YR 7 / 6)	橙 (7.5YR 7 / 6)	5 mm以下のにぶい赤褐色粒、3 mm以下の灰白色粒、 褐灰色粒を多量に含み、微細な光沢粒を含む。	口径:15.2cm 残存率: 1 / 4 床面から出土
190	壺	頭~胴	5 号竪穴	横方向のナデ 横・斜方向の工具ナデ	斜方向のナア	明黄褐 (10YR 7 / 6)	橙 (7.5YR 7 / 6)	微細なガラス質の光沢粒を含み、5 m以下のにぶい赤褐色粒、3 m以下の褐灰色粒、黒褐色粒、黒色光沢粒、透明光沢粒を少量含み、2 m以下の明赤褐色粒をわずかに含む。	残存率:ほぼ完形(顕部)
191	壺	頭~胴	5 号竪穴	横方向のナデ 横・斜方向の工具ナデ	斜方向のナデ	明黄褐 (10YR 7 / 6)	橙 (7.5YR 7 / 6)	微細なガラス質の光沢粒を含み、5 m以下のにぶ い赤褐色粒、3 m以下の褐灰色粒、褐色粒、黒色光 沢粒を少量含み、2 m以下の明赤褐色粒わずかに 含む。	残存:ほぼ完形(頸部付近) 外面に黒斑 No.192と同一個体
192	壺	胴~底	5 号竪穴	斜方向の工具ナデ 縦方向のミガキ	斜方向の工具ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 3)	にぶい橙 (7.5YR 6 / 4)	1m以下の黒褐色粒、黒色光沢粒を多量に含み、 微細なガラス質の光沢粒を含み、3m以下のにぶ い赤褐色粒、1m以下の灰白色粒、透明光沢粒を わずかに含む。	残存率: 1 / 4 (胴部) No.191と同一個体
193	壺	胴~底	5 号竪穴	ナデ	横方向の工具ナデ ナデ	にぶい橙 (7.5YR 6 / 4)	にぶい橙 (7.5YR 6 / 4)	2 mm以下の黒色粒、1 mm以下の白色粒、微細なガラス質の光沢粒を少量含み、4 mm以下の褐色粒、 灰褐色粒をわずかに含む。	残存率:完形(底部) 外面に圧痕
194	壹	胴~底	5 号竪穴 E 4 Ⅲ H 5	ナデ	斜方向の指ナデ	にぶい黄橙 (10YR 6 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 5 / 3)	1 mm以下の灰白色粒、褐色粒、褐灰色粒を含む。	残存率: 完形(底部) 外面に圧痕 部分的に黒色物が付着 内面に黒斑
195	豊	底	5 号竪穴 Ⅲ層	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR 6 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	4 m以下の暗赤褐色粒、黒褐色粒、灰白色粒を含み、微細なガラス質の光沢粒、黒色光沢粒を少量合み、1 m程度の透明光沢粒を力ずかに含む。	残存率: 1/3(底部) 底径:7.6cm 外面にスス付着 内面に黒斑
196	壺	頭~胴	5 号竪穴	ヨコナデ 横・斜方向のナデ	多方向のナデか	橙 (7.5YR 7/ 6) 明黄橙 (10YR 7/ 6)	橙 (7.5YR 7 / 6)	機網なガラス質の途明光沢粒を多能に含み、4 m 以下の赤褐色粒、褐灰色粒、灰白色粒を少量含む。	残存率: 1/2 (類~胴部) 推定最大胴径: 27.8cm 内面・外面ともに黒斑 胴部外面にスス付着 床面から出土
197	高坏	坏	5号竪穴	ヨコナデ ナア後ミガキ ヨコナア後一部ミガキ ミガキ	ヨコナデ 多方向のミガキ	橙 (7.5Y 7 / 6)	浅黄橙 (7.5Y 8 / 6) 黒 (10YR 2 / 1)	1 mm以下の黒色粒、灰白色粒、微細なガラス質の 光沢粒を含む。	残存率: 2/3 口径: 25.2cm 内面の一部に黒変 床面から出土
198	高坏	坏	5号竪穴	ヨコナデー部後ナデナデ	ヨコナデ	明黄褐 (10YR 6/ 6)	橙 (7.5YR 6 / 6)	微細なガラス質の光沢粒を含み、1 m以下の黒色 光沢粒、褐色粒、灰色粒、赤褐色粒、微細な黒色光 沢粒をわずかに含む。	残存率: 1/3 (口縁) 推定口径:15.6cm 外面の一部が黒変
199	高坏	坏	5号竪穴	ヨコナデ後まばらなミガキ 横方向のハケメ後まばらなミガキ 横方向のナデ後まばらなミガキ ミガキ	ョコナデ後まばらなミガキ ナデ後ミガキ 横方向のナデ	浅黄橙 (10YR 8/ 4) 橙 (5YR 6/ 6)	橙 (7.5YR 7/6) 明黄褐 (10YR 7/6)	2m以下の黒色光沢粒、1m以下の灰白色粒、灰色粒を少量含み、0.5mm程度の雲母、機柵な適明光 沢粒をわずかに含む。	残存率: 1/5 (口縁) 推定口径:13.0cm 外面、内面の一部に黒斑 床面から出土
				L	l .		1		1

第8表 土器観察表7

掲載	BD 66	to the	出土位置	器面調整	·文様	É	.調	15. 1 on 40° 600°	What I a M
番号	器種	部位	区·Gr·層	外面	内面	外面	内面	胎土の特徴	型式・その他
200	高坏	坏	5 号竪穴	ョコナデ 横方向のナデ ミガキ	ヨコナデ ナデ後まばらなミガキか	浅黄橙 (10YR 8 / 4)	浅黄橙 (10YR 8 / 4)	2 m以下の黒色光沢粒、褐色粒、1 m以下の透明 光沢粒を少量含み、1 m以下の灰白色粒をわずか に含む。	残存率: 1 / 4 (口縁) 推定口径:17.7cm 内面の一部に黒斑 床面から出土
201	高坏	坏	5 号竪穴	ヨコナデ ナデ後ミガキか	ヨコナデ ナデ後ミガキか	にぶい橙 (7.5YR 6 / 4)	にぶい橙 (7.5YR 6 / 4)	3 m以下の褐色粒、2 m以下の灰色粒、1 m以下の白色粒、微細なガラス質の光沢粒をわずかに含む。	残存率: 1/4(口縁) 推定口径:19.6cm 外面・内面とも一部黒斑 床面から出土
202	高坏	坏	5号堅穴 E~F3	ヨコナデ 横方向のナデ後ミガキか 斜方向のミガキ	横方向のナデ後ミガキか 斜め方向のミガキ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	明黄橙 (10YR 7 / 6)	2 mm以下の黒色光沢粒、透明光沢粒、黒褐色粒を 少量含む。	残存率: 1/6 推定口径:14.8cm 内・外面の一部に鉱染が付着 か
203	高坏	坏	5 号竪穴	横方向の工具ナデ後一部ミガキ	工具による横方向のナデ 一部にミガキあり 工具ナデ	浅黄橙 (10YR 8 / 4)	浅黄橙 (10YR 8 / 4)	1 m以下の褐灰色粒、にぶい褐色粒、黒色粒、透明 光沢粒を多量に含み、3 mm~1 mm大の褐色粒、に ぶい赤褐色粒、1 mm程度の棒状黒色粒、微細なガ ラス質の光沢粒を少量含む。	残存率: 1 / 5 推定口径:15.1cm 外面に黒斑
204	高坏	坏	5 号竪穴	ヨコナデ 指でのツマミ痕 工具による多方向のナデ後ナデ ナデ後底部~基部はスリップ状のナデか	ほぼ横方向に工具によるナデ後ナデ	浅黄橙 (10YR 8 / 4)	浅黄橙 (10YR 8 / 4)	2 m以下の灰白色粒、浅黄橙色粒、褐色粒を含み、 微細なガラス質の光沢粒を少量含み、5 mm~2 mm の褐色粒をわずかに含む。	残存率: 1 / 2 推定口径: 18.1cm 外面の一部に黒斑
205	高坏	坏	5 号竪穴	ヨコナデ 横方向のナデ ミガキ	横方向のナデ 丁寧なナデ	橙 (5 YR 6/6) 明黄橙 (10YR 7/6)	橙 (5 YR 6/6) 明黄橙 (10YR 7/6)	1 mm以下の褐灰色粒、赤褐色粒、浅黄橙色粒を少量含み、5 mm~3 mm大の赤褐色粒、淡橙色粒、灰色粒、微細な雲母をわずかに含む。	残存率: 1 / 5 (坏部) 推定口径:17.2cm 床面から出土
206	高坏	坏	5 号竪穴	ヨコナデ 横・斜方向の工具ナデ	横方向の工具ナデ 横・斜方向のナデ	橙 (5 YR 6 / 6) にぶい黄橙 (10YR 6 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	微欄なガラス質の光沢粒を含み、2mm以下の赤褐 色粒、1mm以下の楊灰色粒、黒褐色粒、浅黄橙色 粒、灰白色粒、透明光沢粒を少量含む。	残存率: 1/3 (坏部) 推定口径:15.8cm 外面・内面ともに黒斑 床面から出土
207	高坏	坏	5 号堅穴	ヨコナデ 横・斜方向のミガキ	ヨコナデ 横・斜方向のミガキ	橙 (7.5YR 7 / 6)	橙 (7.5YR 7 / 6)	機綱なガラス質の光沢粒を含み、2 m以下の黒色 光沢粒、褐色粒、透明光沢粒、にぶい赤褐色粒をわ ずかに含む。	残存率: 1 / 7 推定口径:13.6cm 内・外面に黒色物付着 床面から出土
208	高坏	坏	5 号竪穴	ヨコナデ 横方向のナデ 横方向のミガキ	ヨコナデ 横方向のナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	橙 (7.5YR 7 / 6)	微細なガラス質の光沢粒を多量に含み、1 mm以下 の黒色粒、灰白色粒、褐色粒を少量含む。	推定口径:19.6cm
209	高坏	坏~裾	5 号堅穴	坏部:横方向のナデ、横方向のミガキ、横方 向のナデ 脚部:縦方向のミガキ後横方向のナデ、斜 め方向のミガキ、ヨコナデ	坏部:工具ナデ後ナデ 脚部:粗いナデ ヨコナデ	橙 (7.5YR 7 / 6)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	1 mm以下の透明光沢粒、黒色光沢粒、白色粒、灰色 粒、褐色粒を少量、3 mm以下の軟質赤色粒をわず かに含む。	推定底径:9.4cm 裾部内・外面に部分的に黒変
210	高坏	坏~脚	5 号竪穴	坏部:横方向のナデ 縦方向の工具ナデ 脚部:ナデ	坏部:ヨコナデ 横方向のナデ ナデ 脚部:粗いナデ	浅黄 (25Y 7/3)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4) 褐灰 (10YR 6 / 1)	2m以下の白色粒、褐色粒、1m以下の透明光沢 粒、黒色光沢粒をわずかに含む。	推定口径:16.8cm 脚部外面に一部黒変 床面から出土
211	高坏	脚	5 号竪穴	横方向のナデ 斜め方向のナデ後ミガキ 横方向のナデ	縦方向の工具ナデ後横方向のナデ 横方向のナデ	にぶい黄橙 (10YR 6 / 4) にぶい橙 (5 YR 7 / 4)	橙 (7.5YR 7 / 6)	微細なガラス質の光沢粒を少量含み、2 mm~1 mmの掲灰色粒、黒色光沢粒、褐色粒、1 mm以下の掲灰色粒、透明光沢粒をわずかに含む。	残存率: 2/3 外面の一部黒変
212	高坏	脚~坏	5号竪穴	坏部:工具ナデ後ナデ 脚部:縦方向のミガキ	脚部:縦方向の工具ナデ後横方向の工 具ナデ	明黄褐 (10YR 7 / 6)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	2mm以下の黒色光沢粒を多量に含み、1mm以下の 褐色粒、灰白色粒、透明光沢粒を少量含む。	残存率: 1/3
213	高坏	脚	5 号竪穴	ナデ	粗いナデ	橙 (5 YR 6 / 6)	にぶい橙 (7.5YR 7 / 4)	2 mm以下の褐色粒、1 mm以下の透明光沢粒、馬色 光沢粒、灰色粒を含み、微細な透明光沢粒を少量 含み、4 mm以下の灰白色粒をわずかに含む。	残存率: 1 / 2
214	高坏	坏~脚	5 号竪穴	坏部:横方向のナデ 脚部:多方向のナデ	坏部:ナデ、ミガキ 脚部:ナデ、縦方向のナデ、横方向のナ デ	橙 (5 YR 7 / 8)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	微細なガラス質の光沢粒を含み、1 m以下の黒色 光沢粒、褐色粒、赤褐色粒、微細な褐灰色粒、褐色 粒をわずかに含む。	残存率: 1 / 4 坏部内面の一部黒変
215	高坏	脚~裾	5号竪穴	横方向のナデ後一部ミガキ 縦方向のヘラミガキ 縦方向のヘラミガキ後ナデ	ナデ、縦・横方向の工具ナデ、丁寧なナ デ	橙 (7.5YR 6 / 6)	橙 (7.5YR 6 / 6)	微細なガラス質の光沢粒を含み、1 mm以下の褐色 粒、褐灰色粒をわずかに含む。	残存率: 1/3 外面に一部黒変
216	高坏	脚~裾	5号竪穴	脚部: ヨコナデ、縦方向のヘラミガキ 裾部: ヘラミガキ後ヨコナデ	脚部:横方向のケズリ 裾部:横方向のナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	浅黄 (2.5Y 7 / 4)	1 m以下の褐色粒、微細なガラス質の光沢粒、褐 灰色粒、雲母をわずかに含む。	推定底径:11.8cm 残存率: 3/8 裾部外面の一部に黒斑 裾部内面の一部に黒変
217	高坏	裾	5 号竪穴	ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	橙 (7.5YR 7 / 6)	橙 (7.5YR 7 / 6) 明黄褐 (10YR 7 / 6)	2 mm~1 mmの褐色粒、褐灰色粒、ガラス質の光沢 粒、黒色光沢粒、1 mm以下の褐灰色粒、灰褐色粒を わずかに含む。	推定底径:10.8cm 残存率: 1 / 4 床面から出土
218	高坏	脚~裾	5 号竪穴	脚部:ミガキ後ナデ、縦方向のミガキ 裾部:ヨコナデ、斜方向のミガキー部ナデ	脚部:ナデ 裾部:横方向のナデ	橙 (75YR 7 / 6) にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	2 m以下の無色光沢粒を含み、2 m以下の褐灰色 粒、灰白色粒、1 m以下の透明光沢粒を少量含み、 2 m以下の軟質赤色粒、微細なガラス質の光沢粒 をわずかに含む。	残存率:完形(脚部) 外面の一部が黒斑 床面から出土
219	高坏	脚~裾	5 号竪穴	ナデ 工具による横方向のナデ	ナデ 工具による横方向のナデ	橙 (7.5YR 7 / 6) 浅黄色 (10YR 8 / 4)	橙 (75YR 7 / 6)	1 mm以下の赤褐色粒、灰白色粒、黒色粒、透明光沢 粒を多量に含む。	底径:11.6cm 床面から出土
220	高坏	脚~裾	5号竪穴	工具ナデ後丁寧なナデ 横方向の工具ナデー部縦方向あり 全体的に顔料を塗布か ナデ	ナデ 縦・横方向の工具ナデ後ナデ ヨコナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 3)	1 mm以下の掲灰色粒、黒色光沢粒、褐色粒、雲母を わずかに含む。	推定口径:11.6cm 残存率:完形(脚部) 外面は部分的に黒変 床面から出土
221	高坏	脚~裾	5号竪穴	脚部:縦方向のミガキ 裾部:ヨコナデ	脚部:横:斜め方向のナデ、粗いナデ 裾部:横方向のナデ	橙 (7.5YR 6 / 6) にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	橙 (5 YR 7 / 6) 橙 (7.5 YR 7 / 6)	1 mm以下の褐灰色粒、黒褐色粒、微細なガラス質 の光沢粒を含み、2 mm以下の透明光光粒を少量含 み、3 mm以下の軟質赤褐色粒、1 mm以下の灰白色 粒をわずかに含む。	推定底径:10.8cm 残存率: 3/4 外面の一部に黒色付着物と 齧歯類による齧じり痕
222	高坏	脚~裾	5 号竪穴	縦方向のミガキ ヨコナデ	粗いナデ 横方向のナデ	明黄褐 (10YR 7 / 6)	にぶい黄 (2.5Y 6 / 3)	1 mm以下の灰白色粒、明黄褐色粒、透明光沢粒、黒 色光沢粒を含み、2 mm以下の赤褐色粒をわずかに 含む。	底径:11.1cm 内面に黒斑
223	小型丸 底壺	口~底	5 号竪穴	ヨコナデ 斜方向の工具ナデ 不定方向のナデ	斜め方向の工具ナデ 横方向の工具ナデ 粗いナデ	橙 (5 YR 6/6)	橙 (5 YR 6 / 6)	4 m以下の黒色粒、3 m以下の褐色粒、赤褐色粒、 2 m以下の灰色粒、1 m以下の光沢粒、白色粒、微 細な透明光沢粒をわずかに含む。	残存率:完形 口径:10.25cm 器高:13.5cm
225	小型丸 底壺	口~底	5 号竪穴	ヨコナデ	ヨコナデ 斜め方向の工具ナデ 指ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	橙 (7.5YR 7 / 6)	2mm以下の灰褐色粒、灰白色粒、褐灰色粒、黒褐色粒、棒状の黒褐色光沢粒、透明光沢粒、微細なガラス質の光沢粒を含み、5mm程度の灰褐色粒、褐灰色粒、灰白色粒をわずかに含む。	推定口径:785cm 器高:89cm 底径:26cm 残存率:完形(頸部以下) 頸部内面付近に指おさえ 床面から出土

第9表 土器観察表8

掲載			出土位置	器面調整	·· 文様	色	.润		
番号	器種	部位	区·G r·層	外面	内面	外面	内面	胎土の特徴	型式・その他
226	小型丸 底壺	□∼胴	5号竪穴	ナデ後ミガキ ナデ	ナデ 横方向の粗いナデ	橙 (7.5YR 7 / 6)	橙 (7.5YR 7 / 6)	2 m以下の楊灰色粒、黒色粒、灰褐色粒、灰白色粒、透明光沢粒を含み、4 mm~2 mmの黒褐色粒をわずかに含む。	推定口径:5.6cm 残存率: 1 / 7
227	小型土 器	П	5号竪穴	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	橙 (5 YR 6/6)	程 (2.5YR 6 / 8) 程 (7.5YR 6 / 6)	1 m以下の楊灰色粒、黒色粒、透明光沢粒をわず かに含む。	推定口径:7.4cm 残存率: 1 / 4 外面の一部に黒斑 床面から出土
228	小型土 器	П	5号竪穴	ヨコナデ 縦方向のミガキ	ヨコナデ 横方向のナデ	橙 (7.5YR 7 / 6)	橙 (7.5YR 7 / 6)	2 mm以下の掲灰色粒、透明光沢粒、黒色粒、微細なガラス質の光沢粒を少量含む。	口径:11.4cm 残存率: 1 / 4 内面の一部に黒斑
229	小型土 器 (壺)	П	5号竪穴	ヨコナデ 斜方向のナデ後ミガキ ヨコナデ	ヨコナデ 横・斜方向のナデ	明黄褐 (10YR 7/6) 橙 (5YR 7/6)	明黄褐 (10YR 7 / 6)	1 mm以下の赤褐色粒、褐灰色粒、灰白色粒、黒褐色粒をわずかに含む。	推定口径:8.8cm 残存率: 1 / 2 (口縁)
230	小型土 器 (壺)		5 号竪穴	ナデ後ミガキ	ナデ ナデ後ミガキ	明黄褐 (10YR 7 / 6)	橙 (7.5YR 7 / 6)	1 mm以下の灰白色粒、褐灰色粒、黒色粒、無色透明 粒を多量に含む。	推定口径:8.8cm 残存率:1/6
224	小型丸 底壺	□∼底	5 号竪穴	ヨコナデ 横方向のナデ 横方向のナデ後ミガキ 横が斜め方向のナデ	ヨコナデ 機力向のナデ ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7/4) 黄橙 (10YR 8/6)	にぶい橙 (7.5YR 7 / 4) 黄橙 (10YR 8 / 6)	2m以下の黒褐色枝、褐灰色枝、赤褐色枝、1m程 度の透明光状板 灰色粒を少量合み、微細な焦色 光沢枝、美母をわずかに合む。	推定口径:8.9cm 推定底径:1.8cm 推定器高12.8cm 残存率:4/5 口縁〜胴部の外面広範囲、口 線〜胴部内面の一部に黒斑 顕部下に粘土のゆがみ箇序あ り 床面から出土
231	小型土 器(壺)	胴~底	5 号竪穴	回転ナデ 横方向のミガキ 終方向のミガキ	多方向のミガキ	浅黄橙 (10YR 8/4) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	浅黄橙 (10YR 8 / 4)	1 mm以下の黒色粒、微細なガラス質の光沢粒を含む。	外面に黒変、赤褐色の付着 物、指頭痕 床面から出土
232	鉢	□∼胴	5号竪穴	ヨコナデ 横・斜方向の丁寧なナデ	ョコナデ 横方向のナデ ナデ	橙 (7.5YR 6 / 6) にぶい黄 (2.5Y 6 / 3)	にぶい橙 (7.5YR 6 / 4)	微細なガラス質の光沢粒を少量含み、3 mm ~ 2 mm 大の褐色粒、1 mm以下の黒色粒、褐灰色粒をわず かに含む。	推定口径:15.0cm 残存率: 1 / 4 (口縁) 外面の一部に黒変
233	鉢	□∼底	5号竪穴	ナデ 横方向のナデ ミガキ	横方向のナデ	橙 (7.5YR 7 / 6) 橙 (5 YR 6 / 6)	橙 (7.5YR 7 / 6)	1 mm以下の灰白色粒、灰褐色粒を少量含む。	推定口径: 10.4cm 残存率: 1/6 底部内面付近に黒斑 床面から出土
234	鉢	□∼胴	5号竪穴	横方向の丁寧なナデ 斜方向の丁寧なナデ	ヨコナデ 横方向の丁寧なナデ 横・斜方向の丁寧なナデ 工具痕か	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	明黄褐 (10YR 7 / 6)	微細なガラス質の光沢粒を含み、3 m程度の灰褐 色粒、1 m以下の褐灰色粒をわずかに含む。	推定口径:12.0cm 残存率: 1 / 6 (口縁) 外・内面の一部に黒変
235	鉢		5 号竪穴	ヨコナデ 縦方向のミガキ	斜方向の工具ナデ後ナデ	橙 (7.5YR 7 / 6)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	微細なガラス質の光沢粒を多量に含む。	床面から出土
236	鉢	□∼底	5号竪穴	ナデ	斜方向の工具痕 ナデ 多方向の工具痕	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	2m以下の灰白色粒、黒褐色粒、黒色光沢粒、赤褐色粒、灰白色光沢粒、軟質赤色粒、微細なガラス質の光沢粒を含み、5m~3m程度の赤褐色粒、褐灰色粒、微細な雲母をわずかに含む。	口径:7.4cm 器高:6.85cm 底径:3.9cm 残存率:ほぼ完形 底部外面付近に黒斑 床面から出土
237	鉢	底	5 号竪穴	斜方向の工具ナデ	斜方向の工具ナデ	浅黄橙 (7.5YR 8 / 6) 黄橙 (10YR 8 / 6)	黄橙 (10YR 8 / 6)	6 m以下の赤褐色粒、3 m以下の褐灰色粒、灰白色粒を少量合み、3 m以下の黒褐色粒、1 m以下 の透明光沢粒、微細なガラス質の光沢粒、雲母を わずかに合む。	底径:5.6cm 残存率: 3 / 5 (底部) 底部外面に黒斑
238	鉢	底	5 号竪穴	斜方向の工具ナデー部工具ナデ後ナデ ナデ	指ナデ	浅黄 (25Y 7/3) にぶい黄 (25Y 6/3)	灰黄 (2.5Y 6 / 2)	微細なガラス質の光沢粒を含み、4 mm以下の褐灰色粒、3 m以下の暗褐色粒、黄橙色粒、2 mm以下の 赤褐色粒、透明光沢粒をわずかに含む。	底径: 4.6cm 残存率: 完形(底部) 内・外面の一部に黒色物 床面から出土
239	不明土製品	不明	5号竪穴			にぶい黄橙 (10YR 6 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 6 / 4)	1 mu以下の黒色粒、灰白色粒、にぶい赤褐色粒、黄 褐色粒、微細なガラス質の光沢粒を多量に含み、 3 mu以下の暗赤褐色粒、透明光沢粒をわずかに含 む。	床面から出土 工具で削られた痕跡
240	鞴専用 羽口		5号竪穴			にぶい黄橙 (10YR 7 / 3) 灰黄 (25Y 6 / 2)	橙 (7.5YR 7 / 6)	1 mm大のガラス質の光沢粒、1 mm以下の灰白色粒、 褐灰色粒、灰褐色粒をわずかに含む。	最大長:10.1cm 最大幅:9.15cm 最大厚7.95cm
243	薨	口~底	6号竪穴	ヨコナデ 横 斜方向のナデ 多方向の工具ナデ 多方向のナデ	ヨコナデ 横 終方向の工具ナデ 多方向のナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい橙 (7.5YR 7 / 4)	機綱なガラス質の光沢粒を含み、5 m以下の褐灰 色乾、黒褐色乾を少量含み、5 m以下の赤褐色粒 をわずかに含む。	推定口径:18.4cm 推定器高:26.1cm 推定關部径:最大25.4cm 残存率: 9/10 内・外面に黒斑、外面にスス 床面から出土
244	売	□∼胴	6 号竪穴	ヨコナデ 斜方向の工具ナデ 横方向のナテか	ヨコナデ 横方向の工具ナデ 横方向の工具ナデ ナデ	にぶい掲 (7.5YR 6 / 4)	にぶい掲 (7.5YR 6 / 4)	1 m以下の達明光沢粒、黒色光沢粒、白色粒、灰色 粒、微酸なガラス質の光沢粒を含み、4 m以下の 褐色粒をわずかに含む。	推定口径:172cm 残存率:1/2 外面に多量のスス付着 内面の一部に黒変 内面に粘土のつなぎ目が多 い 床面から出土
245	汞	口~胴	6 号竪穴	ヨコナデ 縦・斜方向のナア	機・斜方向のナデ 斜方向の工具ナデ	明赤褐 (5 YR 5 / 6)	明褐 (7.5YR 5 / 6)	1 mm以下の浅黄橙色粒、褐灰色粒、微細なガラス 質の光沢粒、雲母をわずかに含む。	推定口径:19.6cm 残存率:1/5 (口縁~胴部) 内・外面の一部に黒斑 頸部内面に指押さえ痕 床面から出土
246	売	底	6 号竪穴 F 2 Ⅱ層 F 2 Ⅲ層	縦・斜め方向の工具ナデ	縦・斜め方向のナデ	橙 (7.5YR 6 / 6)	にぶい黄橙 (10YR 5 / 3)	微細なガラス質の光沢粒、灰白色粒を少量含み、 2 m~ 1 mの灰白色粒、褐色粒、、褐灰色粒をわず かに含む。	残存率: 1/3 内・外面の一部に黒色物付着
247	薨	胴~底	6 号竪穴	ナデか	ナデ、斜方向の工具ナデ後ナデ 工具扱か	にぶい掲 (7.5YR 5 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 6 / 4)	微細なガラス質の光沢粒を含み、微細な灰白色粒、褐色粒を少量含み、2 mm ~ 1 mmの褐色粒、黒色粒、浅黄橙色粒をわずかに含む。	残存率: 1/5~1/6 内面の一部に黒変 床面から出土
248	売	□∼底	6 号竪穴 E 2 Ⅲ	横方向の工具ナデ 横方向の工具ナデ後斜方向のヘラミガキ 斜方向の工具ナデ 斜方向のヘラミガキ ナデ	横方向のナデ 斜方向の工具ナデ ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4) 灰黄 (25Y 6 / 2)	機網なガラス質の光沢粒を含み、2mm~1mmの灰 褐色粒、褐色粒、1m以下の灰褐色粒、褐色粒、褐 灰色粒、灰白色粒を少量含み、8mm~5mm程度の 褐色粒、灰褐色粒、褐灰色粒をわずかに含む。	推定口径:15.6cm 胴部最大径:長径21.1cm 短 径20.2cm 外面の一部にスス付着 内面に黒斑・黒色物付着

第10表 土器観察表9

40.46			出土位置	器面調整	· 文様	但	.润		
掲載 番号	器種	部位	区·Gr·層	外面	内面	外面	内面	胎土の特徴	型式・その他
249	壺	П	6号竪穴	ヨコナデ 斜方向の工具ナデ 刻目貼付突帯文	ヨコナデ 横方向のナデー部縦の工具ナデ ナデ 指頭痕	橙 (7.5YR 6 / 6)	橙 (7.5YR 6 / 6)	2mm以下の浅黄色粒、褐色粒、透明光沢粒、1mm以 下の黒褐色粒をわずかに含む。	推定口径:13.5cm 残存率: 1/3 床面から出土
250	壺	顕	6 号竪穴	ミガキ 朔日貼付突帯文 斜方向のミガキ	横方向のナデ	明赤褐 (5 YR 5/6)	明赤褐 (5 YR 5/6)	2m以下の灰白色粒、黒色光沢粒、透明光沢粒を含み、6m以下の褐灰色粒をわずかに含む。	残存率: 1 / 8 (頭部) 床面から出土
251	壺	頭	6 号竪穴	工具ナデ	工具ナデ	浅黄 (25Y 7/3)	淡黄 (2.5Y 8 / 3)	9 mm以下の褐色粒を少量含み、1 mm以下の透明光 沢粒をわずかに含む。	残存率: 1 / 5 (顕部)
252	壺	胴	6 号竪穴	工具ナデ	工具ナデ	淡黄 (2.5Y 8 / 3)	浅黄 (25Y 7 / 3)	6 mm以下の灰白色粒、灰褐色粒、褐色粒を少量含み、1 mm以下の透明光沢粒をわずかに含む。	残存率: 1/3(胴部) 外面に黒斑
253	壺	底	6 号竪穴	工具ナデ	工具ナデ 指押さえあり	灰白 (25Y 8 / 2)	浅黄 (25Y 8 / 2)	7 mm以下のにぶい褐色粒、灰褐色粒を含み、1 mm 以下の透明光沢粒をわずかに含む。	外面に黒斑
254	遊	□~胴	6 号竪穴 E 2 Ⅲ	ョコナデ 横方向のナデ ナデ 貼付突帯文 横, 斜方向のミガキ	ヨコナデ 横方向のハケ目 ナデ 指頭痕 斜方向の工具ナア	灰褐 (7.5YR 4 / 2) 橙 (5 YR 6 / 6)	灰黄橙 (10YR 4 / 2) 橙 (5 YR 6 / 6)	3 mu以下の灰白色粒、淡黄色粒、微糊なガラス質 の光沢粒、黒褐色粒、、橙色粒をわずかに含む。	推定口径:10.1cm 残存率: 1 / 3 床面から出土
255	聯	胴~底	6 号竪穴	工具ナデナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4) 灰黄褐 (10YR 6 / 2)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 3)	9 mm以下の黒褐色粒、灰褐色粒、微細なガラス質 の光沢粒を含む。	残存率:完形(底部) 内面は剥離が多い 床面から出土
256	高坏	坏~裾	6 号竪穴	「「「「「「「「」」」「「「」」「「「」」「「」」「「」」「「」」「「」」「	坏部:ヨコナデ、ナデ、横方向のナデ、丁 寧なナデ 脚部:ナデ、横方向の工具ナデ 裾部:横方向の工具ナデ後横方向のハ ケメ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (7.5YR 7 / 4) にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	機綱なガラス質の光沢粒を多量に含み、2m以下 の裾灰色粒、赤褐色粒、1m以下の黒褐色粒、灰白 色粒、透明光沢粒を少量含み、2m以下の軟質赤 色粒をわずかに含む。	推定口径:18.1cm 審高:14.0cm 底径:12.4cm 残存率: 2 / 3 床面から出土
257	鉢	坏~裾	6号竪穴 E2Ⅲ F1Ⅲ F2Ⅲ	丁寧なナデ ヨコナデ	横・斜方向の工具ナデ 多方向の工具ナデ 横方向の工具ナデ	明赤褐 (5 YR 5 / 6) にぶい掲 (7.5 YR 5 / 3)	橙 (5 YR 6 / 6) 灰褐 (7.5 YR 4 / 2)	4 m以下の淡黄色粒、1 m以下の透明光沢粒を少量合み、2 m以下の灰白色粒、1 m以下の赤褐色粒をわずかに含む。	残存率: 1/6 (坏部) 1/4 (裾部) 推定底径:95cm 外面の一部に黒斑
258	小型土器	П	6 号竪穴 E 2 Ⅲ	ヨコナデー部縦方向のナデ ミガキ 横ナデ	ヨコナデ 横方向のナデ	浅黄 (2.5Y 7 / 3)	橙 (7.5YR 7 / 6)	1 mm以下の黒色光沢粒、透明光沢粒、灰白色粒を 少量含む。	口径:7.4cm 残存率: 1 / 7
259	坏	坏	6 号竪穴 E 2 Ⅲ	ヨコナデ 横方向のナデ ミガキ	ヨコナデ 横方向のナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	黄褐 (10YR 5 / 6)	2 m以下の黒色光沢粒、1 m以下の透明光沢粒、 黒褐色粒、明褐色粒を含む。	内面に黒斑 床面から出土
260	拠	口~胴	7号竪穴	ヨコナデ 横方向のナデ 縦・斜方向の工具ナデ	ヨコナデ 横方向のナデ 終方向の工具ナデ 横方向の工具ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	5 mm以下の素褐色粒を含み、4 mm以下の褐灰色粒、 1 mm以下の黒褐色粒、灰白色粒、透明光沢粒を少量含む。	推定口径:20.8cm 残存率: 1 / 6 (胴部) 外面の全体的にスス付着 外面の一部に黒斑
261	喪	口~胴	7号堅穴	指押さえ後ナデ 斜方向の工具ナデ 斜方向の工具ナデ	指押さえ後ナデ ナデ 横方向の工具ナデか	暗灰黄 (25Y 5 / 2)	浅黄 (25Y 7/3)	微欄なガラス質の光沢粒を含み、1 mm以下の褐色 粒、灰褐色粒をわずかに含む。	残存率: 1/9~1/10 外面にスス付着 外面に刺目貼付突帯文 (刻み目に布目圧痕) 床面から出土
262	売	胴~底	7 号堅穴 E 2 Ⅱ	横方向のナデ、指頭痕	横・斜め方向の工具ナデ	にぶい黄橙 (10YR 6 / 4)	浅黄 (25Y 7 / 4) 橙 (55YR 7 / 6)	2m~1mの褐色粒、褐灰色粒、灰褐色粒をわずかに含む。	残存率: 1 / 3
263	二重口緑壺	頭	7号竪穴	ミガキか	横方向のナデか	明赤褐 (5 YR 5/6)	明赤褐 (5 YR 5/6)	4 m以下のにぶい赤褐色粒を含み、7 m以下のにぶい橙色粒、2 m以下の黒褐色粒、1 m以下の透明光沢粒、黒色光沢粒をわずかに含む。	残存率: 1/5(口縁) 内面の一部に黒斑
264	壶	胴~底	7号竪穴	ナデ	ハメ目後まばらにナデ ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4) 褐灰 (7.5YR 5 / 1)	微細なガラス質の光沢粒を含み、4 ms以下の黒色 粒、3 ms以下の褐色粒、2 ms以下の白色光沢粒を 少量含み、3 ms以下の灰白色粒をわずかに含む。	推定底径:9.8cm 残存率:1/3 底部外面の一部に黒斑 床面から出土
265	高坏	坏	7号竪穴	ヨコナデ 横方向のナデ 横方向のミガキ ミガキ ナデ	ヨコナデ 横方向のナデ ナデ	黄橙 (10YR 8 / 6)	浅黄橙 (10YR 8 / 4)	1 m以下の黒色光沢校を含み、1 m以下の透明光 沢校を少量含み、2 m以下の軟質赤色粒、灰白色 校をわずかに含む。	□径:17.55cm 残存率: 1/2(□縁) 最終調整後に何らかの接触 により一部器表面に荒れ 内・外面の一部に黒斑 床面から出土
266	高坏	坏	7号竪穴	ヨコナデ 縦方向のヘラミガキ 横方向のヘラミガキ	ヨコナデ 横方向の丁寧なナデー部ミガキか	明黄褐 (10YR 7 / 6) 橙 (75YR 6 / 6)	明黄褐 (10YR 7 / 6) 橙 (7.5YR 6 / 6)	1 m以下の褐色粒、褐灰色粒、黒色粒、微細なガラス質の光沢粒をわずかに含む。	口径:17.55cm 残存率: 7 / 8 外面にスス付着 外面の一部に黒変
267	高坏	坏	7号竪穴	横方向のナデ 多方向の丁率なナデ 縦方向の指押さえ	ナデ 橋方向の工具ナデ 縦方向の指頭痕	明黄褐 (10YR 7 / 6)	橙 (5 YR 6 / 6)	微細なガラス質の光沢粒、黒色光沢粒を含み、2 mm大の褐色粒、1 mm以下の黒色粒、褐灰色粒、灰褐 色粒をわずかに含む。	推定口径:14.9cm 残存率: 1 / 3 外面に沈線、一部に黒変
268	高坏	坏	7号竪穴	ヨコナデ 斜め方向のナデ 指押さえ後工具ナデ	ヨコナデ ヨコナデ後ナデ ナデ後横方向の工具ナデ	明黄褐 (25Y 7 / 4)	明黄褐 (25Y 7 / 4) 灰白 (25Y 7 / 1)	4 m以下の褐色粒、1 m以下の透明光沢粒、黒色 光沢粒、微細なガラス質の光沢粒を含み、1 m以 下の灰色粒をわずかに含む。	推定口径:17.4cm 残存率: 1/8 内・外面の一部に黒変
269	高坏	坏~脚	7 号竪穴	坏部:ナデ 脚部:工具ナデ後ナデ (一次調整の痕)	坏部:ナデ 脚部:粗いナデ	にぶい橙 (7.5YR 6 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	3 mm以下の褐色粒を含み、微細なガラス質の光沢 粒を少量含み、1 mm以下の黒色光沢粒、白色粒、灰 色粒、黒色粒をわずかに含む。	内·外面とも黒色物付着 床面から出土
270	高坏	脚~裾	7 号竪穴	横方向のナデ後縦方向のミガキ 横方向のナデ	縦方向の粗い工具ナデか 横方向のケズリ 横方向のナデ	明黄褐 (10YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	微細なガラス質の光沢粒を含み、1 mm以下の黒褐 色粒、灰褐色粒、赤褐色粒をわずかに含む。	残存率:完形(脚部) 1/10(裾部)
271	高坏	脚~裾	7号堅穴	斜方向のミガキ 横方向のミガキ 横方向のナデ 横方向のナデ 横方向のナデ後斜方向のミガキ	横方向の工具ナデ 横方向のナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 6/3)	微欄なガラス質の光沢粒を含み、1 mm以下の黒色 粒、棒状黒色光沢粒、赤褐色粒、灰白色粒、にぶい 黄橙色粒をわずかに含む。	残存率: 1 / 5
272	高坏	脚~裾	7号竪穴	ミガキ後ナデ 工具によるナデ	ケズリ後縦方向の工具ナデ 横方向のナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	橙 (7.5YR 7 / 6)	1 mm以下の掲灰色粒、黒褐色粒、淡黄色粒、透明光 沢粒を少量含む。	推定底径:13.6cm 残存率:完形(脚部) 1 /13(裾部) 脚部・裾部の一部にスス付着

第11表 土器観察表10

10.40			出土位置 容面调整·文様 色調						
掲載 番号	器種	部位	区·Gr·層	外面	内面	外面	内面	胎土の特徴	型式・その他
273	高坏	脚~裾	7号竪穴	ナデ後一部斜め方向のミガキ	粗いナデ、ヨコ方向の工具ナデ	橙 (7.5YR 7 / 6)	橙 (7.5YR 7 / 6)	微細なガラス質の光沢粒を含み、2 mm以下の赤褐 色粒、褐灰色粒、褐色粒、橙色粒、1 mm以下の透明 光沢粒をわずかに含む。	底径:10.62cm 残存率:完形(裾部) 内面の一部に黒斑 床面から出土
274	高坏	脚~裾	7号竪穴	ナデ後縦方向のミガキ	検方向のナデ	黄橙 (10YR 8 / 6)	明黄褐 (10YR 7 / 6)	1 m以下の灰白色粒、黒色粒、褐灰色粒を少量含 み、2 m以下の暗褐色粒、灰白色粒をわずかに含 む。	推定底径:12.5cm 残存率: 1 / 4
275	高坏	脚~裾	7号竪穴	横方向のナデ後斜め方向のミガキ 横方向のナデ	横・斜方向のナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4) 橙 (5 YR 7 / 6)	浅黄橙 (10YR 8 / 4)	微細なガラス質の光沢粒を含み、1 m以下の赤褐色粒、褐灰色粒、透明光沢粒、微細な雲母をわずかに含む。	推定底径:13.2cm 残存率: 1 / 3
276	高坏	脚~裾	7号竪穴	斜方向の工具ナデ ヨコナデ	粗いナデ ヨコ方向の工具ナデ	橙 (7.5YR 6 / 6)	橙 (7.5YR 6 / 6)	微細なガラス質の光沢粒、黒色光沢粒、灰白色粒、 黒褐色粒を含み、3m以下のにぶい褐色粒、にぶ い橙色粒をわずかに含む。	推定底径:10.5cm 残存率: 1 / 3 (裾部) 内面の一部に黒斑
277	小型土 器(壺)	底	7号竪穴	工具ナデー部指ナデ	工具ナデ後ナデ	浅黄橙 (10YR 8 / 4)	浅黄橙 (10YR 8 / 4)	1 mm以下の褐灰色粒を少量含み、3 mm以下の褐色粒、2 mm以下の軟質赤色粒、黒褐色粒、黄色粒、1 mm以下の黒色光沢粒、透明光沢粒をわずかに含む。	底径:4.8cm 残存率: 3 / 4 (底部) 内・外面の一部に黒斑
278	小型土 器	口~頭	7号竪穴	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ 斜方向の工具ナデ	橙 (7.5YR 6 / 6)	橙 (7.5YR 6 / 6)	微細な黒色粒、透明光沢粒を少量含み、1 mm以下 の棒状黒色光沢粒をわずかに含む。	推定口径:6.9cm 残存率: 1 / 8
279	光	□∼胴	(H 3)	横方向のナデ 横方向のハケ目 斜横方向のナデ 横方向のハケ目	横方向のナデ 横方向のハケ目 斜方向のハケ目	にぶい黄橙 (10YR 6 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	5 mm~3 mm程度の掲灰色粒、褐色粒、灰白色粒、1 mm以下の灰白色粒、褐灰色粒、灰褐色粒、黒色粒、 微細な雲母をわずかに含む。	推定口径:28.3cm 残存率: 1/6 (口縁) 外面の一部に黒変 貼付刻目突帶文 (刻み目部分に布目圧痕)
280	光	胴~底	E 4	ハケ目後ナデ後一部まばらな縦方向の工 具ナデ ハケ目後ナデ 私土貼り付け後ナデ (一部指押さえあり)	ナデ後まばらな工具ナデ ナデ	橙 (5 YR 7 / 6) にぶい黄橙 (10 YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	微細なガラス質の光沢粒を含み、5 mm以下の褐色 粒、灰白色粒、灰色粒を少量含み、3 mm以下の白色 光沢粒、2 mm以下の透明光沢粒をわずかに含む。	底径:7.7cm 残存:ほぼ完形(底部) 底部内面の一部に黒斑
281	光	胴~底	S H (H 3)	ナデ 指頭飯後ナデ 横方向のナデ ヨコナデ	ナデ	浅黄 (25Y 7/3)	灰 (5 Y 6 / 1)	機綱なガラス質の光沢粒を多量に含み、2m以下 の透明光沢粒、灰白色粒、褐色粒、黒色光沢粒、浅 黄色粒を少量合み、3m以下の黒褐色粒をわずか に含む。	推定底径:9.04cm 残存率: 1/2 底部外面に黒色物付着 底部内面の一部に炭化物付 着
282	売	胴~底	E 2 II	縦方向のミガキ	ナデ	にぶい掲 (7.5YR 6 / 4) 掲灰 (7.5YR 4 / 1)	にぶい掲 (7.5YR 5 / 3)	3 m以下の白色粒、灰色粒、黒色粒、1 m以下の黒色光沢粒、透明光沢粒を少量合み、1 m以下の軟質赤色粒をわずかに含む。	推定底径:5.0cm 残存率: 1 / 2 外面の一部黒斑
283	薨	胴~底	E 4	斜め方向のミガキ ヨコ方向のナデ ナデ	工具ナデ	明赤褐 (2.5YR 5 / 6)	赤褐 (5 YR 4/6)	2m以下の黒色粒を含み、2m以下の灰白色粒、 1m以下の浅黄橙色粒、透明光沢粒、微細な雲母 をわずかに含む。	推定底径:3.55cm 残存率:1/2(胴部)3/4 (底部)
284	売	胴~底	H 1 ∼ H 2 Ⅲ	ナデか	ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 3)	4mm~3mmの掲灰色粒、褐色粒、黄橙色粒、2mm以下の灰白色粒、黒褐色粒、微細なガラス質の光沢粒を少量含み、7mmの褐色粒をわずかに含む。	推定底径:8.0cm 残存率:1/2 内面に黒斑 円盤型土台と底部を接合か
285	壺	口~頸	E~F3Ⅲ F2Ⅲ	ヨコナデ 斜方向のナデ後横方向のナデ 指頭痕	ヨコナデ ハケメ後ナデ (部分的にハケ目痕)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	5 mm以下の褐色粒、微細な透明光沢粒を少量含み、 1 mm以下の黒色光沢粒をわずかに含む。	推定口径:12.1cm 残存率: 1 / 2 貼付突帶文
286	高坏	坏	П	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	1 mm以下の透明光沢粒、黒色光沢粒を含み、1 mm 以下の灰色粒、褐色粒、白色粒、半透明粒、微細な ガラス質の光沢粒を少量含む。	内・外面の一部に黒斑
287	高坏	坏~脚	G 4		坏部:横・斜め方向のミガキ 脚部:ナデ、横方向のナデ	橙 (5 YR 7/6)	橙 (5 YR 7 / 6) にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	1 mm以下の黒色粒、微細なガラス質の光沢粒を含み、2 mm以下の赤褐色粒、褐灰色粒、灰白色粒を少量含む。	残存率: 4/5(坏部) 坏部内・外面と脚部外面に黒 斑
288	高坏	杯~裾	E 1	坏部:ナデ 脚部:不明	脚部:指ナデ、横方向の工具ナデ	橙 (5 YR 6 / 8)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	1 m以下の透明光沢粒を少量含み、3 m以下の灰白色粒、白色光沢粒、2 m以下の黒色光沢粒をわずかに含む。	残存率:完形(脚部) 齧歯類によるかじり痕多数
289	高坏	脚	F 2	横・斜め方向のナデ 横方向のナデ後ミガキ	縦方向のナデ	橙 (7.5YR 6 / 6) 橙 (5 YR 6 / 6)	にぶい黄橙 (10YR 6 / 4)	微細なガラス質の光沢粒を少量含み、1 mm以下の 浅黄橙色粒、透明光沢粒、微細な芸母をわずかに 含む。	残存率: 2/3 外面に齧歯類によるかじり 痕あり 内面に思避・鉄分付着、下部 に粘土の縦方向のよれ
290	小型土器	口~底	П	ヨコナデ ヨコ方向の工具ナデ後ナデ 横方向の工具ナデ ナデ工具板	ヨコナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4) 橙 (7.5YR 6 / 6)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	微細なガラス質の光沢粒を含み、7mm大の褐色粒、 2mm以下の灰色粒、褐色粒、黒色粒、1mm以下の黒 色光沢粒をわずかに含む。	推定口径:3.7cm 推定器高:5.85cm 推定底径:4.15cm 残存率:1/9
291	小型土器	口~底	E 2 II E 2 III II	工具によるナデ ケズリに近い強いナデ	ナデ	浅黄橙 (7.5YR 8 / 3)	浅黄橙 (10YR 8 / 4)	微細な灰白色粒、褐色粒、黒色光沢粒を含み、1mm 以下の褐色粒、褐灰白色粒をわずかに含む。	底径:3.75cm 残存率:ほぼ完形(頭~胴部)
292	小型土器	底	S H23 (D 3)	ナデ 丁寧なナデ	ナデ	明黄褐 (10YR 6 / 6)	灰黄 (2.5Y 6 / 2)	微細なガラス質の光沢粒を多量に含み、2 mm以下の黒色光沢粒、にぶい褐色粒、透明光沢粒、黒褐色粒、灰白色粒を少量含む。	底径:4.75cm 残存率:ほぼ完形(底部) 外面の一部に黒斑
293	小型土 器	口~底	G 3	横方向のナデナデ	指ナデ	橙 (5 YR 6/6)	橙 (5 YR 6 / 6)	機綱を崇拝を含み、5m以下の赤褐色乾、褐灰色 乾、1m以下の灰白色粒、透明光沢較、黒色光沢粒 をわずかに含む。	推定口径: 49cm 推定底径: 08cm 推定器高: 3.2cm 残存率: 7/8 内・外面に黒斑 体部内面に指押さえ痕
294	小型土器	口~底	E 4 V	ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR 7 / 4)	にぶい橙 (7.5YR 7 / 4)	5 m以下の赤褐色粒、灰褐色粒、3 m以下の略褐色粒、2 m以下の褐灰色粒、微細なガラス質の光沢粒をわずかに含む。	口径: 4.15cm 器高: 2.75cm 残存率: 1 / 2 (口縁)完形(底部)
295	小型土 器	□∼底	II	ヨコナデナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 2) 褐灰 (10YR 5 / 1)	灰黄褐 (10YR 6 / 2)	1 m以下の黒色光沢粒を含み、微欄なガラス質の 光沢粒を少量含み、2 m以下の半透明粒、1 m以 下の黒色光沢粒、白色粒、褐色粒、微細な雲母をわ ずかに含む。	口径3.0cm 器高2.75cm 胴部最大径3.4cm 残存率 3 / 4
296	小型土器	底	9号竪穴	工具ナデか ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 3)	褐灰 (10YR 5 / 1)	2 m以下の黒色光沢粒、透明光沢粒、灰色粒、赤褐色粒、微細な雲母をわずかに含む。	残存率: 1 / 5 (底部) 推定底径:5.7cm
297	小型土器	頭~胴	攪乱 F 2 Ⅲ	斜方向のミガキ	横方向のナデ	明赤褐 (2.5YR 5 / 6)	赤褐 (5 YR 4 / 6)	微細なガラス質の光沢粒を含み、1 mm以下の黒色 粒、褐色粒、白色粒、透明光沢粒をわずかに含む。	残存率: 1 / 2
					<u> </u>		1		

第12表 土器観察表11

			出土位置		· · · · · · · · · · · ·	伯	38		
掲載 番号	器種	部位	区·G r·層	外面	· 文條 内面	外面	内面	胎土の特徴	型式・その他
298	小型土 器	胴~底	E 4 V	斜方向のミガキ 横方向のナデ	工具ナデ	にぶい橙 (7.5YR 7 / 4)	にぶい橙 (7.5YR 7 / 4)	2 m以下の黒色粒を含み、2 m以下の灰白色粒、 1 m以下の浅黄橙色粒、透明光沢粒、雲母をわず かに含む。	推定口径:3.55cm 残存率 1/2(胴部)3/4 (底部)
299	小型土 器(壺)	体~底	SB 4	ナデか	横方向のナデ ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 3)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	微細なガラス質の光沢粒を少量含み、3 mm以下の 白色光沢粒、2 mm以下の透明光沢粒、黒色光沢粒 をわずかに含む。	内・外面に黒色物付着 底部外面に齧歯類によるか じり痕
300	杓子状 土製品	柄	H 2 II	ナデ後ミガキ	ナデ	柄部 にぶい黄橙 (10YR 7 / 2)	匙部 暗灰黄 (2.5Y 5 / 2)	1 mm以下の褐色粒、褐灰色粒、黒色粒、透明光沢粒を少量含む。	一部黒変か
301	坏	口~底	1号掘立 SH 8 E 2 II E 2 II	回転ナデ 糸切り底	回転ナデ	浅黄橙 (10YR 8 / 3)	浅黄橙 (10YR 8 / 3) 浅橙 (5 YR 8 / 3)	微細なガラス質の光沢粒を含み、1 mm以下の赤褐 色粒、黒褐色粒をわずかに含む。	推定口径:12.3cm 推定底径:6.3cm 推定器高:3.2cm 残存率:7/8
302	青花 碗	П	1 号掘立 SH10	施釉 波濤文	口縁に界線	明青灰 (5B7/1)	明青灰 (5B7/1)	精良	残存率: 1 /10
303	磁器 皿	П	2 号掘立 SH 7	施釉(釉ムラあり)	施釉(釉ムラあり)	灰オリープ (5Y5/3)	灰オリープ (5Y5/3)	精良	推定口径:12.8cm 残存率: 1 / 5
304	坏	底	3 号掘立 SH 7	回転ナデ ヘラケズリ 糸切り底	回転ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	にぶい黄橙 (10YR 7/3) にぶい橙 (5YR 7/4)	1 mm以下の赤褐色粒、褐灰色粒、微細なガラス質 の光沢粒をわずかに含む。	推定底径:5.4cm 残存率:9/10
305	青磁 碗	□∼体	3 号掘立 SH16	施釉貫入	施釉 貫入	灰オリープ (5Y6/2)	灰オリープ (5 Y 6/2)	1 mm以下の透明光沢粒をわずかに含み、微細な灰 白色粒、白色粒を含む。	推定口径:15.4cm 残存率: 1 / 6
306	瓦器 不明	胴	3 号掘立 SH20	菱形文様 横方向のナデ	横方向のナデ	灰(N 5/) 灰白 (5 YR 8/1)	灰(N 5/)	微細な透明光沢粒を少量含み、1 m以下の白色粒、 黒色粒、灰色粒をわずかに含む。	
307	瓦器 不明	胴	3 号掘立 SH19	丁寧なナデ	横方向のナデ	灰(N 5/) 灰白(7.5YR 8/ 2)	灰(N 5/) 灰白(25YR 7/ 1)	微細な適明光沢粒を少量含み、2 m以下の白色粒をわずかに含む。	
308	坏	□∼体	4 号掘立 SH 4	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 3)	浅黄橙 (10YR 8 / 3)	1 mm以下の黒褐色粒、透明光沢粒、灰赤色粒、褐灰色粒をわずかに含む。	推定口径:11.6cm 残存率: 1 / 8 (口縁)
309	青磁Ⅲ	底	5 号掘立 SH 3	施釉 露胎	施釉 櫛点描文	灰 (7.5Y 6 / 1)	灰 (7.5Y 6 / 1)	精良	推定底径:5.3cm 同安窯系
310	瓦器 火鉢	体~底	6 号捆立 SH 4	剥削	刹帷	黄灰 (25Y 5 / 1)	黄灰 (2.5Y 5 / 1)	2 m以下の灰白色粒、褐灰色粒、黒褐色粒、透明光 沢粒を少量含み、微細な雲母をわずかに含む。	推定底径:31.0cm 残存率:1/8(底径) 底部外面に貼付け時の鋭い 刃物の工具による接合痕
311	瓦器 不明	底	6 号掘立 SH 4	ナデ	ナデ	灰白 (2.5Y 8 / 2)	黄灰 (25Y 5 / 1)	2 mm以下の灰白色粒、褐灰色粒、黒褐色粒を少量 含む。	
312	青磁碗	体~底	7号掘立 SH 7	施釉貫入	施釉 貫入 高台内面は露胎 見込みに印花文	灰オリーブ (5 Y 5 / 2)	灰オリーブ (5 Y 5 / 2) 高台内 にぶ い橙(25 Y 6 / 4)	精臭	推定底径:5.2cm 残存率:完形(底部)
313	白磁皿	口~底	8 号掘立 SH 4	施釉 高台付近露胎	施釉露胎	灰白 (5 Y 7 / 1)	灰白 (5 Y 7 / 1)	精良	推定口径:13.8cm 推定底径:7.5cm 器高:2.4cm 残存率: 1 / 9
314	青磁碗	□∼底	9 号捆立 SH 6	施釉 貫入 口縁付近に雷文帯・界線 胴部に線攝選弁文	施釉 貫入 高台内面は露胎	灰オリーブ灰 (7.5Y 6 / 2)	灰オリーブ灰 (7.5Y 6 / 2) 高台:にぶい橙 (5 YR 6 / 4)	精臭	推定口径:12.9cm 器高:5.6cm 底径:5.8cm 残存率:1/7(口縁~体部) 完形(底部)
315	陶器	底	10号捆立 SH12	施釉	施釉 高台内露胎	灰白 (5 Y 8 / 1)	灰白 (5 Y 8 / 1)	精良	推定底径:6.0cm 残存率:2/5(底部) 一部釉垂れ
316	青磁碗		11号掘立 SH 2	施釉 貫入 雷文带	施釉 貫入	オリープ灰 (10Y 6 / 2)	オリープ灰 (10Y 6 / 2)	精良	
317	青花 碗	体	14号掘立 SH10	動物(馬の足)の文様か 施釉	施釉	明緑灰 (10GY 8 / 1)	明緑灰 (7.5GY 8 / 1)	精良	
318	青花碗	体~底	11号掘立 SH 4	施釉 貫入 芭蕉業文	施釉 貫入 見込みに「福」の文字 1条の界線 高台内は露胎	灰白 (7.5Y 7 / 2)	灰白 (7.5Y 7 / 2)	精良	底径:5.0cm 残存率: 1 / 2
319	青花碗	□∼底	11号掘立 SH 8	施釉 口縁付近・体部下部に1条の界線 高台畳付は無釉	高台内面中心部は無釉 口縁・体部下部に1条の界線 見込みに蛇の目釉剥ぎ	灰白 (10Y 8 / 1)	灰白 (10Y 8/1)	1 mm以下の褐色粒を少量含む。	口径:13.0cm 底径:4.8cm 器高:4.7cm 残存率:完形
320	青花Ⅲ		11号掘立 SH 2	施釉。貫入 口縁付近に1条の界線	施釉。貫入 口縁付近に1条の界線	灰白 (5 Y 7 / 2)	灰白 (7.5Y 7 / 2)	精良	推定口径:13.0cm 残存率: 1 / 4 (口縁) 碁筍底皿
321	青花 III	П	11号掘立 SH 4	施釉 口縁付近に界線	施釉 口縁付近に界線	明緑灰 (7.5GY 8 / 1)	明緑灰 (7.5GY 8 / 1)	精良	推定口径:11.3cm 残存率: 1 / 7
322	青花 盤	体	11号掘立 SH10	施釉 文様あり	施釉 文様あり 界線	灰白 (7.5Y 8 / 1)	灰白 (10Y 8 / 1)	精良	残存率: 1 / 9
323	青花碗	体~底	12号掘立 SH 3	施釉 高台外面に界線	施釉 界線	明青灰 (5 BG 7 / 1)	明青灰 (5G7/1)	精良	底径:44cm 残存率:1/4(体部) 釉ただれ
324	青磁碗	体~底	13号掘立 SH 7	施釉 貫入 高台付近露胎	施釉。貫入 高台内面露胎	明オリーブ灰 (2.5GY 7 / 1)	明オリーブ灰 (2.5GY 7 / 1)	精良	推定底径:5.1cm 残存率: 1 / 2 (底部)
325	青磁香炉	体~底	13号掘立 SH 7	施釉。貫入 1条の界線	施釉 貫入 露胎	オリープ灰 (2.5GY 6 / 1)	灰白 (7.5Y 7 / 2)	精良	
326	白磁	П	SH548 (G 5)	施釉	施釉	灰白 (7.5Y 8 / 1)	灰白 (7.5Y 8 / 1)	精良	
327	白磁	体	SH(G5)	施釉 貫入	施釉 貫入	灰白 (2.5Y 8 / 2)	灰白 (2.5Y 8 / 2)	精良	残存率: 1 / 6 (体部)
328	青磁	П	SH407 (F 4)	施釉 貫入	施釉 貫入	灰 (10Y 6 / 1)	灰 (10Y 6 / 1)	精良	
329	青磁輪花皿		SH(F 5)	施釉	施釉 3条の波状圏線	オリープ灰 (25GY 6 / 1)	オリープ灰 (2.5GY 6 / 1)	精良	推定口径:11.8cm 残存率: 1 / 5 (口縁)
330	青磁皿	口~底	SH263 (F 2)	施釉	施釉 蛇の目釉剥ぎ 闇線 高台内面は露胎	オリープ灰 (10Y 6 / 2)	オリーブ灰 (10Y 6 / 2)	精良	推定口径:12.3cm 器高3.4cm 推定底径7.1cm 残存率 1 / 4 腰折皿

第13表 土器観察表12

掲載			出土位置	器面調整	· 文様	色	.調		
番号	器種	部位	区·G r·層	外面	内面	外面	内面	胎土の特徴	型式・その他
331	青花 皿	П	SH(F5)	界線 草花文	界線	灰白 (N 8/)	灰白 (N 8/)	精良	
332	青花皿	底	SH(F 5)	施釉	施釉	明青灰 (5B7/)	明青灰 (5B7/)	精良	推定底径:2.65cm 残存率:完形(底部) 碁笥底
333	陶器	底	10号掘立 SH12	ナデ	自然釉	灰白 (5 Y 7 / 2)	灰白 (5 Y 7 / 1) 灰 (5 Y 5 / 1)	1 mm以下の灰白色粒、暗灰色粒をわずかに含む。	
334	瓦器	□∼底	SH(F5)	回転ナデ	回転ナデ	黄灰 (2.5Y 6 / 1)	灰黄 (2.5Y 6 / 2)	1 mm以下の黒褐色粒、灰白色粒、透明光沢粒をわずかに含む。	推定口径:10.5cm 推定底径:8.1cm 残存率:1/3
335	土師器 坏	体~底	SH37 (D 3)	回転ナデ 糸切り底	回転ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 3)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	1 mm以下の黒褐色粒、褐色粒をわずかに含む。	推定底径:7.3cm 残存率: 2/3(底部) 内面に黒色物付着
336	土師器	口~底	SH178 G 2 II	回転ナデ糸切り底	回転ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	1 mm以下のにぶい赤褐色粒、透明光沢粒、褐灰色 粒をわずかに含む。	推定口径:6.7cm 推定底径:5.3cm 器高:1.62cm 残存率: 1 / 2 (底部)
337	青花 碗	П	1 号竪穴状 SH 1	施釉 花文	施釉	明緑灰 (10G 7 / 1)	明緑灰 (7.5GY 8 / 1)	精良	残存率: 1/10
338	白磁皿	□~底	1号溝状	施釉	施釉	灰 (N 8/)	灰 (N 8/)	精良	推定口径:12.1cm 残存率: 1 / 6 (口縁)
339	白磁皿	□∼底	1 号溝状	施釉露胎	施釉露胎	灰白 (7.5Y 7 / 1) 淡黄 (2.5Y 8 / 3)	灰白 (75Y 7 / 1) 淡黄 (25Y 8 / 3)	精良	推定口径:12.4cm 器高:2.35cm 推定底径:6.2cm 残存率: 1/6
340	陶器	П	1号溝状	自然釉ナデ	自然釉ナデ	灰褐 (5 YR 4 / 2) 黒褐 (5 YR 2 / 1)	暗赤褐 (5 YR 3 / 2)	1 mm以下の淡黄色粒、透明光沢粒、微細な灰白色 粒をわずかに含む。	推定口径:13.0cm 残存率: 1 / 6
341	陶器壶	胴	1号溝状	自然釉	回転ナデ	灰黄 (25Y 7 / 2)	灰黄褐 (10YR 4 / 2)	2 m以下の灰白色粒、暗赤褐色粒、褐灰色粒をわずかに含む。	
342	陶器要	体~底	1 号溝状 2 号溝状 E 5 Ⅳ	縦方向のナデ ナデ	ナデ	にぶい赤褐 (5 YR 5/3)	にぶい赤褐 (5 YR 5/3)	4 m以下の灰白粒を多量に含み、1 m以下の透明 光沢粒を少量含み、2 m以下の黒色粒をわずかに 含む。	
343	青磁碗	П	2号溝状	施釉	施釉	オリープ灰 (10Y 6 / 2)	オリープ灰 (10Y 6 / 2)	2 m以下の褐色粒をわずかに含む。	推定口径:13.3cm 残存率: 1 / 7
344	白磁Ⅲ	□∼体	3号道路状	施釉	施釉	灰白 (5 Y 7 / 1)	灰白 (5Y8/1)	精良	
345	土師器 坏	底	5 号道路状	回転ナデ糸切り底	回転ナデ 回転ナデ後ヨコナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4) 橙 (5 YR 7 / 6)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4) 橙 (5 YR 6 / 6)	微細なガラス質の光沢粒を含み、微細な黒褐色粒、 浅黄橙色粒をわずかに含む。	推定底径:8.2cm 残存率:完形(底部)
346	白磁碗	П	E 1 II	施釉	施釉	灰白 (7.5Y 7 / 1)	灰白 (7.5Y 7 / 1)	精良	玉緑口緑
347	白磁碗	□∼体	E 2 II	施釉露胎	施釉	灰 (7.5Y 6 / 1)	灰 (7.5Y 6 / 1)	精良	推定口径:15.4cm 残存率: 1 / 8
348	白磁碗	П	B 2 I	施釉 貫入	施釉 貫入	灰白 (5 Y 7 / 2)	灰白 (5 Y 7 / 2)	精良	
349	白磁椀	П	F 1 II	施釉	施釉	灰白 (75Y 8 / 1)	灰白 (5 Y 8 / 1)	精良	
350	白磁碗	□∼体	FII	施釉	施釉	灰白 (N 8/)	灰白 (N 8/)	精良	
351	白磁皿	体~底	F 6 I	施釉	施釉 高台畳付 露胎	灰白 (N 8/)	灰白 (N 8/)	精良	高台内面まで釉が及ぶ
352	白磁皿	П	H 4 I	施釉	施釉	灰白 (10Y 8 / 1)	灰白 (10Y 8 / 1)	精良	推定口径:10.4cm
353	白磁	П	G 2 Ⅲ	施釉	施釉	灰 (7.5Y 8 / 1)	灰 (7.5Y 8 / 1)	精良	推定口径:10.6cm
354	白磁皿	П	II	施釉	施釉	灰白 (5 Y 8 / 1)	灰白 (5Y8/1)	精良	推定口径:6.6cm
355	白磁皿	П	G 1 II	施釉	施釉	灰白 (10Y 8/1)	灰白 (10Y 8 / 1)	精良	
356	白磁皿	□∼底	攪乱	施釉	施釉露胎	灰白 (2.5Y 8 / 2)	灰白 (2.5Y 8 / 2)	精良	推定口径:13.2cm 推定底径:7.2cm 推定器高:3.2cm 残存率:1/8
357	白磁皿	底	I	施釉 一部無釉部分あり	施釉 露胎 輪状釉剥ぎ 高台	明オリープ灰 (5 GY 7 / 1)	明オリープ灰 (5 GY 7 / 1)	精良	高台外面まで釉が及ぶ。
358	白磁皿	口~底	П	施釉質入露胎	施釉(貫入)	灰白 (2.5Y 8 / 2) 淡黄 (2.5Y 8 / 3)	灰白 (25Y 8 / 2)	精良	推定口径:7.2cm 推定底径:3.6cm 推定器高:3.2cm 残存率:1/2
359	白磁 多角坏	体~底	G 3 II	施釉	高台畳付き~高台内面が露胎	灰白 (5 Y 8 / 2)	灰白 (5 Y 8 / 2)	精良	推定底径:3.3cm
360	白磁皿	底	G 2 Ⅲ	施釉	施釉	灰白 (5 Y 8 / 1)	灰白 (10Y 8 / 1)	精良	高台外まで釉が及ぶ
361	白磁皿	底	B 2 Ⅳ	施釉けずり	施釉 高台畳付き~高台内面が露胎	灰白 (7.5Y 8 / 1)	灰白 (5 Y 8 / 1)	精良	推定底径:4.0cm 福建·広東系
362	白磁 不明	□∼体	H 4 I	施釉	施釉露胎	灰白 (5 Y 8 / 2)	灰白 (5 Y 8 / 2)	精良	
363	青磁碗	П	П	施釉 貫入	施釉 貫入	黄褐 (2.5Y 5 / 3)	黄褐 (2.5Y 5 / 3)	精良	推定口径:13.2cm
364	青磁碗	П	E 2	施釉 貫入	施釉貫入	オリープ灰 (2.5GY 6 / 1)	オリープ灰 (25GY 6 / 1)	精良	推定口径:14.0cm 残存率: 1 / 8
365	青磁碗	П	F 2 II	施釉貫入	施釉貫入	オリープ灰 (2.5GY 6 / 1)	オリープ灰 (25GY 6 / 1)	精良	推定口径:16.9cm 残存率: 1 / 7
366	青磁碗	П	F 2 Ⅲ	施釉 貫入	施釉 貫入	灰黄褐 (10YR 6 / 3)	灰黄褐 (10YR 6 / 3)	精良	
	青磁	П	G 3 II	施釉	施釉	灰	灰 (10Y 6 / 1)	精良	推定口径:14.8cm
367	碗			貫入	貫入	(10Y 6 / 1)	(101 0/1/		残存率: 1/11

第14表 土器観察表13

掲載番号	器種	部位	出土位置 区·G r·層	器面調整 外面	··文様	色外面	調 内面	胎土の特徴	型式・その他
369	青磁碗		F3 II	施釉貫入	施釉 貫入	オリープ灰 (2.5GY 6 / 1)	オリープ灰 (2.5GY 6 / 1)	精良	推定口径:15.8cm 残存率: 1 / 7
370	青磁		E 2 II	施釉貫入	施釉質入	暗オリープ (5 Y 4/3)	暗オリーブ (5 Y 4/3)	精良	残存率: 1 /12
371	青磁碗	П	G 2 II	施釉 貫入 片切彫の鎬連弁文	施釉質入	オリープ灰 (25GY 5 / 1)	オリープ灰 (2.5GY 5 / 1)	精良	
372	青磁碗	П	G 3 II	施釉 連弁文	施釉	オリープ灰 (25GY 6 / 1)	オリープ灰 (25GY 6 / 1)	精良	
373	青磁碗	П	G 6 IV	施釉 連弁文	施釉	灰オリープ (5 Y 5 / 3)	灰オリープ (5 Y 5 / 3)	精良	
374	青磁碗	П	攪乱	施釉 貫入 線描蓮弁文	施釉貫入	オリープ灰 (2.5GY 6 / 1)	オリープ灰 (2.5GY 6 / 1)	精良	
375	青磁碗	体	D 4	施釉 連弁文	施釉	緑灰 (7.5GY 6 / 1)	緑灰 (7.5GY 6 / 1)	精良	
376	青磁碗	体	F 4 II	施釉 貫入 遊弁文	施釉 貫入	オリープ灰 (2.5GY 6 / 1)	オリープ灰 (2.5GY 6 / 1)	精良	
377	青磁碗	П	G 1 II	施釉。貫入	施釉 貫入	灰オリープ (5 Y 5 / 3)	灰オリープ (5 Y 5 / 3)	精良	
378	青磁碗	П	H 4 I	施釉	施釉	明緑灰 (7.5GY 7 / 1)	明緑灰 (7.5GY 7 / 1)	精良	
379	青磁碗		F 4 II	施釉貫入	施釉 貫入	オリープ灰 (10YY 6 / 2)	オリープ灰 (10YY 6 / 2)	精良	
380	青磁碗	П	E 4 攪乱	施釉貫入	施釉 貫入	浅黄 (5 Y 7/3)	浅黄 (5 Y 7 / 3)	精良	
381	青磁碗	П	I	施釉貫入	施釉貫入	オリープ灰 (10Y 6 / 2)	オリープ灰 (10Y 6 / 2)	精良	推定口径:13.2cm 残存率: 1 / 6
382	青磁碗		F 1 II	施釉貫入	施釉 貫入	明オリープ灰 (2.5GY 7 / 1)	明オリーブ灰 (2.5GY 7 / 1)	精良	推定口径:12.3cm 残存率: 1 / 8
383	青磁碗	П	攪乱	施釉 簡略化した雷文帯	施釉	灰白 (5 Y 7 / 2)	灰白 (5 Y 7 / 2)	精良	
384	青磁碗	П	F 2 II	施軸 貫入 雷文帶	施釉 貫入	灰白 (25GY 8 / 1)	灰白 (25GY 8 / 1)	精良	直線的に変化した雷文帯で、 退化した文様
385	青磁碗	体~底	C 2 I	施釉	施釉。高台畳付~高台内面は無釉。見 込みに圏線	オリープ灰 (10YY 5 / 2)	オリープ灰 (10YY 5 / 2)	精良	推定底径:6.5cm 残存率: 1 / 6
386	青磁Ⅲ	П	F 2 II	施釉貫入	施釉 貫入	明緑灰 (7.5GY 7 / 1)	明緑灰 (7.5GY 7 / 1)	精良	推定口径:11.8cm 残存率: 1 / 9
387	青磁皿	П	C 2 I	施釉 貫入	施釉 貫入	明オリーブ灰 (5 GY 7/1)	明オリーブ灰 (5 GY 7 / 1)	精良	推定口径:12.1cm 残存率: 1 / 4 端反皿
388	青磁皿	П	F 2 II	施釉 貫入	施釉 貫入	オリープ灰 (2.5GY 5 / 1)	オリープ灰 (2.5GY 5 / 1)	精良	推定口径:11.9cm 残存率: 1 / 5
389	青磁皿	П	F 2 I	施釉質人	施釉 貫入 口縁部付近に圏線	オリープ灰 (10YY 6 / 2)	オリープ灰 (10YY 6 / 2)	精良	推定口径:12.2cm 残存率: 1 / 9 端反Ⅲ
390	青磁Ⅲ	П	F 1 II	施釉 口縁付近に1条の界線	施釉	灰白 (10Y 7 / 2)	灰白 (10Y 7 / 2)	精良	
391	青磁 Ⅲ	П	F 1 II	施釉貫入	施釉 貫入	灰オリープ (7.5Y 5 / 2)	灰オリーブ (7.5Y 5 / 2)	精良	
392	青磁 III	П	E 3 II	施釉貫入	施釉 貫入	明緑灰 (7.5GY 7 / 1)	明緑灰 (7.5GY 7 / 1)	精良	稜花皿か
393	青磁皿	П	攪乱	施釉質人	施釉 貫入 文様あり	緑灰 (7.5GY 6 / 1)	緑灰 (7.5GY 6 / 1)	精良	輪花皿
394	青磁皿	П	E 2 II	施釉質入	施釉 貫入 口縁付近に2条の界線	オリープ灰 (10YY 6 / 2)	オリープ灰 (10YY 6 / 2)	精良	輪花皿
395	青磁Ⅲ	П	E 4 I	施釉質入	施釉 貫入 内面・外面に文様あり	オリープ灰 (2.5GY 5 / 1)	オリープ灰 (2.5GY 5 / 1)	精良	輪花皿
396	青磁皿	П	G 2 II	施釉貫入	施釉 貫入 内面に文様あり	オリープ灰 (2.5GY 6 / 1)	オリープ灰 (2.5GY 6 / 1)	精良	輪花皿
397	青磁皿	体	C 5 V	施釉 貫入 文様あり	施釉 貫入 文様あり	オリープ灰 (10Y 6 / 2)	オリープ灰 (10Y 6 / 2)	精良	輪花皿
398	青磁皿	底		施釉 高台内面に蛇の目釉剥ぎ	施釉 貫入	灰オリープ (10Y 5 / 2)	灰オリープ (7.5Y 6 / 2)	精良	推定底径:5.5cm 残存率: 1 / 4
399	青磁皿	底	G 2 Ⅲ	施釉買入	施釉 貫入 高台内面は無釉。見込みに輪状釉剥ぎ・ 印花文	灰白 (10Y 7 / 2)	灰白 (10Y 7 / 2)	精良	推定底径:6.2cm 残存率: 1 / 2 (底部)
400	青磁皿	底	攪乱	施釉 貫入 高台畳付は無釉。	施釉 貫入 高台内面は輪状釉剥ぎ	オリープ灰 (10YY 6 / 2) 褐 (10YR 4 / 4)	オリープ灰 (10YY 6 / 2)	精良	推定底径:6.2cm 残存率: 1/3 畳付は、部分的に無種・施種
401	青磁皿	底	F 1 II	施釉貫入	施釉貫入	灰オリープ (10Y 6 / 2)	灰オリープ (10Y 6 / 2)	精良	
402	青磁皿	底	E 3 II F 1 I	施釉。貫入 高台内面は露胎	施釉貫入	オリーブ灰 (2.5GY 6 / 1)	オリープ灰 (2.5GY 5 / 1)	精良	推定底径:6.6cm 残存率:3/4(底部)
403	青磁 不明	体~底	FII	施釉露胎	露胎 横回転ナデ	オリープ灰 (10Y 6 / 2) 灰黄 (25Y 7 / 2)	浅黄 (25Y 7 / 3)	精良	残存率: 1 / 6
404	青磁 火入か	П	G 1 II	施釉	施釉	オリーブ灰 (10Y 5 / 2)	オリープ灰 (10YY 5 / 2) 灰白 (10Y 7 / 2)	精良	推定口径:6.4cm 残存率: 1 / 4
405	青花 碗	П	提乱 F 1 II	施釉 1条の界線と文様あり。	施釉 2条の界線	明緑灰 (5G7/1)	明緑灰 (5G7/1)	精良	
406	青花碗	П	攪乱	施釉 1条の界線 文様あり	施釉 2条の界線	明青灰 (5B7/1)	明青灰 (5B7/1)	精良	

第15表 土器観察表14

掲載	器種	部位	出土位置	器面調整	·文様	色	調	胎土の特徴	型式・その他
番号	107135	nptv.	区·Gr·層	外面	内面	外面	内面	加工等級	金八八の地
407	青花碗	不明	I	施釉 貫入 唐草文	施釉 貫入	明緑灰 (7.5GY 8 / 1)	明オリーブ灰 (2.5GY 7 / 1)	精良	
408	青花 碗	体~底	E 4 攪乱	施釉 唐草文 高台外面の2条の界線	施釉 内面見込みに牡丹の花をあしらう	灰白 (10Y 7 / 1) 灰白 (N 8 /)	灰白 (10Y 7 / 1)	精良	底径:49cm 残存率: 1 / 4 (高台)
409	背花 碗	П	D 5 提乱	施釉 貫入 1条の界線。 波濤文·草花文	施釉 貫入 1条の界線	灰白 (5 Y 7/1)	灰白 (5 Y 7/1)	精良	残存率: 1 /10
410	青花 碗	П	E 6 I	施軸 1条の昇線	施釉 口縁部付近に1条の界線	明オリープ灰 (2.5GY 7 / 1)	明オリープ灰 (2.5GY 7 / 1)	精良	
411	青花 碗	П	E 2 II	施釉 雷文帯 雷文帯の上部に1条 下部に2条の界線。	施釉 雷文帯 雷文帯の上部に1条 下部に2条の界線	明青灰 (5B7/1)	明青灰 (5B7/1)	精良	
412	青花 碗	体~底	IV -874	施釉 草花文か 界線	内面見込みに草花文 二重圏線 高台内に「大明年造」の文字高台と体部 付近に1条の界線	明緑灰 (7.5GY 8 / 1)	明緑灰 (7.5GY 8 / 1)	精良	底径:5.0cm 残存率:完形(底部)
413	青花Ⅲ	П	C 2 I	施釉 1条の界線 店草文	施釉 界線	明緑灰 (7.5GY 8 / 1)	明緑灰 (7.5GY 8 / 1)	精良	残存率: 1/11
414	青花Ⅲ	п	E 6 I	施釉 貫入 1条の界線 列点文。	施釉 貫入 1 条の界線	灰白 (2.5GY 8 / 1)	灰白 (25GY 8/1)	精良	
415	青花Ⅲ	底	攪乱	施釉二重固線	施釉	明青灰 (5BG 7/1)	明青灰 (5BG 7/1)	精良	
416	青花Ⅲ	底	E 4 I	施釉 2条の界線	施釉 見込みに玉取獅子文 二重圏線	明緑灰 (7.5GY 8 / 1)	明緑灰 (7.5GY 8 / 1)	精良	残存率: 1/7~1/8
417	青花Ⅲ	□∼底	F 3 II	施釉 1条の界線 唐草文	施釉 1条の界線 十字花文	明緑灰 (10GY 8 / 1)	明緑灰 (10GY 8 / 1)	精良	残存率: 1 /10
418	青花Ⅲ	□∼底	攪乱	施釉 2条の界線 宝相華唐草文	施釉(高台内の一部が無釉) 1条の界線	明緑灰 (7.5GY 8 / 1)	明緑灰 (7.5GY 8 / 1)	精良	
419	青花Ⅲ	体~底	G 6 IV	施釉露胎	施釉	明青灰 (5BG 7/1)	明青灰 (5BG 7/1)	精良	残存率: 1 / 4 (底部) 推定底径: 3.3cm 碁笥底皿
420	青花Ⅲ	底	F 3 II	施釉 貫入。 一部露胎	施釉 貫入	灰白 (5 Y 8 / 2)	灰白 (7.5Y 7 / 2)	精良	推定底径:4.0cm 残存率:1/4(底部) 碁笥底皿
421	青花 瓶	体	攪乱	施釉 草花文 界線	施釉 一部ナデか	灰白 (2.5GY 8 / 1)	灰白 (N 8/)	精良	内面の一部に釉垂れ 残存率: 1 / 4 (胴部)
422	天目 茶碗	□∼体	攪乱	施釉 貫入	施釉 貫入	極暗赤褐 (5 YR 2 / 4)	黄褐 (10YR 5 / 6)	精良	推定口径:9.2cm 残存率: 1 / 8 (体部)
423	天目 茶碗	□∼体	п	施釉	施釉	暗褐 (7.5YR 3 / 4)	無 (N1.5/)	精良	
424	天目 茶碗	口~体	F 2 II	施釉	施釉	褐 (7.5YR 4 / 4)	無 (7.5YR1.7/1)	精良	
425	須恵器	顕	H 4 I	回転ナデ自然和	回転ナデ 自然種	灰 (N 5/)	灰 (N 5/)	精良	残存率:完形(顕部) 426と同一個体
426	須恵器	胴~底	H 4 I	回転ナデナデ	回転ナデ	K (N 4/)	K (N 6/)	精良	推定胴部:7.8cm 推定底部:4.2cm 残存率:1/4 No.425と同一個体
427	陶器		D 3 IV	回転ナデ	回転ナデ	灰褐 (5 YR 4 / 2)	にぶい赤褐 (2.5YR 4 / 3)	4 m以下の灰白色粒、1 mm以下の透明光沢粒を少量含む。	備前焼
428	陶器 売か壺	体	G 2 II	回転ナデ後ナデ	回転ナデ	掲 (7.5YR 4 / 3)	灰 (7.5YR 5 / 1)	2 mm以下の灰白色粒をわずかに含む。	備前燒
429	陶器 売か壺	体	E 6 I	波状櫛目文ナデ	回転ナデ	灰黄 (2.5Y 7 / 2)	黄灰 (2.5Y 6 / 1)	2 mm以下の灰白色粒をわずかに含む。	備前燒
430	陶器 変か壺	体	E 4 I	自然釉	自然釉	褐灰 (7.5YR 4 / 1)	褐灰 (7.5YR 4 / 1) 灰黄 (2.5Y 6 / 2)	精良	備前焼
431	陶器売か壺	底	I	自然釉	自然釉	褐灰 (5 YR 4 / 1) 灰黄 (25Y 6 / 2)	褐灰 (5 YR 4 / 1) 褐灰 (10 YR 5 / 1)	精良	部分的に白色物付着 推定底径:21.4cm 備前焼
432	陶器播鉢	口~底	П	回転ナデ	回転ナデ	にぶい赤褐 (5 YR 5 / 3)	灰黄褐 (10YR 5 / 2)	2m~1m程度の灰白色粒、黒褐色粒、浅黄橙色 粒、微細な灰白色粒、黒褐色粒、橙色粒を少量含 み、5m程度の黒褐色粒、浅黄橙色粒、褐色粒をわ ずかに含む。	推定口径: 29.1cm 器高: 11.75cm 推定底径: 15.1cm 内面に 1 単位 7 条の擂目 備前焼
433	陶器 指鉢	П	攪乱	ナデ(わずかに自然種あり)、使用による摩 滅あり	ナデ 1単位5条の擂目	にぶい赤褐 (2.5YR 5 / 4)	にぶい赤褐 (2.5YR 4 / 3)	3 m以下の灰白色粒、灰色粒、黒色粒を少量含み、 7 m大の黒色粒をわずかに含む。	推定口径:30.4cm 残存率:1/9(口縁) 備前焼
434	陶器 擂鉢	□∼体	E 2 II	自然釉回転ナデ	回転ナデ	にぶい赤褐 (2.5YR 4 / 4)	暗灰 (N 3/)	5 mm ~ 2 mmの灰白色粒、1 mm以下の灰白色粒、明 褐灰色粒を多量に含む。	備前焼
435	陶器 插鉢	П	F 2 I	自然釉 回転ナデ	回転ナデ	灰褐 (7.5YR 4 / 2)	褐灰 (10YR 4 / 1)	2mm以下の灰白色粒、褐灰色粒、にぶい橙色粒を わずかに含む。	備前焼
436	陶器播鉢	П	G 3 II	自然輸回転ナデ	回転ナデ	灰 (N 4/) 明黄褐 (25YR 6/6) 褐 (7.5YR 4/3)	灰 (N 4/)	4 m以下の灰色粒、灰黄色粒、灰白色粒、透明光沢 粒を含む。	備前焼
437	陶器播鉢	П	G 1 II	回転ナデ わずかに自然釉	回転ナデ 播目	黒褐 (7.5YR 3 / 1)	灰赤 (2.5YR 4 / 2)	4 m以下の黒色粒、2 m以下の灰白色粒、褐灰色粒を多量に含み、2 m以下の透明光沢粒をわずかに含む。	備前焼

第16表 土器観察表15

			出土位置	器面調整	文梯	60	.润		
掲載 番号	器種	部位	区·Gr·層	外面	内面	外面	内面	胎土の特徴	型式・その他
438	陶器播鉢	П	П	自然釉回転ナデ	回転ナデ	にぶい赤褐 (5 YR 5 / 4)	赤褐 (5 YR 4 / 6)	2m以下のにぶい橙色粒、微細な黒褐色粒を少量 含み、3m以下の黒褐色粒、微細な透明光沢粒を わずかに含む。	備前燒
439	陶器 描鉢	体	ElI	回転ナデ後ナデ	回転ナデ後ナデ	灰褐 (7.5YR 4 / 2)	黄灰 (2.5Y 4/1)	4 mm以下の浅黄橙色粒、2 mm以下の褐灰色粒、透明光沢粒、灰白色粒をわずかに含む。	内面に1単位5条以上の擂 目 備前焼
440	陶器 插鉢	体	П	回転ナデ後ナデ	捕目	にぶい赤褐 (25YR 5 / 3) 褐灰 (75YR 4 / 1)	にぶい赤褐 (25YR 4 / 3)	8 mm以下の灰白色粒、5 mm以下のにぶい赤褐色粒、 2 mm以下の黒褐色粒をわずかに含む。	残存率: 1 / 6 備前焼
441	陶器 描鉢	体~底	F 2 II	回転ナデ	捕目	橙 (5 YR 6/6)	明黄褐 (10YR 7 / 6)	3 mm以下の透明光沢粒、灰白色粒、褐灰色粒を含み、1 cmの灰褐色粒をわずかに含む。	内面に1単位4条以上の擂 目 備前焼
442	陶器播鉢	体~底	F 2 II	回転ナデナデ	摘目	橙 (5 YR 6 / 6)	にぶい掲 (7.5YR 5 / 3) 灰 (6 /)	2 mm以下の白色粒、褐灰色粒、黒褐色粒を少量含む。	内面に1単位7条以上の擂 目 備前焼
443	陶器播鉢	体~底	G 2 II	工具によるナデ ナデ	回転ナデ	明赤褐 (2.5YR 5 / 6) にぶい褐 (7.5YR 5 / 3)	灰褐 (7.5YR 4 / 2)	4 mm~1 mmの橙色粒、1 mm以下の灰白色粒、にぶい黄橙色粒、黒褐色粒を含む。	備前焼
444	土師器 坏	体~底	E 2 III II	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	橙 (5 YR 6 / 6)	橙 (5 YR 6 / 8)	2 mm以下の灰白色粒、黒色光沢粒、1 mm以下の赤 褐色粒をわずかに含む。	底径:5.8cm 残存率: 1 / 2 (底部)
445	土師器 坏	体~底	E1I層	回転ナデ	回転ナデ	橙 (5 YR 6 / 6)	橙 (5YR 6/6)	4 mm以下の灰白色粒、褐灰色粒を少量含む。	底径:7.5cm 残存率: 1 / 4 (高台)
446	土師器 不明	П	E 2 II E 2 II	不明	不明	橙 (5 YR 7 / 8)	橙 (5YR6/8)	1 mm以下の灰白色粒をわずかに含む。	447と同一個体
447	土師器 不明	体	F 1 II E 2 II	回転ナデ	回転ナデ	橙 (5YR7/8)	橙 (5YR 6/8)	1 m以下の灰白色粒、黒色粒をわずかに含む。	残存率: 1 / 2 (底部) 446と同一個体
448	土師器 坏	口~底	G 1 II	回転ナデ糸切り底	回転ナデ	淡黄 (2.5Y 8 / 4)	淡黄 (25Y 8 / 4)	1 mm以下の黒褐色粒、灰白色粒、灰黄色粒、微細なガラス質の光沢粒をわずかに含む。	推定口径:11.1cm 器高:3.3cm 推定底径:9.5cm 残存率:1/8(底部)
449	土師器 坏	底	攪乱	回転ナデ糸切り底	回転ナデ	浅黄 (2.5Y 7/3) 灰黄褐 (10YR 5/2)	灰黄褐 (10YR 6 / 2)	微細なガラス質の光沢粒を多量に含み、2 m以下 の黒褐色粒、1 mm以下の赤褐色粒をわずかに含む。	推定底径:8.8cm 残存率: 1 / 4 (底部)
450	土師器 坏	体~底	G 2 II G 2 II	回転ナデ糸切り底	回転ナデ	灰黄褐 (10YR 6 / 2)	灰白 (2.5Y 8 / 2)	微細なガラス質の光沢粒を含み、1 m以下の黒褐 色粒、灰白色粒、褐灰色粒、透明光沢粒をわずかに 含む。	推定底径:72cm 残存率:1/2(底部) 内・外面に黒色物付着
451	土師器 坏	П	F 2 II b	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙 (10YR 8 / 4)	橙 (10YR 7 / 6)	微細なガラス質の光沢粒を含み、1 mm以下の黒色 粒をわずかに含む。	推定口径:11.3cm 残存率: 1 / 9 (口縁)
452	土師器 坏	体~底	G 1 Ⅲ	回転ナデ 糸切り底	回転ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	微細なガラス質の光沢粒を多量に含み、微細な黒 褐色粒をわずかに含む。	推定底径:7.2cm 残存率: 1 / 5 (底部)
453	土師器	体~底	G 2 III	回転ナデ 糸切り底	回転ナデ	にぶい橙 (7.5YR 6 / 4)	にぶい橙 (7.5YR 7 / 4)	微細なガラス質の光沢粒を多量に含み、2 m以下 のにぶい赤褐色粒、明赤褐色粒、2 m以下の黒褐 色粒をわずかに含む。	推定底径:8.6cm 残存率:1/4 外面の一部に黒色物付着
454	土師器 坏	体~底	E 1 II	回転ナデ 糸切り底	回転ナデ	淡黄 (2.5Y 8 / 4)	淡黄 (2.5Y 8 / 4)	微細なガラス質の光沢粒を多量に含み、1 mm以下 の赤褐色粒をわずかに含む。	底径7.6cm 残存率 底部 1 /6
455	土師器 坏	口~底	G 2 III	回転ナデ 糸切底か	回転ナデ	浅黄橙 (10YR 8 / 3)	浅黄橙 (10YR 8 / 4)	微細なガラス質の光沢粒を含み、1 mm以下の赤褐 色粒、黒褐色粒をわずかに含む。	推定口径:11.6cm 推定器高:3.6cm 推定底径:5.6cm 残存率:1/8
456	土師器	□~胴	D 3 W	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙 (10YR 8 / 4)	浅黄橙 (10YR 8 / 3)	1 m以下の黒色粒、灰褐色粒、微細なガラス質の 光沢粒を少量含む。	推定口径:13.0cm 残存率: 1 / 4 外面に黒色物付着
457	土師器 坏	底	п	回転ナデ 糸切り底	回転ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 3)	微細なガラス質の光沢粒を少量含み、3 mm以下の 灰色粒を少量含む。	底径:6.8cm 残存率: 3 / 4 (底部)
458	土師器	底	G 2 II	回転ナデヘラ切り底	回転ナデ 回転ナデ後ナデ	にぶい橙 (75YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 3)	微細なガラス質の光沢粒を含み、2m以下のにぶい橙色粒、透明光沢粒、明赤褐色粒、褐灰色粒をわずかに含む。	推定底径:7.9cm 残存率: 1 / 6
459	土師器	□∼底	F1I	回転ナデ糸切り底	回転ナデ	にぶい黄橙 (10YR 6 / 3)	褐灰 (10YR 6 / 1)	微細なガラス質の光沢粒を含み、1 mm以下の軟質 赤色粒、黒褐色粒、灰白色粒をわずかに含む。	推定口径:8.4cm 器高:3.6cm 推定底径:7.9cm 残存率:1/4(底部) 底部に植物の茎の圧痕か
460	土師器 小皿	口~底	F 2 ~ G 3 Ⅱ	回転ナデ糸切り底	回転ナデ	にぶい橙 (7.5YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	機細なガラス質の光沢粒を含み、1 m以下の軟質 赤色粒、黒褐色粒、灰白色粒、暗赤褐色粒をわずか に含む。	推定口径:10.8cm 器高:1.75cm 推定底径:6.3cm 残存率:1/4
461	土師器小皿	□∼底	G 3 II	ヨコナデ 回転ナデ 糸切り底	回転ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4) 橙 (5 YR 7/6)	微細なガラス質の充沢粒を含み、1 mm以下の黒色 粒、褐色粒をわずかに含む。	推定口径:7.4cm 器高:2.05cm 推定底径:5.4cm 歿存率:1/2(底部)1/5 (口縁) 内・外面の一部に黒斑
462	土師器	体~底	D 3 V	糸切り底か	ナデ	にぶい黄橙 (10YR 5 / 3)	にぶい橙 (7.5YR 5 / 4)	微細な黒色光沢粒をわずかに含む。	残存率: 1/4(底部) 内面に炭化物付着 外面にスス付着
463	土師器小皿	口~底	G 2 Ⅲ	回転ナデ糸切り底	回転ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 3)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	微欄なガラス質の光沢粒を多量に含み、1 mm以下 の赤褐色粒、黒褐色粒、微細な雲母をわずかに含 む。	推定口径:7.0cm 推定器高:1.6cm 推定底径:5.4cm 残存率:1/3 口唇部に齧歯類の歯型
464	土師器	体~底	G 2	回転ナデ 糸切り底	回転ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7 / 4)	浅黄橙 (10YR 8 / 4	1 mm以下の褐色粒、灰白色粒、黒色粒、微細なガラス質の光沢粒を少量含む。	残存率:完形(底部)
465	土師器	体~底	8 号竪穴	回転ナデ ヘラケズリ ヘラケズリ後ナデ	回転ナデ	灰黄 (25Y 6 / 2)	黄灰 (2.5Y 6 / 1)	1 mm以下の透明光沢粒を含み、4 mm以下の褐灰色 粒、2 mm以下の灰白色粒、1 mm以下の浅黄橙色粒 をわずかに含む。	推定底径:9.1cm 残存率: 1 / 7 (底部)
466	石鍋	П	F ~ G 2 Ⅱ						石材:滑石 最大長:4.85cm 最大幅:7.15cm 最大厚1.4cm 重量69.4 g

第17表 土器観察表16

掲載			出土位置	器面調整	·文様	Œ	.調		
海戦 番号	器種	部位	区·G r·層	外面	内面	外面	内面	胎土の特徴	型式・その他
473	磁器	□∼底	15号掘立SH 5	施釉	施釉	自 (9/)	白 (9/)	精良	口径:6.1cm 器高:3.95cm 底径:3.0cm 残存率:4/5
474	磁器 小坏	П	15号掘立SH 2	施釉貫入	施釉貫入	灰白 (7.5Y 8/1)	灰白 (75Y 8 / 1)	精良	
475	碗		16号掘立SH	施釉	施釉	明オリープ灰	明オリープ灰	精良	残存率: 1 / 7 (□縁)
476	陶器	П	2 18号掘立SH 5	花文か	界線 自然釉	(5GY 7/1) 灰 (5Y 4/1) 灰オリーブ (5Y 6/2)	(5GY 7/1) オリーブ黒 (5Y 3/1)	精良	肥前系 推定口径:27.0cm 残存率: 1 / 9 口唇部に 3 ヵ所の目跡
477	青白磁		19号掘立SH	施釉	施釉	灰白	灰白	精良	推定口径:10.4cm
	磁器		2 19号掘立SH	族釉	族釉	(10Y 8 / 1)	(10Y 8 / 1)		残存率: 1 / 5 推定口径:12.0cm
478	碗	口~体	2	真人	真人	(2.5Y 7/3)	(2.5Y 7 / 3)	精良	残存率: 1 / 6 479と同一個体
479	陶器	底	19号掘立SH 2	施釉 貫入	施釉 貫入	浅黄 (2.5Y 7 / 4)	浅黄 (2.5Y 7 / 4)	精良	高台畳付 砂目 478と同一個体
480	磁器皿	□~底	1 号欄列 SH 4	施釉質入	施釉 貫入 見込みに文様 口縁付近に1条の昇線。見込みに2条 の間線 高台畳付は霧胎	灰白 (75Y 8 / 1) 灰白 (5 Y 8 / 1)	灰白 (7.5Y 8 / 1)	精臭	推定口径:13.2cm 推定底径:7.6cm 残存率:1/4
481	陶器	頭~肩	SH401 (G 4)	自然釉	自然釉	無褐 (7.5YR 3 / 2) 灰 (N 5 /)	灰白 (5 Y 7 / 2) 灰 (5 Y 6 / 1)	微細な灰白色粒、透明光沢粒をわずかに含む。	
482	陶器 擂鉢	П	SH412 (F 4)	自然釉	自然釉	灰オリーブ (7.5Y 5 / 2)	灰オリープ (7.5Y 5 / 2)	精良	残存率: 1/11(口縁) 口唇部に1ヶ所の貝目
483	磁器碗	□∼体	4号溝状	施釉質入	施租貫入	灰白 (7.5Y 7 / 2)	灰白 (7.5Y 7 / 2)	精良、一部断面に変色あり	推定口径:14.0cm 残存率: 1 / 9 (口縁)
484	陶器碗	П	4 号溝状	施釉貫入	施釉貫入	黄褐 (25Y 5 / 4)	黄褐 (2.5Y 5 / 4)	精良	残存率: 1 / 8
485	陶器描鉢		4号溝状	施釉	施釉	灰 (7.5Y 6 / 1)	灰オリープ (7.5Y 6 / 2)	精良	
486	陶器	胴	4 号溝状	自然釉	回転ナデ	褐灰 (10YR 4 / 1)	灰 (5Y5/1)	2 mm以下の褐灰色粒、黒褐色粒、灰白色粒をわず	
487	陶器	類~胴	4 号溝状 5 号溝状	自然種	施釉 無釉 回転ナデ	無褐 (10YR 3 / 1) 暗灰黄 (25YR 5 / 2)	にぶい掲 (7.5Y 5 / 3) 灰白 (2.5Y 8 / 1)	かに含む。 1 mm以下の褐色粒、褐灰色粒をわずかに含む。	残存率: 1/7~1/8 No.505と同一個体
489	磁器皿	П	5 号溝状	施釉	施釉	灰白 (5 Y 7 / 1)	灰白 (5 Y 7 / 1)	精良	
490	磁器		5 号溝状	施釉	施釉	灰白	灰白	1 mm以下の褐色粒をわずかに含む。	推定口径:13.0cm
491	染付碗	体	SH57(D 4) 攪乱	施釉鉄絵	貫入 タタキ後ナデ	(10Y 7 / 1) 暗赤褐 (5 YR 3 / 2) 灰白 (25Y 7 / 1)	(10Y 7 / 1) 灰褐 (5 YR 5 / 2)	1 m以下の灰白色粒、褐色粒をわずかに含む。	残存率: 1 /11
492	染付小坏	□∼体	5 号溝状 I	界線 施軸 文様あり	施釉	灰白 (10Y 8 / 1)	灰白 (10Y 8 / 1)	精良	口径:6.9cm 器高:4.4cm 底径:3.3cm 残存率:1/2 高台畳付に砂付着
493	染付 小坏	П	E 4	施釉 界線 花文	施釉 界線	明青灰 (5B7/1)	明青灰 (5B7/1)	精良	推定口径:7.3cm 残存率: 1 / 8 (口縁) No.494と同一個体
494	染付 小坏	体~底	5 号溝状 I	施釉 文様あり	施釉 文様あり	明青灰 (587/1)	明青灰 (5B7/1)	精良	底径:2.4cm 残存率:完形(底部) 高台内面に「福」の文字 No.493と同一個体
495	陶器碗	口~底	5号溝状	薄い施釉	薄い施釉 蛇の目釉剥ぎ	灰オリーブ (5 Y 6 / 2)	灰オリープ (5 Y 6 / 2)	精良	推定口径:16.9cm 器高:7.7cm 底径:6.15cm 残存率: 1 / 2 (底部)
496	陶器碗	□∼底	5号溝状	施釉。露胎	施釉。貫入	緑灰 (10G 6 / 1)	浅黄 (2.5Y 7 / 3)	精良	肥前系
497	陶器碗	□∼体	5 号溝状	施釉(全体的に薄い)	薄い施釉	にぶい黄褐 (10YR 4/3)	にぶい黄褐 (10YR 4/3)	精良	推定口径:11.3cm 残存率: 1 / 3
498	陶器碗	体~底	5 号溝状	施釉(全体的に薄い)	施釉 蛇の目釉剥ぎ	にぶい黄褐 (10YR 4/3)	にぶい黄褐 (10YR 4/3)	精良	推定底径:4.9cm 残存率:1/2 外面の一部に釉だまり
499	陶器碗	□∼体	5 号溝状	淳い施釉	薄い施釉 蛇の目釉剥ぎ	にぶい黄褐 (10YR 5 / 4)	にぶい黄褐 (10YR 5 / 4)	精良	推定口径:10.1cm 残存率: 1 / 4
500	陶器碗	体~部	5 号溝状	薄い施釉	薄い施釉 高台畳付 無釉	灰白 (7.5Y 7 / 1)	灰白 (7.5Y 7 / 1)	精良(全体的に褐色の斑点あり)	推定底径:5.0cm 残存率: 2 / 3 (底部)
501	陶器	底	5 号溝状	無種	自然釉	灰白 (25Y 7 / 1)	灰黄 (2.5Y 7 / 2)	精良	底径:5.2cm 残存率:完形(底部) 高台に風車状の創 (切り込み)
502	陶器皿	□∼体	5 号溝状	施釉。郷胎	施釉	黄褐 (25Y 5 / 6) オリーブ褐 (25Y 4 / 4) にぶい赤褐 (5 YR 5 / 3)	黄褐 (25Y 5 / 6) にぶい赤褐 (25YR 5 / 4) 暗赤灰 (25YR 3 / 1)	機綱な黒褐色粒をわずかに含む。	
503	陶器皿	体	搬乱	露胎	露胎	にぶい赤褐 (5 YR 5/3)	にぶい赤褐 (2.5YR 5 / 4) 暗赤灰 (2.5YR 3 / 1)	微細な黒褐色粒をわずかに含む。	
504	陶器	□∼体	5 号溝状	施釉。露胎	施釉露胎	明黄褐 (10YR 6 / 8) 褐 (10YR 4 / 6) 暗褐 (10YR 3 / 4)	褐 (10YR 4 / 6) 暗褐 (10YR 3 / 4) 灰白 (25Y 8 / 2)	機柵な掲灰色粒を少量含む。	推定口径:9.4cm

第18表 土器観察表17

			出土位置	器面調整	. 立総	fr	.润		
掲載 番号	器種	部位	区·G·图	外面	内面	外面	内面	胎土の特徴	型式・その他
505	陶器売か鉢	胴	5 号溝状 攪乱	自然釉 無釉 回転ナデ	無釉回転ナデ	暗灰黄 (2.5Y 5 / 2) 灰黄 (2.5Y 7 / 2)	黄灰 (25Y 5 / 1)	1 mm程度の褐色粒、1 mm以下の褐色粒、褐灰色粒、透明光沢粒をわずかに含む。	残存率: 1 / 5 No.487と同一個体
506	陶器	底	5 号溝状 I	ナデ	回転ナデ	にぶい赤褐 (5 YR 5/3) にぶい灰黄褐 (10YR 5/3)	にぶい黄橙 (10YR 6/3)	1 mm以下の褐色粒、黒褐色粒、褐灰色粒を少量含み、7 mm大の褐色粒をわずかに含む。	推定底径:10.4cm 残存率: 3 / 4 外面にスス付着
507	陶器	底	5 号溝状	自然釉	自然釉	黒褐 (10YR 3 / 2) 暗灰黄 (25Y 5 / 2)	黄灰 (2.5Y 5 / 1)	精良	推定底径:15.2cm 残存率: 1 / 7
508	陶器	□∼胴	5 号溝状 C 5 I	ナデ 自然釉	ナデ自然釉	暗赤褐 (2.5YR 3 / 3)	にぶい赤褐 (25YR 4 / 3)	3 mm以下の暗褐色粒、1 mm以下の透明光沢粒をわずかに含む。	推定口径:22.6cm 残存率: 1 /10(口縁)
509	陶器 指鉢	□∼胴	5号溝状 3号溝状	回転ナデ 施釉 部分的に自然釉	回転ナデ 自然釉 擂目	暗褐 (10YR 3 / 3)	褐灰 (7.5YR 5 / 1) にぶい赤褐 (2.5YR 5 / 4)	2 m以下のにぶい黄橙色粒、1 m以下の灰白色粒、透明光沢粒をわずかに含む。	推定口径:32cm 残存率:1/4 1単位5条の擂目 貼付突帯
510	土師器	底	5号溝状	回転ナデ 糸切り底	回転ナデ	にぶい黄橙 (10YR 6 / 3)	にぶい黄橙 (10YR 7 / 3)	1 mm以下の灰白色粒、橙色粒、黒褐色粒、にぶい赤 褐色粒をわずかに含む。	推定底径:7.3cm 残存率: 1 / 3
511	鉢	П	5号溝状	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙 (10YR 6/3)	にぶい橙 (7.5YR 6 / 4)	1 mm以下のにぶい赤褐色粒、黒色光沢粒、微細な 灰白色粒をわずかに含む。	残存率: 1 / 9 (胴部) 外面に炭化物付着
512	鉢	П	5号溝状	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙 (7.5YR 7 / 4)	にぶい橙 (7.5YR 7 / 4)	1 mm以下の赤褐色粒、褐灰色粒をわずかに含む。	残存率: 1 /11(口縁)
513	青花皿	体~底	-	施釉 界線	施釉 蛇の目釉剥ぎ 高台内露胎	灰白 (10Y 8 / 1)	灰白 (10Y 8 / 1)	精良	残存率: 1 / 2 (高台) 推定底径:5.2cm
514	白磁碗か	□∼体	I	施釉 文様あり 界線	施釉 文様あり 界線	灰白 (10Y 8 / 1)	灰白 (10Y 8 / 1)	精良	推定口径:11.4cm 残存率: 1 / 5 中国製
515	白磁碗?	底	攪乱	施釉 貫入	能釉 貫入 高台内:露胎	灰白 (7.5Y 7 / 2)	灰白 (7.5Y 7 / 2)	精良	推定底径:5.1cm 残存率: 1 / 2
516	磁器碗	□∼体	4 号溝状	薄い施釉。 高台脇に絞り跡	準い施釉 。	灰 (N 8/)	灰 (N 8/)	精良	残存率: 1 / 8
517	陶器 小坏	口~底	攪乱	施釉 3条の界線。	施釉	灰白 (10Y 7 / 1)	灰白 (10Y 7 / 1)	精良	推定口径:6.3cm 底径:2.8cm 器高:4.25cm 残存率:1/3 肥前系
518	磁器皿	□∼底	I	施軸 貫入 口縁〜胴部上部の一部施軸が不十分	施釉 貫入 文様あり。 高郷船	明緑灰 (10G 7 / 1)	明青灰 (5BG7/1)	精良	推定口径:12.9cm 器高:3.55cm 推定底径:5.7cm 残存率:1/2 肥前系
519	磁器皿	胴~底	-	施釉 高台畳付 露胎 赤絵具を使用した文様	施釉	灰白 (5 Y 8 / 1)	灰白 (5 Y 8 / 1)	精良	推定底径:4.4cm 残存率: 1 / 4
520	陶器碗	体~底	攪乱	施釉 貫入 一部釉だれ 高台は露胎	旋釉 貫入	灰白 (7.5Y 8 / 1)	黄灰 (2.5Y 6 / 1)	2 mm以下の灰白色粒、1 mm以下の黒色粒をわずか に含む。	推定底径:3.9cm 残存率: 1 / 2 (底部)
521	陶器皿	п	G 2 II	施釉 貫入 鉄絵	施釉貫入	灰白 (10Y 7 / 1) 黒 (2.5Y 2 / 1)	灰白 (10Y 7 / 1)	精良	波状口縁 肥前系
522	陶器皿	体	I	施箱 貫気 回露計 鉄絵	施租 貫入 鉄絵	黄褐 (2.5Y 5 / 3)	灰オリープ (5 Y 5 / 3) 黒褐 (10YR 3 / 1)	3 Ⅲ以下の黒褐色粒をわずかに含む。	肥前系
523	陶器皿	体~底	攪乱	施釉	施釉 輪状釉剥ぎ 高台畳付 露胎	掲 (7.5YR 4 / 6)	掲 (10YR 4 / 6)	精良	推定底径:4.3cm 残存率:ほぼ完形(底部) 薩摩焼(龍門司系)
524	陶器碗	体~底	п	施釉	施釉 輪状釉剥ぎ 高台畳付 露胎	灰白 (7.5Y 7 / 1)	灰白 (7.5Y 7 / 1)	精良	推定底径:4.2cm 残存率:1/2 薩摩焼(龍門司系)
525	陶器碗	体~底	攪乱	施釉。	施釉 輪状釉剥ぎ 高台畳付 露胎	にぶい黄橙 (10YR 6 / 3) 灰白 (25Y 8 / 1)	灰白 (5 Y 8 / 1)	精良	底径:4.4cm 残存率:完形(底部) 薩摩焼(龍門司系)
526	陶器碗	体~底	I	施釉	輪状釉剥ぎ	黒 (10YR1.7/1) 灰黄褐 (10YR 5/2)	黒 (10YR1.7/1) 楊灰 (10YR 4/1)	精良	推定底径:49cm 残存率:1/2 薩摩焼(龍門司系)
527	陶器 仏飯器	体~底	攪乱	施釉 高台露胎	施釉 輪状釉剥ぎ	灰オリーブ (5 Y 6 / 2)	灰オリーブ (5 Y 5 / 2)	精良	残存率:完形(底部) 底径:4.55cm 薩摩焼(龍門司系)
528	陶器	体	SH57 (D 4) 攪乱	施釉 鉄絵	タタキ後ナデ	暗赤褐 (5 YR 3 / 2) 灰白 (25Y 7 / 1)	楊灰 (10YR 6 / 1)	1 mm以下の灰白色粒、褐色粒をわずかに含む。	薩摩系
529	陶器	П	攪乱	露胎 回転ナデ 施釉	自然釉	無褐 (10YR 3 / 1)	灰 (5Y6/1)	1 mm以下の黒褐色粒、灰白色粒をわずかに含む。	薩摩系 口唇部に貝目
530	陶器	П	C 2 I	施釉	自然釉	無褐 (7.5YR 3 / 2)	黄灰 (25Y 6 / 1)	2 mm以下の灰白色粒、黒褐色粒、黒色粒、透明光沢 粒を含む。	薩摩系(堂平系) 口唇部に貝目 口縁部に粘土粘着不足によ る空洞
531	陶器壶	口~胴	攪乱	回転ナデ	回転ナデ	明赤褐 (5 YR 3/3)	無 (25Y 2 / 1)	微細な灰白色粒、黒色粒、赤褐色粒、にぶい赤褐色 色粒、透明光沢粒をわずかに含む。	外面に2条の凹線
532	陶器 插鉢	П	攪乱	自然種	自然釉	にぶい赤褐 (5 YR 4/3) 黒褐 (5 YR 2/2)	浅黄 (25Y 7 / 3)	精臭	肥前系
533	陶器	頭~体	G 3	回転ナデ	回転ナデ 同心円文	暗赤灰 (2.5YR 3 / 1)	暗赤褐 (2.5YR 3 / 2)	1 mm以下の灰白色粒、黒褐色粒をわずかに含む。	残存率: 1 /10(体部) 肥前系
									1

第19表 土器観察表18

掲載番号	器種	部位	出土位置	器面調整	·文様	色	.調	胎土の特徴	型式・その他
番号	00*195	np Iv.	区·Gr·層	外面	内面	外面	内面	加工。外存政	至其代の個
534	陶器播鉢	口~体	I	施釉	回転ナデ 露胎 施釉	灰褐 (5 YR 4 / 2)	灰褐 (5 YR 4 / 2)	1 m以下の灰白色粒、白色粒をわずかに含む。	薩摩系(苗代川系) 内面に1単位4条の摺目 推定口径:32.0cm
535	陶器 描鉢	体~底	5 号溝状 C 5 I	施釉 部分的に自然釉 ナデ	描目 自然釉	灰 (5 Y 4 / 1) にぶい赤褐 (2.5 YR 4 / 3)	褐灰 (7.5YR 5 / 1)	4 mi以下のにぶい赤褐色粒、3 mi以下の灰白色粒、1 mi以下の透明光沢粒をわずかに含む。	推定口径:13.6cm 残存率: 1 / 4
536	陶器 描鉢	体~底	B 2 I	施釉	滑目	黒褐 (2.5Y 3 / 1) 暗赤褐 (5 YR 3 / 3)	褐灰 (7.5YR 4 / 1) にぶい赤褐 (2.5YR 5 / 4)	1 m以下の灰白色粒、黒色粒、透明光沢粒をを わずかに含む。	推定底径:14.8cm
537	馬の鞦		攪乱			明緑灰 (5G7/1)	灰白 (10YR 8 / 1)	精良	
538	土製品		G 2			浅黄橙 (10YR 8 / 3)	にぶい橙 (5 YR 7 / 4)		最大幅:9.6cm 最大長:7.3cm 細大厚:3.6cm 重量:167.0 g

第20表 土器観察表19

掲載 番号	器種	時期	石材	出土Gr	遺構·層位	長さ (cm)	ФИ (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
17	打製石鏃	縄文早期	ガラス質安山岩	F 6	XI層	3.0	2.0	0.3	1.1
18	打製石鏃	縄文早期	チャート	F 6	1 号竪穴建物床面下 X 層	2.8	1.8	0.4	0.9
47	打製石鏃	縄文前中期	石英	B 1	WM	2.1	1.5	0.3	0.7
48	打製石鏃	縄文前中期	ガラス質安山岩	C 2	VIIM	1.7	1.6	0.3	0.5
49	石匙	縄文前中期	黒曜石(桑ノ木津留産)	A 2	VIIM	2.9	3.7	0.9	7.0
50	石匙	縄文前中期	チャート	C 4	VIIM	2.2	3.1	0.6	2.3
51	スクレイバー	縄文前中期	珪質頁岩	C 5	WM	5.4	6.4	1.4	43.1
52	使用痕剥片	縄文前中期	珪質頁岩	B 1	WM	4.1	5.5	0.8	19.6
53	磨石	縄文前中期	安山岩	В 3	WM	3.8	8.4	3.2	114.0
92	磨製石鏃	縄文	チャート	F 4	2 号竪穴建物跡埋土	2.4	1.8	0.4	0.9
93	磨製石鏃	縄文	チャート	Н 3	3 号竪穴建物跡埋土	2.0	1.5	0.5	1.4
94	石核	縄文	黒曜石(桑ノ木津留産)	D 4	SH71(D4)	2.8	3.0	2.4	22.9
95	打製石斧	縄文	ホルンフェルス	-	Ⅲ層	12.7	5.3	0.9	109.0
96	打製石斧	縄文	ホルンフェルス	E 6	攪乱	6.9	5.0	1.3	64.6
97	磨製石斧	縄文	ホルンフェルス	D 2	-	11.6	5.0	1.7	118.0
123	敲石	古墳	砂岩	F 6	1 号竪穴建物跡埋土	14.1	7.5	5.2	671.0
241	敲石	古墳	砂岩	F 4	5 号竪穴建物跡埋土	6.7	8.8	4.1	302.0
242	砥石	古墳	粘板岩	F 3	5 号竪穴建物跡埋土	7.0	3.2	1.7	53.6
488	砥石	中世	粘板岩	C 4	4 号溝状遺構埋土	4.8	4.1	0.6	13.0
539	金床石	不明	砂岩	D 4	7 号栅列 SH 4	9.6	23.9	5.9	1810.0
540	磨製石鏃欠損品	不明	粘板岩	F 6	SH497	2.4	2.1	0.2	1.7
541	磨石·敲石	不明	花崗岩	-	11層	5.9	8.8	4.1	342.0
542	砥石	不明	粘板岩	D 4	SH65	5.8	4.9	1.2	51.8
543	砥石	不明	リソイダイト	B 2	SH 3	8.9	3.1	3.0	211.0
544	砥石	不明	砂岩	D 4	SH60	8.5	7.5	3.5	235.0
545	砥石	不明	粘板岩	C 4	I層	4.9	2.7	1.4	34.9
546	砥石	中世	粘板岩	G 2	11層	8.1	2.2	1.5	40.7
547	砥石	不明	粘板岩	E 2	11層	8.0	3.2	0.8	35.9
548	砥石	不明	砂岩	D 4	SH122	15.4	10.8	6.3	2065.0
549	石白	不明	溶結凝灰岩	G 5	SH550	25.0	16.6	17.0	5520.0
550	茶臼	中世	砂岩	E 5	SH91	12.2	5.4	5.0	265.0
									-

第21表 石器·石製品観察表

掲載 番号	銭種	出土地点	素材	初鋳年	外径 (cm)	内径 (cm)	穿径 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	その他
467	洪武通宝	11号掘立柱建物跡 SH 7	銅	1368年	21.9	18.3	6.5	1.3	1.3	完形品。
468	洪武通宝	14号掘立柱建物跡 SH 7	銅	1368年	24.6	20.7	6.1	1.3	2.2	完形品。
469	洪武通宝	ピット(SA 2上P10)	銅	1368年	21.7	18.1	6.2	1.4	1.5	完形品。銭種の銘の消耗が激しい。
470	熙寧元宝	G 2 (No.379)	銅	1068年	22.5	19.4	5.9	1.3	1.6	完形品。「寧」が不明瞭。
471	洪武通宝	C 5 (IV層)	銅	1368年	23.2	19.1	(4.6)	1.4	1.5	残存率1/2。裏に「治」の文字。
472	洪武通宝	攪乱	銅	1368年	23.4	19.5	5.3	1.6	3.3	完形品。

第22表 古銭観察表

掲載 番号	器種	出土地点	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
124	刀子	1 号竪穴建物跡埋土	11.2	÷	ē	17.7
148	くさび状鉄製品	2 号竪穴建物跡埋土	3.15	1.45	1.2	7.6
173	棒状鉄片	4 号竪穴建物跡埋土	1.65	0.6	0.45	0.7
174	三角鉄片	4 号竪穴建物跡埋土	1.6	2.8	0.45	2.6
551	やりがんな	7 号掘立柱建物跡 SH 1	11.9	1.25	1.2	21.4
552	ŝī	7 号掘立柱建物跡 SH 1	5.15	1.3	1.05	6.5
553	やりがんな	15号掘立柱建物跡 SH 5	9.6	1.85	2.2	27.8
554	釘	G 2 (No.94)	5.96	1.5	1.3	8.4

第23表 鉄製品観察表

			規模		樂行	11-	桁行	15				柱穴			
位置	奉	種別		付属 施股	(m)	樂間平均 (m)	機 (m)	桁關平均 (m)	方位	与他国技 (月)	柱数	柱径 (cm)	幾世(日)	中代	出土造物場做番号
E2, F2	1.8	侧柱	1 × 5	底(東)	4.14	414	10.24	2.05	N 6° E	42.39	17	30~95	35∼70	中任	No.298 No.420
E2, F2	2 号	制件	1×4	庇(東・西)	2.80	280	7.12	1.77	NII°E	19.93	19	20~30	99~97	申中	No.435
C2, C3	3 &	総件	2 × 3	庇(東・西)	4.32	216	5.84	1.95	N 4°E	25.23	82	25~60	15~70	丰	No.447 No.446, No.297 No.431
B2,C 2	48	伽柱	2 × 2	4	3.00	150	410	2.05	N 4°E	12.30	7	25~35	25~50	車	No.294
B3, B4	58	御件	2 × 2	4	3.96	1.98	400	2.00	N 12° E	15.84	-	30~55	15~60	車中	No.428
В3	6.9	御件	1 × 2	\$L	3.04	304	436	2.18	N 10°E	13.25	9	30~20	30~20	車中	No.512 No.513
B4, C4, B5	87	側柱	2 × 2	4	4.08	204	4.88	2.44	N 10° E	15.84	۷.	25~60	20~70	単	No.432
C4, D4, C5, D5	8 8	創作	2 × 2	4	3.00	150	440	2.20	N 20° E	13.20	7	25~50	15~60	丰	No.422
F5,F 6	9-8-	創作	2 × 2	4	3.24	162	408	2.04	N 15°E	13.21	7	15~56	20~55	丰	No.430
F5,F 6	10-5	総件	2 × 3	かし	6.12	3.06	5.68	1.89	N 18°E	34.76	12	30~65	25~70	单	
F6,G 6	11.5	総件	2 × 3	かし	4.20	210	7.92	2.64	N 21° E	33.26	п	32~30	30~26	单	No.408 No.412 No.419 No.407 No.410 No.85 No.429
F6	12.8	制件			4.12	4.12			N 25° E		4	40~20	29∼9€	半中	No.325
D4E 4, D5E 5	13.5	御件	2 × 2	4	3.92	1.96	428	2.14	N 22° E	16.78	7	25~45	25~50	車中	No.433 No.434 No.469
F 5	14.8	総柱	2 × 3	ΦL	5.68	284	5.80	1.93	N 26° E	32.94	12	30~20	20~60	中中	战化物
D3, D4, E4	158	侧柱	1 × 3	底(北·東·西)	3.92	3.92	009	2.00	N 26° E	23.52	18	30~85	10~70	近世	No.444 No.425 No.543
G 4	16号	侧柱	2 × 2	なし	90'9	304	8.12	4.06	N 27° E	49.37	∞	50~110	40~70	単以	No.445
F4,G4,G 5	17.8	侧柱	2 × 5	なし	3.64	1.82	10.00	2:00	N 21° E	36.40	13	30~70	15~70	拉	No.416
F5.F 6	18 등	伽柱	1 × 2	なし	3.12	3.12	3.76	1.88	N 23° E	11.73	9	30~55	20~50	東京	No.439
E4.E 5	19-8-	総柱	2 × 2	なし	3.36	1.68	3.72	1.86	N 21° E	12.50	80	20~60	40~60	还供	No.423 No.436 No.437
G 3	20号	侧柱	1 × 3	なし	3.40	340	464	154	N 19° E	15.78	8	20~30	20~22	時期不明	
C2,C3,D 2	21.8	制件	1 × 2	なし	3.36	336	3.88	194	N 8°E	13.03	9	25~40	0€~8	時期不明	
A 2, B 2	22.5	侧柱	2 × 2	\$L	3.88	1.94	480	240	N 15° E	9.31	۲-	30~75	25~60	時期不明	
В3	23.5	侧柱	2 × 3	ΦL	2.88	144	5.04	168	N 2°E	1451	6	30~65	25~45	時期不明	
В3	245	侧柱	1 × 2	ΦL	3.00	3.00	444	2.22	N 17° E	13.32	9	25~45	15~75	時期不明	
D 4	25.8	松柱	2 × 2	なし	4.32	216	4.36	2.18	N 20° E	18.83	6	25~65	25~65	時期不明	
D4D 5	26号	侧柱	1 × 2	なし	1.72	1.72	4.36	2.18	N 13° E	7.49	9	25~60	25~65	時期不明	
D4D5E 5	27.15	伽柱	1 × 3	なし	2.08	2.08	929	2.18	N 24° E	13.64	00	20~70	30~60	時期不明	
F3, F4, G4	28.5	侧柱	2 × 2	なし	2.72	1.36	464	2.32	N 23° E	12.62	80	25~50	25~65	時期不明	
F4, G4	29号	侧柱	1 × 4	なし	3.72	3.72	824	2.06	N 21° E	30.65	6	35~65	09	時期不明	
G 4	30.8	側柱	1 × 2	\$ C	6.04	6.04	10.00	2.00	N 23° E	60.40	9	75~115	35~75	時期不明	
F5.G 5 , F6.G 6	31.5	側柱	1 × 4	\$C	2.00	200	10.00	2.50	N 24° E	20.00	10	25~50	30~45	時期不明	
F5,E6,F 6	32.5	総柱	2 × 2	庇有(北·西)	4.60	230	4.96	2.48	N 21° E	22.81	15	30~60	20~65	時期不明	

第IV章 自然科学分析の結果

第1節 自然科学分析の概要

高樋遺跡から採取された資料について自然科学分析を行った。分析内容は、樹種同定1点、放射性炭素年代12点、火山灰分析1点である。それぞれの分析の委託先は、凡例に明記し、以下に分析結果を掲載する。

第2節 樹種同定

はじめに

本報告では、高樋遺跡(宮崎県都城市)の小穴より出土した木材の樹種同定を行うことにより、当時の用材に関わる資料を作成する。

1 試料

試料は、中世以降に形成された小穴より出土した 未炭化の木材1点(試料13)である。

2 分析方法

剃刀を用いて、木片から木口(横断面)・柾目(放射 断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を直接採 取する。切片をガム・クロラール(抱水クロラール, アラビアゴム粉末, グリセリン, 蒸留水の混合液)で 封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物 顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴 を現生標本および森林総合研究所の日本産木材識別 データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東 (1982) やWheeler他 (1998) を参考にする。また、日本産木 材の組織配列は、林 (1991) や伊東 (1995,1996,1997,1998, 1999) を参考にする。

3 結果

木材は、広葉樹のイスノキに同定された。解剖学 的特徴等を記す。

・イスノキ (Distylium racemosum Sieb. et Zucc.) マンサク科イスノキ属

散孔材で、道管は横断面で多角形、ほぼ単独で散在する。 道管の分布密度は比較的高い。道管の多くは、内部に着色 物質が充填されている。道管は階段穿孔を有する。放射組 織は異性、1-3細胞幅、1-20細胞高。柔組織は、独立帯状 または短接線状で、放射方向にほぼ等間隔に配列する。

4 考察

木材は、中世以降に形成された小穴から出土しており、柱材に由来する可能性がある。この木材は、広葉樹のイスノキに同定された。イスノキは、関東以西の暖温帯性常緑広葉樹林中に生育する常緑高木である。木材は極めて重硬・緻密で、比重は国産材の中でも最も重い部類に入る。重硬なことから強度が高く、保存性も高い。試料が柱材とすれば、強度・保存性が高いことが利用の背景に考えられる。

イスノキを柱材に利用する例は、堂道遺跡(山口県)の鎌倉〜室町時代とされる掘立柱建物跡、川北遺跡(香川県)の古墳時代末期〜平安時代の柱材、波多江遺跡(福岡県)の戦国〜江戸時代初期とされる柱材、御笠川南条坊遺跡(福岡県)の鎌倉時代とされる柱材、東那珂遺跡(福岡県)の古墳時代末期〜平安時代初期とされる柱材、大米遺跡(佐賀県)の鎌倉時代とされる柱材、田川遺跡(長崎県)の室町時代とされる柱材、古麓城跡(熊本県)の戦国〜江戸時代初期とされる柱材、紙屋城址遺跡(宮崎県)の戦国〜江戸時代初期とされる柱材、紙屋城址遺跡(宮崎県)の戦国〜江戸時代初期とされる柱材、天神遺跡(宮崎県)の江戸時代とされる柱材等の事例がある(伊東・山田,2012)。現在、イスノキが多く分布する九州地方の事例が多く、宮崎県の事例も2例認められる。

猫文

林昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学 木質科学研究所.

伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載 I .木 材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.

伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木 材研究·資料.32,京都大学木質科学研究所.66-176.

伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木 材研究·資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.

伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載IV.木 材研究·資料.34,京都大学木質科学研究所,30-166.

伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載 V.木 材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.

伊東隆夫・山田昌久(編),2012,木の考古学 出土木 製品用材データベース,海青社,449p.

島地謙·伊東隆夫,1982,図説木材組織,地球社,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編),1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

第3節 放射性炭素年代測定

1 測定対象試料

高樋遺跡は、宮崎県都城市梅北町1011番地ほかに 所在し、台地上の先端部付近に立地する。測定対象 試料は、集石遺構や竪穴建物跡等の遺構から出土し た炭化物12点である(第25表)。

試料の時期は、1が縄文時代前~中期、2が縄文時代早期知覧式土器の時期、3が縄文時代早期(アカホヤ火山灰の下位)、4~6は古墳時代、7~12が中世以降と推定されている。アカホヤ火山灰(K-Ah)は、7300年前に降下したとされる(町田・新井2011)。

2 測定の意義

遺跡、遺構の年代を明らかにする。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/ℓ(1 M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1 Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1 Mに達した時には「AAA」、1 M未満の場合は「AaA」と第24表に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO 2)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で 還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1 mm のカソードにハンド プレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測 定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC 社製)を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度(¹³C/¹²C)、 ¹⁴C濃度(¹⁴C/¹²C)の測定を行う。測定では、米国 国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HO MI)を標準試料とする。この標準試料とバックグラ ウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) δ¹³Cは、試料炭素の¹³C濃度(¹³C/¹²C)を測定し、 基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値 である(第25表)。AMS装置による測定値を用い、 表中に「AMS」と注記する。
- (2) 14 C年代(Libby Age:yrBP)は、過去の大気中 14 C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0 yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568 年)を使用する(13 Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第25表に、補正していない値を参考値として第26・27表に示した。 14 C年代と誤差は、下1桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、 14 C年代の誤差(14 日の誤差(14 日の誤差(14 日の誤差第四に入る確率が 14 88・であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代 炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。 pMCが小さい(¹⁴Cが少ない)ほど古い年代を示し、 pMCが100以上(¹⁴Cの量が標準現代炭素と同等 以上)の場合 Modern とする。この値も δ ¹³C に よって補正する必要があるため、補正した値を 表25に、補正していない値を参考値として表26、 27に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の 14 C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の 14 C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 14 C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差(1 σ = 68.2%)あるいは 2標準偏差(2 σ = 95.4%)で表示される。グラフの縦軸が 14 C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 δ 13 C補正を行い、下 1 桁を丸めな

い¹⁴C年代値である。なお、較正曲線および較正 プログラムは、データの蓄積によって更新される。 また、プログラムの種類によっても結果が異なる ため、年代の活用にあたってはその種類とバー ジョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較 正年代の計算に、IntCall3データベース(Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2較正プログラム (Bronk Ramsey 2009)を使用した。暦年較正年 代については、特定のデータベース、プログラム に依存する点を考慮し、プログラムに入力する 値とともに参考値として第26・27表、第71、72、73 図に示した。なお、暦年較正年代は、¹⁴C年代に基 づいて較正(calibrate)された年代値であること を明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」 という単位で表され、ここでは前者を第26・27表、 第71・72図に、後者を第28表、第73図に示した。

6 測定結果

測定結果を第26~28表、第71~73図に示す。較正年代は、すべての試料について cal BC/ADで算出し、縄文時代の試料(1~3)についてはさらに cal BPでも算出した。以下の説明では、縄文時代の試料(1~3)を cal BPの値(第28表、第73図)、他の試料は cal BC/ADの値(第26表、第 $71\cdot72$ 図)で記述する。

古墳時代とされる竪穴建物跡から出土した試料 $4 \sim 6 \, o^{14}$ C 年代は、 $4 \, が1710 \pm 20 \, yr$ BP、 $5 \, が1610 \pm 20 \, yr$ BP、 $6 \, が1630 \pm 20 \, yr$ BPである。暦年較正年代($1 \, \sigma$)は、 $4 \, が263 \sim 384 \, cal$ AD、 $5 \, が404 \sim 531 \, cal$ AD、 $6 \, が386 \sim 503 \, cal$ ADの間に各々 $2 \, con$ 範囲で示され、 $4 \, が古墳時代前期から中期頃、<math>5 \, con \, con$

物跡の床面付近から出土した試料であるため、4が 5、6に比べてやや古い値を示した点が注意される。 これについては、次に記す古木効果と、較正曲線の 地域差が影響している可能性がある。

樹木の年輪の放射性炭素年代は、その年輪が成長した年の年代を示す。したがって樹皮直下の最外年輪の年代が、樹木が伐採等で死んだ年代を示し、内側の年輪は、最外年輪からの年輪数の分、古い年代値を示すことになる(古木効果)。ここで測定された試料4~6には樹皮が確認されていないことから、最外年輪より内側の部位が測定された可能性があるため、本来同年代の樹木に由来する試料であっても、古木効果によって見かけ上の年代差が生じる可能性がある点に注意を要する。

また、試料4が含まれる1~3世紀頃の暦年較正に関しては、北半球で広く用いられる較正曲線IntCalに対して日本産樹木年輪試料の測定値が系統的に異なるとの指摘がある(尾嵜2009、坂本2010など)。その日本産樹木のデータを用いて試料4の測定結果を暦年較正した場合、ここで報告する較正年代値よりも新しくなる可能性がある。

中世以降とされる試料7~12の年代は、古い試料 12、中間の試料7、11、新しい試料8~10の3群に分 かれる。古い試料12の¹⁴C年代は610±20yrBP、暦年 較正年代(1 σ)は1305~1395cal ADの間に3つの 範囲で示され、中世に相当する(佐原2005)。中間の 年代となった試料7、11の¹⁴C年代は、2点とも340± 20yrBP、暦年較正年代(1 σ)は、7 が1494~1631cal ADの間に3つの範囲、11が1495~1631cal ADの間 に3つの範囲で示され、中世から近世頃に相当する(佐 原2005)。新しい試料8~10の¹⁴C年代は、8が130± 20yrBP、9が110±20yrBP、10が140±20yrBPであ る。暦年較正年代 (1σ) は、いずれも17世紀後葉から 20世紀前半頃の間に複数の範囲で示され、近世から 近代頃に相当する(佐原2005)。いずれも推定される 時期の範囲内となっている。なお、試料8~10の較正 年代については、記載された値よりも新しい可能性 がある点に注意を要する(第27表下の警告参照)。

試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

	試料名		試料	処理 方法	δ ¹³ C(%) (AMS)	δ ¹³ C補正あり		
測定番号		採取場所	形態			Libby Age (yrBP)	pMC (%)	
IAAA-161353	No. 1	3号集石遺構 埋土	炭化物	AAA	-24.59 ± 0.22	4,530 ± 30	56.88 ± 0.20	
IAAA-161354	No. 2	1号集石遺構 埋土	炭化物	AAA	-25.50 ± 0.33	8,890 ± 30	33.05 ± 0.13	
IAAA-161355	No. 3	2号集石遺構 埋土	炭化物	AAA	-25.45 ± 0.23	8,830 ± 30	33.29 ± 0.14	
IAAA-161356	No. 4	1 号竪穴建物跡 埋土(床面付近)	炭化物	AAA	-30.02 ± 0.23	1,710 ± 20	80.84 ± 0.24	
IAAA-161357	No. 5	1号竪穴建物跡 埋土(床面付近)	炭化物	AAA	-29.85 ± 0.30	1,610 ± 20	81.83 ± 0.25	
IAAA-161358	No. 6	1 号竪穴建物跡 埋土	炭化物	AAA	-28.67 ± 0.24	1,630 ± 20	81.59 ± 0.25	
IAAA-161359	No. 7	1 号竪穴状遺構 主柱穴 SH 2 埋土	炭化物	AAA	-27.84 ± 0.22	340 ± 20	95.85 ± 0.25	
IAAA-161360	No. 8	29号掘立柱建物跡 SH6 埋土	炭化物	AAA	-28.38 ± 0.27	130 ± 20	98.37 ± 0.27	
IAAA-161361	AA-161361 No. 9 29号掘立柱建物跡SH6 埋土		炭化物	AAA	-25.62 ± 0.26	110 ± 20	98.63 ± 0.25	
IAAA-161362	No. 10	14号掘立柱建物跡 SH6 埋土	炭化物	AAA	-28.37 ± 0.27	140 ± 20	98.25 ± 0.27	
IAAA-161363	No. 11	ピット SH 90 埋土	炭化物	AAA	-29.24 ± 0.24	340 ± 20	95.86 ± 0.26	
IAAA-161364	No. 12	ピット SH 97 埋土	炭化物	AAA	-27.46 ± 0.26	610 ± 20	92.71 ± 0.24	

第25表 放射性炭素年代測定結果(δ^{13} C補正値)

測定番号	δ ¹³ C 補	正なし	暦年較正用(yrBP)	1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲	
側足钳力	Age(yrBP)	pMC(%)	育中軟正用(yrbr)	1 6 倍平代职团		
IAAA-161353	4,530 ± 30	56.93 ± 0.19	4,532 ± 27	3356calBC-3327calBC (17.7%) 3228calBC-3226calBC (0.9%) 3219calBC-3175calBC (26.1%) 3161calBC-3120calBC (23.5%)	3361calBC-3264calBC (31.1%) 3241calBC-3104calBC (64.3%)	
IAAA-161354	IAAA-161354 8,900 ± 30		8,893 ± 32	8207calBC-8168calBC (15.5%) 8120calBC-8032calBC (35.6%) 8025calBC-7980calBC (17.1%)	8223calBC-7960calBC (95.4%)	
IAAA-161355	8,840 ± 30	33.26 ± 0.14	8,834 ± 34	8170calBC-8117calBC (17.7%) 7982calBC-7825calBC (50.5%)	8203calBC-8106calBC (24.2%) 8095calBC-8037calBC (9.0%) 8012calBC-7786calBC (61.7%) 7767calBC-7761calBC (0.5%)	
IAAA-161356	1,790 ± 20	80.01 ± 0.23	1,708 ± 23	263calAD-275calAD (11.1%) 330calAD-384calAD (57.1%)	255calAD-302calAD (26.3%) 316calAD-396calAD (69.1%)	
IAAA-161357	1,690 ± 20	81.02 ± 0.24	1,610 ± 24	404calAD-431calAD (31.2%) 491calAD-531calAD (37.0%)	395calAD-476calAD (53.3%) 484calAD-536calAD (42.1%)	

第26表 放射性炭素年代測定結果(δ^{13} C未補正値、暦年較正用 14 C年代、較正年代 cal BC/AD) (1)

測定番号	δ ¹³ C 補	〕正なし	暦年較正用(yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲	
网 尼田 夕	Age(yrBP)	pMC(%)	海平秋正角(yfbi)	10個平尺靶四	2.0 届平八吨四	
IAAA-161358	1,700 ± 20	80.97 ± 0.24	1,634 ± 24	386calAD-429calAD(65.9%) 499calAD-503calAD(2.3%)	344calAD-435calAD (77.0%) 455calAD-469calAD (2.0%) 487calAD-534calAD (16.4%)	
IAAA-161359	61359 390 ± 20 95.29 ± 0.25		340 ± 21	1494calAD-1524calAD (22.8%) 1559calAD-1602calAD (31.8%) 1614calAD-1631calAD (13.6%)	1474calAD-1531calAD (33.7%) 1539calAD-1635calAD (61.7%)	
IAAA-161360	190 ± 20	97.69 ± 0.26	132 ± 21	1682calAD-1699calAD (11.1%)* 1722calAD-1737calAD (8.7%)* 1804calAD-1817calAD (7.7%)* 1834calAD-1879calAD (28.2%)* 1916calAD-1936calAD (12.5%)*	1678calAD-1765calAD (35.1%)* 1773calAD-1777calAD (0.6%)* 1800calAD-1892calAD (44.2%)* 1908calAD-1940calAD (15.5%)*	
IAAA-161361	120 ± 20	98.51 ± 0.24	110 ± 20	1694calAD-1710calAD (10.8%)** 1718calAD-1727calAD (6.0%)** 1813calAD-1890calAD (46.7%)** 1910calAD-1917calAD (4.7%)**	1685calAD-1733calAD (27.4%)** 1807calAD-1896calAD (55.4%)** 1903calAD-1928calAD (12.5%)**	
IAAA-161362	200 ± 20	97.57 ± 0.26	141 ± 21	1680calAD-1697calAD (10.2%)* 1726calAD-1764calAD (20.2%)* 1801calAD-1814calAD (7.6%)* 1836calAD-1877calAD (16.6%)* 1917calAD-1939calAD (13.6%)*	1670calAD-1707calAD (15.8%)* 1719calAD-1779calAD (28.1%)* 1798calAD-1826calAD (11.8%)* 1832calAD-1886calAD (22.8%)* 1913calAD-1944calAD (16.9%)*	
IAAA-161363	410 ± 20	95.02 ± 0.26 339 ± 21		1495calAD-1524calAD (22.0%) 1559calAD-1602calAD (33.5%) 1615calAD-1631calAD (12.7%)	1475calAD-1636calAD (95.4%)	
IAAA-161364	650 ± 20	92.24 ± 0.23	608 ± 20	1305calAD-1327calAD (28.0%) 1342calAD-1364calAD (27.7%) 1384calAD-1395calAD (12.5%)	1299calAD-1370calAD(75.5%) 1380calAD-1401calAD(19.9%)	

[参考值]

第27表 放射性炭素年代測定結果(δ^{13} C未補正値、暦年較正用 14 C年代、較正年代 cal BC/AD) (2)

^{*} Warning! Date may extend out of range Warning! Date probably out of range

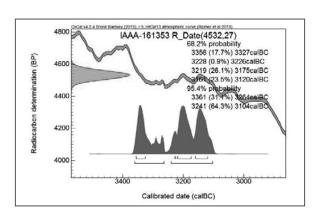
warming: Date probably out of range

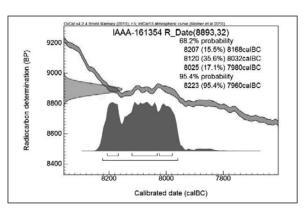
**Warning! Date probably out of range

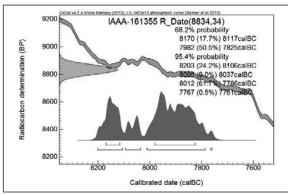
(これらの警告は較正プログラム OxCalが発するもので、試料の「C年代に対応する較正年代が、当該暦年較正曲線で較正可能な範囲を超える新しい年代となる可能性がある ことを表す。*、**の順にその可能性が高くなる。)

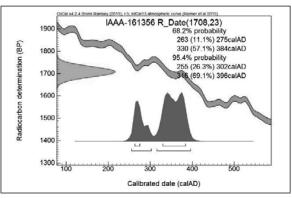
測定番号	δ ¹³ C 補	〕正なし	厨欠龄工用(,DD)	1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲	
測定留写	Age(yrBP)	pMC(%)	暦年較正用(yrBP)	Ι σ 暦平代 耙 囲	Ζ σ 暦 平 代 軋 囲	
IAAA-161353	4.530 ± 30	530 ± 30 56.93 ± 0.19 4.532 ± 2		5305calBP-5276calBP (17.7%) 5177calBP-5175calBP (0.9%) 5168calBP-5124calBP (26.1%) 5110calBP-5069calBP (23.5%)	5310calBP-5213calBP (31.1%) 5190calBP-5053calBP (64.3%)	
IAAA-161354	8,900 ± 30 33.02 ± 0.13 8,893 ± 32		8,893 ± 32	10156calBP-10117calBP (15.5%) 10069calBP- 9981calBP (35.6%) 9974calBP- 9929calBP (17.1%)	10172calBP- 9909calBP (95.4%)	
IAAA-161355	8840 ± 30	33.26 ± 0.14	8,834 ± 34	10119calBP-10066calBP (17.7%) 9 931calBP- 9774calBP (50.5%)	10152calBP-10055calBP (24.2%) 10044calBP- 9986calBP (9.0%) 9961calBP- 9735calBP (61.7%) 9716calBP- 9710calBP (0.5%)	

第28表 放射性炭素年代測定結果(δ^{13} C未補正値、暦年較正用 14 C年代、較正年代cal BP) (3)

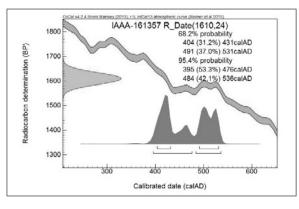


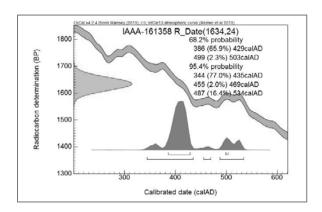


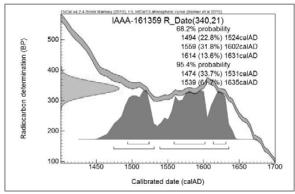


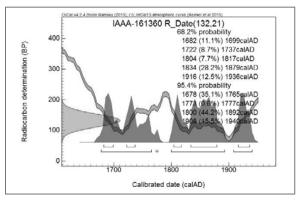


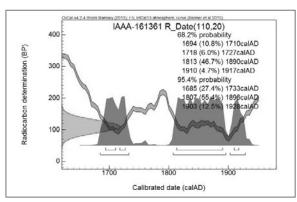
第71図 暦年較正結果(1)

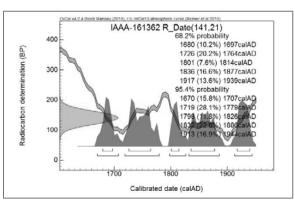


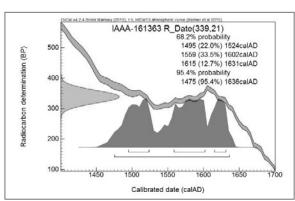


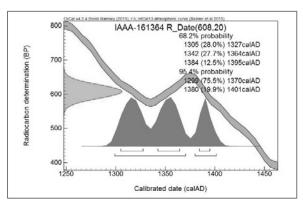






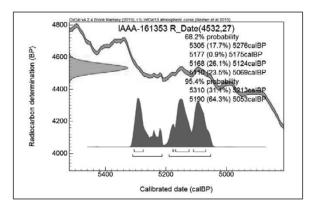


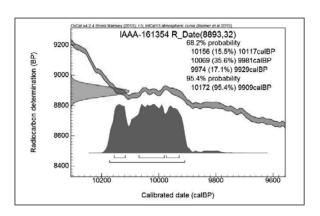


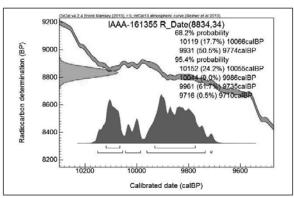


暦年較正年代グラフ (cal BC/AD、参考)

第72図 暦年較正結果(2)







暦年較正年代グラフ (cal BP、参考)

第73図 暦年較正結果(3)

第4節 火山灰分析

はじめに

本報告では、高樋遺跡(宮崎県都城市)の調査区 内で検出された火山噴出物(テフラ)とされる堆積 物を対象とし、その砕屑物の特性を捉え、給源火山 や噴出年代が明らかにされているテフラとの対比を 行う。

1 試料

試料は、F1グリッドから採取された褐色スコリアとされる堆積物1点(試料14)である。肉眼観察では、明黄褐色を呈する軽石まじりの火山灰土である。

2 分析方法

(1) テフラ検出分析

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・ 軽石型の3タイプに分類した。バブル型は薄手平板 状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるい は破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気 泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた 繊維束状のものとする。

(2) テフラ組成分析

試料に水を加え、超音波洗浄装置を用いて粒子を 分散し、250メッシュの分析篩上にて水洗して粒径 が1/16mmより小さい粒子を除去する。

水洗後に乾燥させ、篩別して、得られた粒径1/4mm1/8mmの砂分を、ポリタングステン酸ナトリウム(比重約2.96に調整)により重液分離し、得られた重鉱物を偏光顕微鏡下にて250粒に達するまで同定する。同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒は「その他」とする。

一方、重液分離により得られた軽鉱物分については、火山ガラスとそれ以外の粒子を、偏光顕微鏡下にて250粒に達するまで計数し、火山ガラスの量比を求める。火山ガラスは、上述したテフラ検出分析と同様の形態分類を行う。

(3) 屈折率測定

屈折率の測定は、テフラ検出分析処理後に得られた砂分から摘出した軽石を対象とする。屈折率の測定は、古澤(1995)のMAIOTを使用した温度変化法を用いる。

3 結果

(1) テフラ検出分析

分析結果を第29表に示す。処理後の砂分には多量の軽石が認められた。軽石は、最大径約5mm、白色を呈し、発泡は良好なものが多く、同色で発泡やや良好なものも混在する。軽石の中には、斜方輝石の斑晶を包有するものも認められた。また、砂分中には無色透明の軽石型を呈する火山ガラスも極めて微量検出された。

(2) テフラ組成分析

分析結果を第30表、第74図に示す。重鉱物組成は、斜方輝石が多く、次いで不透明鉱物が中量程度含まれ、少量の単斜輝石を伴い、極めて微量の角閃石を含む。軽鉱物は、火山ガラスとその他に分けて計数した。火山ガラスでは、少量の軽石型が検出され、極微量のバブル型も認められた。その他の軽鉱物は、斜長石や風成塵起源の石英や長石類の鉱物片・岩石片等である。

(3) 屈折率測定

測定結果を第75図に示す。レンジはnl.510-1.513 であり、nl.511に高い集中度を示す。

	スコリア		火山ガラス	軽石		
試料番号	量	量	色調·形態	量	色調·発泡度	最大 粒径
14	-	+	cl∙pm	++++	W·g>W·sg(opx)	5.0

凡例 -:含まれない. (+):きわめて微量. +:微量. ++:少量. +++:中量. ++++:多量.

cl:無色透明. br:褐色. bw:バブル型. md:中間型. pm:軽石型.

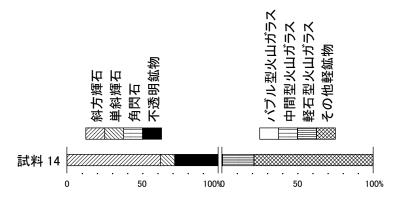
W:白色.

g:良好. sg:やや良好. sb:やや不良. b:不良. 最大粒径はmm. (opx):斜方輝石斑晶包有.

第29表 テフラ検出分析結果(1)

試料番号	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	不透明鉱物	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他軽鉱物	合計
14	155	23	1	71	250	1	0	52	197	250

第30表 テフラ検出分析結果(2)



第74図 重鉱物組成及び火山ガラス比

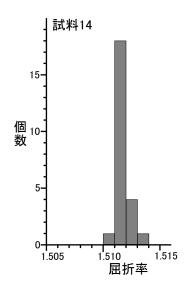
4 考察

発掘調査所見において橙色スコリアとされた試料は、テフラ検出分析により軽石を多量に含む堆積物であることが確認されたことから、軽石質テフラの降下堆積物が降下後の撹乱を受けながらも土壌中に残存したものである可能性がある。

この試料は、軽石質テフラであること、採取された層位が霧島御池テフラ(Kr-M)よりも上位とされていること、および高樋遺跡の地理的位置を踏まえると、桜島を給源とするテフラに由来する可能性がある。なお、検出された軽石が、Kr-Mの再堆積物である可能性については、重鉱物組成において角閃石がほとんど含まれないことと、Kr-Mの火山ガラスの屈折率 n1.508-1.511(町田・新井2003)よりも若干高いレンジであることから、その可能性は低いと考えられる。

Kr-Mと桜島テフラとの層位関係について、永追ほか(1999)により、鹿児島県の肝属平野においてKr-Mの下位にSZ-7が確認されている。したがって、Kr-Mよりも上位と考えられる桜島起源のテフラとしては、Sz-6より上位のテフラが考えられる。発掘調査では、Sz-3とされている15世紀の文明テフラが土層断面に確認されていることから、今回分析された軽石質テフラは、Sz-6、Sz-5、Sz-4のいずれかに対比される可能性がある。これらのうち、Sz-6とSz-4は桜島の東方あるいは東南東方向の狭い範囲にのみ分布し、Sz-5は桜島から北方に向かって分布している(小林・江崎,1997)。このようなテフラの分布と高樋遺跡の地理的位置を考慮すると、今回検出されたテフラはSz-5に対比される可能性がある。

ただし、これら桜島起源のテフラの噴出年代については次のような課題があり、注意を要する。奥野(2002)においては、Sz-5の噴出年代が暦年で5600年前、Sz-5より下位であるSz-7の噴出年代が5000年前とされ、層位的に矛盾すると指摘されている。また、Kr-Mの噴出年代は4600年前とされ、Sz-5の年代値はこれよりも古い。



第75図 火山ガラスの屈折率測定結果

猫文

古澤明,1995,火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別.地質学雑誌.101.123-133.

小林哲夫・江崎真美子,1997,桜島火山, 噴火史の再 検討.月刊地球19.227-231.

町田洋・新井房夫,2003,新編 火山灰アトラス.東 京大学出版会,336p.

永追俊郎・奥野充・森脇広・新井房夫・中村俊夫,1999,肝属平野の完新世中期以降のテフラと低地の形成,第四紀研究,38,163-173.

奥野充,2002,南九州に分布する最近約3万年間のテフラの年代,第四紀研究,41,225-236.

第V章 総括

高樋遺跡では、弥生時代を除く縄文時代・古墳時代・古代・中世・近世の遺構・遺物が確認された。 そこで、最終章である本章では、確認された各時代の遺構・遺物をもとに、それぞれの時代の様相について、若干の考察を加え、まとめとしたい。

第1節 縄文時代

高樋遺跡の所在地である都城市梅北町あるいは隣接する安久町内などに所在する都城盆地南部の遺跡において、桜島末吉テフラを包含する黒褐色土層中あるいはその下位層で早期の遺構・遺物が検出される例が多い。本遺跡においても、2基の集石遺構が検出されている。この集石遺構の掘り込み内から炭化物が出土しており、放射性炭素年代を行ったところ早期に含まれる較正年代が得られ、2基の集石遺構の間にさほど時期差がないことが判明している。

遺物をみると、貝殻文円筒形土器として、早期前葉の栫ノ原式土器(1~5)、早期中葉の下剝峯式土器(10~14)、早期後半の塞ノ神式土器(15)、そして円筒形を呈するとみられる楕円押型文土器(16)が出土し、2点の石鏃も出土している。早期の遺物の量は少なく、出土土器で示されるとおり時期幅が大きいことから断続的な生活の痕跡と考えられる。集石遺構の礫については、元々小ぶりな自然礫で、被熱を繰り返し受けていないことが推測される。

縄文時代前~中期の遺構は、霧島御池軽石の下位 層で検出された土坑3基、集石遺構4基があり、遺物としては深浦式土器と石鏃、石匙、スクレイパー、 磨石が確認されている。縄文時代前期から中期にかけての都城市内の遺跡は少なく、これは鬼界アカホヤ火山灰降下の影響も一因と考えられる。当該期の遺跡として知られているのは、南横市町の加治屋A遺跡や、本遺跡と隣接する笹ヶ崎遺跡などであり、笹ヶ崎遺跡からは、縄文時代前期末から中期前葉に含まれる広義の曽畑式系土器や深浦式土器が出土している。並行する縦方向の突帯文や列点文、押引文 など、当該期の土器群の文様要素を備えており、丸 底で砲弾形に近い器形が推定できる個体もある。高 樋遺跡から出土した土器群も、器形、文様など、概 ね笹ヶ崎遺跡と共通する特徴を持つ土器群と位置づ けられよう。なお、3号集石遺構の掘り込み埋土か ら炭化材が検出されており、放射性炭素年代測定で は較正年代で約3,200~3,300calBPの年代が得られ ている。このように、笹ヶ崎遺跡出土資料も含めて、 未だ断片的ながら、当地域における鬼界アカホヤ火 山灰降下後、植生の回復に向かう時期の人々の生活 の痕跡を捉えられたことは大きな成果であった。

縄文時代晩期の遺構は土坑1基のみである。遺物としては、黒川式の深鉢や浅鉢、組織痕土器が確認されている。無刻目突帯文を有する深鉢・鉢や孔列土器の存在からみて、全体的には黒川式でも新しい段階の土器群と考えられるが、浅鉢の中に口縁部外面に沈線文を巡らせるものがあり、時期幅も認められる。なお、黒川式期の遺跡で土坑が数多く検出されることはすでに指摘されており(東2006)、都城市内でも大窪第1遺跡や平峰遺跡などで検出例がある。また、孔列土器は、九州南東部では少ない貫通する孔列を有するものである。

縄文時代全時期の石器組成を概観すると、遺跡から抽出した縄文時代の石器15点のうち6点(40%)が石鏃の狩猟具であり、磨石の植物調理用石器は1点(7%)、石匙2点(13%)、スクレイパー1点(7%)、使用痕剥片1点(7%)などの加工具が20%であり、狩猟具の割合が高い傾向が観取できる。

第2節 古墳時代

今回、方形の竪穴建物跡8軒とそれらに伴う土師器が多数出土した。出土した土器群は、その形態や製作技法などから、いわゆる成川式土器の特徴を色濃く有する。ここでは、まず、土器の様相を器種別に記述して時期比定を行った後に、竪穴建物の特徴に言及したい。

(1) 出土土器の特徴

成川式土器の甕の型式は、内外面ともに屈曲部の 稜線が残るものから、屈曲部分が緩やかになり、直 立に近いが端部が緩く外反するか、もしくは短く外 反する形態を経て、口縁部が直立もしくは内湾気味になる笹貫式の段階(古墳時代後期)に変化すると考えられている(中村2015)。高樋遺跡から出土した広口の甕10点の特徴をみると、そのほとんどが笹貫式段階の甕の形態と類似している。甕の底部に着目すると、底部の形状が明確な遺物は20点のうち、平底のものが14点、丸底あるいは凸レンズ状のものが6点となっている。薩摩・大隅地域に分布する成川式土器は、脚台付きの甕が特徴の一つであるが、本遺跡では平底が主で、脚台付きの甕は出土していない。これは都城市内の平峰遺跡や大年遺跡も同様であり、さらには加久藤盆地の様相も同じである(甲斐2015)。

また、甕の特徴として、外面の仕上げとなる器面調整を行っていないことから、粘土紐を積み上げた際の接合痕が外面に幾重にも残っている。口縁端部の仕上げも甘く、丸みを帯びて指おさえ痕が残っているものもあることから、器面調整や仕上げ方の粗雑化の傾向が認められる。この点も、平峰遺跡などと共通する特徴である。

古墳時代の土師器の中で、最も高い割合で出土し たのは高坏である。ここで、坏部は平峰遺跡の報告 における分類基準、脚部裾は近沢(2016)のそれ に則って分類する。坏部の形態は、外形によって、 A群:底部と口縁部の境が明瞭で口縁は強く外反す る、B群:底部と口縁部の境は比較的はっきりして おり、口縁は弱く外反する、C群:底部と口縁部の 境があまり明瞭でなく、口縁が直線的にのびる、D 群:底部と口縁部の境が不明瞭で、底部から口縁 部にかけて内湾する、の4類型を設定する。これ らの分類基準が判別できる25点を対象としたとこ ろ、A群は0点、B群は11点(44%)、C群は12点 (48%)、D群は2点(8%)となり、C群、B群 の順で多く出土したことが分かった。平峰遺跡の報 告では、坏部の底部と口縁部の境の段の退化と、坏 底部の丸底化を指摘し、A群→B群→C群→D群に 変化したと考えている。次に、脚部裾は、脚a:脚 部が脚柱部と脚裾部に分かれ、脚柱部は直線的もし くはエンタシス状で脚裾部は伏せた皿状のもの、脚 b: 脚部が脚柱部と脚裾部に分かれ、脚柱部は直線 的もしくはエンタシス状で脚裾部には一段の段が形成されるもの、脚c: 坏部との接合点から裾部にかけてハ字状にやや外反しながら開くもの、との3類に分類する。これらの分類基準が判別できるものは30点あり、脚aは8点(27%)、脚bは2点(6%)、脚cは20点(67%)と脚cが最も多く出土している。脚cは古墳時代中期後半~後期が主体であり(近沢2016)、この点からも、遺跡形成の主時期が推定できる。

小型土器は、ほとんどの竪穴建物跡で出土しており、特に2号竪穴建物跡から8点、5号竪穴建物跡から9点に加え、包含層から杓子状土器が出土している。南九州では土器のミニチュア品や土製品が成川式土器のセットの中に含まれている。これらは実用品にしては小さく、そのほとんどが祭祀用の道具である(中村2015)。これらのことから、本遺跡内において建物単位の何らかの祭祀が日常的に行われていたことが指摘できる。

(2) 竪穴建物跡の時期

次に、各竪穴建物跡の時期について、遺構の床面から出土した遺物を中心に、甕や高坏、壺、鉢、小型丸底壺について中村(2002)、近沢(2016)の成川式土器・土師器編年や1号竪穴建物跡の床面付近の炭化材の年代測定結果も参考にしながら考えてみたい。

改めて述べるまでもなく、床面直上の遺物は竪穴 建物跡の時期を決定付ける重要な資料となる。古墳 時代に属する本遺跡の8軒の竪穴建物跡の出土遺物 の中で、3号及び8号竪穴建物跡を除いて床面直上 から出土した遺物は数多くあった。ただし、同一遺 構出土であっても型式幅が認められる場合もあり、 時期比定した資料の中から最も時期が下る個体を竪 穴建物跡の所属時期の指標とした。その結果、1号・ 2号・4号・6号・7号竪穴建物跡は5世紀後半か ら6世紀前半の時期に比定される。3号・8号もそ れぞれ1号・6号・7号と主軸が揃うため、ほぼ同 時期の可能性が高いと考える。一方、5号竪穴建物 跡は6世紀中期以降の構築と推測される。全体とし てみても、古墳時代中期後半(5世紀後半)~後期 前半(6世紀前半)におさまる建物群と考えられる。

(3) 出土土器の器種構成

今回の調査で出土した古墳時代の土師器の中で報告書に掲載したものは、178点である。それらについて甕、壺、高坏、鉢、小型土器(杓子状土製品も含む)、に分けてみると、甕は35点(20%)、壺は24点(13%)、高坏は69点(39%)、鉢は13点(7%)、小型土器は35点(20%)、その他2点(1%)で、高坏が約4割で、多く占めている。甕の中で頸部が確認できる22点のうち、13点(約60%)が突帯を有する甕であることも特徴である。

また、古墳時代の領恵器が1点も出土していな点も特筆すべきであろう。南九州では笹貫式時期の竪穴建物から須恵器の杯などが出土するもののきわめて少なく、生活の容器として普及していたとは考え難い。5~6世紀の南九州では須恵器生産が未だ行われておらず、一般集落レベルまで流通が行き届かなかったと考えられている(広瀬2015)。都城盆地南部に位置する本遺跡においても同様の状況が指摘できよう。

(4) 竪穴建物跡の火処について

古墳時代の竪穴建物の火処としては、炉や竃があり、5世紀には竃が普及する地域が多いが、同時期の南九州には導入されていない。南九州の5~6世紀の竪穴建物は、概ね3~5m四方の方形プランで中央に炉を設置する例が多い(広瀬2015)。本遺跡で検出された8軒の竪穴建物跡は、すべての竪穴建物跡の中央部付近から焼土の広がりが確認されるとともに、焼けた粘土塊も検出されたことから、地床炉である可能性が高い。

(5) 鉄器生産について

鉄器生産関連製品が複数の竪穴建物跡から出土していることは、本遺跡において注目すべき点である。4号竪穴建物跡は、鞴の羽口、高坏脚部の転用羽口、鉄片、5号竪穴建物跡は鞴の専用羽口、図化していないが小片の鉄滓、鉄片が出土し、さらに鉄器のメンテナンスに欠かせない砥石も共伴している。また、1号、2号、8号竪穴建物跡の埋土からも鉄滓や鉄片の小片が出土している。これらのことから、集落内において、何らかの鉄の生産が行われていたことは確実である。古墳時代中期(5世紀)の宮城県と

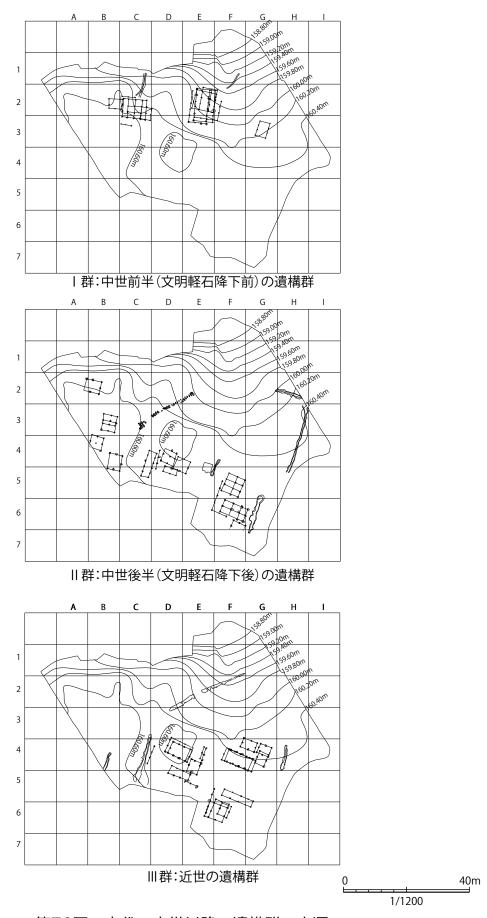
鹿児島県において、高坏の転用羽口が出土しており、 4~5世紀の鍛冶炉の多くが竪穴建物跡同様の家屋 の床面に造られた直径1m未満の円形の屋内炉であ るとされている(野島1997)。しかし、平峰遺跡で も鉄滓や高坏の脚部転用羽口などの鍛冶関連の遺物 が検出されているが、羽口が出土する建物跡内で鍛 冶炉と考えられる強く被熱した炉跡の検出はなかっ た。本遺跡においても、地床炉の可能性がある痕跡 はあったものの、鍛冶炉と思われる痕跡はなく、遺 構内より金床石等の工具が見つかっていない。さら に、鞴の専用羽口や高坏脚部の転用羽口が出土した 4号、5号竪穴建物跡からは、煮沸用で煤の付着し た甕、貯蔵用の壺、食器用の高坏も多数共伴してい る。このことから、4号、5号竪穴建物跡は鍛冶工 房跡とするよりも、住居跡として捉え、日常生活の 一環として鍛冶行為が行われ、小鍛冶的な様相を呈 していたのではないかと考えたい。

第3節 古代~中世

本遺跡からは掘立柱建物跡が多数検出された。その中で、遺物を伴う古代~中世の掘立柱建物跡を14棟、近世のものは5棟としたが、時期不明の13棟を含め、ここでは主軸や埋土も合わせてその配置等について考えていきたい。

古代~中世の I 群は、埋土が黒褐色土に橙色パミスを含み、主に南北より西偏約10°以下、 II 群は、埋土に桜島文明軽石を含み、主に南北より西偏10°以上~20°以下、近世は、埋土に桜島文明軽石を含み、主に南北より西偏約20°以上とした。全体的に、掘立柱建物跡の主軸は時代が進むにつれて、徐々に西に振れる傾向にあると考えられる(第76図)。

まず、古代~中世(桜島文明軽石降下以前)において、形成された群が6棟の集落のI群である。3号掘立柱建物跡は二面庇を付帯する総柱建物であることから、I群の中では主殿的な建物であり、4号・21号掘立柱建物跡は、付属建物としての機能があったのではないかと推測される。ただ、1号・2号掘立柱建物跡も側柱建物であるが、庇が付帯し、身舎面積も比較的大きい建物であることから、母家に近い形の建物である可能性も指摘できる。なお、1号



第76図 古代~中世以降の遺構群の変遷

と2号掘立柱建物跡は建て替えが行われているが、 どちらが早く建てられたかについては不明である。 出土遺物については桒畑 (2004) や小野分類 (1982) から15世紀に比定される。また、掘立柱建物跡へ と通じる道路状遺構も同時期であろう。これら掘立 柱建物跡の立地としては、北側に集中しているが、 なぜ、北側に掘立柱建物跡が並んでいるのか。それ は高樋遺跡の北北東約600mにある、遮るものがな く一望できる梅北城と関係があるのではないかと考 えられる。高樋遺跡の南側にある笹ヶ崎遺跡では、 14~15世紀前半頃の中世段階には丘陵を利用した 一連の施設構造物を形成するとともに、特定身分の 者の関連した場所として、施設構造物は防御施設を 備えた居館またはそれに類する場所であった可能性 を指摘している。その後、15世紀後半頃には、廃 絶されたと考えられている。ただし、笹ヶ崎遺跡の 居館的な掘立柱建物跡に比べて柱穴は細く、高樋遺 跡ではより簡素な施設群であったと推測される。

次いで、中世の後半期の桜島文明軽石降下後に形成された建物群がII群である。I群に比べて、全体的に南側の平坦な場所に建てられており、2間×2間の庇のない側柱建物が多い。また、3号溝状遺構の西側周辺は、複数回建て替えが行われていることが分かる。1号竪穴状遺構の床面から出土した炭化材は、年代測定の結果、較正年代で16世紀中葉~17世紀前葉の結果が得られている。高樋遺跡では中世末・近世初頭にも施設は存在したが、梅北城との関係で建物がより奥に退いたとも考えられる。

笹ヶ崎遺跡では、当時貴重だった龍泉窯系青磁・白磁・天目茶碗をはじめとする陶磁器が数多く出土している。貿易陶磁器の出土遺物として、青磁では上田分類(1982) D類やE類の14~16世紀初頭、白磁では森田分類(1982)や景徳鎮窯系などの15~16世紀、青花では小野分類(1982)の皿B群やC皿群の15~16世紀、国産陶器(備前焼)では擂鉢IVA-2やIVB-2・3の14~16世紀初頭と時期比定できる。本遺跡でも、中世の貿易陶磁器が小片ではあるものの数多く出土していることから、笹ヶ崎遺跡で想定された特定身分の者に関連する施設と関係するものかもしれない。

第4節 近世以降

本遺跡から掘立柱建物跡が多数検出された中で、近世の遺物を伴う掘立柱建物跡5棟と埋土・主軸の関係からII群以外の時期不明の6棟を含めて、一群の遺構群とする。

まず、中世Ⅱ群の建物群よりも全体的にやや中央部へ移動している。その中で、8号溝状遺構の西側では、複数個所において建物の建て替えが行われたと思われる。これらの建物は、総柱建物はなくすべて側柱建物で、小規模な建物が多い。遺物は、国産陶器(薩摩焼)の龍門司系の甕や擂鉢などから、18世紀後半~19世紀に時期比定できる。

第5節 結語

今回は、台地状の地形の一部を範囲とする発掘調査であったが、縄文時代早期から近世に至る都城盆地南部地域の歴史的な地域相の一端を捉えることができたことは大きな成果である。今後も継続して実施される都城志布志道路関連の発掘調査の成果とあわせて、都城盆地南部の歴史がより明確になっていくものと期待される。

引用・参考文献

相美伊久雄 2004「「成川式土器」の器種組成について(予察)・杯形土器の様相を中心に-」『縄文の森から』第2号 鹿児島県立埋蔵文化財センター今塩屋毅行・松永幸寿 2002「日向における古墳時代中〜後期の土師器-宮崎平野部を中心にして-」『古墳時代中〜後期の土器-その編年と地域性-第5回九州前方後円墳研究会 発表要旨資料』第5回九州前方後円墳研究会実行委員会上田秀夫 1982「14〜16世紀の青磁の分類について」『貿易陶磁器研究』No.2、日本貿易陶磁研究会小野正敏 1982「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁器研究』No.2日本貿易陶磁研究会

甲斐康大 2015「成川式土器の北のひろがり」『成川 式土器ってなんだ?』鹿児島大学総合研究博物館 鎌田浩平 2009「成川式土器の地域編年」『南の縄 文・地域文化論考 新東晃一代表還暦記念論文集』 中巻

- 黒川忠広 2012 「鹿児島県における古墳時代の鍛冶 関連資料の紹介」『鹿児島県立埋蔵文化財センター 研究紀要』
- 乗畑光博 2004「都城盆地における中世土師器の編 年に関する基礎的研究(1)|『宮崎考古』第19号
- 近沢恒典 2016「都城盆地における古墳時代の土器 について」『宮崎平野地域の考古資料に関する編年 的研究 II』宮崎考古学会
- 外山隆之·原田亜希子 2004「都城市における中世 掘立柱建物跡の類型化」『宮崎考古』第19号
- 中村直子 1987「成川式土器再考」『鹿大考古』第6号
- 中村直子 2002 「薩摩·大隅. 古墳時代中·後期の土器」 その編年と地域性 」『第5回九州前方後円墳研究会 発表要旨資料』第5回九州前方後円墳研究会実行委員会
- 中村直子 2009「7・8世紀の成川式土器」『南の縄 文・地域文化論考 新東晃一代表還暦記念論文集』 中巻
- 中村直子 2015 「祭祀と成川式土器」『成川式土器ってなんだ?』 鹿児島大学総合研究博物館
- 野島 永 1997「弥生・古墳時代の鉄器生産の一様相」『たたら研究』 第38号
- 橋本達也 2015「成川式土器と鹿児島の古墳時代研究」『成川式土器ってなんだ?』 鹿児島大学総合研究博物館
- 東 和幸 2006「鹿児島における縄文時代の課題」 『南九州縄文通信』17
- 広瀬和雄 2015「成川式土器と前方後円墳」 鹿児島 大学総合研究博物館
- 本田道輝 1997「南部九州における脚台付甕の底部 成形について」『人類史研究』 第9号
- 森田 勉 1982「14~16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁器研究』No.2、日本貿易陶磁研究 会
- 都城市史編さん委員会編 2006『都城市史』資料編 考古 都城市
- 都城市史編さん委員会編 2006『都城市史』通史編 中世近世 都城市

宮崎県埋蔵文化財センター 2013『平峰遺跡(3次調査)』宮崎県埋蔵文化財センター報告書第219集 宮崎県埋蔵文化財センター 2016『笹ヶ崎遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第240集 宮崎県埋蔵文化財センター 2016『大窪第一遺跡』 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第238集



高樋遺跡近景(遺跡北から金御岳方面を望む)



1号竪穴建物跡遺物出土状況(東より)



2号竪穴建物跡遺物出土状況(北東より)



1号竪穴建物跡完掘状況(南より)



2号竪穴建物跡完掘状況(北より)



3号竪穴建物跡完掘状況(南より)



4号竪穴建物跡遺物出土状況(北より)



4号竪穴建物跡完掘状況(北より)



5号竪穴建物跡遺物出土状況(北東より)



5号竪穴建物跡完掘状況(南西より)



6号竪穴建物跡遺物出土状況(東より)



6号竪穴建物跡完掘状況(東より)



7号竪穴建物跡完掘状況(東より)



8号竪穴建物跡完掘状況(西より)



1号竪穴状遺構完掘状況(北より)



2号竪穴状遺構土層堆積状況(北より)



1号集石遺構検出状況(北西より)



2号集石遺構検出状況(東より)



3号集石遺構検出状況(東より)



4号集石遺構検出状況(東より)



5号集石遺構検出状況(北東より)



6号集石遺構検出状況(北東より)



1号土坑完掘状況(東より)



2号土坑完掘状況(南西より)



3号土坑完掘状況(北西より)



4号土坑検出状況(西より)



5号土坑完掘状況(南より)



6号土坑検出状況(南より)



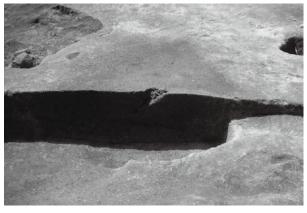
7号土坑土層断面(東より)



8号土坑完掘状況(北より)



9号土坑完掘状況(東より)



10号土坑土層断面(北より)



1号溝状遺構遺物出土状況(北より)



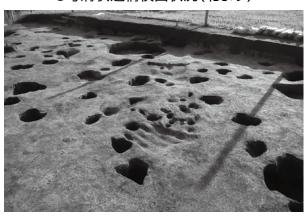
2号溝状遺構完掘状況(南より)



3号溝状遺構検出状況(北より)



4号溝状遺構完掘状況(北東より)



5号溝状遺構完掘状況(北東より)



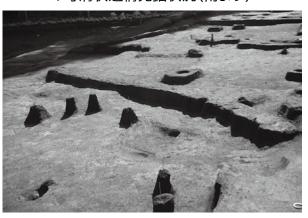
6号溝状遺構完掘状況(北西より)



7号溝状遺構完掘状況(南より)



8号溝状遺構完掘状況(南より)



1号道路状遺構検出状況(東より)



2号道路状遺構検出状況(南東より)



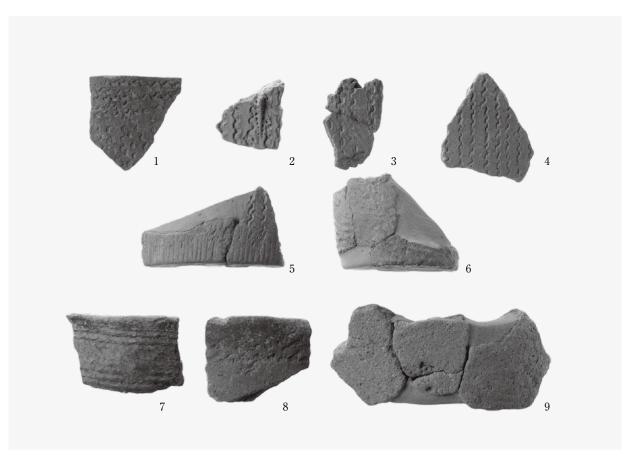
3号道路状遺構完掘状況(東より)



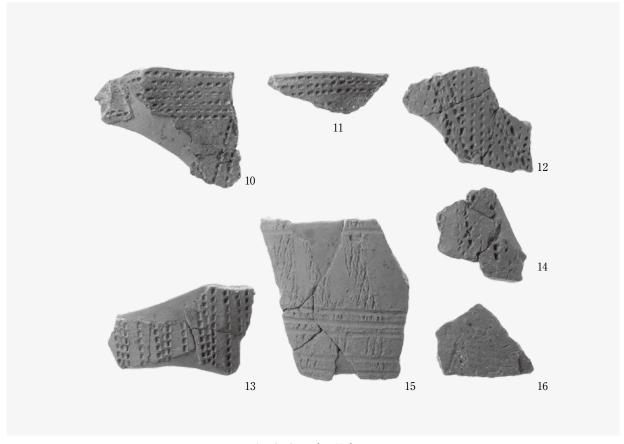
4号・5号道路状遺構完掘状況(南西より)



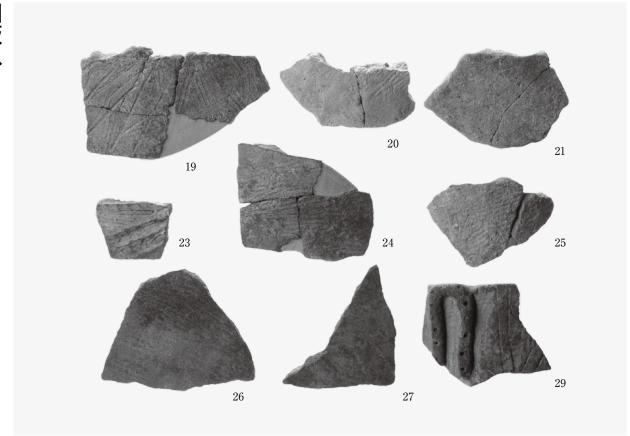
発掘作業の様子



縄文土器(早期) 1



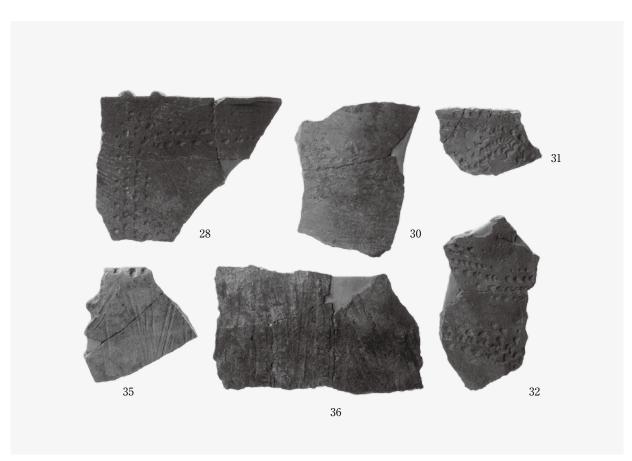
縄文土器(早期)2



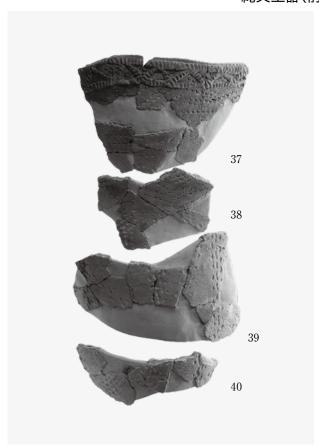
縄文土器(前~中期) 1



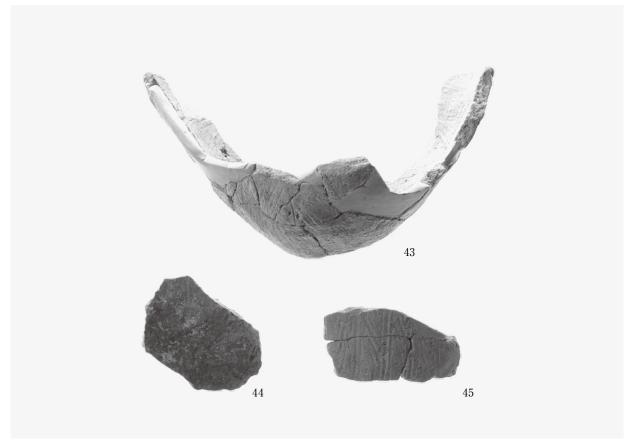
縄文土器(前~中期)2



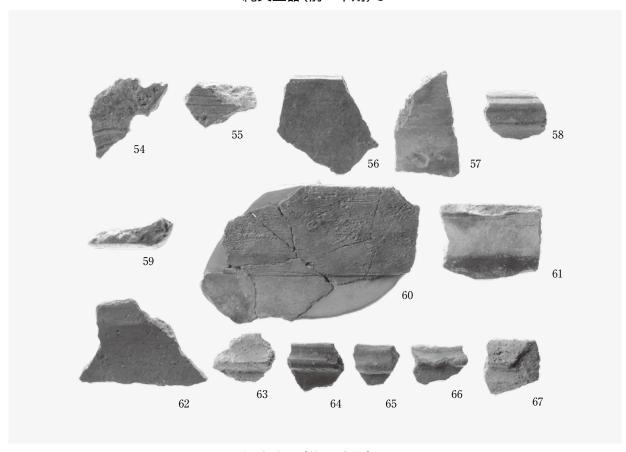
縄文土器(前~中期)3



縄文土器(前~中期)4



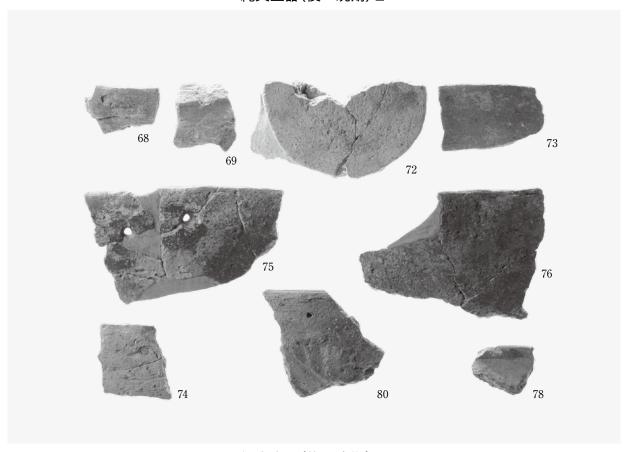
縄文土器(前~中期)5



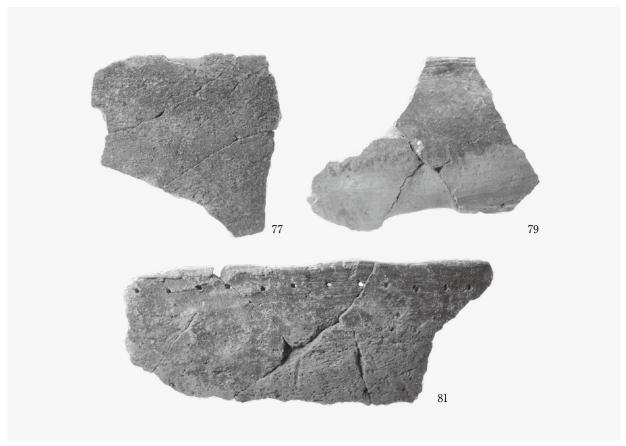
縄文土器(後~晩期)]



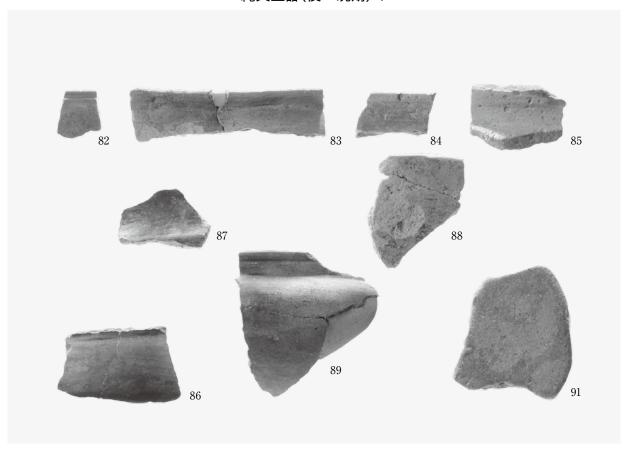
縄文土器(後~晩期)2



縄文土器(後~晩期)3



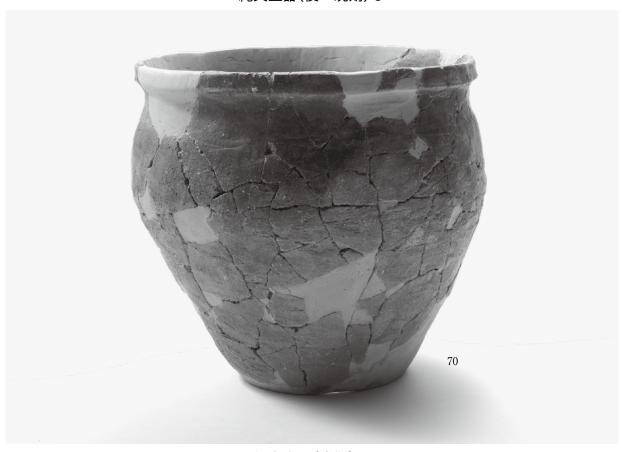
縄文土器(後~晩期)4



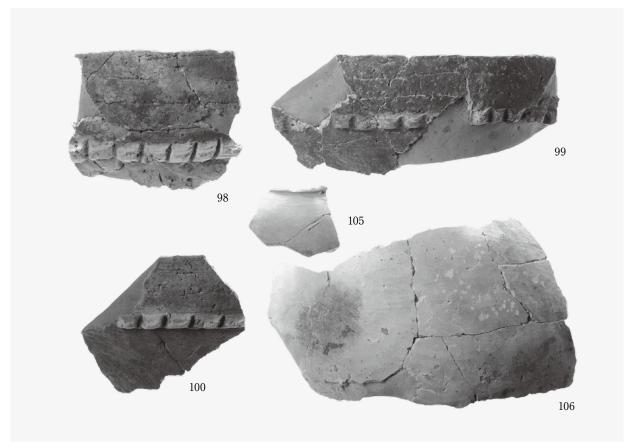
縄文土器(後~晩期)5



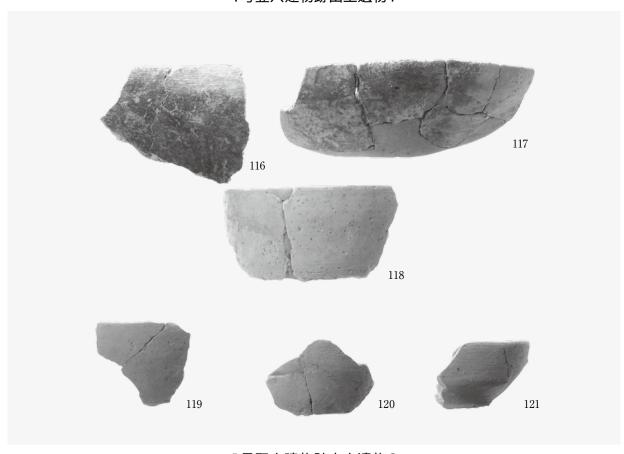
縄文土器(後~晩期)6



縄文土器(晩期)7



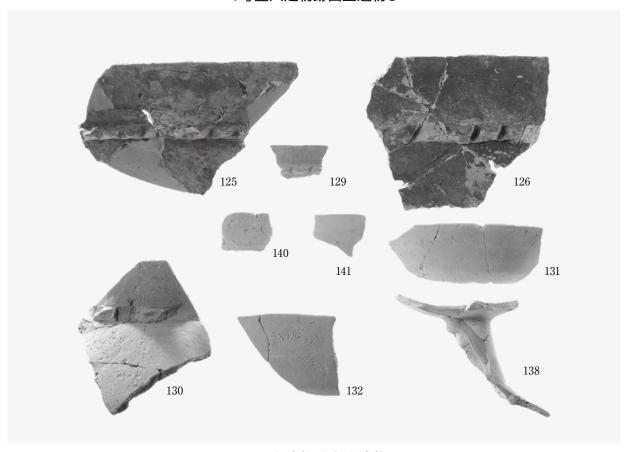
1号竪穴建物跡出土遺物1



1号竪穴建物跡出土遺物2



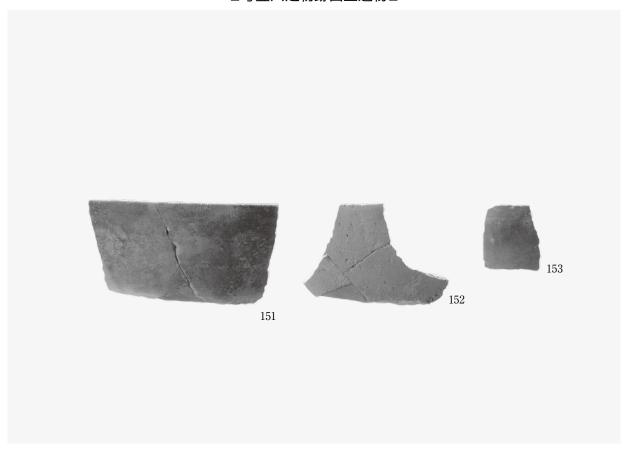
1号竪穴建物跡出土遺物3



2号竪穴建物跡出土遺物1



2号竪穴建物跡出土遺物2



3号竪穴建物跡出土遺物1



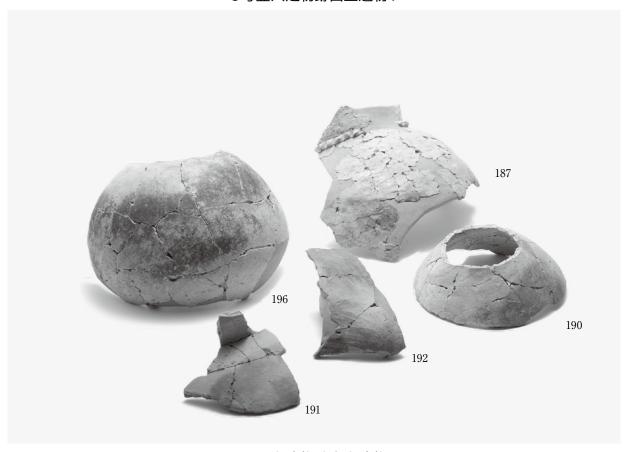
3号竪穴建物跡出土遺物2



4号竪穴建物跡出土遺物



5号竪穴建物跡出土遺物1



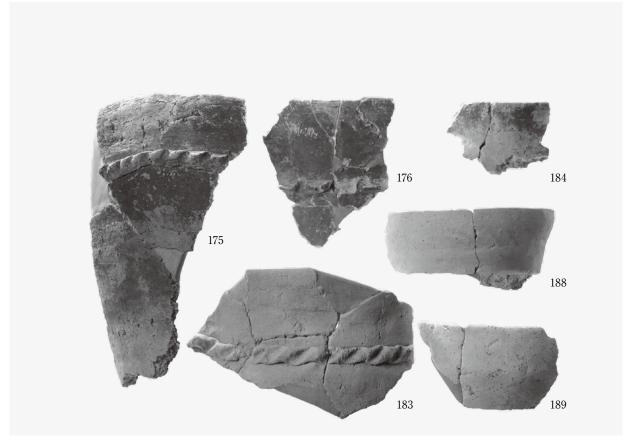
5号竪穴建物跡出土遺物2



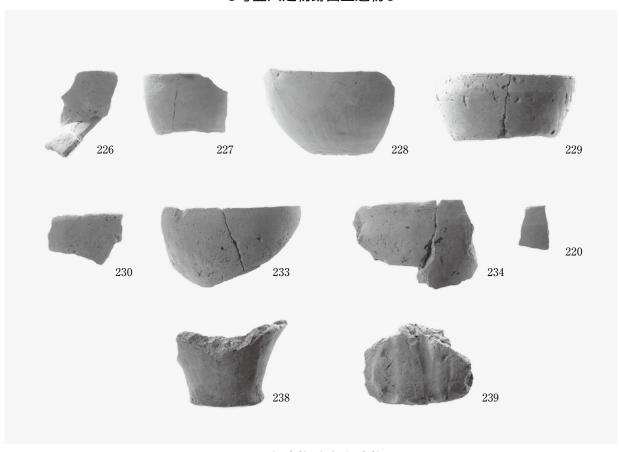
5号竪穴建物跡出土遺物3



5号竪穴建物跡出土遺物4



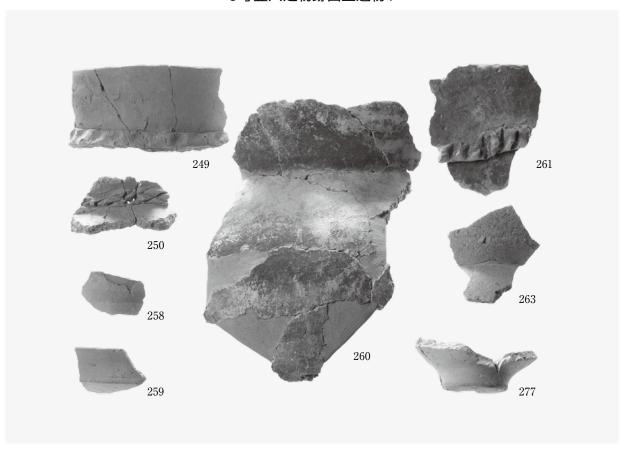
5号竪穴建物跡出土遺物5



5号竪穴建物跡出土遺物6



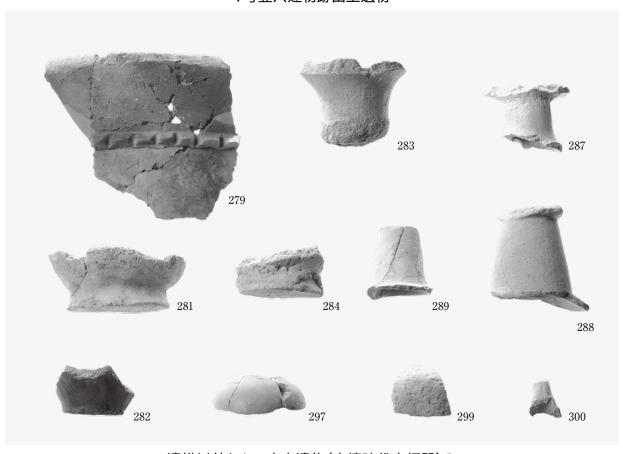
6号竪穴建物跡出土遺物1



6号竪穴建物跡出土遺物2



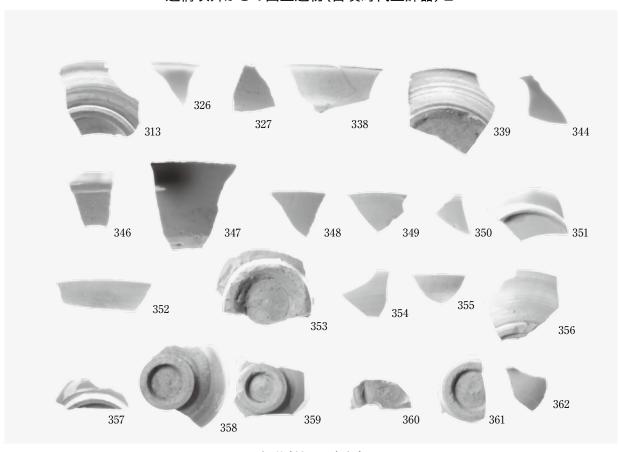
7号竪穴建物跡出土遺物



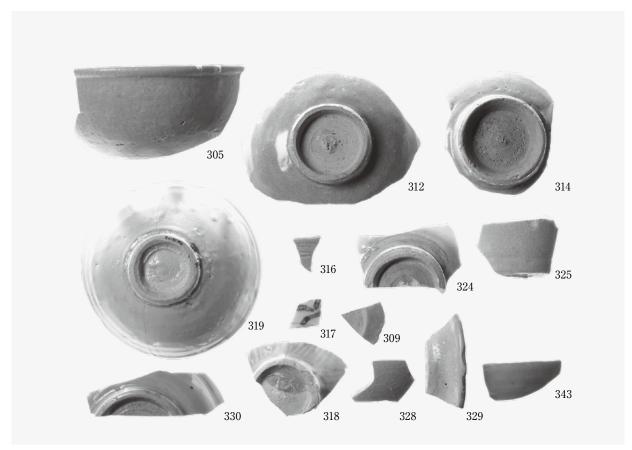
遺構以外からの出土遺物(古墳時代土師器)1



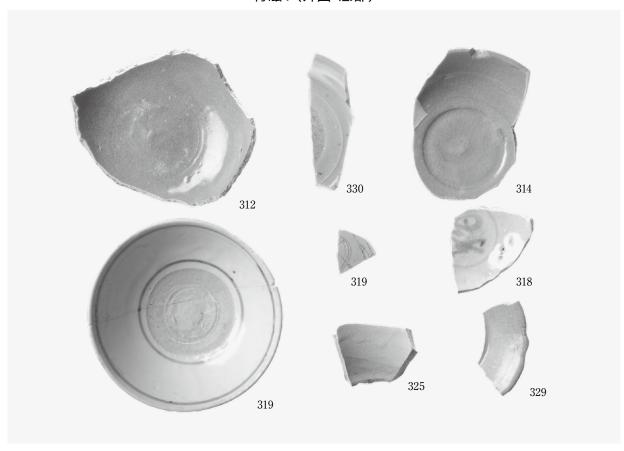
遺構以外からの出土遺物(古墳時代土師器) 2



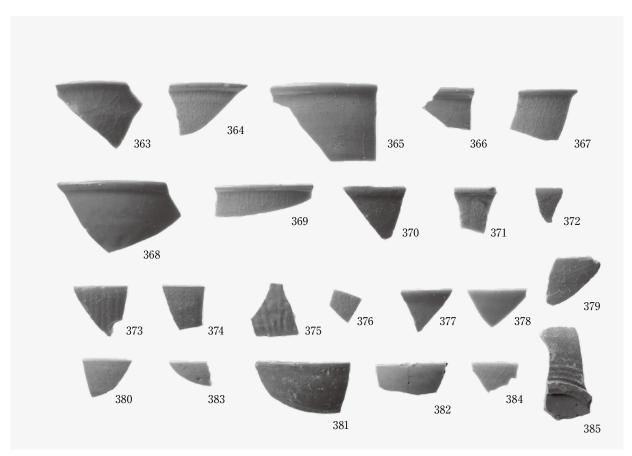
白磁(外面·底部)



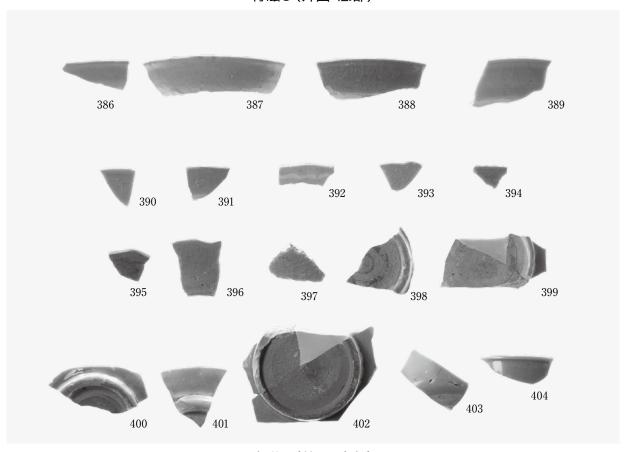
青磁1 (外面・底部)



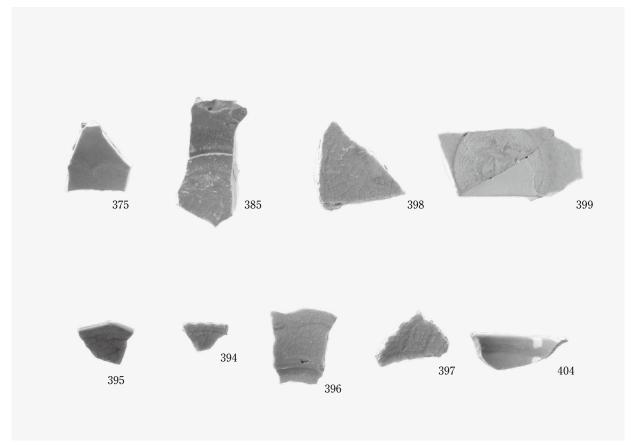
青磁2(内面)



青磁3 (外面・底部)



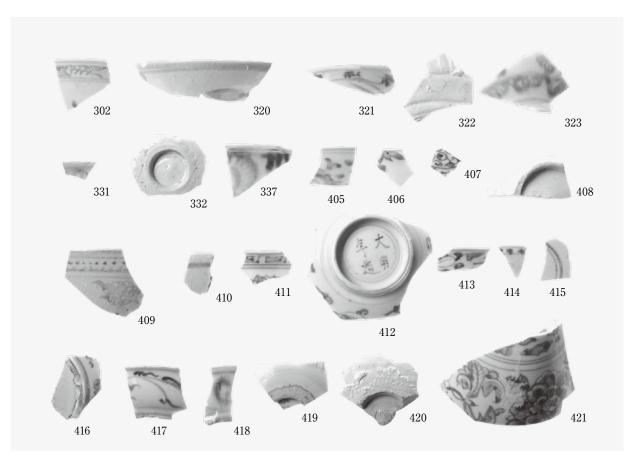
青磁4 (外面·底部)



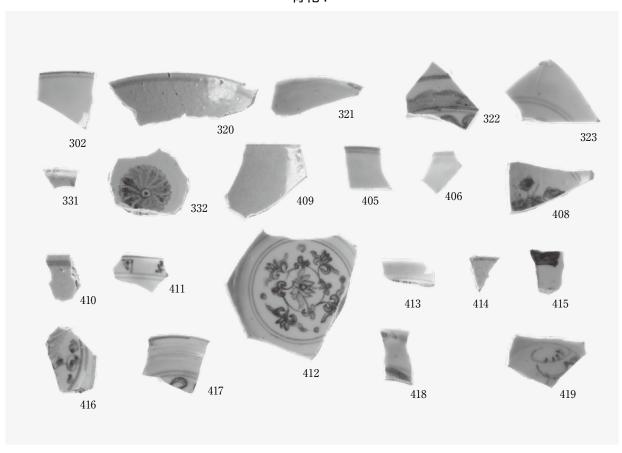
青磁5



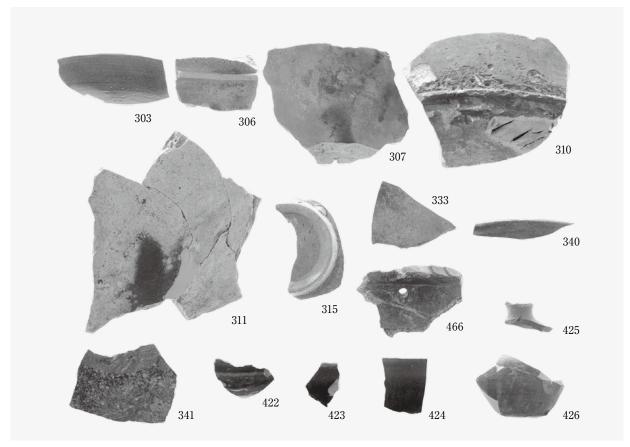
青磁6



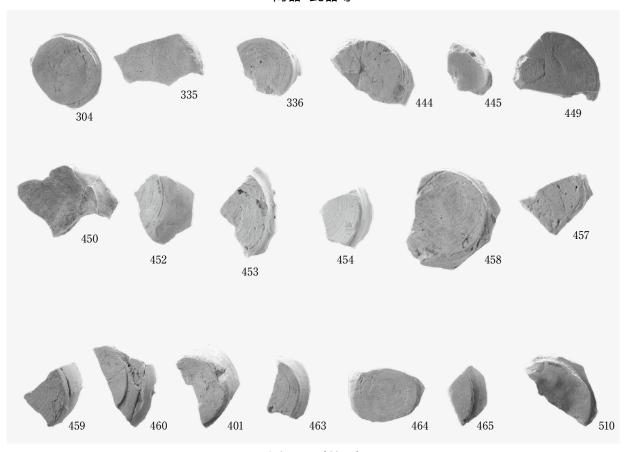
青花1



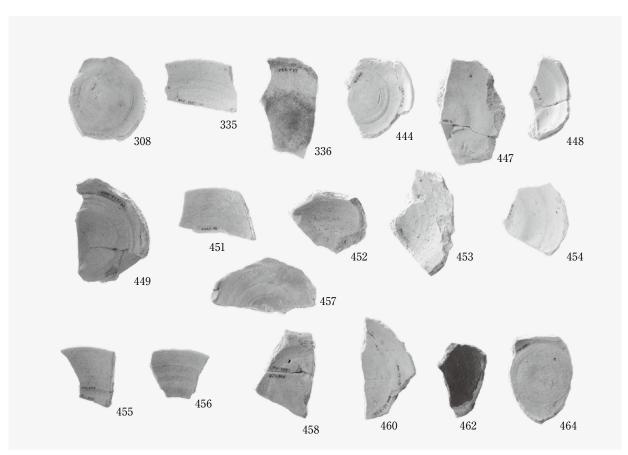
青花2



陶器·瓦器等



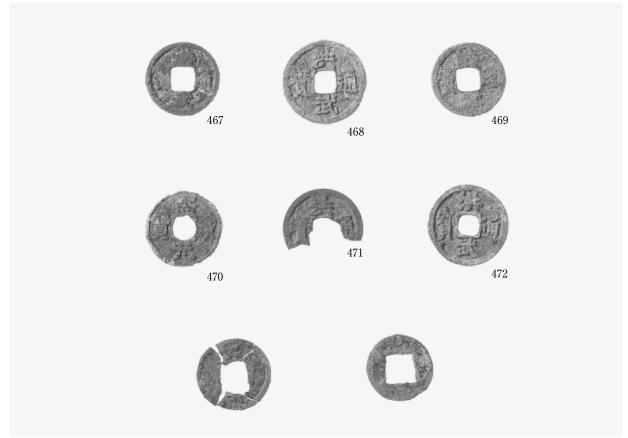
土師器1 (外面)



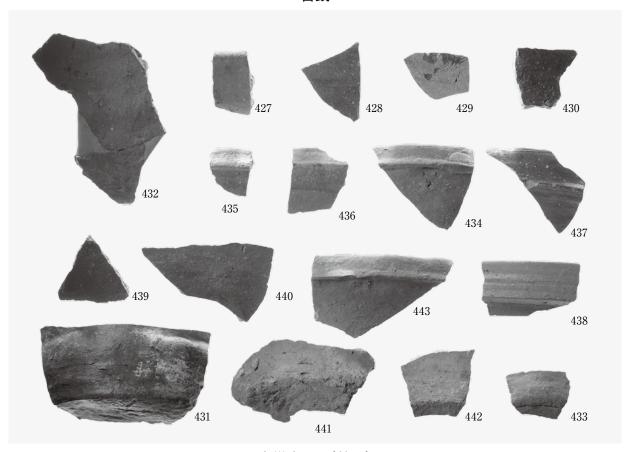
土師器2(内面)



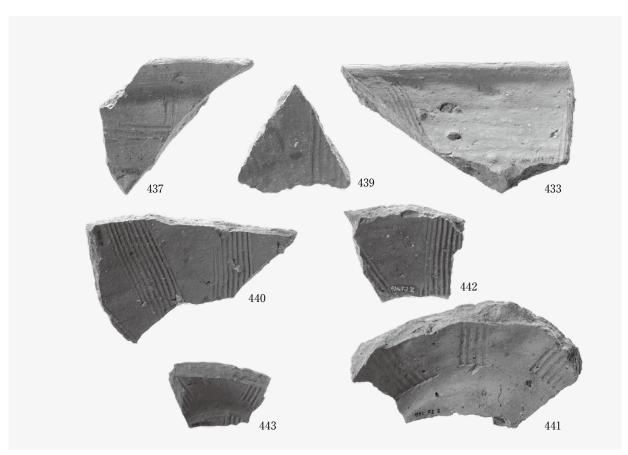
土師器·瓦器



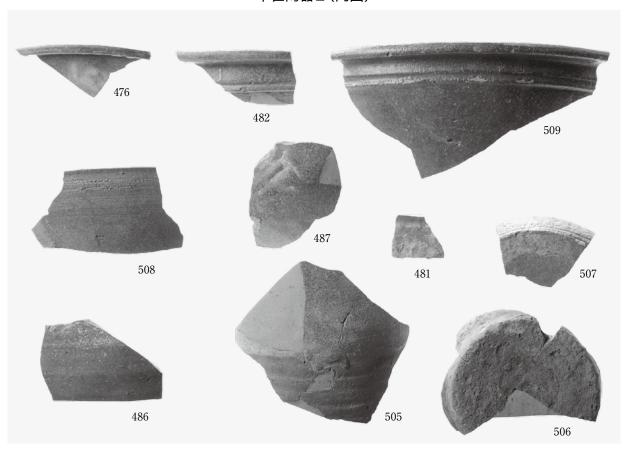
古銭



中世陶器1(外面)



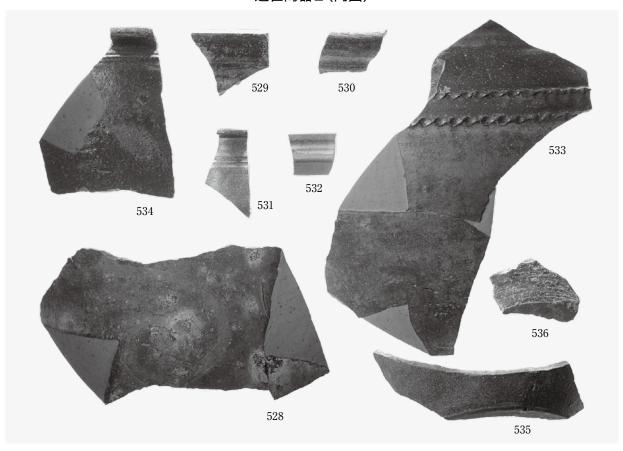
中世陶器2(内面)



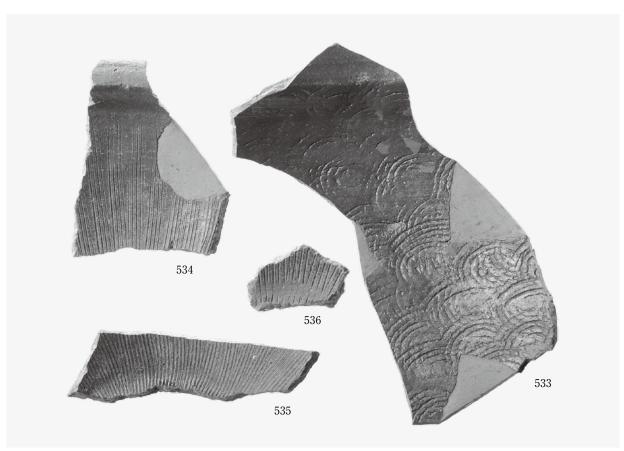
近世陶器1 (外面·底部)



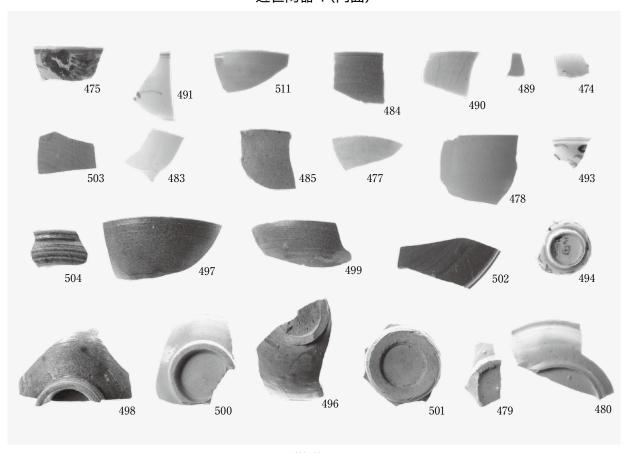
近世陶器2(内面)



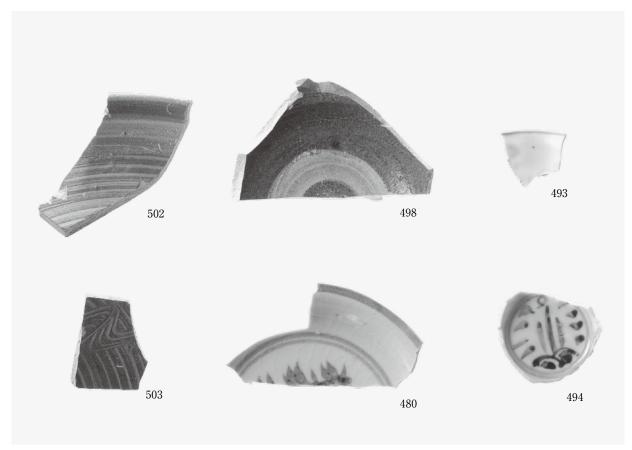
近世陶器3(外面)



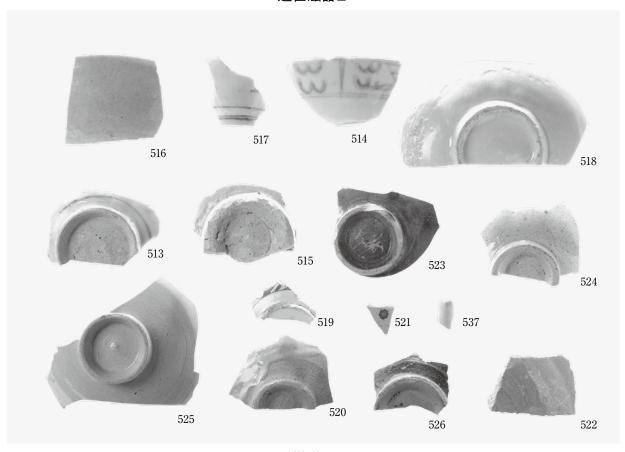
近世陶器4(内面)



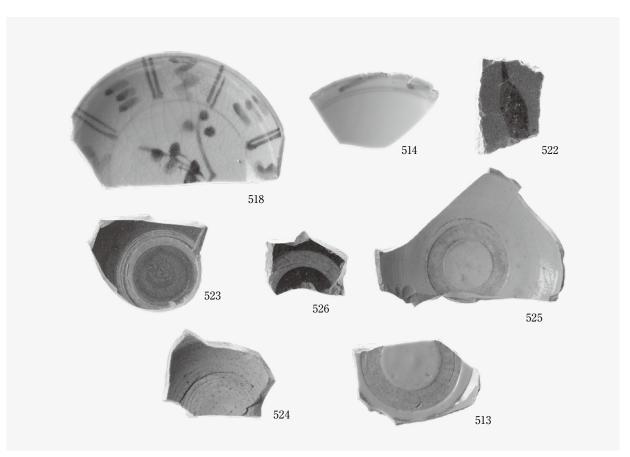
近世磁器1



近世磁器2



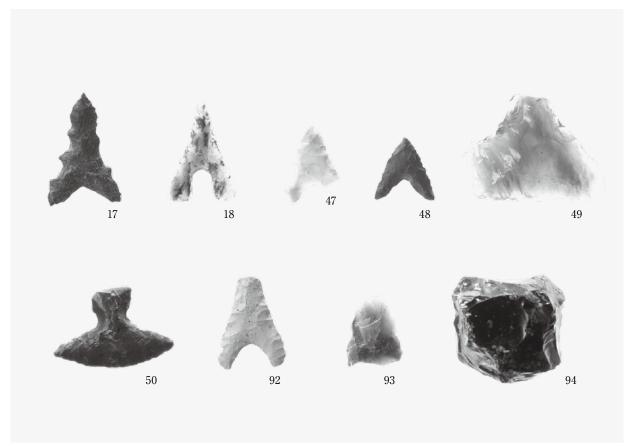
近世磁器3



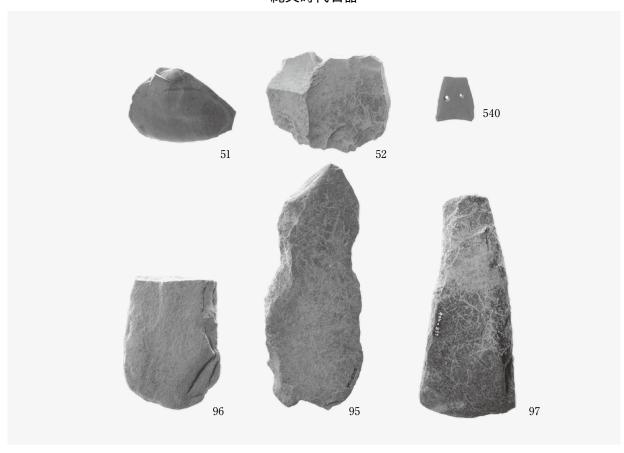
近世磁器4



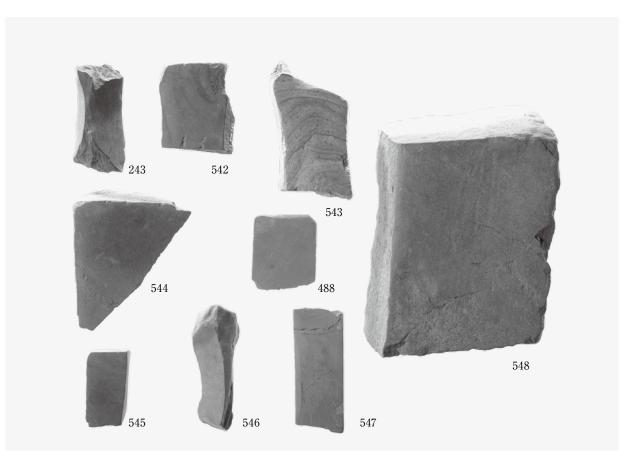
近世磁器5



縄文時代石器



石器



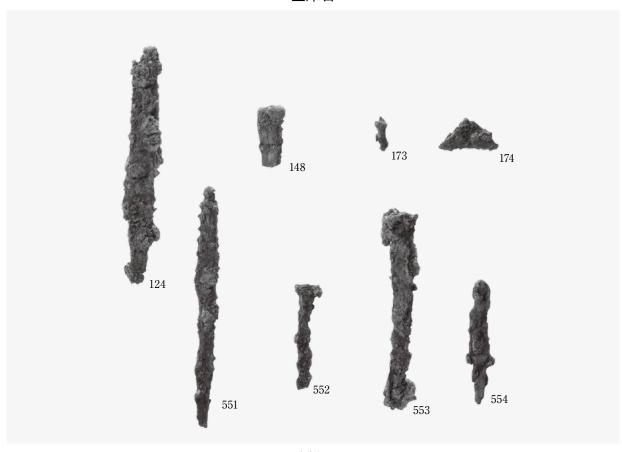
時期不明石器



石臼



金床石



鉄製品

報告 書抄録

									.,	
ふりか	。 	たかひいせき								
書	名	高樋遺跡								
副書	名	県道飯野松山都城線(都城志布志道路)梅北工区道路整備工事に伴う発掘調査報告書4								
シリー	ズ名	宮崎県埋蔵	(文化財セン	ノター発掘詞	調査報告書					
シリーズ番号		第243集								
編著者	- 名	德田 尚文								
編集機	関	宮崎県埋蔵文化財センター								
所 在	地	〒880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂4019番地 TEL 0985-36-1171								
発行年	月日	2018年 3	月 16日			_				
ふりがな 所収遺跡名) が な 在 地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 (㎡)	発掘原因	
ch O いせき 高樋遺跡	かまたちょう 梅北町	ACCOULANT 都城市 地1ほか	45202	7003	31 ° 40 ′ 59 ″	131 ° 03 ′ 02 ″	20150421~ 20160203	4,400 m²	県道飯野松山者 城線(都城志オ 志道路整備エリ 区道路整備工事 に伴う記録保有 調査	
所収遺跡名	種別	主な時代	÷	主な遺構			<u>-</u> 主な遺物	朱	記事項	
高樋遺跡	散布地集落	縄文時代早期 集石遺構 2 基			知覧式土器、下剣峯式土器、 塞ノ神式土器、押型文系土器、 石鏃			古墳時代中~後期の竪穴建物 跡を8軒検出した。 高环脚部の転用羽口ほか、専 用羽口など鍛冶関連遺物が出土 した。 掘立柱建物から成る古代~中 世・近世の遺構群が検出された。		
		縄文時代 前~中期 土坑 3 基		、集石遺構 4 基		深浦式土器、石鏃、石匙、 スクレイパー、磨石				
		縄文時代晩期 土坑 1 基		<u> </u>		黒川式土器 (組織痕土器、孔列文土器)				1
		古墳時代 竪穴建物跡 8		7跡8軒	5 8 軒		成川式土器、敲石、刀子、 鞴の羽口、砥石			
				背状遺構2条 、	ŋ跡14棟、竪穴状遺構 沢遺構2条、道路状遺 小穴多数		貿易陶磁器、国産陶器、土師器、 古銭			
				立柱建物跡5棟、柵列1列、 伏遺構3条、小穴多数		陶磁器				
					土製品、石器、石臼、鉄製品					
			城盆地南部	の都城市権	毎北町に戸		也の先端部に立 中でも、縄文			

要 約

高樋遺跡は、都城盆地南部の都城市梅北町に所在し、台地の先端部に立地する遺跡である。調査の結果、縄文時代早期〜近世の複合遺跡であることが判明した。中でも、縄文時代前〜中期の土器や古墳時代の土師器である成川式土器がまとまった点数で出土した。また、古墳時代中〜後期にかけての集落跡で、竪穴建物跡が8軒検出され、そのうち2軒の建物跡から鞴の専用羽口や高坏の脚部を転用した羽口なども出土している点、古代〜中世の掘立柱建物、竪穴状遺構、溝状遺構、道路状遺構が検出され、その変遷が把握できた点などが重要な成果である。

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第243集

高樋遺跡

県道飯野松山都城線(都城志布志道路)梅北工区道路整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 4 2018年 3 月

発行 宮崎県埋蔵文化財センター

〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂4019番地 TEL 0985(36)1171 FAX 0985(72)0660

印刷 株式会社ながと

〒882-0856 宮崎県延岡市出北4丁目2479番地 TEL 0982(33)4001 FAX 0982(21)5963

Miyakonojo City

TAKAHI Site

The Excavational Investigation Report of Miyazaki Prefecture Archaeological Center Vol.243

2 0 1 8

Miyazaki Prefecture Archaeological Center